※公表資料のため、個人名や固有名詞は削除したり一般名詞に置き換えて掲載しています。

参考

2023/10/21 開催　いけんひろば

～「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう～

対面開催回　いけんのまとめ

A-1班（小学生４名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇質問１：こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。

- こどもがよく過ごせる。
- こどものために何ができるかを考える社会。
- 「こどもまんなか社会」という言葉を聞いたことがあるけど、よくわからない。暮らしがまん中ということか。
- 大人が尽くしてくれる。未来のために育ててくれる。
- こどもの意見を聞いてくれるのはありがたい。
- 公園とか、遊び場、塾が増えそう。
- 大人たちが世界を楽にしてくれる。自由になる。

〇質問２：どんな社会になってほしいですか。今の社会で困っていることはありますか。

＜どんな社会になってほしいですか＞

- 時給が増えてほしい。
- 楽しい社会。
- 自分が育ったままの環境がいい。変わらない方が暮らしやすい。
- 自由な社会。何してもお金がもらえる社会がいい。

＜今の社会で困っていることはありますか＞

- ボールが使えない公園がある。公園を広くしてネットを張って、ボールを使えるようにしてほしい。防音にするなど、工夫してほしい。夜は使えないのも困る。
- もっと町をきれいにしてほしい。
- ペットボトルが道に捨てられていたりする。
- 海とか川も汚い。
- 蜂がたくさん出る。
- 今回の夏は暑すぎてスズメバチがいっぱいいる。
- 校庭が砂で、転ぶとケガしちゃう。人工芝とかにしてほしい。
- 自分の学校の校庭はアスファルトでつくられている。ただ、やわらかいアスファルトだから、あんまり痛くない。
- 排気ガスがいっぱいで、北極でも氷が溶けている。

- バスはあまり排気ガスが出ないと思う。今の自動車は大体ガソリンを使って走っているから、排気ガスが出にくい車を開発してほしい。
- 乗り物でいうと、タクシーが高いし全然捕まらない。
- タクシーの料金が安くなってほしい。乗り物はタダで乗れるようにしてほしい。自分が一番よく使うのは電車。
- 一週間連続して乗ればタダになる交通機関をつくってほしい。もしも一週間ずっと乗れなかったらその分のお金を徴収すればいい。
- 電車の路線を増やしてほしい。よくおばあちゃんの家に行くけど、家が最寄駅から遠いから近くに駅をつくってほしい。タクシーはお金もかかるし排気ガスも出る。
- 男女差別が多い。
- 体罰は悪いことだけど、差別をしている生徒を放っておくのは良くない。差別をしている生徒をそのままにしておくことは、被害者のことも放っていることになる。
- 嫌なことがあったときは、必ず誰かに言うのが大事。
- 子どもであっても、差別とか悪いことをした場合にはもうちょっと罰を受けた方がいい。
- 責任を自分で持った方がいい。
- 子どもだけの牢屋をつくればいい。
- 少年院がある。
- 牢屋を楽しくしたら罰にならない。ずっと牢屋から出られないようにする。
- 病院で予防接種をするときに、怖さを感じるからもうちょっと楽しくしてほしい。遊園地みたいな、遊び場みたいにしてほしい。楽しんでいるうちに注射が終わるようになるといい。
- 病院が楽しくなったらいい。
- 学校の友達と遊ぶ時間が少ない。学校の時間は伸ばしていいから昼休みを１時間にしてほしい。フランスみたいに水曜日は休みにしてほしい。
- 好きなだけ遊べて、遊びから帰ってきたら授業を受けられるようにするのがいい。
- 学校にお菓子も持って行けるようにほしい。
- ハロウィンとかクリスマスとか、行事をもっと増やして楽しめるようにしてほしい。お菓子がもらえたり、イベントが出来たりしたらうれしい。

○質問３：「こどもまんなか社会」のどんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。

- 何をするのかが自由に選べるのは普通だと思う。
- ここに書いてあることは、今でも目指していると思う。まだ実現できないだけで、みんながそう思っている。

- 心や体を気にしているのは良いと思う。
- お金がない人はどうやったらお金の心配がなくなるだろうか。お金をたくさん持っていればいいのか、売っているものがすごく安くなればいいのか。
- 売っているものが安すぎたら不安になる。国が認めていたらいい。変なものが入っているかもと心配になる。
- 買い物に行ったとき、農家の人の顔写真が印刷してある紙に包まれたキャベツが売られていた。逆に怖かった。
- 罰を厳しくすれば、捕まえられるし、犯罪をする人も減る。
- 好きなこと、興味のあることにもっと熱中できる、研究したり調べたりできる時間、機会がほしい。もっと学校でも応援してほしい。
- 池干しや川や海などの生き物調査に小学校低学年から参加させてほしい。
- 最近はガチャガチャも一回300～500円したり、ペイペイでタッチするだけで物が買えたりと、100円の価値の感覚がどんどん低くなっている。もっと小銭でお買い物できる駄菓子屋さんとかを作ってほしい。

〇質問４：今健やかに成長できていますか。

- 自分は健康。
- 病気にならないために医学の進歩が大事。ワクチンが増えることや、がんの治療などが発展することが必要。自分は前までヘアドネーションのために髪を伸ばしていた。
- 遊ぶっていうと、自分はゲームより運動をする。
- 全然遊べていない。ゲームもケータイも買ってもらえていない。
- ケータイは高校生とかになってから持つのでいい。
- 差別を受けることで、悲しい思いになることはあるかもしれない。
- 背がのびてがっちりすると差別されない。嫌なことをする人はストレスがある人だし、何もしたくないという気持ちになりそうだから、あんまり成長できないと思う。いやなことでも頑張って、ご飯もたくさん食べて、成長することでいじめがなくなると思う。
- 強そうな人を見ると、絶対あいつに勝てないってなる。
- 大人には勝てないと感じる。
- 例えば、自分が弱くて差別を受けたとしても、何年か経って背も高くなってやり返すのはだめなんだなと思う。
- 注意する側になれるのがいい。
- 教育が大事。

○質問５：自分らしくいれていますか。困ったら助けてもらえていますか。

- 自分らしくいれている。
- お父さんお母さんには助けてもらえている。友達とかも。
- 親がいない子どももいる。そういう人たちはボランティアとかに助けてもらえるといいと思う。
- いじめられているとき、言い返したら怒ってきて手をだしてくる。ちょっかいを出される。
- 友達とか、周りの地域の人とかに助けてもらいたい。
- 「自分の身の周り２メートル以内の人を幸せにしよう」とよく言う。家族など、縁がある人にまず助けてもらいたい。
- 強そうな人に助けてもらいたい。
- 困ったら先生とかにも助けてほしい。

○質問６：大人になるのは楽しみですか。

- なりたい。お金がいっぱいもらえるから。
- 年齢の制限で出来ないことが出来るようになるのはうれしい。でも、子どもの頃は元気だし遊べるけど、大人になったら忙しくなるし、子どもの教育費とかもかかる。
- 大人になったら年を取って死んじゃう。声が変わったり顔が変わったりもする。
- 疲れて免疫力も下がるし、健康じゃなくなる。ずっと健康でいられるならいいかな。
- 大人になったら忙しくなるから、面倒くさい。
- 忙しいけど、子どものために何かをするとか、目標があるから頑張れる。
- 将来があるから生きていたいってなる。

○質問７：自分の考えを持っていますか。言いたいことを言えていますか。

- 自分は言えている。
- やりたくても言えない。何を言いたいか探せない。言うのが面倒くさいときがある。さっさと済ませちゃおうってなる。
- 自分の考えを押し付けるのはよくない。それも差別になる。

○質問８：こどもまんなか社会の「差別されたりしない」は実現できそうですか。

- 出来ると思う。
- 差別されそうになったら逃げるから大丈夫。
- いやだと思ったらやめてって言う。お母さんとか先生に言う。

- 総理大臣とか、国にも相談できる。

質問９：安心して結婚や子育てができそうですか。

- しない。
- 面倒くさい。
- 結婚したくない。
- 自信がない。
- 結婚すれば幸せになりそうだけど。独りぼっちはさみしい。
- 子どもが出来ると勉強とか自分のやりたいことが出来なさそう。
- 子どもが出来るのは良いけどうるさくなりそう。
- お母さんも言っていたけど、子どもは大変だけどかわいいってなるらしい。

〇質問10：大人になったらしたいことはありますか。どんな大人になりたいですか。

- ない。子どものうちにしたいこともない。全部済ませちゃった。
- 勉強して、いい大学に行きたい。
- YouTuber になりたい。大人になって面白くなって YouTuber やる。
- 大人になったら普通の人になりたい、一般人でいい。
- 北里柴三郎とか野口英世とか、志賀潔みたいになりたい。

〇質問11：何をしているときが一番楽しいですか。

- 遊んでいるとき。ドッジボール、卓球、テニスをしているときが楽しい。学校では出来ないからクラブでやる。４年生からクラブに入れる。
- 最近はまっていることがない。
- 宿題が終わったらゲームをする。
- 友達と騒ぐと楽しい。でも登校中に騒ぐと怒られる。
- 教室とか校庭、家の中だと騒げる。

A-2 班（中高生３名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇質問１：こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。

- 「こどもまんなか社会」を達成するためには、たくさんの人やお金が必要である。また、困ったときにたらい回しになって結局状況が変わらないという事態になるのはよくない。こども大綱を行う上で、強制力をもって助けてくれる場所を作る必要がある。
- 実現できるレベルで「こどもまんなか社会」が決められているのか、実際に政策が実行されているのかが疑問。ニュースを見ていても「政策」は名ばかりだと感じる。
- こどもにとっての幸せや自分らしさはそれぞれで異なる。大人の考える幸せを押し付けることは間違っている。

＜こどもからみたこどもの幸せとは何か＞

- 安心や安全が保証されること。大人がわからない目線をこどもは持っている。安全・安心がないと、こどもとして正常な生活を送ることができない。
- 貧困やヤングケアラーの問題も重要だが、いじめの問題を重要視するべき。特に先生から指導しづらく、可視化ができないいじめへの介入が必要だと思う。いじめの被害者が学校をやめてしまうケースがあるが、本当に学校をやめるべきなのは被害者ではなく加害者である。また、助けてと言えるこどもばかりではなく、先生の指導力が低くて声を上げても助けてもらえないケースもある。このような意見交換会の場を設けていただいているからこそ、自分に何ができるか話し合いたい。

〇質問２：どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。

＜良いと思うところ＞

- こどもに焦点を当てて、こどもの意見を聞く場を設けているところがよいと思う。
- こども基本法の「置かれている環境に関わらず等しく権利を受けられる」という内容が良いと思う。

＜もっと良くするには＞

- いじめられている人やヤングケアラーは教育を受けられていない。教育を十分に受けることができていないこどもが、学校以外で教育を受けることができる場を作るべき。
- こども大綱では、平均的な生活をしている人たちに焦点が当てられている。みんなが平等であるのもよいが、一人一人を取りこぼさないためには、ギフテッドのこどもなど、足並みを揃えることが難しいと感じるこどもに居場所を提供することが重要だと思う。リモート授業のように、学校以外での教育の実施をするなど、教育システムの多様化も検討してほしい。

〇質問３：ほかにどのようなことがあったらいいと思いますか。

- 現状の内容では、抽象的すぎて「本当に実現可能なのか？」と思ってしまう。具体的な案などを提示してもらえればより頼りやすくなると思う。

- いけんひろばでは一部のこども・若者の意見しか吸い上げられない。SNS などを活用し、より広範囲で意見を吸い上げることもできるのではないか。
- まず「こども大綱」に関心を持ってもらうという点でも、SNS の活用は有効だと思う。
- こどもを支えるのは保護者や社会だとしているが、「こども同士」が支え合うことも大事なのではないか。また、いじめの予防や早期発見も加えてほしい。世界ではいじめを予防するという考えが浸透して科学的効果が裏付けられている。早期発見よりもまず、教師、保護者、生徒たちに予防プログラムとして授業が必要。タブレットも配っているので、この機に活用してほしい。新学期始まったらすぐやるべき。また文科省が「不登校いじめの緊急対策パッケージ」を出したが、そこにまず予防プログラムを。なぜ入っていないのか。日本は遅れている。もっと世界に目を向けて、いいところは真似をしてほしい。なぜこんなに遅いのか。強制力を持ってほしい。こども家庭庁、文科省、教育委員会の横のつながりを。みんなバラバラでやらないでほしい。また、中間整理の 6 ページ 10 行に「保護者や社会に支えながら」と書いてあるが、「こども達同士も」と付け加えてほしい。いじめは被害者、加賀者、傍観者、その他多くの人が意識を持ち変えて考えていかなくてはいけない。
- いじめられている子が一人だけの場合、その子は誰が支援するのか（いじめがあったことの立証のしかたなど）を考える必要がある。
- 自分がいじめの被害者になった当時は、社会的にいじめに対しての意識が低く、学校は見向きもしてくれなかった。いじめは隠ぺいされる可能性がある。いじめを減らすためには、学校にいじめの対応を任せるのではなく、学校を管理している自治体レベルで常に監視・管理していかなければならないと思う。
- 文部科学省やこども家庭庁は、こどもとのつながりを大切にして、情報提供を積極的に行うべき。
- いじめの対応は学校に頼れないので、強制力のある政府の機関を設立する必要がある。海外に比べていじめに関する取り組みが遅れていると感じる。
- 日本と海外の教育格差は、教員の質が原因だと思う。教員の質を向上させるために、文部科学省レベルで検討したうえで教育面の向上に特化した機関を立ち上げ、海外から派遣された教育のスペシャリストの指導を受けることができるようにしたらいいと思う。
- 日本は教育の多様性が認められていない。ある有名な将棋の棋士が受けていた教育など、もっといろいろな教育の方法があってよいと思う。

＜いじめに関連して＞

- 強制力のある機関を立ち上げる必要がある。いじめの対応策である事情聴取は状況を悪化させているのが実情であるため、強制力のある機関の介入が必要だと思う。
- いじめが発生する根本的な原因を探求し、対策していくことが必要だと思う。
- いじめられて亡くなってしまう人もいるという事実を知らない人もいる。「いじめを知る」授業を義務化し、いじめは自殺にも繋がることをきちんと伝える。

＜その他＞

- こどもや若者に関する政策は省庁が考えているが、省庁にはこどもや若者（当事者）目線を持つ人がいない。いけんひろばなどで若者の意見を吸い上げているが、実際に政策を決めるのは年配の方だ。政策立案の場に若者を取り入れないと意味がない。省庁のみではなく、若者を含めた場で政策を立案する必要がある。若者は年配の方が作った政策には見向きもしないのが現状だと思う。
- 税金の使い道も若者を交えて考える必要がある。
- 海外では、ホームスクーリングのように、家で教育を受けることが認められている。日本では多様な学校の在り方を認める取り組みが遅れているので改善すべきだ。
- 「学校に行く意味があるのか」と感じるこどもには、学校とは別の教育の場を提供する必要がある。
- 仕事をやりながら子育てしている人もいるが、職場では古い考えが浸透している。仕事も子育ても安心してできるよう、会社の古い風潮を撤廃する動きや機関が必要だと思う。
- 親の収入によってこどもが習い事に通えるかどうかが決まるように、好きなことができるこどもとしたくでもできないこどもの差が生じている。放課後にこどもが学校でいろんなことが経験できる場を作れたらいいと思う。
- まずは、政策立案の場にこどもを含め、いじめの対策に取り組む強制力を持つ機関の設立をしてほしい。もし失敗したとしてもまた違う方法を考えることができるので、まずは動くことが重要だと思う。

＜今どれくらい「こどもまんなか社会」になっていると感じるか＞

- いけんひろばのように意見を発信できる機会をもらえたのはありがたい。また、いけんメンバーの約4,000 人は自分のように社会に対してなんらかの関心を持っていることが確認できた。
- 「こどもまんなか社会」は始まったばかりなので実感がない。これまでの国は、こどもに見向きもしていなかったと感じている。
- これまで「こどもまんなか社会」は社会に意識されていなかったが、世間に表明したことを機に日本がこどもを中心とした社会へ進んでいくような気がする。

＜日常生活の中で、こども中心にしてほしいこと＞

- 税金の使い方
- 教育だけでなく、全体的な税金の使い道もこどもを交えて検討してほしい。
- 安心安全の面に不安を感じる。歩いているだけで刺されたなどのニュースを見る。安心して外を歩ける社会にしてほしい。

＜税金の使い方について＞

- 地域の高齢者と学校が連携することに税金を使うといいと思う。学校側にとっては、いじめの改善（風通しのよい環境づくり、高齢者の方がいじめを見抜くなど）や新しい教育ができる（見て学べる事や高齢者の経験から学べる事がたくさんある）というメリットがある。高齢者側にとっても、新しい仕事が生まれることで、老人ホームの問題や医療費の問題の解決にもなるのではないか。

- こどもが政治に参加できる場を作るために、税金を使ってほしい。また、若者が社会に出たときにどう判断したらよいかなど考える力を向上させられるような場を作るとよい。
- 私立に通うこどもは、公立に通うこどもが使っている国から配布される教科書と、学校が用意する独自の教科書の２種類を持っているが、学校が用意する独自の教科書しか使っていない。私立に通うこどもにも国から教科書を配布しているのはお金が無駄だと思う。
- 紙代がかからないよう、教科書をデジタル化したらよいと思う。
- 教科書をデジタル化すれば荷物の負担も減っていいと思う。ただ、紙の教科書の方が使い慣れている世代もいるので、世代によって紙とデジタルを使い分けできたらよいと思う。
- 使い終わった教科書を捨てずに次の代の人に使ってもらうようにできたらいいと思う。
- 学校に配られるお便りや案内の紙代は無駄だと思う。
- 私立の学校と公立の学校で修学旅行にかかる費用が異なる。公立の学校に国から補助金が出ているのであれば、私立学校の費用も援助すべきだと思う。
- 集団行動が苦手な子もいるので、修学旅行は日帰りでいいと思う。
- いじめられている子は修学旅行に行きたくないと思うし、修学旅行の班決めなどがきっかけでいじめに発展することもある。
- 生活に困窮している人も暮らしやすい環境作りをするために、もっと税金使ってほしい。

B-1班（小中学生２名）

【テーマ：「こどもにかかわる取組を進めていくときに大切にすること（基本的な方針）」について】

○質問１：国がこどもにかかわる取組を進めていくときに大切にする６つのことについて、どのように思いますか。

- 大切にする６つのことを読んだ第一印象として「６つの基本的な方針が実現したらいいな」と思った。これまでは大人がすごく働いていて、こどもは将来働くために勉強するイメージだった。しかし、基本的な方針を読んで、こどもと大人が一緒に社会の輪に入れると感じた。
- ６つの基本的な方針はすごくいいなと思った。特に「③こども・若者の成長に合わせて、大人になるまでずっと支えます。」の部分において、将来のためではなく今すぐ支えてくれるところがいいなと思った。
- 「④こども・若者がよりよい環境で、自分は大切な存在であると感じながら成長できるようにします。また、こまっている人にはその人に合ったサポートをします。」の部分が良いと思った。
- 私の通っている中学校では、学校に行きたくなく、家にも帰りたくないという気持ちを抱えている人がいる。６つの基本的な方針のうち、学校や家にいたくない人のための居場所をつくることは良いサポートの内容だと思う。

○質問２：どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。

- 「①こども・若者は、一人の人間であり、生まれたときから権利をもっています。ひとりひとりのちがいを大切にされ、その権利を守られます。こどもの権利を大切にしながら、こども・若者の今とこれからにとって、もっとも良いことを一緒に考えます。」とあるが、一人一人の権利に関連して、「子どもの権利条約」が世界で定められているのは知っている。「こども権利条約」に合わせて①の基本的な方針を進めていくのは良いと思う。若者やこどもに足りないことについて改善するときは、一人一人にあった改善をするのが良い。
- 一人一人の違いとして、きっとでこぼこがあるはずだと思う。「でこ」を削らずに、「ぼこ」を埋めていくことが最も良いことだと思う。
- 「②こども・若者、子育てをしている人がどのような状況にあり、どのように考えているかを大切にします。また、その意見をきき、話し合いながら、一緒に考えていきます。」について、「意見をきく」というのはどのように意見を聞くということなのかなと思った。いけんひろばは参加人数がすごく少ないので、他にどのようにして意見を聞くのかなと思った。
- 「意見を聞く方法」と「一緒に考える方法」について、実際にはどのようにやっていくのかなと思った。
- ただ意見を聞くだけなら、小学校・中学校に協力してもらってアンケートを実施すれば良いと思う。しかし話し合いとなると、人を集めるのが大変である。オンラインでの話し合いも一人一人の意見をしっ

かり聞けるわけではないと思う。

- 私の学校には 1 学年に 200 人、1 学級に 40 人の生徒がいて、先生は一人一人の意見を聞けない。カウンセラーの先生も学校に 1 人はいるが、カウンセラーをもっと増やして多くの人の話を聞ける機会を設けると良いと思う。
- よくあることだと思うが、いざ「意見を言っていいよ」と言われても、話しにくかったり、すんなり話せなかったりすることがある。もっとこどもに聞く内容を分かりやすくするなど、こどもがすんなりと話しやすい環境があると良い。
- 「②困っていることをきいて大切にします」という部分において、「誰が」「どうやって」「いつ」実施することなのかが分からない。
- 「②どのように考えているか大切にする」とあるが、大切にしてどうするのか。どう大切にしてくれるのか。
- 困っていることを聞いて大切にした後は、改善につなげてほしい。
- こどもはやりたいことが少なからずあるが、お金がないなどで諦めてしまうことはある。やりたいことがあるこどもに対して、同年代・違う世代との話し合いの場や支援があると良い。
- 小学生の時に総合的学習の時間という授業があった。自分たちがしたいことを一つ決めて取り組む授業だが、取り組む内容によっては予算がかかってしまうため、結局は無料でできるポスター作りをすることになり、大規模な取組が出来なかった。総合的学習の時間では教科書が無料で配布されるが、他にもお金を使ってよい取り組みが出来ると良いなと思う。
- 総合的学習の時間ではしっかりと内容が決まっており、楽しかった授業の一つである。あるテーマについて、パワーポイントでまとめて発表していた。こどもは自分がやりたいことを決めて進めるので、大人はこどもをしっかりサポートしてほしい。
- 「③こども・若者の成長に合わせて、大人になるまでずっと支えます。」について、成長にはいろいろな種類があると思う。特に私は心の成長の段階に入り始めているが、誰に悩みや考えなどを話したらいいかわからない。先生や年下の人、年上の人にも話せない。逆に名前も顔も知らない人の方が、後々関わりがないので話しやすい。
- 「③支え方」についてどのような支え方か分からない。小学校や中学校では教科書が無料で配布されているのでサポートされている感じがあるが、学校以外の日常でサポートされている感じがない。
- 普段学校でやるような教科以外のこともサポートしてほしい。たとえば体育の授業では純粋な運動はやらないので、スポーツをしたい人にとっては物足りない。他にも電子工作などが好きな人がいても、学校で電子工作をやれるサポートはない。道徳や家庭科の授業などはあるけれど、教育方針に則っている範囲内のサポートのみであり、生徒ごとの個別のサポートはない。
- 途中から学校に来られなくなった友達がいるが、学校でのサポートはあるものの、不十分であると感じる。学校に来られなくなった生徒を無理に学校に来させようとするとか、宿題だけ提出させるとかでは

なく、生徒がどういうところで頑張れるかという観点からのサポートの方が良い。

- 途中から学校に来られなくなった友達は、先生には会いたくないそうなので、学校とは無関係の人がサポートする方が良い。
- 「③大人になるまでずっと支えます」の部分がよくわからない。「一人一人の困っていることに合わせて、成長に合わせたサポートに変えていく」とかが良いのではないか。
- ③の基本的な方針は、特に分量が少ない。どういう成長に合わせて支えるのか。「③大人になるまでずっと支えます」とあるが、支えるだけでなく、改善できるような助けだと良いと思う。
- 「③大人になるまでずっと支えます」について、誰が支えてくれるのかを示してほしい。
- 「④こども・若者がよりよい環境で、自分は大切な存在であると感じながら成長できるようにします。また、こまっている人にはその人に合ったサポートをします。」について、本当に実現してほしいと思っている。「自分は大切な存在である」と感じていない人が自分も含めて周りにもいる。小学生でも「自分は大切な存在である」と感じていないので、サポートによってこども・若者が周りから求められていると実感することが必要だと思う。
- 学校にも家にもいたくない人がいる。色々な人が学校に来ていじめ防止などについて教えてくれるが、実生活でどう活かすかは教えてくれない。学校のスマホの情報モラルの授業では、しちゃいけないことは教えてくれるが、しちゃいけないことをしないためにどうすればいいか、など具体的なことは教えてくれなかった。
- 新型コロナウイルスが流行りはじめた頃に、インターネットリテラシーについて学ぼうという授業が多かった。授業ではあるテレビ局が放送していた動画を視聴させられるだけであり、実際に問題が発生しないためにはどうしたらよいかという説明は何もなかった。
- 先日、目が見えない方が２人で歩いており、駅で下りのエスカレーターに登ろうとしていたが、周りに黄色い点字ブロックがなかった。音で「こちらのエスカレーターは下りです」というアナウンスがあれば良かったと思う。街中の目が見えない人などに対するサポートも足りていないと思う。
- 「⑤若者がお金にこまらずに生活でき、結婚や子育てをしたい人はすることができるよう、社会全体で支えます。」について、若者とあるが、若者だけではなく小中学生もお金の補助は必要である。こどもの頃の体験がないと大人になってから困るので、こどものお金の補助は必要である。高校や大学に行くために塾が必要なこともあるが、塾は授業料が高い。持っているお金の差によって、受ける教育や体験に差が生まれないようにしたら良いと思う。
- こどもは稼げないので、お金の支援は必要だと思う。しかし生活のためにお金をもらったとしても、「働かなくていいかも」と思ってしまう。こどももいつか働かなければならないが、どうやって働くかは分からないので、働くための支援をしてほしい。
- 「⑥結婚や子育てをしたい人はする」ということについて、どうやって結婚をしてどうやってこどもが生まれ

てどうやってこどもを育てればいいのか全く分からない。一気に教えられても困るので、小学校高学年くらいから結婚や出産、子育てについて少しずつ教えてほしい。

- いい大学に行ったあとに初めて働くのではなく、こどものうちから実際に会社で仕事をすることについて勉強をしたい。
- 「⑥国や地方自体、地域でこども・若者にかかわる人たちがみんなで協力します。」は、抽象的だと思う。
- 「⑥こども・若者にかかわる人たち」と言われても、誰だか分からない。
- そもそも地域で若者と一緒に協力しているという実感があまりない。
- 地域が誰かのために何かをやるという感じがあまりないので、地域の人と接することがない。
- 私が住んでいる地域では「こどもファンド」という取組がある。こどもが地域のために実現したいことを発表して、審査員であるこどもの半分以上が承諾した場合、「こどもファンド」が使われるという取組である。年の最後に発表があるので、地域と協力している感がある。
- 自分は地域がこどもに支援をしてくれているイメージがない。「こどもファンド」のような取り組みが知れ渡るようになれば良いと思う。

○質問３：ほかにどんなことを大切にしてほしいと思いますか。

- 目標に向かって取組を進めていくときに、全員が納得する目標がある場合と一部の人に利益・不利益がある場合がある。たとえ少数派の目標であっても少数派の意見を取り入れられると良い。
- 少数派の意見は見てみぬふりをされてしまう。
- こどもが将来のために活かせることを実施できるようにしてほしい。将来のために必要のないことも勉強しているので、こどもが将来のために必要な勉強ができるようにしてほしい。
- こどもと若者の個性を尊重してほしい。こどもや若者の個性を見つけて、こども・若者のやりたいこと・好きなことをやらせて伸ばすようなサポートをしてほしい。
- 実生活で困っているのは、学校に行きたくないときがあることである。コロナ禍で、学校に行かなくても勉強できる環境が少し整い始めていたが、現在はまたなくなってしまった。場所に縛られない学習環境を確保してほしい。
- こどもは案外大人を理解している一方、大人が案外こどもを理解していないと感じる。「こどもファンド」もこどもが運営しているが、「こどもにはできないんじゃないか」と思って大人が入ってきてしまうことがあるので、大人の方もこどもを理解してほしい。
- 大人はこどもの能力を甘く見てはいけない。どうせできないだろうとかこどもだから出来ないだろうと決めつけてほしくない。
- １回こどもに考えさせる時間を作ってほしい。全部大人が仕切ってやるよりも、まずはこどもに課題を

考えさせてやらせてみたら良い。例えば社会の授業では、こどもにとって難しいように見える問題でも、こども自身が考える時間を取るなどした方が良い。

- 一回こどもを放っておいてみてほしい。危なかったら大人に入ってほしいけれど、良かれと思ってこどもに声をかけるのではなく、こども自分のやり方でやろうとしていると理解してほしい。
- こどもの才能を見つけてほしい。よく言われるのは、「すべての子どもに世界一の能力がある」ということである。足が速い、しゃべるのが上手などの個々の能力を伸ばしてあげられる人がいると良い。
- 一部の中学生・高校生が行政に参加して国を動かすことができれば良いと思う。中学生・高校生の代表が少しずつ参加することで、「こども・若者も国を作ることに携わる」が基本的な方針に付け加わるといいなというイメージがある。
- こども家庭庁はまさに「こども・若者も国を作ることに携わる」という取組を推進しているのかなと思った。
- 今こどもは全くニュースを見ていないと思う。そのため、今何が起きているのかをあまり知らない。知っていた方がいいことも知らない人がたくさんいる。そもそもテレビを見ていないし、興味がないので恐らくスマホでもあまりニュースは見ていない。今起きていることに興味を持った方が良く、学校でもニュースがついていたら見ると思う。
- 若者はテレビを見ないので YouTube で分かりやすくニュースを解説してくれれば、YouTube をきっかけにテレビのニュースも見るようになると思う。ニュースの解説を学校で定期的にしたり、誰かが中心となって発信をしたりすると良い。新聞もテレビも、ニュースを見逃して 2 日ほど経つともう内容に追いつけなくなる。ニュースの導入のようなものとしてもっとわかりやすい解説などがあれば、ニュースを見るようになると思う。
- そもそもこどもは意見をきかれるテーマについて、内容やニュースを知らない。
- こどもが気軽に意見を発信できる場があると良い。SNS を使用するにはまだ年齢的に早くリスクもあるが、意見を言える場があると他の人ともつながれるし、交流が生まれる。興味のあることであってもつまらないことであっても、分からないことなどを教えあえる環境があると良い。
- こどもが気軽に意見を発信できる場があることは、すごくいいと思う。インターネットはリスクが大きいけれど、誰でも発信できるというメリットがある。
- こども・若者も一人前として意見を発信できるようにしてほしい。こども・若者だけが使えるような環境で意見を発信できると良い。
- インターネットは意見が同じ人が集まる場所と聞いたので、意見が異なる人も喧嘩せずに集まれると良い。
- インターネットにいる人は匿名で発言できるので暴言を言う人もいる。インターネットにリスクがあるのは分かるので、こどもが安全に意見を言えて対面で話しているような感じで対話ができる環境が欲しい。いけんひろばのような感じで、もう少しスケールが大きく、参加したい人が集まれる場所があると良い。

- 自分が行っている学校では部活を 1 人 1 つしか選べなかった。自分は陸上部に入ったが本当は科学部にも入りたかった。
- その日の気分でやりたいことは変わるので、やりたいことが制限されないような学校の規則にしてほしい。
- 学校では、個人が発言できる場所がない。意見箱などがないので、おかしいと思うことを言える場所がほしい。月 1 回 10 分くらいでいいので、自分が興味のあることについて発表する場がほしい。幼稚園の時は興味のあることを発表する場があった。
- 私は発表が得意だが、発表が苦手な人もいて、発表がある日に休む人もいる。発表することを全員の義務にしなくて良い。
- 発表をする機会が学校ではあまりない。悶々とただ聞くだけの授業が多いので、発表のコツとかを教えてもらえると、発表に対する恐怖心も薄れる。小学校高学年だと発表をすることへの恐怖心も芽生えているので、小学校 1 年生のころからゆるやかに発表に慣れていけば、今感じているような恐怖心が軽減されたと思う。
- 学校の授業を自分で選択できるようにしたい。自分の好きなことについて教えてくれたり、アンケートを取って好きなことを聞いてくれたりすると良い。
- ２～３年前から、学校のほぼすべての授業の最後に振り返りの時間がある。「分かったこと」や「活かせること」を書かされるが、毎回必要だろうかと思う。

B-２班（大学生～社会人世代５名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇その他：こども大綱を知っていますか。

- 子どもの権利条約を知っていた。子どもの権利条約を批准してからこども家庭庁ができるまで、期間があいていた。子どもの権利条約を結んだ後、国として、社会全体でこどもまんなか社会を実現していこうとなり、こども大綱を作成することでやっと実感できた。こどもまんなか社会がやっとできるなという実感がある。日本はこども家庭庁がなくとも、教育の質は高いと言われているが、今後成長していくためには、こども家庭庁のような機関がないといけないなと思っていた。そういう意味で、こども家庭庁がやっとできたなと思った。
- 子どもの権利条約については、学校の授業で習って知っていた。子どもの権利条約をどのように捉えるかについて、権利としては存在していても具体的には知りづらいなという感覚があった。このような権利やこども家庭庁のようにこどもに寄り添った機関ができたことによって、より実感しやすくなった。
- 社会全体でこどもまんなか社会への気運が高まることが重要だと思う。こどもに対してあなたには大切にされる権利があると伝え、こども自身が思っていても、社会がそう思っていなければ、上から押さえつけてしまう可能性はたくさんあると思う。今は子育てをしておらず、こどもがいない当事者であっても、こどもが大切だという社会全体の気運があることで、今本当に悩んでいるこどもたちももっと色々な人から手を差し伸べてもらえると思う。これらの点からも、こども大綱ができるというのは大切なことだと思う。

〇質問１：国がこどもにかかわる取組を進めていくときに大切にする６つのことについて、どのように思いますか。

質問２：どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。

※文章中の①～⑥は、「こどもにかかわる取組を進めていくときに大切にする６つのこと」を示しています。

① こども・若者は、ひとりの人間であり、生まれたときから権利を持っています。ひとりひとりのちがいを大切にされ、その権利を守られます。こどもの権利をしながら、こども・若者の今とこれからにとって、もっともよいことを一緒に考えます。

② こども・若者、子育てをしている人がどのような状況にあり、どのように考えているかを大切にします。また、その意見をきき、話し合いながら、一緒に考えていきます。

③ こども・若者の成長に合わせて、おとなになるまでずっと支えます。

④ こども・若者がよりよい環境で、自分は大切な存在であると感じながら成長できるようにします。また、こまっている人にはその人に合ったサポートをします。

⑤ 若者がお金にこまらずに生活でき、結婚や子育てをしたい人はすることができるよう社会全体で支えます。

⑥ 国や地方自治体、地域でこども・若者にかかわる人たちがみんなで協力します。

- 大綱の６つの基本指針と関連するが、こども家庭庁ができるまでは厚生労働省や文部科学省が保育園や幼稚園の教育などについて考えていた。その時はあくまでも、おとなになるための教育や、子育てをしやすい環境という観点から見たおとなの不随物としてのこどもについて考えられていた。こどもが、社会の一人として捉えられていないような感覚があった。こども家庭庁ができた時に、はじめてこどもが主体となるので良いなと思う一方で、「若者はどこに行くんだろう」と思っていた。この基本指針に「こども・若者」という言葉があり、自分たちもこどもとおとなの間にいる若者の 1 人として、ちゃんと権利を捉えてもらってその中の 1 つの視点として入れてもらえるんだと感じてうれしかった。
- ⑤を見ると「若者が」とあり、若者が対象になっていると思う。④には「こども・若者がよりよい環境で」との記載があるため、④でこどもの貧困の話がされた上で、⑤で「若者が」という形で絞られているのだと思う。④が配布された資料だとこども向けに変えられたことで記載が無くなってしまったので、資料上だと⑤が若者だけになってしまったのだと思う。
- ⑥が一番大事で、⑥を重点的にやらないとこども大綱をつくった意味がないと感じた。①～⑤はこども家庭庁が既存の省庁にある意味嫌われる省庁だと良いと思う。既存の省庁はおとなの目線で政策を出してきており、こどもに重点的に施策をあてるというのは今までなかった。⑥はこども家庭庁から離れた部分について唯一明言している。地方自治体まで落とし込んだ時に、①～⑤がしっかりとできるのかは審議していかないといけないと思う。地方に行った際、コミュニティもしっかりあるものの、その中で結婚しなければならないとか就職しなければならないという話も聞く。権利があるように見えて無いような状態がある。多様性や個性を主張するなら、①～⑤について自治体でも各々自分たちでしっかりと調査をし、EBPM（エビデンスに基づく政策立案）をするためのエビデンスをちゃんと取得していくことも掲げながらやっていかないと、①～⑤をいくらやっても効果が出ないと思う。そういう意味で⑥を大事にしていきたいと思う。こども大綱は、あくまで国の方針。それ自体は国においての取組周知や、こども家庭庁という存在を社会に広めていくという点では価値があると思う。一方、こども大綱は国の方針なので、地方が活性化して個性を持ちましょうと言われている中ならば、これを基盤にしつつもこどもが生きやすい社会を色々な所でつくれるようしていくという意味で、もう少しうまく柔軟的に取り組んでいく必要があると思う。子どもの権利条約があるならば、例えば、こどもがどこかの評議会に参加してもそれが普通という状態がなければいけない。こどもが中心の評議会といえば、今は生徒会くらいしかないと思う。それは学校教育の一環だが、おとなばかりの機関に急にこどもが入ってくると疎外されるイメージ。疎外されるというのは、制度としてあっても同調圧力がかかっている状況。そういうことをうまくかいくぐるのが、こども大綱と子どもの権利条約だと思う。「こども家庭庁に他省庁から嫌われる存在になってほしい」とは、それくらい斬新な言い方がいいと思ったのでそのように言った。今まで、文部科学省は学校教育、厚生労働省は保育園を管轄していたと思う。こども・若者を横断的に見る省庁は今までになかった。こども家庭庁はある意味他の省庁の役割を奪うことにもなるし、政策をうまくつなげていかなければいけない存在でもある。既存の文化、コミュニティや慣習を切って新しく変えてもらえると良いと思う。
- ６つの重点項目のところに「協力」だけでなく「支える」「一緒に考える」という言葉があり、それはとても大切な視点であるが、その主語はおとなである。これをもっと、こどもたち同士、若者同士で支えあ

えたり、協力したりできる雰囲気や環境づくりを支えるという視点もあった方がいいと思う。具体的には、今の学校教育でも集団生活で学べることがたくさんあるし、支えあう、協力するなどの場面が多くある。障害があるこどもたちだと通う学校も分かれていることがある。性的マイノリティの人、そうでない人もその事実を公にした上でしっかり支えあったり、協力する雰囲気づくりをしたりはなかなかできていないと思う。おとながフォローアップしないと状況は変わらないと思う。おとなが色々なところを整えていく時には、こども同士、若者同士で「支える」というキーワードを大切にできたらいいと思う。

- 元々こども大綱の中にこども・若者の意見を取り入れていこうという時は、こども・若者と大人が対等という考えがキーワードだったと思う。しかし６つの項目を見ると、保護の対象としてのこどもという感じが強いと思う。こどもが考えることをおとなが活かす、おとなが聞いてあげる、おとなが支えてあげる、というようなニュアンスだけでなく、こども・若者が自由におとなと対等に意見を述べることができるというニュアンスが入っていると良いと思った。こどもとしては守られるだけでなく、自分が権利として主張することができると思えるのではないか。
- インクルーシブ教育を受ける環境にいたことがある。中学生の時は、学年の３分の１が自閉症の同級生がいるという環境で、一緒に合宿に行ったり給食を食べたりした。障害を持つ子には特性があり、廊下を走ったりしていた。私たちが常にその人たちを支えたり助けたりしていたかと言えば、そうではない。自閉症の子たちは私たちではできないこともしていた。お互いに尊敬したり、憧れたりする中で支えあったり協力しあったりしていたと思う。その後進学して通常の公立高校に進んだが、そこでは障害を抱えている人はあまりいなかった。勉強ができる整った環境の中で、本当に障害がある人と距離が遠くなった。その学校では良い人が多かったが、障害に対して理解がない人もいた。それはその人々が悪いのではなく、触れさせないような教育が主流だったためだと思う。こどもたちだけで支えあうという自発的な発想がこどもたちからでてくるのを待つよりも、おとなのフォローがあっても良いと思う。障害がある人とない人が無理にどちらかに合わせるのではなく、合わせやすいところから一緒にやっていこうという環境だった。学校から出たあとは、障害があるかどうかに関わらず、困っている人を見て見ぬふりをする人が多いと感じる。成長する中で、腫れものに触らないようにするという考え方をもってしまうのではないか。自分は中学校に入学してはじめて障害のある方と接した。最初のころは、話しかけた時に答えが返ってこなかったり、急に大きな声をだされたりすると「悪いことしたかな」「やってはいけないことだったかな」などと感じた。しかし、関わり続けるとお互いに理解できた。触れ合う機会、一緒に何かする経験や時間は大事だと思った。
- こどもの権利をまだ知らなかった小学生・中学生のころを思い返すと、先生との関係の中で理不尽だなと思うことがあった。その時に自分には権利があるということや、おとなから教育される立場を超えて、自分の主張を先生に伝えても良いのだということを知っていたら何かが違っていたかもしれない。こども大綱がこどもの目に触れる機会があったら、ただ支えられる存在ではないということを示す文言があれば、自分だったら気になって見ると思う。
- ある意味で、こどもをおとなから乖離しないといけない部分があると思う。例えば、自分は生徒会長をやっていたが、校則を変えるとなった時に、今までおとながつくりあげてきた経験によって邪魔をされるということを感じた。ある国立大学が女性の入学枠をつくろうとしていると耳にしたが、男女平等を謳っ

ている社会の中で女性のための入学枠を設けることは男女平等なのか。若者にとっての男女平等が女性のための枠を設けることで達成されるのかというと、それはこれまでの人たちがつくりあげた社会の中での話であると感じる。グローバルで多様な価値観が生まれてきた中では、女性枠を設けることが本当に男女平等なのか疑問に思う。女性の権利を認めることの動きとして、女性枠を設けるべきであるかもしれないが、若者の考えとして本来の概念が通用しているかというとズレがあると思う。おとなのフォローが必要ということはとても分かる。こどもは、おとなから少し離れないといけないとも思う。うまく施策が出ればより良い社会になるが、そこが難しいと思う。

- こども家庭庁を知ってもらうというところから始める必要があると思う。こどものためのこども家庭庁ならば、こどもに知ってもらわないといけない。6 つの項目には「～します」という語尾で書いてあるが、具体的なものが無いのではないかと思う。
- 取組を進めていく時の方針として、①～⑥の 6 つがあると思う。抽象度をどうするかは難しい問題だと思う。
- 文部科学省が 10/17 に出していた「『不登校・いじめ緊急対策パッケージ』及び文部科学大臣メッセージ」を読んだ。教育委員会・国・地方自治体に対して、箇条書きで「～をしてください」と書いてあった。一番印象的だったのが、インターネットを使った SOS 取組で、良いと思った。こども家庭庁のホームページを見ると、文章で OS を出す取組しかないように思う。24 時間対応の電話対応があれば、実際に自殺を考えている人がすぐに相談できていいと思う。文字に起こしている時間がもったいない。電話対応の取組がこども家庭庁にもあればいいと思った。
- 既存の電話相談だと、相談員の体制上、24 時間対応することが難しい。また、相談する人があまりに多くて電話に出ることができないと聞いたことがある。それに対して、文章で SOS を出せるのであれば、文字を打つだけでも気持ちが楽になるかもしれないし、電話でずっと待ち続けなくてもいつか返事が返ってくる。電話にすぐ出てもらえるのであれば助かるかもしれないが、それぞれの手法に良さがあると思う。こども家庭庁でもしこども・若者専用の取組ができたら良いと思う。
- SOS 窓口を NPO 団体などに委託するべきか、こども家庭庁がやるべきか。こども家庭庁には、「こども」という文字が入っているのでこどものための機関だと思う。こどものために直接的に支援をするというのは難しいかもしれないが、少しでもこどもに関わってもらえるような機関があれば、こどももすごく安心だし、嬉しいと思う。その先がどこにつながっているか分からないが、こども家庭庁に色んなこどもに関する問題を解決してくれる入口があるといいと思う。
- どの高校でもこどもに自律性を持たせようということは言われている。一方で、こどもから「何かやってみたい」と言った時に、難しさや先生からの圧力を感じる時が多い。関連して、③に「こども・若者の成長に合わせて、おとなになるまでずっと支えます」とあるが、こどもはもっと守られるべきなのかなと思っている。インターネット等でも凄い速度でこどもの悪事や個人情報が晒されている。将来的には、インターネットなど大人の目に触れる環境において、こどもはもっと守られるべき存在だと思う。こどもを支えるのも大事だとは思うが、存在と権利として守られるべきなのかなと思う。
- 成人年齢は引き下げられたが、こども大綱の対象はもっと上の年代まで想定されていると思う。それはこどもに将来があるので広めに設定されていると思うが、例えば違法薬物等を使った時に、たとえ

学生であっても詳細な個人情報が報道されてしまう。他人に被害を与えているわけではないのに、顔や実名が出て、その人が一生就職できなくなったり、貧困につながったりするような事態は避けるべきではないか。世間の人々は忘れていくかもしれないが、その人が生きていく中で名前をチェックされる機会もあると思う。そうなった際に被る不利益は大きい。自分自身もまだ若く、正しい判断ができない部分があると思っている。自分としては、こどもは守られるべきだと思っている。

- 困った時のアクセスを用意することには、こども家庭庁のシンボルとなりえることだと思う。これまではこどもに何かあったときに家庭の責任にされることが多いと感じている。こども大綱の中に、家庭だけでなく社会にも責任があり、それにこども家庭庁や自治体が関わっていくというニュアンスの説明があったら良いと思った。①～⑥には良いことが書いてあるかと思うが、自分が困っている立場にあると、どうせ「口だけ」だと思ってしまう。結果的に誰も助けてくれないと思う人もいる。社会には責任があって真剣に取り組まなければいけないという記載があれば、もし自分が困った時に少しは頼れると思えるのかもしれない。６つの指針に書くべきなのかは分からないが、こども大綱のどこかにあれば良いと思う。自分がいけんひろばに参加できているのは、インターネットが使える環境下にあり、大学で学べるなどの教育も受けており、いけんひろばのような活動に参加する心の余裕があるからである。本当に助けを求めている人はいけんひろばに辿りつけないし、辿り着いたとしても参加できない可能性もある。自分からこういう機会に辿り着けない人の意見も汲み取るという記載や取組をして、所得や学校に通っているかに関わらず、みんなが対象であることが明記されていると良いと思う。
- 意見を言うための場の保障はしなければいけないと思う。EBPM（エビデンスに基づく政策立案）をもう少ししっかりやる必要があると思っている。場を保障して、意見を汲み取って政策につなげていかなければいけない。文言としてこども大綱に入れていく必要があると思う。まず、こどもの声が国に届いていないこと自体が課題。また、日本には年功序列の文化があるので、上の年代の声が強くなっている状態だと感じる。柔軟な姿勢を示すという文言を記載した方がいいと思う。それだけでも、変化がないにせよ、それを第１にやっていますと明言しないとこどもまんなか社会が結果をだせないと思う。②にそれらの文言を入れた方がいいと思う。
- 困っている人や環境が整っていない人などの意見はなかなか聞くことができない。そのような人々は、そもそも意見を考えるための情報を持っていないことがあると思う。意見を考えられるような環境が整っておらず、低年齢である人ほど、学校と家だけなど狭い社会の中で生きていて、理不尽な扱いを受けていても、それが普通だと思ってしまうという場合もあると思う。嫌かどうかという判断もつかないかもしれない。行動範囲が狭いのは仕方ないと思うが、行動範囲の中でおとながもっと情報を与えられると良いと思う。教員の働き方改革の話もあるので、こどもに関わる人の負担は増やさないほうが良い。民間で「情報を与える人」が増えても良いのではないかと思う。自分でやりたいことを探すことができる段階になる前に、色々と情報を提供する人がいると良いのではないか。
- 教員だけではなく、外部の人から情報を得る機会がすごく少ない。学校では、勉強に役立つことや社会に出る時に役立つことについての講義しかされない。困った時に使える相談機関や、こども家庭庁がどういう取組をしているか等を知っている人はすごく少ない。外部や他の学校の教員から話を聞くことができる環境は大事だと思う。

- 高校１・２年生の時に辛かった時があった。教員に話しても、自分の学校は学年に数百人の生徒がいるので、「他の人も同じだよ」や「そういう時期だからしょうがない」と言われることが多かった。教員や学校以外に、インターネットやチャットで相談できる場所があることを知っていたら良かったと思った。学校に行けていない時期があっても、外部の人から「通わなくてもいい」という提案があればもっと学校を好きになれたかもしれないし、理不尽な思いもしなくて良かったのかなと思った。学校に行きたいのに行けない時期があり、「行きたくないんでしょ」というレッテルを貼られた。そうではなく、行きたいけど行けない環境にあるということを、教員だけでなく同級生を含めた学校全体が認知している状況にあったらもっと良かったと思う。教員に話をしても解決しなかった。高校２年生の時まで休みがちだった。友達と話し、友達に連絡を貰って「頑張って行こう」という感じで、自分の状況をたくさん理解してもらうことで学校に行けるようになった。
- 自分はすごく田舎に住んでいたので、教育が行き届いていなかった。大学院などにあこがれるが、教育が行き届いていない所にいるので住んでいる町にいるしか選択肢がなかった。専門学校に行く奨学金をもらうためには、GPA（成績評価）が足りなかった。それくらい教育が行き届いていないところに住んでいる。塾もないし、私たちみたいな人も少なからずいると思う。そういう人たちのために、してあげられることはないのか。金銭的にも支援してほしい。塾に行くとしても遠い。高校では、他県から来る子も多い。他県から来た子は地元に帰ったり、偏差値の高い大学に行ったりする。有名な大学に行くとその町で有名になる。そういう子たちのことも考えてほしいと思う。
- 公務員になるための試験を受験する際、教えられる先生がいなかった。結局、高校を卒業して専門学校に行ったが、それはどうなのかなと思った。専門学校で実際に勉強してみたら、小学校で習うはずのものを習っていなかったりしたので初歩的な部分で間違ったりしたが、1 年間必死にがんばって試験に合格できた。初歩的な内容は、学校で教えてほしかった。
- 今の学校現場の話だと、こども家庭庁が教育に関する役割を担うことはむずかしく、文部科学省が担当する内容だと思った。自分が住んでいる地域でもう少しできることがあるのではないかと思った。地域おこし協力隊などとの交流を盛んにするだけでもコネクションがつくれるので、そうやって少しずつ改善していくしかないと思った。こども家庭庁には、学校現場を離れて社会やコミュニティに観点で取り組んで欲しい。

C-1 班（高校生～大学生世代６名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇質問１：〔すべての年れいのこども・若者のための取組〕についてどのように思いますか。
〇質問２：どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。
〇質問３：ほかにどんなことに取り組んだらいいと思いますか。

※C-１班では、質問１～３をまとめて話し合いました。

＜こども・若者が生まれたときから権利を持っていることを、こども・若者やおとなに知ってもらう。＞

- 取組の内容について、大人にもっと知ってもらうことは大事だと思う。政策を決めるのは大人だから、もっと大人の人が自覚を持つことが大事だと思う。
- お母さんやお父さんは、教室で子育てのしかたについて習っている訳ではない。親が勘違いをして、虐待に繋がることもあると思う。祖父母の代から体罰などの間違った教育が続いていると連鎖してしまうので、絶った方がいい。
- 大人に対する問いかけは大事だが、当事者のこどもも権利を知る必要があると思う。小学校、中学校、高校のホームルームや学級活動で「こどもの権利が存在する」という資料を渡されたことはあるが、総合的な学習（探究）の時間などの教育活動でとりあげられたことはなかった。こども家庭庁や文科省などの省庁において、こども目線、親目線のそれぞれで「こどもの権利について知ってもらうための手段」を、考えられたらいいと思う。今は、伝える方法が不十分だと思う。
- こどもにとっての権利は与えられるもので、主体性を感じづらいかもしれないと思う。こども・若者の権利を大人に知ってもらい、こども・若者と大人は対等であることを強調したほうがいいと思う。大人とこどもが対等でないと感じるのは、選挙に参加できないとき。お小遣いを自分で管理できないとき。お年玉とかは親が管理していることが多く、親の意向によって使い道が決められてしまう。
- 親が新興宗教にはまっていて、こどもに教育を受けさせたがらない家庭などでは、こどもが奨学金を利用したくても、親が承諾してくれずに利用できないことがある。自分の意思で活動できる年齢になっても、親の意思で希望が妨げられるという話を聞くので、親の同意を取るべき場面については考えたほうがいい。
- こども目線でのコンテンツづくりも大切。ユニセフが作成した子どもの権利条約の紹介動画を見ると、こどもの声でナレーションが入っていたりするので、こども目線でコンテンツを作れるといいなと思う。今日のいけんひろばはファシリテーションが丁寧で、場所の雰囲気としても、こどもの絵などが飾られておりこどもの主体性が可視化されている。
- こどもには権利があると思うけれど、実際に普段の生活の中で権利があると改めて感じることはない。最近、奴隷をテーマとした映画で「人権がはく奪されているんだな」と思い、また、自分と比較したときに自分が権利を持っていることを自覚できた。そのため、過去のことや他の地域のことなどを知るのが良いのではないかなと思った。

- 大人たちは、こどもに権利があることを分かっていない訳ではないと思う。ただ、こどもの権利に関して大人に教育する機会がないため、必要だと思う。

＜重い病気や障害を持つこども・若者を支援する＞

- 重い病気や障害を持つこども・若者を支援する取組自体はとても良いと思うが、私自身は日常生活で重い病気や障害を持っているこどもや若者に会う機会が全くない。私がたまたまそうなのか、あるいは重い病気や障害を持っている人たちが辿る生活や人生のルートが用意されているのか気になる。
- 私自身も先天性疾患がある。昔は国の難病に指定されていた病だが、近年治療法が確立されたことで「重い病気・障害」に該当しなくなったと親から聞いた（ちなみに治療法は確立しているが、治療を複数回受けてもその先天性疾患は完治していない。）。当事者の立場から見ると、国が勝手にまとめた「重い病気リスト」から勝手に外され、部外者になったと感じる。この「重い病気や障害」という言葉の使い方が適切でないようにも感じた。
- 支援をする前に、理解をすることが必要だと思う。
- 精神的な病気がある人もいるので、インクルーシブな社会になったら良いなと思う。例えば、一部の精神的な病気には保険が適用されるが、一般のカウンセリングには保険が適用されなかったりする。精神的な病があっても病として定義されず、学校に通うことを求められる場合もある。私たちの親世代はまだあまりメンタルヘルスへの理解がなく、例えば「朝起きられない」ということを「ただ怠けているだけ」と思ってしまう。
- これまで、病気や障害を持った方と会うことはあまりなかったが、今年初めて障害を持った方と知り合った。彼らの周りにいると、勝手に「手伝わなきゃ」と思ってしまうが、実際には、彼らは自分自身でできることも多い。思ったよりも自立した生活をしているので、全面的に支援をするというより、足りないと言われたところだけを手伝ってもいいのかなと思う。
- 支援にもいろいろある。身体的障害をもっている方への支援内容を決めつけるのではなく、ひとりひとりの病気の特性をみて、そのひとのニーズにあった支援・サポートをするのが大事だと思う。

＜家にお金がなかったり、施設や里親のところでくらすこどもの、勉強や生活の支援をする＞

- 字面だけをみると「家にお金がなかったり、施設や里親のところでくらしたりしているこどもの、勉強や生活の支援をする」のは良いことだと思うが、支援を受ける当事者の主観は別に存在していて、一律で決まった金銭的支援をするといった一方的な制度ではなく、当事者に寄り添った制度設計（例：定期的なヒアリングなどから状況に合わせて支援を変動させる。）が必要ではないか。本当にちゃんと支援が行き届くのかなと疑問を感じた。
- 「支援をする」という言葉はあたりさわりがない。
- 里親のもとで暮らすこどもの支援を、どこまでできるのかが疑問。例えばその子が勉強熱心で中学受験をしたいと思ったとき、どこまで支援できるのだろうか。公立の学校と私立の学校で学費が何百万と違う中で、私立の学校に通うことは彼らに与えられた権利なのだろうか。実の両親に愛されて育ったこどもでも、家庭に金銭的な余裕がない場合には私立に通えないのに、支援の対象となるこどもが

私立に通えるという整理になれば、かえって格差が生じてしまう。

- 金銭的支援はしようと思えばできるが、貧困家庭に金銭的支援をしても、親がギャンブルにはまっていたらギャンブルに消えていく。こどもが生活費を稼ぐためのアルバイトをしていたら、その子は義務教育を受けられない。金銭的支援をした後のこともう少し詳しく考えるべきだと思う。
- こどもと親を離すという対応もあるが、最適解ではないと思う。話すことができる友人や親戚がいるといいと思う。
- 児童養護施設に入っている人の中には、学校に行けず、勉強ができていない人もいると聞く。
- 施設や里親の家に住んでいる人以外にも、勉強や生活において精神的ケアが必要な人はいる。何等かの事情で、途中から施設に入る人の場合は PTSD（心的外傷後ストレス障害）もあるかもしれない。大人への不信感が残っている場合もある。里親団体とは別の第三の機関で精神的支援をする必要がある場合もあるのでは。

＜こども・若者がなやみを相談しやすくなる＞

- 相談すべきことをきちんと問題として捉えない限り、悩みを自覚して相談に行くのは難しい。自己肯定感が低く自信がない人でも、どんなことも相談できる環境づくりが必要。
- 悩みを相談する機関が足りない。人によって悩みの相談のしかたは違う。私は普段、日本語を問題なく話しているが、自分の感情を表すときには英語を使った方が楽だと感じる。今通っている大学にいるカウンセラーの中で英語が話せる人は 1 人しかおらず、予約が 1 か月待ちだった。また、せっかく予約をしてカウンセリングを受けたのに、結局ほぼ英語を理解してもらえず、返答がほぼ日本語だった。留学生はもっと困ると思う。あとは、聴覚障害・視覚障害がある人にとっても悩み相談をすることには大変さがあると思う。また、難民申請をしている人が話す言語は様々である。日本語を話せない人ほど、悩み相談をするニーズは高いように感じる。
- カウンセラーの数を増やすのも大事だが、カウンセラーに話すのは苦手で、友だちに相談するのが得意な人もいる。一般のひとは、専門的な話のききかたはできないけれど、ちょっとでもカウンセリングの知識を知っていたらよりよい方法で話を聞けると思う。小さい時から「相手の話を聞く」ことの延長として知識を学べたらいいと思う。
- ある程度大きくなれば言葉で自分の気持ちを伝えられるが、小さいときは言葉だけでなく、表情などで伝えることもある。必ずしも言葉だけが表現の手段ではないため、相談機関をつくることに加えて、こどもの周りにいる大人がしっかりと様子を見てあげるのも大事。
- 友達や親などより、カウンセラーなど外部の人に相談するのがいいかなと思う。普通の家庭だと親への信頼感は強くて、疑うこともできないと思う。自分の直接的な暮らしに関わっていない人には、悩みを話しやすいのかなと思った。日本において、カウンセリングの普及はまだ十分に進んでいない。ヨーロッパだと重大な悩みがなくても、定期的にカウンセリングに通う習慣がある国もある。日本だと、カウンセリングを受ける人に対して「病気なのかな」と偏見を持つ人もいると思う。
- 相談できるようなネットワークを広げていくことが大事。相談しやすいかはこども・若者の気持ち次第なので、カウンセラーの配置を含めて、地域でこども若者が安心できるような環境づくりをすることに舵を

切ったほうがいいと思う。

- 「支援」以外に使う言葉がないのかもしれない。必要な「支援」はケースバイケースだから、なかなか共通の言葉が見つからない。１つずつの具体的な内容を書いていたらきりがないから「支援」とまとめるのかもしれない。
- 例えば年収が 700 万円以下の世帯について、こどもの人数や、片親が病気であるかなど、詳しい家庭の事情は考慮されていないように感じる。年収の数字だけで見られることが多い。自分の事情を説明・主張する場が設けられるといいなと思う。
- 所得税なども、勝手にルールを決めて受けられる支援の種類を分けているが、支援の選択肢をいくつか提示し、支援を受ける本人がニーズにあわせて選択できる仕組みにすればいいんじゃないかなと思う。

C-2 班（大学生～社会人世代５名）

【テーマ「こどもまんなか社会」について】

【ヒアリング内容③「取り組むこと（重要事項）」について】

○質問１〔学童期・思春期（６～18 才くらい）のこどものための取組〕についてどのように思いますか。

- 私が大事だと思ったのは「18 才で成人する前に、社会で生きていくために必要なことを学べるようにする」という点である。高校までは国語・数学・理科・社会・英語と勉強してきて、偏差値の良い大学に行くという流れがあった。社会にどういう大人がいるか、何かを学ぶために大学に行くのに、偏差値だけではなくて大学で学べる内容に選択肢があるとかをあまり教えてもらえなかった。高校生くらいからよく考えて進路を選べたらよかった。地方出身だが、東京など他の都市に移って就職をすると、地方の人口減少問題にもつながるので、キャリア教育があると良かった。
- 自分が通っていたのは単位制の高校で、好きなことを学べる環境だったためすごく楽しかった。勉強嫌いの子が多いが、趣味は楽しそうにやっているので、自由に学べたらもっと学校が楽しくなるんじゃないかと思う。主要５科目以外にも、料理とか裁縫とかを学べたら良いのではないか。国語の授業も、文章の書き方にこだわらず文章を読むことに力を入れたりもできたらと思う。
- 小学校では、どうしても真ん中くらいの能力のこどもにみんなが合わせることになる。できる子の能力をもっと伸ばそうとはしていない。得意・不得意、好き・嫌いがあるのに、みんなが平均的にできるようになる教育をしている。苦手なことを無理してやらせるような環境ではない方がいいと思う。
- 学校でのいじめ問題は、上から圧力がかかって隠蔽される。もっと本人や周りの人が声をあげられるような環境になるといい。
- 小学校の時に仲良かった友達がいじめを受けており、そのいじめの隠ぺいがあった。いじめがあったことについて担任の先生と相談して、こども相談フリーダイヤルに相談を送り解決を図ろうとした。しかし、教頭先生に「送らない方がいいよね」と言われてしまい、結局フリーダイヤルに相談できなかった。一生懸命考え出した結果を、なかったことにされたのが悔しかった。他にもそういう悲しい思いをしている人がいるのかなと思う。その時の担任の先生は年も若く、日ごろのこども達の面倒を見るのに手いっぱいで余裕がなかった。先生の働き方もすごく大事だと思う。先生に余力があればこそこどもの様子を見られる。もっとこども達の様子を見てほしいと思う。
- 妹は私と違って正義感があって、輪の中心にいるタイプで、いじめがあると先生に言いに行くタイプである。妹が学校で同級生に悪いことにされて「こういうことがあって嫌だった」と担任の先生に言いに行ったら、逆に悪者にされた。「来年からは一部のこどもと違うクラスにしてほしい」「担任も変えてほしい」と親が学校に伝えたところ、周りが「なんであいつは先生に言ったのか」となり、悪いうわさが広がった。
- いじめられている側にもいじめている側にも嫌われて、悪者にされたことがある。大人が圧力でいじめを「なし」にしようとすることで、しんどいという思いになる。親が理解できないこともあるため、新任の先

生であっても年が近いからこそ分かることがあるので、「分からない」と言うのではなく、理解する努力をしてほしい。

- 私は家庭環境がごたごたしていて、学校になじむとか、勉強についていくとかを考えられない状況の時期があった。そんな時、私にはおばあちゃんや友人がいたため、最悪の状況にはならなかった。一人一人のこどもの環境が違うということも大事にしてもらえればと思う。
- 学校の先生から学べないことや、地域に根付いた人の意見を聞ける授業や場があるといいと思う。仕事や色々な社会について知ることが大事だと思う。
- 人間は勉強だけじゃない。勉強以外にも社会はもっと広いということとか、色々な人がいることとか、色々な生活のサポートを受けられることとかを教えてくれる大人がいるといいなと思う。
- こどもをサポートする会社が配布している小さな案内カードみたいなものがあるが、私は使ったことがない。
- 友達のためにこどものサポートを使ったことがある。「お母さんにもっと気にかけてほしいと言ったらいいんじゃない」というようなことを言われており、選択肢がなくなっちゃったなあと感じた。
- 私は自分のことを「祖母に育ててもらっているから、大丈夫」と思っており、自分にとって相談が必要だと思わなかった。自分の生活環境について、周りから見ると普通なのか普通ではないのかも理解できなかった。相談が必要かどうかも分からなかった。
- 思ったより相談できる人や場所は存在するが、たどり着くまでが大変。生活保護を受けられるのに受けてない人が多いと聞いた。制度を知らない人もたくさんいる。たどり着く気力がない人もいるから、その人たちにも情報が届くようにできたらと思う。届けたいところまで届ける取組がほしい。
- サポートをもらえることを知らないことが多い。住んでいる地域のサポートが少なかったり、必要なサポートにたどりつくまでが遠かったりする。「頼ったらダメ」「頼ったら悪」という風潮もある。サポートを使ったら人間じゃない、生活できていない変なやつ、という感じがあるのも良くない。相談できない、支援に行けないということになる。
- 定時制高校に通っていた際に、精神的に不安定な人のために学校にソーシャルワーカーがいた。こういったサポートの人が学校に増えるといいなと思った。
- 私の大学にもスクールソーシャルワーカーが月 1 回だけ来ているが、来る頻度が少なく、誰かわからない感じである。
- スクールカウンセラーは心のケアをする人なので、必要なサポートを受けられる制度については教えてくれない。弁護士だったら知識を教えてくれる。
- 私は小さい頃から祖父母とかかわっており、異なる年齢の人とのかかわりが多かった。こどもにとって、同年代とかかわることは多いが、大人とのかかわりは貴重である。異なる年齢の人とのかかわりの中での何気ない会話も大事だなと思う。
- 最近、居場所づくりのために学区内外で活動していて、年上とも年下ともかかわる機会がある。異なる年齢とかかわる機会はこどもと大人、双方にとっていい機会だと思う。児童館などでの集まりもあるが、小学生や中学生だと一人で行くことができない。そういった居場所みたいなところに一緒にいける人や関係性も必要だと思う。

- 学校の先生が犯罪をすることも多く、こどもに近づく大人は変な人も多い。こどもに接する人は、高い倫理観をもってこどもと接することが求められる。誰でもこどもと接することができるようにすると、この点が難しくなる。年齢が近い人が子どもと接することも純粋にいいと思うし、プロでない人もこどもにとって助けになると思う。

○質問２〔青年期（18 才以上）の若者のための取組〕についてどのように思いますか。

- 「自分にあう仕事を見つけて経験をつんでいけるように」という点について、就職活動を始める時期がどんどん前倒しになっており、大学って勉強するために通っているんじゃなかったっけと疑問に思うことがある。就職活動の早期化で、社会からの“働け”という圧が強すぎると感じる。落ち着いて勉強も就職活動もさせてほしい。
- これから就職していく中で、失業して貧困に陥る可能性もある。困窮状態から抜け出し、最低限度の生活を営めるようにする支援だけでなく、就職支援など、将来に希望が持てるような支援も必要だと思う。
- こどもが大好きなので教育実習は楽しかった。教師をやりたいと思うが、大学で資格を取ること自体をやめる子もいる。こどもは好きだけど、給料が少ないから、早く結婚して夫婦二人分の収入が必要だよねという話をしている。21～22 歳で、なんで結婚や給料の話をして悩んでいるんだろうと思う。働いて奨学金も返さないと、という不安もある。働きたいと思っていても不安が色々とある。父親が、給料を理由に私が教師になることに大反対した。金銭的な支援があるといいなと思う。
- 自分には子育てなんかできないと思ってしまう。就職活動をしていると、就職後にどうやってこども育てるのだろうと思ってしまう。賃金の低さは問題。自分が育った環境を、自分が子育てをする時にも提供でできるかというと、できるビジョンが見えてこない。
- 給料明細の社会保険料を見るとがっかりする。
- 地方に住んでおり、東京の大学に行きたいと思ったが、私立の大学は半端じゃなく高い上、一人暮らしをすると実家暮らしの倍くらいのお金がかかる。また、情報もあまり入ってこない。オープンキャンパスに行くだけでも新幹線代などがかかる。大学の運営側はこの点をわかっていないと思う。そもそも大学に通っている人の半分くらいが奨学金を借りて通っている状況について、このままでいいのかなと疑問に思う。実家が都会にある人は、苦しんでいないように見える。地方出身者は、都会出身の人と同じレベルの大学にいくのが大変である。
- 東京は文化施設が多い。大阪にも美術館はあるが、東京にある数はその比ではない。文化に触れる機会が地方では少ないため、もっと触れる機会があるといい。文化に触れることで、色々なことに興味を持つきっかけになる。
- 仕事をしていて妊娠や出産をするとなった時に、国の制度がしっかりしていて、お金のことなど問題なくやってくることができたが、産んだ後はやはり自分でお金を稼がないと生活が厳しい。ネットでは副業が推奨されており、副業をやりたいと思うが、安心かどうかが怪しい。給料が少ない人は副業を考えると思うため、安全に働けるようにしてほしい。
- 給料を上げることが将来の希望を持つことにつながるため、給料を上げることは大切だと思う。卒業し

たら結婚を考えないといけない、というのもよくわかる。ただ、高校に入学した後も、すぐ大学のことや卒業のことを考えないといけない、大学に入ってからも同様。ライフステージに急かされている感じがする。

- 高校に行くための中学校で、大学に行くための高校で、就職するための大学で、みたいな感覚がある。
- いつも次への準備な気がする。大事なことだと思うが、急かされている感じがする。
- 若い頃から挑戦をすることで、自己有用感や自己肯定感を持ってほしい。人生には失敗が織り込み済みだから、なんでも自分のやりたいことに挑戦できる環境が大事だと思う。学びと遊びが今は分かれてしまっているが、遊びとかやりたいことを追求していけば学びになると思う。やらされ感、何かに追われている感じがなくなれば、こどもたちが挑戦的になれると思う。
- 小学生が楽しそうに勉強している感じがなくて、本当に勉強したいのかなと思う。良いステップを踏むのが大事という親の考えもわかるが、やらされている感じがある。塾を一つの居場所と考えているこどもいて、全然知らない学校の子と関われるということもある。ただ、塾に通っているのは成績の良い生徒である。勉強についていけていない子がもっといるはずなのにと思う。楽しいなと思って勉強できるような学校づくりをしてほしい。大阪市には塾代の助成事業があり、学びに役立つと思う。
- 自分がこどもの時を振り返ると、勉強以外が楽しかったから、勉強も楽しめたように思う。部活を通して勉強もできる友達ができたので、勉強も楽しかった。勉強以外が楽しめる学校があるといい。私が通っていたのは合唱コンクールに力を入れている学校で、コンクールで一致団結しているという雰囲気が良かったと思う。一方で、そういう雰囲気が嫌いな子もいるのが悩みどころ。
- 自分も部活が楽しかった。先生にめぐまれていたが、先生の働き方がしんどすぎた。先生になりたいこどもも減っていると思う。
- 部活も楽しかったし、先生に怒られることをこそこそやってみるのも楽しかった。勉強よりも、遊ぶとか人とかかわるのが楽しかった。
- 高校 2 年生の時に困ったことがあったが、周りの大人が助けてくれなかった。大人に言える環境ではなく、周りに信頼できる大人がいなかった。受け入れてくれる雰囲気や、優しさがある人がいたらよかったと思う。
- 身近にいない人の方が相談しやすい。
- 大学に学生相談室があり、自分と関係ない大人がいて、相談すると話をまとめてくれる。話したいことがまとまっていない時でも相談しやすい。
- SNS 相談が頭に浮かんだ。「匿名で」「秘密にする」というだけで結構信頼できる。
- 自分のことを知らない人に、1 回きりで話をする方が相談しやすかったりする。アドバイスがほしいというより話を聞いてほしい。
- 自分も部活と生徒会をしていたが、その生徒会の先生は学校の中で行事や取組を応援してくれる先生で好きだった。当たり前を押し付けず、生徒に考えさせてくれた。先生だから正しいということはなく、「生徒の君たちが学校を作ってくれていい」という感じだった。その生徒会の先生は、部活の先生に「もっと部活をさせろ」と言ってくれたりしていた。

- 自分も部活が楽しかった。顧問の先生が朝練をやりたいといった時、「自分たちで主体的に変えていいよ」と言ってくれて自分で変えていけるのが嬉しかった。

○質問３〔子育てをしている人のための取組〕についてどのように思いますか。

- 親が共働きで、弟と夜遅くまで家でお留守番をしていることが多かった。母は手料理をしてくれるタイプだったので、朝のうちに朝ご飯・昼ご飯・晩ご飯を作っていた。毎日それを温めて食べる生活で、脱するのが大変だった。共働きの人が楽に暮らせるといいなあと思う。自分がこどもを産むとなったら母がやってくれていたようにはできないと思う。働いていない母親もいる中、母親ががんばっているから自分もがんばろうと思えた。たまに弟の迎えに行くようにしていた。

事後アンケートに記載された意見

◆言い足りなかったことなど

- みなさんがこのいけんひろばに来ることができているのは、自分自身かお家の人が興味があったり関心があったりした上で、それに理解を示してもらえるという環境にいるからだと思う。外に出るのがしんどい・難しい、お家の人がわかってくれないといった悩みを抱えている人は思っていることがあっても、いけんひろばに来て、思いを伝えることはできないと思う。だから、そういった環境にいる人の声も聞いてほしい。（こども家庭庁が出向いたりする）いけんひろばに来られる私たちの意見も大事だけど、それ以上にここに来られないこのことをよく考えてほしい。
- 今後出てくる施策の中で、特に支援の色が強いものについて、支援を受けることを当事者も周りの人も、「よりよくなるためのポジティブなこと」と捉えられるようにしていただきたい。「ある事柄について程度が周りより劣っているから支援を受けている可哀想な人」、のような考え方をしないようになってほしいです。
- Q1 で申し上げた通り、ファシリテーターの方の存在が私にとっては言い足りなかった存在です。その子の意見をわざわざまとめなくて良いと私は思いました。その方の話す時間が反対に勿体ないなと感じました。それにグループの中でもやはりエリートばかりで話が難しいと言うか、わざわざ難しい言葉を言われて理解するのに時間をかけるような感じでした。いじめや自殺、不登校にあっている子たちは生活の一部で苦労があると思います。私もその 1 人です。昔から友達とどこかに遊びに行けなかったし、家の手伝い(五右衛門風呂の薪を間伐する、草を刈る、夏になったら田植え）などする事が当たり前です。怒られる事も日常茶飯事でした。親が学校に怒って学校に行かせて貰えないという事もありました。なのでエリート達から出る言葉は全て他人行儀の言葉にしか聞こえなかったです。悪い言葉で言うとこういう人たちからの意見しか聞かないから今現在でも自殺しようと考えている子が増えていく一方です。そういう子供を救ってくれる機関(こども家庭庁)があるのに直接そこに SOS を出せないのは何故なのか不思議です。チャイルドラインをした身ですが、あれは全部聞き流しです。聞くだけで終わりなんです。聞いて貰えるだけで心が落ち着く人がいますが、そうじゃない子もいます。なので、その子の話を聞いて、これからどうしていこうとかその子にとって辛い日常から解決出来る策を実行して欲しいです、どうかお願いします。私は死ぬのが怖くて自殺までは出来ませんでした。でもそこまで追い込まれてなかったから死ねなかっただけです。でもそこまで追い込まれている子が私より年下ばかりと考えるだけで胸が痛いし涙が出ます。どうかこども家庭庁がその子たちにとって天使のような存在になって頂きたいです。まずはそんな苦しい日々を受けなくていい子供たちが苦しい日々を送っているこの世の中が逸早く無くなることを願っています。

◆「こども大綱」をもとに、どんな社会（世の中）になったらいいと思うか

- 若者支援をより具体的かつ現実的なものに変えられたらよい。
- もっと子供が守られて将来大人になったときに生きやすい世界になればいいなと思います。
- 子どもが主体性を持って、自由にのびのびとしたいことに取り組める社会。

- 子どもの事をよく理解してより良い世の中になればいいなと思いました。意見を言っていく中で、子どもからすると大人はこどもについてよく理解できていなくて、子どもは案外大人についてよく理解しているのではないかと思いました。「子どもにはまだ早いから。といって、自分たちの才能に気づいてもらえなかったり、全て大人が物事を進めてしまったり」と、不満な事がありました。大人もかつては子どもだったはずなので、もっと子どもの事をよく理解して大人も子どもも等しく扱っていける世の中になってほしいです。
- こども大綱が大切にすることを、全ての個々が同様に大切にしたら本当に素晴らしいと思います。実際には、そうではないと思いますが、せめてこども・若者に直接関わる方については、同じビジョンを持っていてほしいと思います。
- 一番弱い立場のこどもが中心となるこども家庭庁さんが掲げている「こどもまんなか」になって、社会が動いていく世の中になればいいなと心から願います。
- 制度などで権利を保障しつつも、もっと自由に。
- 大人の理不尽のせいで子どもの選択肢が制限されない社会。
- 大人も子供も苦しまない世の中になってほしい。
- 全ての子どもたちが幸せな社会。
- 自分たち（子どもたち）が話しあった意見が反映されて少しでも社会がよくなるといいなあと思いました。
- 子供１人１人の意見が取りおかれずに子供の意見が反映されてほしいです。
- 年齢に関係なく誰もが伝えられる社会。
- 子どもが取り残されない社会。
- 子ども・若者に関する社会問題の解決を一番望む。
- 今日話し合った内容が実現されればいいなと思う。
- 子どもが自身の権利を理解し主張できる社会。

以上

2023/10/21 開催　いけんひろば
～「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう～
オンライン開催回　いけんのまとめ

１班（小中学生５名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇質問１：こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。

- 自分の中で大きなイメージはないが、ものごとを実施するときに、こどものことを優先する感じかなと思う。
- 意見とかを大事にしてくれて、大人の思いだけに振り回されないようになるといい。大人が自分のエゴでこどもに何かをさせるのではなく、こどもの主体性を大切にして行動させてくれると「こどもを優先している」と感じられる。
- 自分が「大人のエゴだな」と感じるのは、例えば習い事とかで「お父さん・お母さんにやれと言われたからやっている」とやる気のない感じでやっている子がいるのを見たとき。習い事は、自分の意思でやりたいと思ってやっている子もいる中、親のエゴでやると熱中できないと思う。やりたいと思ってやっている人からすると、言い方が悪いけど、邪魔になる。無理に習い事をしなければ、やる気がなくて叱られることにこどもが時間をとられなくてすむようになると思う。
- 自分の学校に、自習室を作ってほしいなと思ったことがある。そのとき、先生に検討をお願いしたが、その意見が尊重されなかった。検討もなしに「無理かな」と返されてしまい、大人の都合なのかなと思った。
- こどもの意見を大事にして、こどもに寄り添っている社会だと思う。
- 例えば家に対していやだなと思うことがあったとき、自分で解決できないことについて家族ではなくて周りの人がこどもに寄り添って助けてくれると嬉しい。家族じゃない人も、その子のことを大事にしてくれるような。
- こどもを真ん中にした社会にしようという考え自体がすごく素敵で、その気持ちが嬉しいと思った。
- こどもだけではなく、大人も生きやすくなると思う。でも、学校の先生とか、企業で働く人が不足していると言われているので、こどもを取り巻く人たちが大変なのだろうなと思う。
- こども時代を幸せな環境で育てば、大人になったときも幸せでいられると思う。
- 今までになかった新しい考えで良いなと思った。

○質問２：どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。

- こどもまんなか社会の考え自体が嬉しいが、こどもをまんなかにすると、その後大人になったときにギャップが発生するような気もした。社会に出たときに「自分の意見が通らないな」という思いになってしまうのではないかと感じる。
- 今の時代に合った社会ができると思う。まだ、お年寄りとかの問題があるので、新しい時代にどう適応していくかが大切だと思う。
- 今の社会に不満や生きづらさを抱えているこどもたちが、自分の意見を尊重してもらえたらもっと生きやすくなると思う。こどもまんなか社会では、こどもの意見の尊重が実現・達成できそうだと思う。
- こどもが自由に生きていけそう。ただ、資料に書いてある言葉を見たら、曖昧な印象を受けた。今後何がどうなるかが分からなかった。
- 自分の中の意見として、こどもの意見や考えを尊重してほしいというのはある。ただ、尊重しようとすると、例えば学校の先生などの大人は、周りにこどもが沢山いるので意見を聴くのにも沢山の時間がかかる。他にもまる付けや授業の準備などをしなきゃいけないので、手一杯になって、先生の人間関係にひずみが起きるかもしれないと思う。良いこともあるけど、こどもの意見を聞くのが上手な人を置くなどの工夫が必要だと思う。
- 若者について「お金の心配がない」という言葉があることに疑問を感じた。お金の心配がなくなるというのは、例えば補助金が給付されるということなのか、あるいは社会全体の幸福度が上がるということなのか。貧しくても幸せな家庭、裕福でも幸せでない家庭もあるので、お金の心配がないというのはどういうことか気になった。
- 「自分らしくいられる」とあるが、「自分らしく」を大人から押し付けられそうな気がした。押し付けられないのであれば、自分らしくいるというのは良いことだと思う。
- 「心や体を傷つけられたり、差別されたりしない」という言葉について。いわゆるいじめをなくすことにあたると思うが、いじめを根絶するのは難しい。そのため、いじめられた時の逃げ場を作ってあげる必要があるのでは。一度不登校になっても、また学校に行ってみたいと思ったら戻ることができることができ、就職もできるようなシステムをつくっていけると安心感が得られると思う。いじめを根絶するわけではなく、逃げ場をつくり、元いた場所にも戻っていけるようにするのが大事だと思う。
- 「心や体を傷つけられたり、差別されたりしない」について、親から虐待を受けていた人もいるので、虐待をなくすことも含まれると思った。親がこどもに対して虐待をしない環境をつくることはとても良いこと。親が虐待をしてしまうことがないように、金銭面で困っていても、こどもについイライラして手を出すなどが起きないよう、社会的に親とこどもを守る仕組みが必要だと思う。
- 「おとなになるのが楽しみ」とあるが、自分の身の周りにもまだ将来の夢がない子もいる。将来こんな職業につきたいな、と思えるようなものを増やせば大人になるのが楽しみになるのではと思った。

〇質問３：ほかにどのようなことがあったらいいと思いますか。

- こどもと関わる仕事に就く人の数をもう少し多くしたらいいと思う。こどもと関わる人が増えたら、こどもの意見も取り入れられるし、多い方がいいと思う。保育士さんはお給料が低いと聞いたことがある。保育士はこどもと関わる大事な大人であり、こどもの大事な時期を担ってくれている。給料が少ないと保育士さんは減るので、お給料をもっと上げることでこどもまんなか社会に繋がると思う。「こどもまんなか社会」ってどんなところ？の吹き出しに書いてあった「お金の心配がない」ということとも関連する。
- こどもと接する職業についている人の数を増やしてほしい。学校でも、こどものことを沢山見てあげたいのに教師の数が少なくて充実した授業ができないという想いを抱えている先生はいると思う。意見を聴くためのカウンセラーさんはいるけど、日常的にはこどもと接していないから、いざ意見を聴いてもらおうとなったときに話しづらい。担任の先生とか身近な人だと話しやすい。
- こどもと関わる仕事につく人を増やすというのはすごくいいと思う。
- こども食堂という場所があり、そこにサポートしてくれる人がいるとニュースで見た。こども食堂では、こどもたちがごはんを食べたり、一緒に遊んだりできるとのことだった。こども食堂をつくるためにはお金もいるので、こども食堂のような場所を支える制度をつくるのも良いのではないかと思う。
- あくまで理想だが、だれでも平等に学問を学べるようにしたい。大学の学費の無償化は難しいが、関連するようなことを実現させてほしい。図書館は無料で学習ができる場だが、気が向いてから行くと席がけっこう埋まっているので、学校に、塾に行ってない子でも使える学習室を設けてほしいと思った。
- こどもに関する制度をもっと簡単にして、時間をかけずに使えるようにしたらいいと思う。特別に申請しなければいけない制度は、今の仕組みだと、親が学校や市役所に行って、申請結果が返ってくるまでにとても時間がかかる。
- 学校の過ごし方は、だいたい学習がメインで、遊びの時間やリフレッシュの時間が入っていない。リフレッシュの時間も入れた予定表をつくってほしい。
- シングルマザー、シングルファザーなど、ひとりでこどもを育てている人も一定数いると思う。一人で子育てをする人たちは、仕事も子育てもしなければならず、色々大変だと思うので、サポートするための制度をつくってほしい。
- ひとり親のさらに親（こどもにとっては祖父母）に助けてもらうこともできるが、関係が悪くて助けてもらえない人もいると思う。夜遅くまでこどもを預かってもらえるサービスなどがあると、夜遅くまで親が働いている家庭にとって助けになるかもしれない。金銭面的にも厳しい家庭もあると思うから、お金などの面でもサポートできるものがあったらいいなと思う。
- やる気をもって仕事をし、誠意をもった対応ができる人が増えてほしいと思う。誠意をもった対応をできる人が増えると、成果が上がり、こどもたちに関わることだけではなく日本全体が豊かになる。そうす

ると「こういう大人になりたいな」という選択肢の幅も広がる。例えば身近な例だと、自分の家に近いから、先生になるための大学に通ったという人がいたが、誠意がなく、一部のこどもたちに反発されていた。

- 生徒ごとに態度を変える先生がいる。生徒に対して平等に話すべきだと思う。こどもと関わる仕事なら、こどものお手本となるような先生がいいと思う。
- 給食の時間が短いと感じる。授業が終わってから給食を運ぶ時間を差し引くとあまり時間がないので、早食いになったり、残してしまったりする。
- こどもたちが心を休めることのできる場所を増やしてほしい。自分たちの世代が大人になる頃にはいい社会になっているかもしれないが、そのぶん今は一生懸命で手一杯で、色んなことで頭がいっぱいになっていると思う。大人もこどもも休めるような場所が必要。例えば学校だったら、教師は仕事をする必要があるから休めないというのも分かるけれど、ずっと張りつめているのではなく、心安らげるような場所をつくってほしい。
- 私の住んでいるところでは、心を休めることができる場所がけっこうたくさんあり、心を休ませるために必要な取組をしている先生も沢山いる。ただ、場所自体があまり知られていなかったり、わざわざ行くのが面倒くさいという子がいたりする。もっと休める場所を宣伝して、気楽に使えるようにしていけるといいと思う。
- 実際に就学支援を受けている人から話を聞いたほうが良いと思う。
- 小学校では、特別支援学級の子も学校にいると思う。特別支援学級の子たちなどに対しても、もっとサポートできる先生を増やしてほしい。また、こどもにも「みんなで支え合っていこう」という教育ができるといいなと思う。

２班（小中学生５名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇質問１：〔学童期・思春期（６～18 才くらい）のこどものための取組〕についてどのように思いますか。

- 「学校を、もっと安心してすごす・学ぶことができる場所にする。」など全体を通じて具体的な内容が書かれている。なので、書かれている取組が実現したらいいと思う。

〇質問２：どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。

【「学校に行けなくなっても、学校の勉強をつづけられるようにする」について】

- 自分も学校に行きたくないと感じるときがあるので、実現してほしい。
- 「学校に行かないと勉強できないから、無理して学校に行かなくてはならない」という状況がなくなったらいいと思う。

【「学校を、もっと安心してすごす・学ぶことができる場所にする」について】

- いじめがあると安心できないと思う。学校がいじめ対策をしたり、先生が生徒に優しく接してあまり怒らないようにしたりする等、具体的に行動してくれたらいいと思う。
- 学校が生徒全体の連帯責任を問うのをやめたらいいと思う。自分の学校では、いじめが起きた場合にクラス全体が処罰される。
- 自分の学校でも何か問題が起きると、問題が起きた学年全体で集まって話し合いをするので、家に帰るのが遅くなることがある。
- 先生が大変になるかもしれないが、問題が起きたら生徒の話をひとりずつ聞いてくれたらいいと思う。
- 教師や児童に問題を押し付けるのではなく、学校や自治体で問題を解決してくれたら生徒も安心できると思う。いろんな組織や関係者が、良いかたちで「連帯責任」「連携」をとってくれたらいいなと思う。
- 不安な時にすぐに相談できる人がいたらいいと思う。学校の先生は優しいけれど異性なので話しづらい。
- 自分の学校では、月に何回かカウンセリングの教室で、教頭先生かスクールカウンセリングの人どちら

かと相談できる日がある。

- 自分の学校にはスクールカウンセラーがいて、ポストに話したいことを入れると相談できる日が週に１回ある。
- 自分の学校では、毎日昼休みに予約制で相談できる制度がある。
- 自分の学校にもスクールカウンセリングはあるが、行くと周りの人に「何かあったのかな」と思われるので、他にもっと気軽に話せる人が欲しい。
- スクールカウンセリングは行くと目立ってしまうので気軽に行けない。また、スクールカウンセリングは放課後に行われていたと思う。なので、昼休みなどに身近な教室の先生に相談し、相談した内容を先生からカウンセリングを専門とする人に伝えて解決方法を教えてもらえるといいと思う。
- 学校で配られたタブレットの端末にある、チャット形式で相談できるアプリが良かった。市の相談員の人に自分の顔を見せずにやり取りできるので気軽に使えた。ただ、夏休みの間だけ使えるようになっていた。
- 自分の学校では、相談したりすると他の生徒に分かってしまうので、タブレットで好きな時間に文字でやり取りできるのがいいと思う。自分の住んでいる地域では、電話で家から相談できるようになっているが、電話だと話しづらいと感じる。
- 自分の住んでいる地域は規模が小さいので、チャットのやりとりを対応できる大人が少ないかもしれない。
- 自治体が対応できない場合は、国が対応するのもありかもしれない。また、自分の端末から気軽に連絡できるといいと思う。
- ひとり親家庭への配慮が足りていないと感じている。例えば、何かを話したりするときに保護者のことを「お父さん・お母さん」と言ったり、家庭のことをよく聞いたりする。里親の人などいろんな人がいるので配慮できたらいいと思う。
- ひとり親家庭の人は育児と仕事のバランスを取るのが大変だと思うので、国や自治体が仕事と育児を両立できるよう支援したらいいと思う。
- 政府はよく給付を行っていると思うが、減税など根本的な対策が必要だと思う。貧困に苦しんでいる人は税金を払うのが大変だと思う。
- 年収に応じて税金を高くしたり安くしたりすれば、貧富の差がだんだんなくなり、生活に苦しむ人がいなくなっていくと思う。
- 自分の学校には、不登校の人がいる。意見を否定したり嫌なことを言わないようにしたりして、お互いを尊重していけるような環境にしていけたらと思う。
- 学校の先生は、授業や部活、出張の準備で忙しく、今の人数で不登校の人の対応も十分にするには先生の負担が大きすぎると思う。もっと先生の数を増やして、持っている授業の数を減らせたらい

いと思う。

【「18歳で成人する前に、社会で生きていくために必要な事を学べるようにする」について】

- 大人になるうえで大切な選挙や法律や税金のことを、もっとくわしく学校で教えることが大事だと思う。例えば、選挙なら具体的な選挙のやり方などを教えたらいいと思う。
- 若者の投票率が下がっているので、選挙についてもっと取り組んだ方がいいと思う。
- 選挙に参加できる年齢を高校１年生くらいからにしたらいいと思う。また、選挙のことを色々な場所で PR して、若者が選挙に行くように促したらいいと思う。
- 選挙の対象年齢を下げて、もっと早い小学校くらいの段階から「選挙は、自分と同じ考えを持つ人に投票するんだよ」というように簡単に選挙のことを学べたら、大人になった時に投票するようになると思う。
- 学ぶ機会が１回きりだとすぐ忘れてしまうので、小学校や中学校、高校の各学校で学ぶ機会を作って継続的に学べたらいいと思う。
- 生徒会の選挙で投票する機会はあるが、みんな真面目に取り組んでいないので、生徒会の選挙のタイミングで選挙の大切さを学ぶ機会を盛りこんだらいいと思う。
- いつも自民党が選挙で勝つから投票率が低いのだと思う。政党の席数のバランスを調整したりしたらいいと思う。
- 自分の学校では、クラスによっては小学４年生から簡易的に学級代表を決めるための選挙がある。
- 学校でも実際の選挙と同じような形で、体育館で紙に書いて投票するようにすれば、手軽だし面白そうと思ってくれる人が増えて、投票率が上がっていくと思う。
- 自分の学校では選挙があるものの、最終的に先生の意見が優先される場合があるので、みんなの選挙への参加意欲が失われている。生徒と先生の意見を対等に扱ってもらえたらいいと思う。
- 自分が大人になった時にプレゼントを用意した方がいいのか事前に知りたいので、サンタさんは本当にいるのか教えてほしい。
- 教育の一環として子育てのアドバイスをしてほしい。

○質問３：ほかにどのようなことがあったらいいと思いますか。

- 国の財政状況がよくないので、変な給付金をやめて、浮いた分をこどもの給食費や減税にあてたり、国の借金を減らすのに使ったりしたらいいと思う。
- 政治家の給料が高すぎるので「政治家になりたい」という気持ちがなくならない程度に政治家の給料を安くして、安くした分を給食費や減税に当てたらいいと思う。

- 知事の給料が一番安いのは東京なので、他の自治体も東京都知事の給料に合わせたらいいと思う。
- 国債を使って次の世代に負担を押し付けるのではなく、他の税金でまかなったり歳出を抑えたりしてくれたりしたらいいと思う。
- 政治家が「検討おじさん」と呼ばれているように、政治家が「検討」「さまざまな」「遺憾です」などのあいまいな言葉を使うのをやめたらいいと思う。

３班（高校生世代４名）

【テーマ：「取り組むこと（重要事項）」について】

〇質問１：〔青年期（18 才くらいから）の若者のための取組〕についてどのように思いますか。

- プラスの印象を持った。
- プラスともマイナスともどちらとも言えない。

〇質問２：どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。

- 多様性が当たり前なので、結婚したい人が結婚できるようになってほしい。
- お金がなくて大学進学を迷う人が周りにいるので、そういう人が大学に行けるようになると良い。
- 「〔青年期（18 才くらいから）の若者のための取組〕」として書いてあるものでは、具体的なイメージを持てない。日頃のニュースや事前資料を読んでも、今までの踏襲に見える。大学進学を考える中でかかるお金が高く、住んでいる地域で選べる学部も違う。授業料だけがかかるお金ではない。公立でも授業料は高いので上手く分配をしてほしい。今の書きぶりだと分配という支援なのか、入学金に対する支援なのか、などどこまで支援されるのかが不明である。
- 今の書きぶりだと具体的な取り組みがわからない。もっと詳しいことが決まったら、いけんぷらすで話したい。お金がなくて大学を諦めるのも問題だが、お金があっても親がお金を出さない場合や、親と関係が悪くていけない場合もある。お金に関係なく、大学に行きたい人が行けるようにしてほしい。
- お金がなくて大学を諦めることへの解決策として奨学金があるが、奨学金がもらえるかは親の属性で決められると思う。所得制限の問題がある。私の家庭は所得制限にぎりぎり引っかかる。ある程度の所得を超えたら、支援を 0 にするのではなく、給付額にもっとグラデーションを付けて、児童手当や奨学金の付与をやっていけばいい。
- 親の経済状況が良くても、親が一人暮らしの負担をしてくれない場合には自分で稼がないといけない。バイトによる収入が 103 万円を超えると税金を払わないといけないが、そうなると家賃が払えなくなる。収入が 103 万円を超えない範囲で稼ぐようにする苦学生がいるイメージなので、それに対応できる施策が出来てほしい。
- 国公立大学の学費が低くなれば良いなと思う。親の所得に関係なく学費を低くする方が、親の所得によっては奨学金を受けとれることより、早く恩恵を受けられそう。
- 取組の中の「自分に合う仕事を見つけて経験を積んでいけるように」について、一人暮らしをするとなると、自分のやりたいことでなくても、稼ぐために仕事をすることになってしまう。全体的な時給がアップしたけれどまだ足りていないので、もっと時給を上げた方が良い。
- やりたい仕事に就くことについて、やむを得ず夜職に就いている人がいると聞き、お金を稼ぐために危険な仕事を選ぶのは良くないと思った。やむを得ず夜職に就く人が減らないのは、国がお金を出してくれないからである。憶測にはなるが、国の偉い人は夜職がなくなると困るので、わざと支援していない

のではないか。精神を病んでやりたいことを出来ない人もいるので、いち早く支援をしてほしい。

- 経済的に困窮している人は仕事の選択肢が少ない。テレビやネットに、大変な仕事をやればお金を稼げるという情報があり、元気で体を動かせる人は危険な仕事を選んでしまう。経済的に困窮している人の仕事について調べてみると、自治体が支援をしているがホームページなどが読みにくい。他に仕事を調べる方法として地域の社会福祉協議会を通じた職探しなどがあり、高齢の方や障がいのある方に対する支援は地域に点在している。しかし、経済的に困窮している人が支援について相談できる場所がないので、相談できる場所が近くにあれば好きな仕事に付けると思う。
- 誰しもつきたい仕事はあるが、東京・大阪などの大きい都市に仕事が集まっている。私は地方に住んでいるので、将来は仕事をみつけるために東京に出ていかないといけない。親の介護が必要となったときに介護と仕事をどう両立していくのか。大都市にしかない企業の拠点を地方に移せば活性化もできるのではないか。最近ある民間会社の子会社が地方に移ったと聞いたので、同じ動きがもっと広がれば良いなと思う。
- 自分に合う仕事の見つけやすさは人によって違う。例えば精神疾患や障がいがある人は、仕事を見つけることも難しい。精神疾患や障がいがある人たちが就職しやすいように企業側の配慮・理解も必要だと思う。
- 精神疾患や発達障がいのある人、こどもの頃に虐待を受けた人などは、働く際にも周囲からの理解や配慮が必要だが、企業や職場の中にはそうした人の特性や具体的にどうしたらいいのかがわからない人も多いと思う。国は精神疾患や発達障がいのある人、子どもの頃に虐待を受けた人などが必要な対応を受けられるよう、詳しい知識や情報を企業に周知すると良いと思う。
- ADHD（注意欠如・多動症）などの人がアルバイトを探すとき、レジの間違いや遅刻癖があるとバイトを見つけるのも大変だと思う。アルバイトのアプリなどに、ADHD の人などが働けるような場所のまとめがあると良い。
- 「経験を積んでいく」という点において、最近調べたことによると長期インターンが普及しているようだった。例えば記事を書く長期インターンをしてお金をもらうことで、就職活動や就職後にも役に立つという記事を見て、長期インターンが広がれば仕事を選ぶ時にも良いと思った。
- やりたい仕事はすぐには見つからない。やりたい仕事から大学を選ぶ人も少なそう。インターンをやってみて自分のスキルを付けられるのは良い。インターンで誰もが経験できるのは良い。
- 地方に住んでいると、大都市への一極集中を感じる。新型コロナウイルスの流行を経た今、デジタル活用によって選択肢が広がり、リモートで仕事ができるようになると良いと思う。いろんな人がいろんな場所で仕事を選べるようになれば良いと思う。
- 「結婚したい人が結婚できるように」について、結婚した方が税金の関係上得になることがあると聞いた。働くときに困るから入籍をせず夫婦別姓のままとしている人や同性のパートナーだから結婚をしていないという人と、結婚をしている人との間に経済的格差が出来ると良くないと思う、
- 結婚の手続きが多いと聞いた。デジタル化が進んでいると言われているが、銀行口座や健康保険証の手続きが面倒くさい。マイナンバーの発行にも時間がかかる。安全性の問題もあるが、デジタル化というならば申請をしたらすぐに自治体に情報が伝わるようにできると良い。

- 手続きについて、ツイートで発達障害があると手続きが大変だと見た。手続き自体が大変なので、恩恵が受けられるよう手続きを改善した方が良い。
- 手続きが大変だと、時間に余裕がある人しか手続きにいけない。医療費の領収書を取っておくとお金が返ってくると聞いたが、そのような申請をできる時間がある人が恩恵を受けられる。働いていて時間がない人は恩恵が受けられず、格差がある。
- いけんぷらすで意見を言える人は、時間が取れたりオンライン参加できたりする人になる。一番困っている人は時間もなくオンライン参加が難しいため、意見が届かないのではないか。一番困っている人の意見を聞くために、例えばケースワーカーなどを通して意見を聞いたり、意見を言う時間やお金を確保する支援をしたりするなど、困っている人の声を聞くための工夫が必要ではないか。
- 事前説明会の資料に、結婚の希望がかなえられない理由として「適当な相手に巡り合わないから」とあった。対策として自治体が婚活支援を進めるとあったが、時間がある人しか参加できない。結婚願望があってもそこまで時間を使いたくないと思う人もいる。結婚したときの経済的援助や免税措置など、制度的なメリットがある方が良い。
- 結婚にも色々な種類があって良い。今はこどもを育てるための資産が平等になるような取り組みが推進されているが、支援を受けられない人もいる。例えばこどもが欲しい方の結婚、こどもを持たない方の結婚、同性での結婚など、結婚の種類を A・B・C などでわけて、結婚の種類による支援の違いを周知できると良い。こどもがいらない人もいるので、税制の優遇の有無などそれぞれのタイプによる支援がわかると良い。新たに同性婚の制度を作るだけではなく、色々な結婚の形を認められると良いと思う。
- こどもを持ちたくない人や、同性と結婚したい人など、結婚にもいろんな種類がある。最初はこどもを持ちたくなくても、後からこどもが欲しくなる場合もあるので、結婚を分類することは難しい。結婚の支援の種類が広げられると良いと思う。

〇質問３：ほかにどんなことに取り組んだらいいと思いますか。

- 経済的な話について、第 3 号被保険者（専業主婦などが該当）であることが前提となっているなど、時代に合わない制度がある。共働きが増えているので、制度を変えていけば良いと思う。ニュースでは給料が上がれば専業主婦になってこどもの世話をしたいという意見も聞いた。今の制度を維持するのか、共働きを主流とするのか。社会全体で共働きと専業主婦のどちらを希望する人が多いのかよくわかっていない。
- 年金や社会保障の話が今の時代にあっていない。就職したら給与から年金が引かれるが、結構な額が引かれると周りから聞く。今は親世代が払っていて年金制度が成り立っているが、自分の世代も同じように年金を貰えるのかが不安。今の給付制度は将来成り立たないと思う。給与から年金が引かれすぎて、現役世代が生きていけないこともあるかと思う。いずれにせよ、制度は崩壊すると思うので年金制度や社会保障について見直す方が良い。
- 他に必要だと思うのは、リストカットなどの自傷行為について正しい知識を周知することである。友達に自傷行為について相談された時に、やめなよと言ったが、新聞には頭ごなしに否定することは問題

の悪化やプレッシャーになると書いてあった。否定しないで話を聞くなど、対応方法を知っていればもっと良い対応が出来た。自傷行為は多くの場合ストレスへの対処として行われるのに、周囲の気を引くためなどと誤解されることがある。伝え方に配慮をして自傷行為に関する情報発信をしてほしい。

- 無知が一番の罪だと思う。自傷行為や同性愛なども今の社会では理解がされているが、情報発信をすることが大事だなと思った。
- トー横界隈などで中高生などが一斉補導をされて問題になっているが、トー横に居る人は居場所がなく、学校に行きたくない人だと思う。オーバードーズの問題もあるので、安全な場所を国が確保してほしい。
- 学校や家庭が居場所になっていない若い人への支援が足りていないと思う。学校に若い人が集まるサークルやいろんな人と集まって話せる支援機関が安全な場所として広まれば良い。
- トー横などでは、未成年非行が横行している。警察が一斉検挙をするよりは、児童相談所などが対策をすることが有効だと思っている。
- 児童相談所は、暴力が発生しないと動いてくれないと聞いたことがある。暴力が発生していなくても、児童相談所に訴えている時点で家の中では精神的圧力がかかっているので、すぐに動けるような体制を整えてほしい。
- 児童相談所には親の悩みを打ち明ける場所という役割もあるため、相談所のキャパがオーバーしていると聞いた。虐待の対応を担当する職員とそれ以外の職員とで役割を分けることなどによって対応してほしい。

４班（大学生～社会人４名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇質問１：こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。
質問２：どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。

※文章中の①～⑥は、「こどもにかかわる取組を進めていくときに大切にする６つのこと」を示しています。
⑦　こども・若者は、ひとりの人間であり、生まれたときから権利を持っています。ひとりひとりのちがいを大切にされ、その権利を守られます。こどもの権利をしながら、こども・若者の今とこれからにとって、もっともよいことを一緒に考えます。
⑧　こども・若者、子育てをしている人がどのような状況にあり、どのように考えているかを大切にします。また、その意見をきき、話し合いながら、一緒に考えていきます。
⑨　こども・若者の成長に合わせて、おとなになるまでずっと支えます。
⑩　こども・若者がよりよい環境で、自分は大切な存在であると感じながら成長できるようにします。また、こまっている人にはその人に合ったサポートをします。
⑪　若者がお金にこまらずに生活でき、結婚や子育てをしたい人はすることができるよう社会全体で支えます。
⑫　国や地方自治体、地域でこども・若者にかかわる人たちがみんなで協力します。

- ①「こども・若者は、ひとりの人間であり、生まれたときから権利を持っています。」について、「生まれたときから権利をもっています」という子どもの権利の意識が入ったことは、とてもうれしい。一方で、元々こどもで今は大人の人たちは、その辺りの理解が十分進んでいないように思う。こどもに関わる取組を進めていく中で、政府・自治体、こども・若者だけでなく、その中にどうやって大人も入れていくのかということがとても重要になると思う。
- ③「こども・若者の成長に合わせて、おとなになるまでずっと支えます。」と切れ目ない支援についての記載がある。こどもと若者で困りごとが変わっていくからこそ、ずっとサポートされるということは安心だと思った。⑥「国や地方自治体、地域でこども・若者にかかわる人たちがみんなで協力します。」と記載されているが、こども・若者に関わる人たちがどうやって育成されていくか、いろんな事件も起きているので心配だと感じた。こども・若者に関わる事件も起きているので、関わるおとなの育成もしっかりしてもらえるとよりいいと思う。
- こども・若者をサポートするのに、人が必要ということは共感する。それに加えて個人的には、大学の費用面で、もう少し安くしたり、国からの支援があったりすると助かると思う。
- ⑤「若者がお金にこまらずに生活でき、結婚や子育てをしたい人はすることができるよう社会全体で支えます。」について、現状まだ出来ているとは思えないので、大切だと思う。
- ⑥「国や地方自治体、地域でこども・若者にかかわる人たちがみんなで協力します。」の記載につい

て、自分もこどもの時は分かっていなかったが、おとなになって色々な機関と話すと、同じこどもを見る機関なのに機関同士で仲が悪かったりすることが垣間見えた。その不和をどう調和していくかが気になった。②「こども・若者、子育てをしている人がどのような状況にあり、どのように考えているかを大切にします。また、その意見をきき、話し合いながら、一緒に考えていきます。」について、「いけんぷらす」のように意見を聞く方法もあるが、それだけだと意見に偏りがある。意見を表明する子だけを支援するのではなく、意見を表明する過程まで目を向けて、意見を吸い上げてほしい。

- ⑥にある「こども・若者にかかわる人たち」について、全員がかかわるとなると誰が主体でやっていくのか、オーナーシップは誰が握るのかとうやむやになってしまいそう。誰が中心になって巻き込んでいくかが記載されているといいと思う。
- 「子どもの権利条約」を知ったのは、中学生の頃だったと思う。その際は、私たちに関係ないものだと思っていた。大学に入って、「子どもの権利条約って私たちにも適用されるんだ」と知り、とても悔しい思いをした。①「生まれたときから権利をもっています。ひとりひとりのちがいを大切にされ、その権利を守られます。こどもの権利を大切にしながら、こども・若者の今とこれからにとって、もっともよいことを一緒に考えます。」と記載されているが、権利を守っていくのは誰が中心なのかを考えると、恐らく自治体・国だと思う。権利主体の考え方を各個人が持っているようにしないといけないと思う。誰が権利を守ってくれるかではなく、自分自身でまず認識する段階ということにもう少し視点を向けて書いてほしいと思う。国や自治体がこども・若者が生まれながらにもっている権利を守るというのを宣言するのも重要だが、こども・若者が権利を守られるということを自分たちが知って自覚するということもあわせて大事だと思う。
- 幸福追求権の観点から⑤をみると、今の方針では、幸せを求めるためにはお金が重要と考えているのかなと思った。例えば児童手当などお金だけをもらっても直接的にこどもに流れない場合もあるので、お金以外にも物資など色んな支援を含めた記載がされるといいと思う。
- ⑤の捉え方として、幸福追求というイメージではなく、最低限の生活を保障するというイメージだった。社会としてこどもがいないと将来困ってしまうので、結婚や子育ての最低限のサポートをし、安心して生活できるようにするという点では納得したが、幸福追求の点だと足りないと思う。捉え方によって変わってくると思う。
- 二次的欲求は面白い視点だと思う。人間には二次的欲求があると思うが、あまり盛り込まれていない。こども・若者がそのような二次的欲求をどこに向けているのかというと、恐らく SNS だと思う。SNS には良い面と悪い面があるが、国の方針・取組に入れていくのは良いと思った。
- ⑤が④につながってくると思う。④「大切な存在であると感じながら成長できる」というところにも、承認欲求などがつながってくると思う。
- ⑤について、社会に何かしらの形で関わっていかないと、人は生きていけない。「お金にこまらずに生活でき、結婚や子育てをしたい人はすることができる」以外にも、「若者が社会に関わっていけるように、社会全体で支えます」のような記載があると良いと思った。YouTuber や Tik Toker であっても社会とつながっているし、社会とつながらないと生きていけないので、社会が支えるという姿勢があればいいと思った。

- 例えば大学を選ぶ際、学費が一定額以下のところに通わなければならない、このエリアの学校を選びなさい等の制約があると思う。自治体の施策で、ある自治体の住民は指定の大学の学費は無料にしたり、安くしたりするというニュースを観た。自治体によって教育に対する対応が違う例が最近見られるようになり、嫌だなと思う。さらに、ある県に住んでいる人は大学に通えるがその県に住んでいない人はお金がないから大学に通えないといった、教育格差・学歴格差を国で何とかしてほしいと思う。
- 自己実現の文脈はとてもいいと思うが、やりたいことが見つからないという子も多いと思うので、そういうサポートもできたらいいと思う。地域格差について、都会の方が触れるものが多いので見つかりやすいし、体験の格差もある。「応援します」だけでなく、「見つけるところからサポートします」の方がみんな幸せになれると思う。力がある人だけが応援されて、力がない人が応援されずに取り残されてしまうのはよくないので、そのようなサポートがあるといいと思う。例えば、不登校の子は学校に通っていないので職業体験ができない。そういった不登校の子が見つけるのはとても難しく、どんどん取り残されてしまうので、そのようなサポートがあると良いと思った。
- ①について、こどもの権利が守られる間の時期だと感じている。理解がある人とあまりこれまで説明を受けてこなかった理解がない人の間で揺れるこどもが存在すると思う。自分はこういう権利があると主張しても「ない」と返されてしまったりする。その間にも目を向けてほしい。
- 文部科学省は「こども」のことを漢字で書いているが、こども家庭庁はひらがなとしていて、こどもの標記がバラバラなのをどうにかしてほしい。
- 意見をどう抽出するかという話が今日あったが、意見を聞いてほしくない子も存在する。聞かれたくないのか、見えないだけで本当は聞いてほしいのか、この境目がとても難しい。子どもの権利条約ってわがままだなと思っている人いませんか？自分は思っていないが、結構そういう意見を聞く。遊ぶ権利、休む権利など色々保障されているが、「これはわがままの助長だ」、「こどもはいいかもしれないが、将来のこどものことを考えるとむしろ虐待だ」など色々な意見を聞く。
- 権利を主張するという部分では大切だと思う。教育的観点、個人は個人で大切で集団は集団で大切だという観点からすると、例えば極端なことをいうと友達に嫌なことを言われて殴りたいから殴るということは絶対に許されないように、そこまでいってしまうとさすがに教育的には止めないといけない。やってはいけないことはあると思うので、難しいと思う。思う分には完全に自由だが、言ってはいけない、やってはいけないことというのは権利で守られているとはいえどもあるのかなと思う。

５班（社会人３名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

○質問１：こども大綱のどんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。

- こどもを色々な形で支援すると書いてあるが、今は「無縁社会」と言われているように、地域のつながりや親・親族とのつながりが少なくなってきている。そういうつながりを復活させないといけない。他の人にちょっかいを出されたくない、干渉されたくないという社会の雰囲気が良くない。ちゃんと周りと助け合うという空気感を作っていくのが大事ではないか。以前はこどもの面倒を見てもらったり、相談したりができ、悩みも打ち明けやすい環境があったと思う。今はそうしたつながりがないので、お金をかけて保育園に通わせたり、一人で悩みを抱え込んだりしている。干渉をされたくないという雰囲気は、こどもを育てやすくすることと相性が悪いので、環境からして変えていく必要があると感じている。
- 役場や駅など、誰にもわかりやすい場所にこどもも親も集まれる場所をつくって、いつでも集まれるようにするのが良いと思う。こども向けだけでなく、親向けの支援も必要である。こどもの貧困や虐待をなくすには親のサポートも必要だと思う。
- 一通り考えたけれど、こども大綱は作らないよりは作った方がいい。今までだと「女性の活躍」や「障害者の活躍」など属性を決め打ちして支援していた。「この属性のための支援制度」といったように制度を作った結果、SNS でその属性の人とそうでない人が対立する構造が見られた。こども大綱では、「こども若者」という属性に留めているので、こども若者を全員サポートできるのがいいと思う。こども大綱で良くしてほしいと思うところは、今は働く人が少なくて大変なので、人を確保することと、大都市と地方とで支援に差が出ないようにしてほしいことである。
- 自分は指定難病にかかっていて、自治体から助成してもらって通院している。地方だと助成金の学が低かったり、助成金の運用ができなくなってしまったりすることがあると聞いていて、心苦しい。そういう地域の差がないといいなと思う。
- こども大綱のこども向け資料を読んで最初に思ったのは、こども家庭庁がこども大綱の内容をきちんととらえて、こどもがわかりやすい文章・粒感にまとめているのがすごいということ。こども家庭庁にリスペクトの気持ちを持った。ぱっと見てこどもにもわかりやすいと思った。一方で、こども大綱の資料の中で箇条書きにされている２点が気になった。１つは「こども・若者が生まれたときから権利を持っていること」という点についてで、いけんぷらすに参加するような人はこどもの権利について見聞きしたことがあって、権利を持っていると言われてぴんと来ると思うが、世の中の大人やこども・若者から見ると「なんじゃそりゃ」みたいな感じを受けると思う。こども家庭庁の周りだけでなく、日本の中のみんなにこどもに権利があるということを普及していかないといけない。２つ目は「重い病気や障害を持つこども・若者を支援する」という点で、「重い」というキーワードをつけている部分で思うところがある。確かに重病・難病に関する制度があり、そういう制度は人が助かるためにあるので良いことだと思うが、軽い病気や軽い障害にくくられるこどもたちやこどもを取り巻くステークホルダーがその「重い」ということを見てどう思うだろ

うか。これから施策を考えるときに、「重い病気や障害」にどこまで取り入れられるのかが気になった。

- さっき別の参加者が「こどもも親も相談できる場所がもっとあるといい」と言っていた。私も必要だと思うし、その考えは素敵だと思うが、量より質が大事だと思っている。相談できる場所がたくさんあっても、その場所にいる相談員や、こどもをみてくれる人を確保するのが難しいし、人を確保したところで誤った知識や浅はかな知識で来る人から話を聞いてしまうと悩んでいるこども・若者が混乱してしまうと思う。いま世の中にたくさんあるオンラインサロンや、アプリで悩んでいる人がつながれる仕組みみたいなものがあれば、人もいらないし、気軽に相談できる場所が作れると考えた。
- こども大綱の成果物として易しいバージョンをつくるときに、図も使った方がいい。よくある表現だが、例えば、3 つの丸をつかって「こども大綱ではこの人たちもこの人たちもこの人たちも対象にします」といったことが図でわかりやすく示せると良い。まずはこども大綱を作るのが大事だと思っているが、まとめたあとにそういう図が入れられるといい。
- 仕事でもネットワーク越しではなかなか話しづらい人がいる。直接会ってみたり、話したりできる場所が増えるといいと思う。また、何かのアンケートをやっていても、SNS をやっていないとわからない。SNS をやっていないと病院でちらっとアンケートがあると知っても自分が答えていいのかわからないこともある。近いコンタクト方法と、離れてもコンタクトできる方法が両方ともあるとうれしい。

〇質問２：こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。

- こどもまんなか社会がどういうものかと言われると難しいが、大人や高齢者に比べてこどもが弱い立場に追いやられないようにすることだと思う。こどもの居場所がなくならないようにするのがこどもまんなか社会に一番大事。ある県では高齢者の苦情で公園の遊具がなくなるというニュースがあったが、大人や高齢者の都合でこどもが隅に追いやられたり、学習する場所がなくなったりしているようだと、「こどもまんなか」とは言えない。こどもの方が大人より立場が弱いという前提で、一方的に不利な扱いを受けないようにするということが大事だと思う。最近は公共の施設でも子連れが優先で利用できるスペースや優先レーンができている。このように、誰の目にも見える形で「こどもと子育てをしている人が一番大事」だと発信するのが良い。国全体でこどもと、こどもを育てている人を応援しますとわかりやすく見せることが大事。駅や会社でもこども専用のスペースをつくるとか、こどもの割引サービス、専用サービスをつくるとかが応援の方法で考えられる。語弊があるかもしれないが、子どもを育てている人が偉いと感じられるようにする方がいい。その方がこどもを育てることに前向きになれる。
- こどもと大人との間の不均衡をならしてこどもを優遇していくという考え方に大枠でいうと賛成。いけんひろばにはこどもも参加しているが、こどもたちの意見をもっと聞いてあげてねと思う。私たち社会人はこどもが実際に何を思っていることがわからないので。
- いけんひろばに参加できるのは、インターネット環境がある人だと思うので、ほかに学校でのアンケートを簡単に集計できるようにするのも意見を聞く方法だと思う。今は学校の先生を通じてアンケートを集めて、アンケートを文部科学省に送って、さらにこども家庭庁に送るような流れで集計していると思うので、Web アンケートや学校のアンケートが直接こども家庭庁に届くような仕組みがあるとちょっとだけ意見が届きやすくなると思う。

- SNS で、結婚や子育てに関するネガティブな騒動があるので、結婚や子育てについての重点的な対策をやった方がいいと思う。SNS の騒ぎを見ると結婚や子育てをしない方がいいんじゃないかという人も出てくると思う。深刻な問題として取り組んでいただけるとよい。極端な人が集まって騒ぎになっているということは伝えた方が良いと思う。

６班（大学生～社会人世代５名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

【ヒアリング内容③「取り組むこと（重要事項）」について】

〇質問１：〔青年期（18 才くらいから）の若者のための取組〕についてどのように思いますか。

- 働き方（就労支援、雇用の基盤）について、雇われる立場を主眼に置いている気がした。こどもたちが望む働き方を叶えるという観点では、フリーランスなどを含めた多様的な働き方の推進に向けた支援が必要だと感じた。
- 結婚を希望する方や新生活への支援について、「適当な人に巡り合わない」というのが課題として記載されている。既存の婚姻制度が男女の婚姻を前提としており、それを前提とした記載ぶりになっているのではないか。既存の婚姻制度の見直しから始めることや男女というペアだけでなく他のペアについても考える必要があるのではないか。
- 給与について記載されていたと考えられる。保育士などの処遇改善金の使い方を見直す必要があるのではないか。
- 高等教育の就学支援について、大学や専門学校に進学した後に病を患った場合、将来の不安や奨学金の返済に不安を感じると思われる。自殺対策だけでなく、そのような支援も国として行うべきではないか。
- 働きやすくなるようにすることと、給料を上げることは魅力的であるが、税金や年金の負担に不安を覚えている。税金や年金の負担軽減やワークライフバランスに対する支援も必要なのではないか。
- 経済対策や貧困対策も大事だが、それだけでは社会問題は減らないと思われる。経済対策や貧困対策とともに心のケアにも取り組むべきだと思う。ハーバード大学の論文によると、社会問題のボトルネックは虐待だと言われている。虐待を受けると、精神疾患に繋がりやすいことが明らかとなっている。心のケアやトラウマへのケアも重要なのではないか。それが自殺対策に繋がると思う。
- 大学での、パワハラ（パワーハラスメント）やアカハラ（アカデミックハラスメント）も増えていると聞いたことがある。パワハラやアカハラに対する対策も必要なのではないか。

〇質問２：どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。

【お金がなくて大学などへ進むことをあきらめることがないように】

- 私自身も奨学金をもらっていた時期があった。周囲の友人の中には金銭的な理由により、大学への進学をあきらめた人もいる。奨学金に対する取組は昔からあると思われるが、情報が周ってきておらず、そもそも大学に進学することが念頭にない人もいる。現在の記載ぶりでは、大学への進学を考えている人向けの支援ととれるが、大学進学を考えていない人にも、大学に行くという選択肢を考えられるようになる支援をすることが必要なのではないか。定時制の高校に通っていた時に、生活基盤が

整っていない家庭も多いと感じた。大学に行くという選択肢を考えられるようになるためには、生活基盤を整えることが必要なのではないか。また、若者世代はさとり世代とも言われており、自分にはできないと感じてしまう人もいる。そのような人の意識改革も重要ではないか。

- 多くの人はマーチ以上の大学に行くことを目指している。その背景としてネームバリューや企業の採用基準の 1 つとなっていることがあげられる。有名大学に行くためには学力が必要である。しかし行く高校によって大学のレベルが決まってしまっている 感じた。よって大学進学以前に高校進学が重要視されている。大学への支援だけでなく、高校への支援も必要なのではないか。高校時点で学力の差が 生まれてしまうと大学での奨学金申請等も難しい。
- 奨学金を借りて、将来返済することを考えると、就職先は安定した給料がもらえるところしか就職できない。返済のための進路選択となってしまい、結果的に、選択肢が狭まってしまう。選択肢が広がるような支援も必要であると考える。
- 社会問題は虐待の問題が絡んでいると感じている。貧困対策や経済対策だけでは、こども大綱に記載している取組は達成できないと思われる。虐待が一番多い層は、金銭的な余裕がある層と余裕がない層だと言われている。中流層は虐待が少ない。裕福家庭の虐待対策も必要である。社会全体としてトラウマのケアに向けたカウンセリング支援なども必要ではないか。大学生は立場も弱いため、大学の外部機関や相談窓口が学生の心のケアをすべきなのではないか。こども大綱は、物理的な支援が多い気がする。精神的な支援と物理的な支援の両輪で取り組むべき。
- 私も虐待を受けていた経験があり、一人暮らしをした 18 歳前後になってトラウマの症状が出てしまった。体調も悪くなってしまったが、なんとか大学を卒業できた。被虐待者へのカウンセリングは、虐待問題についての専門的知識・技術・経験を持ったカウンセラー・医師でなければ難しい面もある。本で外部の専門機関を探して通い始めたが、信頼できる所は 8,000 円程度が相場であり、学生という金銭面での自立が難しい状況で非 常に苦しいジレンマに陥った。虐待は加害者と距離を置いてからが大変。当事者が治療にアクセスできるような整備が重要だと思う。
- 青年期からの支援という趣旨から外れるが、虐待を感じる前の支援も必要だと思う。精神的に追い詰められる前に気づけることが重要である。本人が逃げられるような整備を整えてあげるべきではないか。
- 「自分の家庭がおかしい」と気づいた時点で、家族と離れて自分の人生を歩めるようになればもっと豊かな社会になるのではないか。血縁関係が特別視される傾向があるが、自立できるような支援も重要である。戸籍上の関係を分けたとしても、現在の法律上では、血縁関係を切ることが難しい。こども家庭庁ができるかわからないが、そのような支援もしていただきたい。

【自分にあう仕事を見つけて経験をつんでいけるように】

- 職業を選択する際に、大学卒業が必須条件となっていることが多い。大学に進学していなくても良いパフォーマンスを発揮できる人も多く、大学進学者より実務を長くした方が戦略になるのではとも思う。大学が必須条件という風習も改善すべきなのではないか。大卒が当たり前の風潮を変えて誰でもチャレンジするチャンスか必要だと思う。大卒と短大卒で待遇が異なることにも違和感を覚えている。

学歴でそこまで差がつく理由がわからない。学歴主義をなくすべきだと思う。

- 大卒必須の仕事に就いているが、大学４年間で学んだことと関係がない。高卒の人でも優秀な人が来てほしいと感じる。自分に合う仕事を見つけるハードルも高い。実際に働いてみなければわからないため、たくさんのインターンシップに参加しないといけないことも大変である。高校生から職場体験などを奨励して、企業には税制優遇などをすると自分に合う仕事を見つけられる人が増えるのではないか。
- 資格取得を目指す専門学校に通っており、卒業生の多くがその資格を活かした職業に就くことが多い。もし適性がなく、他の仕事に就くとなった場合、その時点から情報を探さないといけない。若い段階から色々な仕事を体験できるような環境づくりも需要なのではないか。
- 中学生から職場体験などがあると良いと感じる。現実と向き合うという点では、中学生が妥当なのではないか。
- 今後体調が改善したとしても、継続的な人間関係に伴う強い恐怖などの困難は自分の一部として生きていくしかないため、現在の日 本で主流とされている会社員のような働き方は難しい。フリーランスや個人事業主などの様々な働き方や、税金をはじめとした自立して生活していく上での知識などについて、もっと学校で学びたかったと思う。

【給料を上げるなど、はたらきやすくなるように】

- 処遇改善金の使途が曖昧であることが問題ではないか。法律上の制度として基本給を１円として、それに上乗せとして渡すことで最低賃金とすることが可能である。本来は適切な基本給を渡した上で、処遇改善金を更に給料に上乗せて支払うことが重要なのではないか。加算すべきなのに加算されていない現状がある。これではいくら処遇改善をしても良くならない。
- 私が取得する予定の資格の保有者は平均して 2～3 年で離職している。激務を理由に離職する方が多い。新卒としては他の業界と比較して多くの給料を貰えるが、20 代での転職が必要なことに不安を覚えている。転職に対する支援や激務などに対する職場環境に対する支援も必要だと感じる。
- 転職に対する不安は社会問題になっていると思われる。ホワイト企業に勤めているが、隣の部署の子からつらい、大変、辞めたいという声を聞いたことがある。個人的には、給料はある程度もらえれば良いと思われる。ワークライフバランスや職場環境改善に向けた支援が給料よりも重要ではないか。
- 現在スーパーフレックスで働いている。今、社会としてフレキシブルな働き方が求められているため、自由に働くことが可能な職種は積極的にフレキシブルな働き方を推進していくことが重要ではないか。

【結婚したい人が結婚できるように】

- 「結婚」という考えが変わっていってほしい。家族のあり方を狭められていることが虐待にも繋がっている実感がある。子を育てることについても、産むことや血の繋がりにこだわるのではなく、養子縁組や里親制度などを通して、様々な状況にあるこどもたちが一緒に生きていく家族に出会う機会が社会

の中でもっと当たり前なものになるべきだと思う。もちろんそうした場合に限らず、施設の職員さんや友人との深い繋がりにより愛着を育んで大人になるこどももいる。色々な"家族"が当たり前に存在できる社会が、全ての人が自分の人生を愛し、新しい命が生まれてくることに希望を持てる社会だと思う。既存の婚姻制度のように性別を切り口とした考え方は時代にそぐわない可能性がある。結婚ではなくパートナーシップという言い方も良いのではないか。

- 結婚式に参加した時に結婚って良いなと感じるが、結婚相手を探すために出会いを求めるのは違うのではないか。良い人がいたときにはじめて、結婚というゴールが生まれる。まずは人間関係づくりから政府が支援する方が良いのではないか。その先の選択肢の１つとして「結婚」という考えがある方が良いのではないか。
- 経済的な面や時間的な面が結婚へのハードルになるのではないか。ワークライフバランスへの支援を行うことで、結果的に可処分時間が増え、人と出会う機会も増えるのではないか。一方で、残業することで給料が増え、経済的に裕福になるという部分もあるため、経済面と時間面の両方での支援が必要だと思う。
- 「結婚をしたい」という思いが先行して、結婚に繋がるわけではない。「この人と一緒にいたい」という思いの先に結婚があるのではないか。政府が多様な結婚のあり方を認めることが必要だと思う。また、パートナーとのすれ違いも良くないため、ワークライフバランス改善に向けた支援も実施するべきではないか。
- 社会人になってから出会いの場が少ない。ただ、婚活パーティーに行きたいという思いはなく、それよりもハードルが低い、趣味で人とつながれる場などを政府主導で設けていただくと出会いが広がるのではないか。
- 戸籍や苗字といった法律上の婚姻という形ではなく、新しい婚姻の形も必要ではないか。

〇質問３：ほかにどんなことに取り組んだらいいと思いますか。

【自立に向けた支援】

- 虐待を受けた経験をもとに話す。青年期の段階で、家庭から抜けたい方へのサポートや、自立支援に関するサポートが項目立てとしてあると、さらに良い社会になるのではないか。

【大学進学に向けた支援】

- 「お金がなくて大学などへ進むことをあきらめることがないように」について、大学進学が念頭にない人が、進学したいと考えている人と交流することも重要ではないか。例えば高校の枠を超えた交流イベントなどがあると良いのではないか。

【虐待に対する支援】

- 行政による虐待被害者の保護率は２％と言われていると聞いた。潜在的虐待被害者への支援が

ほとんどないことも問題なのではないか。

- 虐待は日によって程度が変わり、日々変化していくものなので軽度～最重度なんて判断出来ないと思います。だから軽度～最重度なんて判断出来ないので軽度～最重度判断基準ではなく、別の判断基準を作るべきだと私は考えています。また、物理的な支援と精神的な支援の両方から支援することが重要ではないか。社会問題はバラバラではなく、繋がっている。
- 親から逃げる方法などを当たり前に学べることも重要なのではないか。また、家族制度もさらに開放的にするべきだと思う。家庭外で行った場合は犯罪になることが、家庭内では犯罪にならないこともある。

【年代に関わらず共通で取り組むべき内容】

- こどもが声をあげた時に、すぐに動けるような体制を整えるのが良いのではないか。法律上の問題もあるが、こどもが一歩踏み出した時に行政がすぐに動けるような環境が必要だと思う。労働基準監督署に行っても「証拠がないと難しい」だったり、担任に行っても担任で止まってしまうから直接教育委員会に行っても「なんで教育委員会に行ったんだ」と後日担任や主任、校長から怒られる。頑張って行動した者が報われない。改革をしようとするものでなく、このままで上の言うことを聞くものが優遇されるところを改善すべき。
- 学生の間に様々なことに触れられる環境が必要だと思う。進学するにつれて専門性が高くなる一方で、幅広いことを学ぶ機会が減ってしまう。大学に進学している、していないに関わらず、様々なことを学べると良いのではないか。

〇事後アンケートに記載された意見

◆言い足りなかったことなど

- 虐待被害者が自立するに当たっての困難は、あまり知られていませんが青年期において非常に深刻な課題です。
  まず賃貸契約についてですが、心身ともに衰弱している被害者の中には長期間働くことや保証人・緊急連絡先を確保することが容易ではない人もいます。住民票の支援措置についても、警察署などで虐待の非専門家の方々にデリケートな内容を話さねばならず、しかも毎年それを更新しなければなりません。救済されてこなかったが故にこうした手段を選ばざるを得ない被害者にはとても辛い負担です。更新頻度をもっと落とすか、もしくは「止めるときにだけ連絡」という形にすべきだと考えます。
  そして、辛い過去を断ち切り自分の人生を歩むために裁判所に申し立て苗字や名前を変えても、変更後の名前を戸籍において隠すことはできず、家族はその気があれば戸籍で新しい名前を見ることができます。（支援措置による閲覧制限がかかるのは住民票の住所、マスキングによって隠せるのは戸籍の住所欄及び連絡先に関する記載のみです。）これでは家族から逃げて名前を変えたことの意味がありません。
  そもそも、血縁であるという理由だけでここまで何でも特別に把握できるようにする必要があるでしょうか。正常な関係性の家族であれば個人的に教え合うと思いますし、それが叶わない緊急事態が起きた時だけ社会制度による介入があればよいと思います。社会制度は「より困難な場合を想定して設計する」というセオリーが重要であり、家族に関する制度において第一に想定されるべきは関係良好な家族ではなく、深刻な人権侵害が起こっている破綻した家族です。
  ただでさえ家庭内で起こることは司法の及ばない側面があります。自立と自力での回復の可能性が出てくる青年期まで生き抜いてきた被害者を、生まれた家庭に縛り付けるような社会制度を変えてほしいと考えます。
- 虐待は、お金持ちと貧困家庭の両極端の層に多く、中流層に少ないです。しかし、貧困家庭の虐待にしか支援がないです。お金持ち家庭の虐待に対しての支援もしてほしいです。（トラウマケアの専門的なカウンセリング治療費の保険適用や助成など）また、お金持ち家庭でも親が学費を払わないなどの問題を抱えている子もいますが奨学金は所得制限があるので所得制限をなくして親の所得が高くても親が学費を払わないなどの問題を抱えている子に対して奨学金を借りられるようにしてほしいです。また、アフターケアを社会的養護だけでは、なく、保護されていない虐待被害者にも社会的養護と同じようなアフターケアを受けられる支援がほしいです。
- 子どもが相談できる場所として、今は保健所やネット相談があると思うのですが保健所では子どもが学校に行っている間しか受け入れられていない場合が多いためネット相談に子どもがたくさん集まってしまい対応しきれないことがあると聞いたことがあるため、ネット相談の窓口を増やす、保健所の時間を考慮するなどしたほうが良いと思う。
- 若者の結婚支援について：近年、アプリや SNS での出会いサービスが普及して交際や結婚する人が増えています。しかし自由競争の環境である為、モテる人と全く相手にされない人とで二極化して

しまい、昔なら普通に交際できたような人でも交際に辿り着けなくなっていると聞きます。また、利用者の中に著しくモラルに欠けた人（いきなり連絡が途絶える、既婚者が遊び目的で登録する等）がいて、その人達とマッチングした人が交際や結婚に希望を持てなくなってしまったという話も多く聞きます。昔のお見合いのように周りの人が御膳立てする形の結婚支援を増やしていかないと、経済環境に関わらず結婚しない、出来ない人が増えていくと思います。結婚するための環境が昔と大きく変わっている事を前提に、より柔軟な対策をして頂きたいです。

- 処遇改善金が加算でなく最低賃金確保のために支給されて基本給は最低賃金以下なのに、処遇改善金で最低賃金以上にしている現状の制度が疑問。

◆「こども大綱」をもとに、どんな社会（世の中）になったらいいと思うか

- 子どもも大人も、すべての人が一人の立派な人間になる社会。
- 子どもだけが大切にされるのではなく、皆が大切にされるということが重要では。
- こどもも大人も誰もが過ごしやすい社会。
- 理想の将来に向け視野の広さと力を持てるための支援が当たり前に受けられ、その権利が擁護される社会。
- 受験勉強や進学する高校とか大学だけにふりまわされないといいと思います。
- まずは、こども自身の意見を聞けるようになればいいな……と思います。
- 子どもの選択や意見が最大限通る社会。
- 子どもや若者をはじめすべての人が幸せな社会。
- 子どもや若者を誰一人取り残さず、年代や性別などを問わず幸せを感じることのできる社会。
- 血縁や生まれた家庭に関わらず、個人として希望を持って、自分の適性にあった働き方や生き方で自分の人生を愛することができる社会。
- 社会全体が幸せになるのはもちろん、あまり同じ状況の人が居なくて、共感されにくいような人にも目を向けて支え合える社会になったら良いと思います。
- 制度の狭間に落ちる人がいない世の中になってほしいです。
- 経済的な理由や障害のせいで選択肢が狭まらない世の中。
- 平和。
- 子供や子供を育てている親が社会で正当に評価される社会。
- 結婚や子育てを望む人が皆それを実現できる社会。
- これまでよりも結婚や子育てに多くの人が前向きになれる社会。
- 現状への意見を集める機関がスピーディーに機能して早く支援が届く社会。
- 可能性を広げられる。
- 首相が辞めて良い日本になればいい。

以上

2023/10/20-21,2023/10/22-23 開催いけんひろば

～「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう～

チャット回いけんのまとめ

A 班（中学生～高校生・高専生５名）

◆テーマ１：「こどもまんなか社会」について

＜こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、1 番大切だと思ったのはどれでしたか。＞

- 私は「虐待、いじめ、暴力～」のところだと思います。虐待などの行為を受けると心身ともに傷つき、精神科等への通院を余儀なくされる場合が多いと聞いたことがあります。その結果社会復帰や、完全に立ち直るまでに多くの時間を要するともテレビで聞いたことがあります。辛くなった時にすぐに頼れる人や機関の周知が重要だと思いました。
- これはものすごく大切だと思います。必ずしも精神科に繋がる訳でもないしこのような関係機関を知らない人達にどう伝えていくのか、またどのような支援が最適なのかを考えることができるのかと考えてます。
- 私も同意見です。私自身、家庭や学校で辛いことが重なり抜毛症やミソフォニアに似た症状に悩んでいましたが、親に迷惑をかけるのが怖く、結局誰にもどの機関にも相談できませんでした。支援を必要とする本人、その保護者、学校、医療機関が連携することはもちろん大切です。しかしそれだけでは、学校や家庭で虐待やマルトリートメントを受けているこどもたちは救われません。治療を受けるとなるとどうしても保護者を介さなければならない場面があり、難しいとは思いますが、こどもだけでもこっそりカウンセリングなどのケアが受けられる窓口や、治療費を必要としないサービスの拡充、いつでも誰でも逃げ込めるサードプレイスの整備は必要だと考えています。

＜こどもたちを取り巻くおとなのあるべき姿について、みなさんは何か考えや意見はありますか。＞

- 小学校の登校の際地域の高齢者が危険な交差点などでの見守り活動や、低学年のこどもに付き添い登校していました。私はこれがこどもを支える上で模範的な大人の在り方だと思います。一方で地域の人であっても見知らぬ大人と関わることには、保護者やこどもたちにとって恐怖心も大きいのかなとも思いました。見守りや付き添いなど地域でこどもを支える在り方に注目しました！
- こども自身の意見をもっと尊重し今少しずつではありますがこどもアドボカシーと言ったものを取り入れることの重要さ、関東の方にあるアフターケアの場所関西の方でももっと身近にあるものにする、虐待を受けていたことを成人して気づいた場合施設入所とかはしてないために対象外になることが問題だと考えています。

＜「こどもまんなか社会」は、これから目指していく社会像として理想的なものになっていますか？＞

- こどもひとりひとりにおとながしっかりと向き合うこと、そういったおとなが周りにいない時にこどもが逃げ込めるような場所が身近にあるような社会をつくっていくこと、そういったことが本当に大切なのだと今日のやり取りを通じてぼくは強く感じました
- 個人的に資料に書かれている「こどもまんなか社会」は、とても理想的で是非実現したいものになっていると思いました！こども若者に限らず、それぞれの個性が尊重され、不安に思うことを相談出来る環境の実現は、多くの人のウェルビーングに繋がると思いました。

＜みなさん自身は将来どんなおとなになりたいと思いますか？＞

- 私はこどもひとりひとりを生きやすいと思える社会にできるようなおとなになりたいと思っています。
- 私は将来、政策の方面からこども若者が意見を言いやすい環境をつくることに携わりたいです。また少子高齢化が深刻化している地方出身ということもあり、そういった地方の社会問題解決にも取りくんでみたいと思っています！私事ですが、もともとユース政策モニターに参加していたこともあり、こども家庭庁の取り組みに興味を持ち始めました。
- 私は、全てのこどもたちに平等にチャンスを提供し、安心して伸び伸びと学べる環境を作り、多様な特性をもつこどもたちが自力で将来を切り開く手伝いをしたいです。周囲の理解を得られずに苦しむ人や、居住地や家庭環境、収入による格差を減らしたいです。私は田舎の公立の小中学校で、既知の内容ばかりを繰り返す授業に嫌気が差して抗議しましたが、周囲の学習進度に合わせるよう強要され、授業中何もせずただ座らされていました。希望や意欲を削ぎ落とされていく私を見て危機感を覚えた母が、県外にある私立高校に進学させてくれました。しかし私の家庭は相対的貧困世帯のため、施設利用費や通学費は母が貯金を切り崩して何とか支払ってくれています。給付金でまかなわれるのは授業料のみで、その他の諸費用は補助してもらえていません。自分の夢や希望をかなえるためにチャレンジできる場所を確保することがこんなに難しいのかとショックを受けまた。だからこそ、ギフテッド等の支援や、奨学金等の制度の対象から漏れてしまう人の声を聴き、セーフティネットを何重にも用意することが必要だと考えます。
- 少し前のものになってしまいますが、私は将来、子供や若者が生きやすく、常に誰かに相談できるような社会にできるおとなになれたらいいなと思っています。また、色々な人からの視点を取り入れた暮らしやすい社会をつくっていきたいと思っています

＜学校を含め、自分の意見を聞いてもらえていると感じられる場所はありますか？＞

- 以前内閣府が行われていた取り組みでは「政府から意見を聞かれている」という印象が強く、緊張することが多かったです。その点、「こども若者★いけんぷらす」では、より自由な雰囲気があり思ったことを率直に伝えやすいなと思っています。

- 私は利用したことがないのですが、近くの NPO 法人が不登校のこどもたちへの学習支援を行っており、そういったこどもたちへの居場所になっていると思います。小中学生のためのこども食堂や宿泊研修なども安価で行っており、参加した中学生に話を伺ったところとても満足していました。高校に上がって通信制に進学したこともありそのような場所が減り、知らないと分からないことが増えた気がします。例えばフリースペースの存在などはあまり知られていないこともあるため知っていたら利用出来る感じですかね。
- こどもと大人の信頼関係を築くことは今回の話の中で重要なことに入ると思いました。信頼しているからこそ相談・話をするに繋がると考えました。
- ひとりひとりに寄り添えたらいいのですがどう築いていけばいいのかは問題点として残ります。

B 班（中学生～高校生･高専生５名）

◆テーマ２：「こども政策を進めていくときに大切にすること（基本的な方針）」について

- ④の最後「困っている人にはその人にあったサポートをします。」の部分が良いと思いました。本当に、こういう人はこうとひとくくりで対応するのではなく、一人一人と向き合って欲しいと思います。
- ③に「おとなになるまで」とありますが、大人になっても支援が継続的に必要な人もいるはずなので、例えば"然るべき支援先に繋げていく"のようなことが書かれていればもっと良いかな、と思いました。
- ②の一緒に考えていくという点が該当する人に寄り添ってくれる感じがしていいと思います。意見を話す機会を今後も大切にしていってほしいです。
- 特に⑤がいいと思います。今の社会では結婚、子育てに多くのお金が必要です。また、私たち学生は将来に向けて何か挑戦するときもお金が必要になってきます。そのようなことを視野に入れたとき、お金に困ることのない生活がとても大切だと思いました。
- 重要ですね。親の人達がもっとお金について相談しやすくする工夫などした方が良いと思いますね。
- 反応ありがとうございます。私の家庭は年収で見ると中流層（の下の方)なのですが、生活費を節約しても学費に多くのお金は回せていない感じです。今は中学生なのですが、このまま大学生になるのは経済的にキツいかなぁと思います。現在の日本は大学に行くのに莫大なお金がかかるので、どんな人も授業料を払わなくて済むようになればいいのになと思います。ネットで調べる限り、今の日本は海外に比べてはるかに給付型奨学金は少ないみたいです。海外では生活費を奨学金で補助してくれる国もあるそうです。日本にも、返済不要の奨学金が増えるといいなと思いました。

◆テーマ３：「取り組むこと（重要事項)」について（学童期・思春期）

- 私は、病気を持っているのですが、高校説明会などに行くと、オンライン授業などやっていないから単位が不十分になると言われました。通信制高校も検討中ですが、学力が低下したりして大学受験はできないのでは。周りからの視線があるのでは。と思ったりもします。オンライン授業の促進や、通信制高校に対する考え方が正しいのかどうかなどを伝えたりして欲しいです。例えばですが…オンライン授業が全国どの地域でもできるようになったり、全ての学校でオンライン授業ができるようにしたりする。通信制高校に行く事で、全日制と比べたマイナスな面、プラスな面は何なのか、しっかり理解できるよう学校で講習会などする。通信制高校に行っているんだと胸を張って普通に言えるような、環境をつくる。
- 私は全日制の高校に入学したのですが、体調不良により出席日数が足りなくなり、通信制に転学しました。その時点で全日制の高校とは完全に無関係の人にされたような感じで辛かったです。学校生活は楽しく、まだそこで学びたいという意欲もあったので、体調不良でも退学にならないような仕組みや、どうにか繋がりを保てるような仕組みがあったらな……と思いました。

- 学校を安心できる場所にする、というのが大切だと思いました。常に気を張っている状態では色々なことを楽しみにくいのではないでしょうか。
- 繋がりを保つことは難しいかもしれませんが（私の場合、繋がりがあると、申し訳ない自分を責める気持ちでいっぱいになる）、退学にならないような制度、個々に寄り添い見放さない制度が学校にあれば良いですね。
- 「全日制と比べたマイナスな面、プラスな面は何なのか、しっかり理解できるよう学校で講習会などする」と「通信制高校に行っているんだと胸を張って普通に言えるような、環境をつくる」をテーマ 2 の取組の中にそれぞれ入れられると良いと思う。
- 安心できる場所…私の学校にはスクールカウンセラーがいるのですが、そのようなどんなことも受け止めてくれる人がいるといいかなと思いました。
- いじめを相談しやすするという点では、相談を聴く側のルールなどをしっかり決めて相談者が満足する結果になったかどうかを確認できるようにできたらいいと思います。
  - その仕組みづくりとても大切だと思います！
- 小学生の時は授業のほかにお楽しみ会をやることが多く、自分たちで計画してイベントを行なっていたので達成感や団結力が生まれクラスも一層雰囲気が良くなっていました！小学校は特に集団生活を送ることで協調性や人間関係などを学べるいい機会になると思うので授業以外での経験も役に立つと思います！
- 自分は家庭環境が良くなかったので、家の近くに家から離れられる居場所（落ち着ける場所）が欲しかったです。
- 私も家庭環境があまり良い方ではなく相談できる人がいなかったのでそういった場所があればよかったなと思います
- 私は全日制の高校に入学したのですが、体調不良により出席日数が足りなくなり、通信制に転学しました。その時点で全日制の高校とは完全に無関係の人にされたような感じで辛かったです。学校生活は楽しく、まだそこで学びたいという意欲もあったので、体調不良でも退学にならないような仕組みや、どうにか繋がりを保てるような仕組みがあったらな……と思いました。
- 体調が理由で自分のしたいことができなくなるのは辛いですよね。私も学校とのつながりを保つ制度が必要だと思います。
- 小学生から習う道徳の授業はとても大切だと思います。私が小学生の時は自分たちの意見を好きなように話し合う時間だったのですが（他の学校は違っていたかもしれません)、私はいじめや差別の防止のためには学ぶことも大切だと思います。例えば私は週に 1 時間宗教の時間があり、世界の宗教（歴史や教え、タブーとされていること、宗教対立など）について学んでいます。相手と違う部分を子供のうちから学ぶことは多様性を認め差別をなくすことにもつながると思います。道徳の時間は話し合いと学びを掛け合わせたらより良くなると思います!
- 私の学校では（小学校も中学校も）教科書で学んでいました。教科書にお話または体験談のような文が 6 ページ前後あって、それを読んでから、どう思ったか、この文で大切な事など考えて話

し合っています。私は宗教の時間はなかったです。これも含め、地域による違いが見つかりました。そこを統一し、地域差を無くすことも課題かもしれないですね。

- 私の学校は宗教についての道徳はないです。いじめの防止についての話はありますが、国と国の問題（紛争など）は触れてこなかった、という感じです。
- そうなんですね!私も小学生の頃はそんな感じでした!私は今私立の仏教校に通っているので宗教の時間は珍しいと思います!
- いじめの防止について、私の学校の道徳は基本、教科書を使っています。いじめについての論説文、いじめに関する物語などを読んで「どうしたらいじめがなくなるか」を考える、という形です。最近の道徳では教科書の文章を読んだ上で「自分の行動を省みて非を認める」ことがいじめ防止につながるのではないか、みたいなことを話し合いました。
  - 自分たちの意見を明確にできることは話し合いの利点ですよね！学びを取り入れながら話し合うとより濃い時間にできると思います！
- こちらこそありがとうございます！話し合いって本当に大切ですよね。●さんの学校ではどんなふうに宗教について学んでいるのでしょうか？教科書に世界の問題を学ぶコーナーのようなものがあるのですか？
- 私は仏教校なので週に 1 時間仏教という授業があり、お坊さん兼先生が世界情勢も踏まえつつ、仏教と仏教以外の宗教について教えてくれます。いじめについては仏教の教えをもとに原因から対策まで勉強します。教科書は特に使ってないですね でも定期テストはあります笑
- 仏教！いいですね！私の学校にもお坊さん兼先生が来てくれる、みたいな時間があったらいいなと思います
- ありがとうございます！お坊さん派遣は難しくても教科書や動画など学べるものがあれば多くの学校でできそうですね！
- そうですね！今後そのような教材が増えるといいですね。

C 班（大学生･20 代５人）

◆テーマ１：「こどもまんなか社会」について（質問①～③に対する意見）

＜質問①～③に対する意見＞

- ①については、実現したら本当に良いと思うし、私もこどもまんなか社会を応援したいです。でも、本当に実現できるのかな…？という思いもあり、周知を徹底して理想だけにならないようにしてほしいです。内容については賛成です！②（どんなところがいいと思うか)突然「あなたの意見を聞かせて」と言われても自分の意見がわからなかったり前提としての知識が無かったりするので、意見表明だけでなく意見を持つことへの支援にも言及しているところが良いと思いました。②（どんなところをもっとよくできるか）大人のサポートが行き過ぎてこどもの個性や自由な選択が失われてしまう……みたいなことが無いように、こどもがサポートを受ける際にも尊厳が守られるようにしてほしいと思いました。
- ①について内容はとても素晴らしく、理想的なものであるように思います。ですが現実的な面では厳しいのかなという思いもあります。②に関しては育つ環境によって全てが叶わない場合もあるのかなという印象を受けました。なので困ったら助けてもらえるという部分を強化すべきだと思います。こどもが求める対応と世間一般でいう普通の家庭で育ってきた大人の行う対応では大きな食い違いが生まれてしまうからです。③については②と重複してしまう部分がありますが、こどもが安心して、そして助けて欲しい時に助けてと言える環境や仕組み、制度を拡充する必要があると思います。家庭環境が正常でない場合、こどもは抑圧され、助けてと言えない、そして物理的にも言えない環境にある場合があります。そういう時、スマホの普及を活用し、電話だけでなく、理想だけで言えば担ってはしまいますが、SNS やアプリなどでこどもの SOS の声を拾えるような制度があれば少し声はあげやすくなるのではないかと考えました。また、大人はこどもの相談に対する守秘義務を徹底するという内容があってもいいのかなと思います。言わないと言われたから安心して相談したら全て親に言われたという経験をすれば大人が信用できなくなり、さらに声をあげにくくなってしまいます。そして、このこども真ん中社会の実現も遠のいてしまうと思いました。
- ①こどもの成長を社会全体で後押しするのにこども基本法やこども大綱でルールや文化づくりをしていくのは賛成です！社会全体がこどもの成育環境に理解をしてくれるような環境になることを願っています！②小倉前大臣も様々な立場のこどもや関係者にヒアリングしている姿をメディアを通して拝見していたので、とても現場に寄り添った意見公聴をしていて素敵だなと感じています。すべての人の意見を聞くことも叶えることもできませんが、官と民の距離が近いということはとても大事だと思います。③日本の文化や民族性を生かすためにも全てを取り入れる必要はないと思いますが、海外のこども施策をベンチマークすることは必要だと思います。先日、フランスでいじめが厳罰化されたことはとても興味深く思っていました。日本の教育体制では教育委員会は都道府県や政令市にあり、市が管轄ではなく迅速な対応ができないという元明石市市長泉さんの発言を聞くと、先手を打った対策が難しいと感じるため、国としてルールを設けるという大胆さは感銘を受けました。その点、日本版 DBS の動きが活発化していることも拝見しているので、このような取

り組みがどんどん進むと、日本の良さを保ちながら先進国のいいところを交えてこどもの成育環境を整えることができるのではないかと感じました。

- ①については私も内容が素晴らしく理想なものであるように思っています。ですが現実味があるとするならば程遠いと思います。②障害のある人や障害のある子供達が支援を受けれて困ったらどのようにすれば助けて貰えるかを重点的に考える事が大切だと思います。③児童発達支援に携わっている者としては障害のある子供達を支援する支援者にも手厚いサポートを受けて欲しいし社会全体が児童発達支援の認知度がまだまだなので児童発達支援が社会全体に理解される環境になる事を願っています。
- サポートの行き過ぎについてコメントしましたが、サポートが必要なこどもに届かない問題もあるよなあ…と思いました。いずれにせよ、こどものことを大人だけで決めないでこどもの意思が尊重されてほしいです。かといって大変な状況でもこどもがサポートを拒否する場合もありますし、大人が介入しなければいけない時もあるかもしれません。その時はそれぞれのこどもにあった方法で説明を受けられるようにしてほしいなと思います
- ③若い世代に向けて「仕事や子育てで困ったときにサポートを受けられる」という内容があってもいいと思いました。個人的なイメージでは困ったときじゃなくても普段から社会全体に支えられて、困ったときは特別なサポートがある、みたいな感じです。
- ①「こどもまんなか」という言葉、良い響きです。②具体的には、人間社会の集団の中で、こどもや若者の方が、未熟ながらに積極的にいろんな挑戦をしていく姿を周囲で大人たちが見守りつつ、支えていく。「失敗は成功のもと」という言葉もありますし、失敗も含めて挑戦すること自体が本人の経験となり、貴重な財産となると思います。やってみたいことをすぐに出来る環境が実現すると良いですね
- ③個人的には一人ひとりがしっかりとした意見を持つということが大事だと思います。こども・若者の方が主張出来ない環境の改善については、皆さんからも意見が出ているようですが、私の周囲の方への体感としては、持論を持たずに周りの意見にただ賛同する、同調する人が多いように感じます。意見を発信する力ももちろん大事なのですが、まずその前段階の意見を持ち、振り回されず自分軸で生きていくことに重きを置けると良いですね

＜テーマ画像に書かれていることで、これが刺さる！共感！大事！と思うこと＞

- 「おとなになるのが楽しみ」はめちゃくちゃ大事だと思います！未来に希望が持てるってとてもいいことで、そのためにはどれだけ不安材料を取り除けるか？というところだと思います！（不安材料は）パッと思いつくところで言うと、・人間関係・勉強の到達度・教育格差・情報格差・経済的格差・将来の選択肢の広さ・家と学校以外に頼れる大人の存在・教育の目的、意義とかですかね！
- テーマにはないですが、色んな大人に触れる機会がもっとあればよかったなぁと思います！それは職業選択の時に、どんな仕事があるのか知ることであったり、第三者だからこそ話せる存在だったり！

- 私も大事だと思います。働くことや子育てに良いイメージが思いつかないので、自分らしくいきいきと仕事、子育てをしてる方のロールモデルなんかあったらいいなと思います。
- かっこいい大人がいるからこそ、自分もこんな人になってみたい！とかいいですよね！
- そうですね！インターネットで一方的に情報を受け取る形ではなくこどもと社会人（いろんな大人）が双方向的に関われたら実感も伴うかと思います

- なりたい大人像に加え、なりたい大人になるために頑張れる環境（経済面含め）が必要だと思います。
- 私も同じく大事だと思ってます、働く事や子育てがさらに良いイメージが思いつかないので子育てと仕事の両立を楽しく頑張れる人こそかっこいいみたいな感じです。私の不安材料は初対面だと会話が出来ず緊張してしまう事です。
- いじめなどのホットラインみたいに匿名や非対面の機会があるのもいいと思います！目的にもよりますが、直接関われる機会に勝るものはないと思っていて、最近だと学校の教師の業務量や範囲が多いと言うことで、部活を外部顧問に任せるとかもいい事例だと思います！あとは、ソーシャルワーカーの配置や、卒業生がメンター制度のように関わる機会があるとか面白そう😊
- 違う価値観、違う年代の人と対等に、尊重しあいながら関われたら素敵だと思います。
- 私は将来に対して不安しかありません…就活も早期化していていつから始めたらいいのかもいまいちよく分からないし、奨学金も 20 年かけて返さなきゃいけないし、親の脛は齧りたくないので自立したいけど精神的に未熟な部分もあってすぐにダウンしてしまったり、まず大学卒業出来るかなとか、就職できるかとか、人間関係もあまり上手く築けなくて不安だし、そもそも私は抑圧されて育ってきたので自分のやりたいことも好きなこともわからないし…私の場合はの話になってしまいますが、物心ついた時から割とお先真っ暗という感じですだから今のこどもさんたちやこれからのこどもさんたちにはそんな思いしてほしくなくて、少しでも私の経験がマイナスだけでなくプラスに働くのならと参加させて頂きました
  - 就活早期化は私も不安に思っています。一度遅れたらもう追いつけないのかな、と。
  - 分かります、もう出遅れてるんじゃないかとか思いますよね…
- 私はこどもまんなか社会の理想像としては障害のある子供達が健常者の子供達との交流を積極的に行って欲しいと思うし健常者の子供達も「僕と私と同じ子供でちょっとだけ個性があるんだけど交流したら楽しくてたまらない」という機会が沢山増えて欲しいし障害のある子供を通して健常者の子供達が沢山学べる事が出来たら良いなと思います。小学校の課外授業で児童発達支援の事業所を訪れて欲しいです。
- 私は大学生の頃から社会人合唱団で両親や両親以上の年代の方と歌を通じて活動してたので、皆さん私の未熟さや挑戦を寛容に応援しながら見守ってくれました。学生時代にそのような大人、社会人経験豊富な方との出会いがあったことは今にも活きているのを実感します🙇皆さん、不安なことをしっかりと言語化されていて私もすごく勉強になります。私は不安に気付くことで努力を続けていけると考えているので、不安点・懸念点をこれでもかと探す日々です

- 私は誰も助けてくれなくて、むしろ保身のために傷付けられて大人が信用できなくなって全く声を上げる事ができなくなりました。だから、学校とか、もっと知識を持った教員を増やして適切な対応を取っていただけたら苦しむ子供も減ると思います。家庭が安心できない子供にとって担任や学校は唯一の逃げ場ですから、それすら安心できなくなるとどうしようもありません。こどもは未熟です、大人ですら未熟です。だからちゃんと適切に守ってくれる大人が必要なんです。後、学校や家庭以外の居場所がもっと増えればいいなとも思います。私のような家庭ではそのような居場所があっても参加できないと思うので学校、教員の改革はもちろんですが、さまざまな背景を持つこどもがいます。もっと家庭か学校ではなく、気軽に安心できる場所があってもいいのかなって
- 私がこのいけんひろばに参加させて頂いた理由は障害福祉の分野の中にある児童発達支援について取り上げる事によって社会全体に障害福祉の中にある児童発達支援について知ってもらいたいという思いが強くなり参加させて頂きました。障害のある子供達を支援する支援者も 1 人の人間であり大切にして頂いたい存在には間違いないです。
- それ（学校や家庭以外でも、安心できる居場所）が SNS やトー横、グリ下になっていますがもっと安心できる場所が増えたらそれらも自然に変わっていくと私は思っています。表面的な解決ではなく、そのような行動に出る背景まできちんと対応していく事が私たち大人の責任だと思います。あまり大きなことを語れるような立場ではありませんが…
- 勇気を出して助けを求めてもそこで傷ついてしまったらその後は助けを出しづらくなるし、自分の意見を言って否定されたら自分の意見を言いづらくなるし……。こどもの頃に自分のことを真摯に受け入れてもらえた、という経験が大事だと思います。●さんも仰っているとおり、周りの大人によってそういう経験があるかどうかが変わってくるのでせめて教育環境を整えてほしいです。
  - そうなんですよね…、ちょっとした変化や行動を SOS として受け取って寄り添ってくれる大人がいれば少しは何かが変わるかもしれません
- 私も皆さんの意見を聞いて勉強になるし今後私が障害のある子供達の支援者としてどうやって支援をしていこうかっていうのを学ばせて頂きました。
  - 障がい生の支援もとても大切ですよね
  - 大事ですね、本当に…。
  - 周りとの埋まらない差、どう足掻いても自分にはできなくて、でもかと言って手厚く何か補償してくれるわけではない
  - みんなと同じ物差しで測られて出来ない自分だけが情けなくて、辛いですよね
- ファシリ）何人かの方がノートの方にも書いてくださっていましたが、必要な時に、必要な程度の支援が、必要な人にちゃんと届く、そういった社会であることが、あったらいいな～ではなく、切実に必要なんだと強く思いました。あと、寄り添って、ちゃんと聴いて尊重してくれるおとなかな。
  - ほんとにそう思います😊
  - 私も、これはとても大切だと思います、こどものこれからの人生がかかっています。
- ファシリ）さっき●さんさんがおっしゃっていた、真摯に受け入れてもらえた、という経験、という言葉

がとても響きました！

- ➢ テクニックでなく傾聴出来る大人。目指すべき理想ですね。
- ➢ そういう大人がいてほしいとは思いますが、大人が実際どうやってこどもの意見を聴けばいいかは難しそうです。

＜「こどもまんなか社会」について、実現が難しいと思う理由や実現が難しそうだと思う項目＞

- 地方にまで浸透するのかなという心配があります。自治体によって差が出てしまわないか…。
- 新しいことをするときに、財源が…財源が…って言うので笑
- 制度の内容的に出来ないことはないと思います！あとは、実行する方の実行力だけじゃないかな。
- 各地域ごとの自治体の特徴を理解した上で障害福祉の分野でどのように財源を確保出来て尚且つ円滑に進んで行くのかそういう内容が関係すると思います！あとは実際障害福祉の現場に足を運んで意見や要望をしっかり聞いた上で実行する方の実行力が問われると思います
- 私はこどもの頃の実体験なのですが大人が適切な対応を取ってくれなかったという事が多々ありました。なので実際には無理なのではないかと…大人の知識不足や柔軟性にも改善の余地があるのではと思ってしまって。
- 周知されたらこどもまんなか社会実現！というわけでもないので、その先のこと（じゃあどうすれば実現できるか)ももちろん考えなくてはいけないんですが、大前提として「知っている」ということが大事だと思います。
- 周知という観点で行くと、官公庁は広報が総じて弱いかなと思います。老若男女、さまざまな立場や地域、属性の国民に情報を届けるのに、多面的な媒体や手段を取るべきだと思っています。ここにも政府の動向が載ってるのかよ👏ってくどく思われるくらい笑その点、こども家庭庁は SNS で分かりやすい発信しているので、とても素敵だなと思います！
- 児童発達支援についてですが、私も周りに「どんな職業でどういう仕事なの？」と聞かれた時に「障害のある子供達が通う学童で先生をしている」という感じで答えてます。
- 大きいです！！現在大学に在籍しているのですが、勉強よりバイトメインの生活になってしまっています💨
- 平日は事業所に出勤して職場の掃除や開所の準備と子供達を受け入れる準備とかお昼休憩が終わったら利用してる子供達を学校に送迎車で送迎して事業所に到着し障害のある子供達の話を聞き子供達の話し相手とか子供達の遊び相手になったり学校の宿題を見ておやつの提供もあります、おやつを作る時は私とかの支援者は子供達がおやつを作って食べるのを見守ってその日を活動を進行して帰りは私とかの支援者が子供達を自宅まで送迎するという流れになりますね。土曜日と事業所が営業する日曜日は利用者のお宅に事業所の車を使い送迎して事業所での活動・外出支援を行ったりもしますね。この後に活動を終えて帰宅する子が多くいるので

送迎車で利用者のご自宅に送り届け事業所に戻って今日の活動の振り返りとミーティングや反省会を行ってます。

- 質問の主旨からずれてしまうかもしれませんが、高校を中退していたため行きたかった大学の奨学生試験が受けられなかったのもショックでした。
- 質問の趣旨から私もずれるかもですが、高校は知的障害の特別支援学校に通学してた為学年主任から「高卒資格が無くても一般の仕事に就けるよ。」と言われてどんなのかな？と期待してたら見事に騙されました。私としては「知的障害で特別支援学校の高等部の勉強は簡単すぎてついて行けない…。」と思ってました。
- 進路を一緒に（ちゃんとじっくり向き合って！）考えてくれるおとながいたら良かったなと思います。
  - 同感です。
- 教育現場も大変とは思うのでちょっとずつでも改善に向いたら良いなと思います…
- 障害のある子供達が安心して生活して行ける社会になって欲しいです。

＜意見を育む機会や、自分の気持ちや意見を聴いてもらえる環境があったか？＞

- 小中学生の時は親や先生、クラスメートの多数派の言うことに従って、自分の意見を持つという意識すら無かったと思います。
- 多数決で決める、という機会が多かったからそう考えてしまってたのかもしれません。

  私も今までは特になかったのかなと思います。家では自分の意見は尊重されることはなかったですし、言うこともできませんでした。他に気持ちや意見を聞いてくれる人もいませんでしたし…。でも、私は今、大学のカウンセリングに通っているのですがそこの先生が初めて私の気持ちを尊重してくださったり、どんな話も否定せず"傾聴"してくださって初めて自分を見て自分と向き合ってくれる人ができたと言う感じです。私が少し心に残っている事があって小学生の頃担任の先生が多数決をしたら多数の方を選ぶのではなく、多数、少数両方の意見をきちんと聞いてからもう一度多数決をするのがいい、少数だからおざなりにしていいってわけではないと仰っていました多数決は少数派が声を上げにくかったりしますもんね…

  - そう言ってくれるのは素敵な先生ですね…！！
  - はい！その先生が仰っていたのは全員が意見を聞いた上で全員が納得してでの多数決なんだと。私も少数派は無視される存在だと思っていたけど、その話を聞いて自分も多数決を取る時は絶対にそうしようと思って今までも何度もその先生の教えを生かしてなるべく多くの人が納得出来るように決めるようにしてきました。誰か 1 人でも納得していなければそれは強行突破するのではなく、話し合いを重ねればいいだけだと。実際には厳しいと思いますが、努力はできると思います
- 人権の絵本とか、読んだ気がするんですが、自分のこととは思えなかったです。どっか遠い国のことみたいな、と言ったら大げさですが…。絵本だったから、フィクション感が大きかったのかもしれません

- 私はあまりないかなぁ、自然権とか言論の自由とか基本的人権の尊重とか、国民の権利である事くらいですかね…
- 障害のある子供達と常日頃取り組んでる物で話し合いの場を設けて「コレはどう？」・「コレは難しい」などと話し合いをして内容を決めます。
- それで言うと、所謂アサーティブコミュニケーションのような自分らしくいながら他人の自分らしさも受け入れるコミュニケーション方法みたいなのを子供の頃から知っておきたかったな～と思います。自分の意見を聞いてもらえなかった…という経験もあるけど、私が子供の時に友達の意見をちゃんと聞けてたかと言ったらそうではないので…。

＜学校や職場で、自分の意見を伝えたり、意見が尊重されていると感じたりできているか？＞

- 今、このいけんひろばで感じてます！
- 私個人としては大学受験が最初の自己決定のきっかけでした。両親や家族、先生などにすべてを委ねず、自己責任で自分の人生を全うする。自分で、選んで通う大学だから全力で学問する！と四年間はワクワクでした。就職活動も同じで、職業を自己決定出来るから、周囲の何者の責任にもせず、没頭して燃焼出来るのかなと感じています。そのための教養や専門性、礼儀作法などなど。大学受験や大学生活、就職活動などは大人として社会に必要な要素を学び、体験する貴重な時期だと思います。
- もちろんその通りにすべて運びませんが、その考え方を持つように気づかせてくれたのは、私の場合はその時期だったかなと。実際、私も大学では心理学専攻して、卒業後数年はその畑で仕事してましたが、親の体調不良きっかけに今の仕事環境を選んだので。思い通りにはいかないものですね、人生。
- 学校やバイト先でも子供の頃よりは 1 人の人間として見てもらえてるな～という感じはします。ただ、「子供だから大人の言うことを聞いてね」がいつの間にか「大人だから 1 人で考えてね」に変わって困惑はしました。自分で考える練習なしに大学生になってしまった～という感じです。
- きっと親に決められた進路ではなく、自分で選んだからこそ職業に対する責任感も芽生えるんですよね。
- 私は知り合いに公認心理師で一般社団法人を運営されてる方がいるんですけどめちゃくちゃ刺激を貰ってます。この人を見ると「あっ、自分のやりたい事は学校の先生達から勝手に決められてたんだ…。コレは自分の意見が押し殺されてたんだな」って思うようになりました。
- 私も親にやりたいこと、学びたいことを潰されました。だからこそ自分が人として尊重され、誰しもが生まれながらに持っているはずの権利がそれがたとえ親であっても先生であっても侵害されず、保障されるべきだと強く感じます。
- 高校時代の学校の先生達から「頑張れ！」と応援して貰いたかったです…。私と同じような感じにはこれからの子供達にはなって欲しくはないなと思ってます。

- わかります、私も親に応援して欲しかったから…。そんなこと絶対にないことも、期待もしていなかったんですけどやっぱり応援して欲しかったなって、●さんのコメントを見て思いました。

＜こどもたち、若者たちが尊重される社会になるには、どんなことが変わっていったらよいか？＞

- 子供の時に尊重された経験のない大人は、子供を 1 人の人間として尊重することってよく分からないと思うので、大人が自分自身と向き合う時間を作って、自分と周りを許していくこと、と思いました。よく、「うちらの時代はそうじゃなかった」とか聞くので…昨日も話題にあがってた、こどもを支える大人へのサポートとかこどもを受け入れる場、人を万全に整えるということですね。
- ●さんと同じくです。昨日も話題に上がってた障害のある人や障害のある子供達へのサポートが出来る環境がさらに増えて欲しいし実現して欲しいです。あとは障害のある子供達への周りの気配りとか配慮が必要だと思います。例えば障害のある人向けの児童発達支援のような場所を作るとか。障害のある人が児童発達支援のような施設に預かってもらってる間は親とかが休める時間とか空間も作って欲しいです。
- 学校に虐待に関する周知や、子どもの普通ではない行動(自傷など)の適切な対応のマニュアルや講演会を開いたり…正しい知識とそれを発見したときに取るべき対応、考えられる背景についてもっと広まるような教員対象の何かがあればと思います。精神的虐待やネグレクトなどは外からは見えにくく、まだ認知度や理解度もまちまちなため、子どものちょっとした SOS を教員がしっかりと拾って適切な対応をすべきだと思っています。
- 障害のある子供を持つ親御さんにもっと安心して相談出来る環境を作って欲しい
- そうですね…。根本的な解決にはならないのに、自傷や家出に対して子供の問題として叱って終わりみたいなのがよくあるイメージです。
- 子どもも大人も自分の世界で終わらず、100 人いれば 100 通りの世界があるとしっかりと認知し、もっと学ぶことだと思います！
  - そうですね～。学校には「みんなでひとつ」みたいなイメージがありました。違いを否定するんじゃなくて、お互いの個性として尊重しあえたら本当に素敵だと思います。
  - 今はなんか団体主義的なところがあるように感じて、それに入れない子はダメみたいな風潮を私自身感じてきましたが、"みんな違ってみんないい"という言葉が日本にはあり、それを本当にそう思える社会の構築が出来たらいいですよね！私はその「みんなでひとつ」にうまく入れませんでした、今もです、それで肩身の狭い思いをしてきましたでも、よく考えたらそれっておかしいですよね、みんな違うからひとつなんかになれるわけがなくて、中には無理してひとつになってる人もいて個性なんだからみんながそれを尊重すればもっと生きやすかったのかもしれないです
- ニュースとかで子供を虐待してしまう親御さんもいるけどそういう虐待に走ってしまう親御さんは「孤独で寂しい」想いをなさっていて誰にも相談を受けられなかったらサポートを十分に受けれなかったりすると思うんで丁寧なサポートをする環境にして欲しいです。

- おっしゃる通りです。高校生までは他責的でしたが、何もかも自己責任で考え、前向きに行動に向かえるように変えてくれたのはこの時だったように感じています。
- その通りですね。学生時代の授業では、教科書に答え書きすぎだと感じていました。もっと自分で筋道立てる力、多角的に考える力、自分なりの解決策（答え）を導き出す力など、社会で求められる力と学生時代に求められる、いわゆる優等生的存在の力に乖離があるように感じますもっと早期から足を運んだり、肌で感じたり、見たり聞いたりを重視出来たらと思います
- 学生が他責思考なの同感です！責任の所在が、社会、教師、保護者にあると思っている人が多く、自分のせいじゃないって言う人は自分も含め周りにも結構いたなぁ
- 受け身の授業ではなく PBL 授業（学生が自ら課題を発見して解決する能力を養うための授業）、良いですよね。
- 答え与えられすぎも同感です笑つまらないかもしれんけど、生きる意味とか、勉強する意味とか、自分にはどんな役割が与えられているのか、答えがない問いに対して哲学的に自問自答を繰り返して自分なりの答えを見つけるっていいなと思います！
- わかります、私はよく考えます、生きる意味とか、私は誰なのかとか、自分が今存在してる意味とか…
- 結局、教科書で習うことより、そういったことの方が大切だと私は思います。もちろん教科書で習うことを否定しているわけではありませんが…どちらも大切だということが言いたくて
- 自分で考える過程を蔑ろにしないように、ですね

＜テーマ画像を参考に、もっとあったほうが良い項目、視点など＞

- 学生と社会のギャップはすごい感じていて、そこ埋まらないかなと思います。学校ではメイクをするなと言われるけど、就活、恋愛の時にはした方がいい勉強も国数英理社のようないい大学、いい会社に入るための勉強をしていても、社会に求められるのは経済、政治、人間付き合いなど、勉強していないところとか。あと、子どもを支える人を支えるで言うと、●さんみたいな児発職員や保育士、看護師、介護士、保育士などソーシャルワーカーの仕事の重要性の周知と賃金向上があるといいなと思います。ただ、全員にあげるのではなく、評価に応じた報酬設計をするとよりいいかなと思います。
- 守秘義務を守ってくれる、もし話さなければいけないならその前に子供ときちんと話して対話を続けて合点を見つける事が最善だと思います
- 私と同じような児童発達支援の職員の方っていうのは障害のある子供達にとってはなくてはならない大切な存在であると思うしもっと私と同じような児童発達支援の職員の存在を社会全体で知って頂きたいし「この職業素敵でしょ？」って思って頂けるような環境整備っていうのは必要だと思います。私と同じような児童発達支援活動していて子供達に接してる保育士など活動している方にも賃金は上げて頂けると嬉しいです、例えば児童発達支援でパートとして勤務されている方の給料が 18 万円の手取りしなくてこの先どうやって生活していけば良いのかと思ってしまいます

…。

- 個人的には学校でも会社でもメイクするのもしないのも個人の自由が良いなと思ってしまいます…😓
- スカートを短くとか、髪の毛を染めるなとか何のために制限する校則なんだろうなーと思ってます。社会では必要なオシャレという能力だし、学校によると思いますが校則って本当に学生のためのものなのか懐疑的になるものは多いかな。どちらかというと教員が管理しやすいようにしてる一斉教育の産物かなと。
- 児童発達支援についてですが、障害のある子供達とその保護者の方々に対しての支援の在り方というのを見直してみて「あー、こういう支援のやり方が良くなかったんだな…。」とか「今度こそはこういう新しい支援だったら上手く出来そう」という反応が欲しいです。現場で支援する内容が固定概念に縛られてしまっているというか…。
- 授業で言えば、数学などは教科書に書いてない、別解を考える時間が醍醐味だと個人的には感じます。物事を多角的にとらえてそれぞれの角度から切り込んで答えまでたどり着く。その過程にこそ、自信につながる小さな成功体験や、社会人になってからも普遍的に通じる見方考え方のヒントが隠されているんだと感じます。エリック・エリクソンの言う、青年期の発達課題「アイデンティティの確立」に関することですね
- 私はぱっと見普通の子が裏で自傷行為などを行う理由や、その行為に隠された意味、本当の課題や適切な対処方法に関する専門家主催の学校関係者対象の講演会があってもいいと思います。
- 新しい事を始めてみるのも一つの案で例えばその児童発達支援を利用している子供とその児童発達支援の職員がマンツーマンではなく他の職員と交互でその子の支援に当たるとか…?
- そういうこと（社会生活というか、その後の長い人生に繋がっていく学び方）をもっと学校の授業で扱って、とことん考える時間があってもいいと思います。それが将来につながったり、自分も気づいていなかった自分の力を発見することに繋がったりもするのかなって
- 児童発達支援の施設を利用してる子供の元に担当している職員の方が他の子の相手をする中での対応は無理だと思われるので他の職員がその子を担当する職員の代役となって対応に当たれる事が望ましいと思います。児童発達支援でその子供を担当している職員が一つ何か業務でミスを犯したと時は「はい、お前がしっかりあと片付けしとけよ？！」という圧力があって職員側を心身共に苦しめてしまうとではないか？って思います。この上司である施設長からの圧力というのは私のような働いている側からすると嫌だな…。って思います。果たしてその人材と事業所の体制が機能してるのかが不安材料になります。
- 今って 18 歳が成人になって急に大人として扱われるようになって、でもまだまだ子供でっていう状態だと思うんです。私は急に 4 月から成人扱いになって急に放り出された感じがしました。
- 私も、大人になる準備ができる前に、成人年齢になってしまった感覚があります。
- 子供達が不安を抱えて生活するような今の社会では良くないけどもっとさらに良い社会を目指し

て行ければ良いなとは思います。

D 班（中学生～高校生･高専生６名）

◆テーマ３：「取り組むこと（重要事項）」について（ライフステージ横断）

- 一番上の部分ですが、権利があるといくら言われてもそれを言う大人が権利の侵害をしてきている場合に説得力がなくなるのでそちらについても改善すると書いた方がよりよいと思います。】それと、他の項目にも言えますが、最低限必要な施策の具体例とその開始を予定している時期を明確にする必要があると思います。例えば、上の意見で言うと、「年に数回生徒、児童による投票によって過半数が異動、解雇を望んだ場合、処分を下す制度を来年度までに開始する」といった感じですね。いかがでしょうか。私立は評判次第で変わる場合もあると思ってるので、評判があまり関係ない公立の方で早く制度化するのがいいかなと思います。
  - 私もこの意見めちゃくちゃいいと思います。県立や市立の学校だけでなく私立の学校にも取り入れたほうがいいと思います。
- ひとつ質問いいですか！貧困な家庭を支援するのはお金の面でなのか別の形の方法なのかどちらで支援するのかよく分からないです。これももう少し具体的にするといいと思うんですけどどう思いますか！でもそのほかのものももう少し具体的にすると当事者の人達がそれについて考えやすくなると思います！
- 私もそう思います！私は困ったときに話を聞いてくれる人や、塾で習った問題を一緒に解かせてくれる友達の存在がありがたかったです。
- 【えみ（ファシリ）】友だちの存在って大きいですよね～信頼できる友人と出会うってなかなか難しい。別の形での支援は、そういった友人たちと出会えるような居場所の提供とか？
  - とてもいいと思います！そういう人たちの溜まり場的なものが地域であると地域の人たちとのつながりも保てていいかも
- 学校に入るための支援などはというのはどうでしょうか。ずっと大学まで無料だといいんですけどね…勉強する気力がある人は…
- 高校に関しては公立は所得制限なしで完全無償化、私立に関しては…色々と問題が山積みみたいで書いてるうちにわからなくなってきました大学は共通テストである程度の点数を取った人に上限付きで出すとかですかね。よく言われる奨学金のように「借金」の形ではなく「給付」の方向で。具体的な数字は要議論ということで。
- 11 番なんですけど、「SOS の出し方」もですけど「SOS を出すべき人」をできるだけ細かく具体的に伝えるのも必要だと思います。
- 私は１０番について気になったのですが、私はヤングケアラーなのですが、個人的には支援も嬉しいですが、まずはヤングケアラーについての理解を深める活動をお願いしたいです。学校でヤングケアラーだと話すと、すぐに、何かできることはないかと聞かれるのですが、話を聞いてもらえるだけでも嬉しいし、親の障害などの内容によっては、外部の支援が難しいこともあるのが正直なところです…私の場合がまさにそうで、私は母と 2 人暮らしなのですが、母は私以外の人とはほとんど

関われないので…

- 質問とズレてるかもですけど、「方針」にここまで時間かけるのもいかがなものかと思っているんですけど…せめてやることを決めるのも同時進行でやっていかないとその間にどんどん不幸な人や亡くなってしまう方が増えると思うのですが…
- 話変わってしまうんですけど、この若者への取り組みの相談できる環境を作るっていうのはとてもいいと思うんですけど、ネットや学校だけではなくもう少し別の場所で何か相談できる場所があったらいいんじゃないかなと思うんですけど、、
- ファシリ）せっかくなので、今日の参加者たちの「相談相手は誰？」逆に「絶対に相談できない相手！」について、リアクションで反応をお願いします。そこから見えてくる別の相談できる場があるかもしれません～

対象	相談できる相手	絶対に相談できない相手	問題の元凶・その他（裏切られたなど）
1．親	3票	0票	0票
2．兄弟姉妹	1票	0票	0票
3．友人	4票	0票	1票
4．学校の先生	0票	1票	3票
5．習いごとの先生	0票	0票	0票
6．地域の人	0票	3票	0票
7．祖父母・親戚の人	0票	1票	0票

- なんなら僕は学校に行きたくなかった側ですね。妹も家に帰っては酷い教員や学校の制度の愚痴を言ってたりします。
- 私は、小学五年生から中学３年生までの 5 年間いじめられていました。だから気持ちわかります。今、高校に入ってこそ楽しくではないですが友達もそれなりにできて通っています。ですが、私はまだあの時のトラウマを抱えています。先生は味方になってくれなかった。だからこそ私はこの意見が痛いほど気持ちがわかります。相談相手は友達だと裏切られていたパターンが私にはあまりにも多すぎたので今回は泣き顔マークをつけさせていただきました。長くなってすみません
- 良くも悪くも教員が年度の途中に異動しにくい、処分されにくい、されても大した処分がされない等イメージかも知れないですが諦めてしまう要素が多いのも問題かなと。
- このイメージはわたしももってました。今となってはもっと上、教育委員会に言えば良かったと思って

ます。

- 僕の通っていた小学校に遊ぶところと予約無しで相談できる部屋があるんですけど、それを規模を大きくして各小学校区に「最低でも」一つは設置するとかどうですかね。（職員がいるのは）毎日ではなかったですね… 1 日辺りの人数も増やしてある程度交代で土日も動けるようにしたらいいかなと。自治体や学校とも連携は必須だと思います。できるなら 24 時間体制で逃げ場所としても使えるようにしたらなおいいかなと

E 班（大学生･20 代６名）

◆前提確認：「若者」と「おとな」の違い

- 前提としてお伺いしたいのですが、「若者」と「おとな」の違いというか、指している人はどんな人でしょうか…？
- 私も知りたいです！こどもは「心身の発達の過程にある者」って定義があったと思うんですが、若者やおとなには定義があるんでしょうか…
- ファシリ）返信遅くなってしまってすみません🙇全然大丈夫ですよ！今確認のために聞いているのでまた伝えます！私は、こども（5 歳ごろ～18 歳未満）で若者（18 歳～30 歳未満)だと認識しています
- 確認ありがとうございます！！おとなは（18～＝成人)ってことですか?
- ファシリ）定義としては、まずこどもは、心身の発達の過程にある者です。若者は、この中間整理では、思春期・青年期の者を指しています。（こどもと重なり合う部分もあります)おとなは、こどもではない（心身が発達した者）を指しています。年齢などでの明確な区切りはなくて、重なり合う部分があるので難しいところではあります..こども家庭庁の方によると、18 歳や 20 歳といった年齢で支援が途切れないようにするため、18 歳＝成人からおとな、などでの区切りは設けていないということです。
- なるほど！正直あんまり理解はできてませんが笑意図は十分理解しました！
- ありがとうございます！支援が途切れないように年齢で区切っていないということは理解しました若者はこども・おとなとはちょっと違った分け方なんですね
- ファシリ）こども、若者、大人の定義が曖昧だという意見ありがとうございます！資料だと若者は「思春期」（中学生年代からおおむね 18 歳まで）、「青年期」（おおむね 18 歳以降から概ね 30 歳未満）と書かれているので、それ以上（30 歳～)が大人だと記載されているので、こちらを参考に思ったことをノートに書いてください✏青年期はアイデンティティ確立の時期であり、自分がどのような人間で何をしたいのか悩み時期であると学びました。なので、大人は自立して責任を負う立場になることだと私は考えています。

◆テーマ２①：「こども政策を進めていくときに大切にすること（基本的な方針)」について
（「大切にする６つのこと」についてどう思うか）

- 概ね同意します！ただ、先ほどお伺いしたように「若者」と「おとな」の違い、切れ目ないように支援ということは「おとな」になったら誰が支援するのかなど一見でわからないことも多い気もしますので、適切な説明が必要だと思いました。また、これが広く知られることが重要だと思うので、情報感度があまり高くない？家庭や、広い世代に知ってもらうためにはを考える必要があると思いました。

- 多様性を尊重しそれぞれが生きやすい社会にするという所は良いと思いました。しかし若者で結婚や子育てをしない人にも生きやすい社会にするために社会全体で支えていくことも考える必要があると感じました。
- ②について、こども若者↔行政で意見がやりとりできるだけでは社会に声が届くとは言えないかなと思います。⑥に繋げるためにも、声が社会に届くとはどういうことかを考えると、政策への反映に留まらず、こども若者がどのような考えを持っているかを世間の人が認知して「こども若者はこういったことを考えているんだな」と知らせられる機会も必要かと思います。
- 特に③や⑤は、重要だと感じます。子育て支援の制度は、多くは成人になるあるいは、就職したり、社会人になるよりずっと前に打ち切られてしまうものも多く、高校生～大学生くらいの年齢の若者に対する支援は、サービスも、金銭面でも不足しているように感じてしまいます。奨学金のような事実上のローンを背負わせてしまうことも、若者が結婚したくてもできなかったり、起業などにチャレンジしたくても踏みとどまってしまう原因になっていると思います。

◆テーマ２②：「こども政策を進めていくときに大切にすること（基本的な方針）」について
（どんなところがいいと思うか？どんなところをもっとよくすることができると思う？）

- 「こども施策にこども・若者の意見を反映させることが必要だということ」「こどもの意見を聞くための方法が複数例示されていること」「地方自治体のこども計画の策定を支援すると書かれていること」がいいなーと思いました！特に自治体の計画策定にあたっては、こどもの意見聴取の方法を教えることなども含めて支援してほしいです地元のこども計画の会議（公開）では、こどもは自分の意見を伝えられないから、こどもではなく保育者に聞いたほうが良いという意見もあったので…
- ちょっと考えてしまったのは、このスライドには載っていないのですが、未来を担う、次代を担うという言葉が何度か使われていることです。こどもと関わりのないおとなにも、こども施策に協力してもらうには必要な記載のような気もします…でも、ちょっとプレッシャーというか、未来を担う代わりに大切に育ててあげるよというようにも聞こえるような感じがします
- 基本的な方針について良いと思った所は多様性が尊重されていたり国や地方自治体など社会全体でこどもや若者を支援するということです。もっと良くできる所は４つ目の「困っている人にはその人に合ったサポートを」の所で一人一人に向き合った支援を学校教育や社会教育でどのように支援していくのか適切に説明した方が良いと思いました。例えば年齢や家庭の事情毎にも支援の内容は変わってくることです。また６つ目に関してで国や地方自治体毎にも教育や家庭への支援はバラバラだと感じるので例えば教育だと住んでいる場所によって教育の質や支援の充実度が異なってくることのないようにしてみんなが平等に教育を受けられるシステムにできると感じています。
- いいと思うことは、「こどもも人権の主体であるということが明記されていること」「きちんと意見を聞くことが明記されていること」「ずっと支えることが明記されていること」「包括的な支援をする旨が明示されていること」。もっと良くすることは、「"人権の主体"って実際どうすれば人権を守れているの

かわからない。（わたしはセミナー受けたり大学の時国際法の授業受けたり少しは身近なのですが、普段の生活ではあまり意識してないしわかりづらいと思います）。」「ずっと支えるってどんな支援があるの？本当に支えてくれるの？（例えば国のトップが変わっても同じ内容で支えられる？というところは素直に疑問です）」

- 良いと思う点は「こどもや若者中心のグループの応援・他の国の施策を取り込む姿勢」です。こどもや若者の活動を活性化していこうという積極的な意識があると感じました。加えて、他の国の施策を調査・研究することに加え、適切に取り入れ発展させることが大切だと感じました。また、「子育てを検討していない若者世帯」「不妊治療・不育治療をしている方」への金銭的施策も検討できるとより良いと感じました。
- こどもの意見を聞いてプロセスに参加してもらうことは良いと思いました。一方で、こどもといっても、貧困家庭の人から、裕福な家に生まれた人、あるいは、外国人だったり、性的少数者だったり、色々な人がいる中で、誰ひとり取り残さないためには、多様なバックグラウンドをもったこどもから意見を聞くことも重視しないといけないと感じました。あとは、今は日本では金銭面のサポート（教育無償化や医療費等）がやっぱり遅れてしまっているのかなと感じます。
- 朝考えて追記です！有給制度がありますが、小さいこどもを持つ方にはもっと休みやすくするといいなと思いました！例えば有給の付与日数を増やすなどです！有給も取れる日数が限られていますが、予想外にこどもの体調不良で休むことが多い気がします。

◆テーマ２③：「こども政策を進めていくときに大切にすること（基本的な方針）」について
（他にどんなことを大切にすると良いと思うか？）

- お金だけではなく、個々人の心の余裕がある生活ができる社会づくりを大切にしていけると良いと思います。
- これは情報をどのように拡散するかが大事な気がしますが、こどもに選択肢が適切に与えられ、かつ自分で選択できるは大切だと思いました！
- 2 番目の質問で●さんがおっしゃっていた、地域格差を作らないということを大切にしてほしいです！自治体にお金があるか、市長がこども施策に力を入れるかによって格差が出ると、どこに生まれるかの運が重要な社会になってしまうと思います
  - ➢ こういう言葉をあまり使いたくないですが、親ガチャの地域版ですね…それはわかります……！！
- 私が基本的な方針の他に大切にしてほしいことは若者がお金に困ることなく自分の進路を選べるようにすることです。例えば OECD 加盟国の中で日本の教育機関に対する公的支出が加盟国 34 ヵ国中最下位であることが挙げられます。教育に力を入れなければ国は衰退していくことになる上、子供たちの将来の可能性を閉ざしてしまうことにも繋がります。だからこども達が望んだ方向に進めるように教育費を出すべき所に出したり受験方法を変えたりする工夫が必要になってく

ると思います。コメントが長くなってしまいすみません。

- 情報格差、またこどもも人権の主体であると無視される？状況から、こどもたちにとって家庭や大人に意見を伝えるのは実は難しいことなのでは、と思っています。私たちは経験や一般論、またそれぞれ勉強してきた意識でその意見がある程度正しいと信じ込んで？発言できるようになってるまでなのかも？とも思います。ただ、意見に正しいも間違いも無いということは追記しておきます！
- 自分で選択できること、●さんの意見を聞いて私も大事だと思いました！小さな年齢のこどもでも、周りの大人が勝手に決めずに本人の意見を聞いて一緒に決めていくことが必要だと思います
- ●さんではないのですが…わたしは「心理的安全性」が大切だと思います！家庭だけでなく、学校やまちにおいても、「受け入れられる」経験は大切な気がしました！
- 私がもう一つ大切にしてほしいことはこどもや若者が不同意に性的虐待を受けたりしないように社会全体が支えることです。学校や塾などでこどもが被害に遭うことがないように社会がシステムを構築していくべきだと思っています。
- 意識的なデジタルデトックスの時間や機会づくりが必要だと感じます。コロナ禍でデジタル化が促進しスマホやPC等を見る頻度が増え、気づかないうちに脳が疲れていると思っています。また、今のこどもは家庭で動画を見ることに加え学校でもタブレットなどを使う時間が増えていると思います。そのため、脳を休ませる時間として、電子機器から離れる時間や機会を設けられると良いと思いました。こどもに対してはボードゲームなどのアナログの遊びや自然との触れ合い、若者に対しては仮眠や友人・仲間とお茶をする時間などでデジタルデトックスができると思います。
- 自分が一生懸命に考えた意見が受け入れられたら自信や自己肯定感につながるし、逆にへらへら笑われたら二度と意見を言えなくなると思います…意見が通るかは別としても受け入れられることは大事ですよね
- これでいうと、塾なんかにも奨学金を出してほしいなーと思います。都内の子と話していると、小学生の時から中学受験に向けて勉強しているし、簡単には格差は縮まらないとおもいますがせめてそこがお金が出れば選択肢が増える子もいるのでは無いでしょうか。また、言語的にも格差はあると思います。日本にいるこどもたちには全員に広まるべきだと思います。
- 塾の奨学金賛成です！塾に限らず、英会話やスポーツなどこどもの「習い事」に使える奨学金制度があるといいなと感じました。
- 塾に通えない子もいると思うので、例えば通信教育にも同等の奨学金があるといいと思いました！また、親の所得制限は（必要なことかもしれませんが)、こども心としては親がたくさん稼いでいる…というのは申し訳なさなどの心理的負担の軽減にはならないなーと思います。お金がかかるという心理的負担から進路に悩むことがないようにしてほしいです…！
- 不登校やヤングケアラーになってしまってその後の進路選択に多くの（マイナスの)影響を与えてしまった例が周りにあるのですが少しのエラーが起きても"ちゃんと社会に戻れるように"して欲しいです。（""内が適切の言い方がわからなかったのでとりあえずこれでご容赦ください)

教育機関ではないですが、所得・こどもの数に関係なく保育園も無償化の対象になると嬉しいで

すね。生活費を稼ぐための共働きなのに、所得が増えると保育料も上がって結果的に家計を圧迫しています。そのうえ教育資金を貯めるとなるとかなり厳しいです…。

- 教育費は働き損にならないようにしてほしいです保育料もそうですが、高校の無償化や給付型奨学金など、こどもが生まれたら働くのをやめたほうがお得？なのかなーと思うときがあります
- わかります…！結局最初から所得に対してお金がかかりすぎていることから始まっていて、こどもを持つことは贅沢なことという意識は実はあります…！あとは、「こどもを持つほど自分はしっかりしていない（＝責任が取れない？）」とも思っていて、それは核家族化が進んで頼れる人が少ない事も要因の一つだと思います！市区町村ではこどもを持つ親のための施設やイベントがたくさんありますが、こどもをもつ前には届かないので結局責任を"背負いすぎる"のはあるかもしれません。
- わかります！子育ては仕事とは違ってやめることもできないので余計慎重になるし、SNS を見ると大変って話ばかりで私には無理かなって思います…こどもや保護者と気軽に関わることができる機会があったらいいなって思っています
- こどもを持つってことにおいては SNS は毒だなぁと思います。なんかこどもが言うこと聞いてくれないとか旦那が手伝ってくれないとか、義母との闘いみたいなアカウントしか出てこないし、もはや結婚って義母との戦いなのでは…？とすら思っています笑笑話が逸れました笑すみません笑笑
- あと、こども家庭庁は意図的に子供ではなくこどもと使ってると思うのですがなぜなのか、もう少し広まるといいなぁと思います！この話し合いの場では本筋ではないので表記ブレは気にしない方がいいかもですが…！
- 当事者のこどもにも分かりやすくという意図でしたっけ…？全然関係ないのですが、保育関係では法律の関係上「こども」表記、でも今度のこども誰でも通園制度は「こども」だったりして私が仕事で大混乱しています…ロ
- わかります…表記揺れ意外としんどいです。まだこども関係者以外は子供と書くし…
- SNS の普及は一長一短ですよね。楽しいや嬉しいことを共有すると疎まれがちになってしまい、共感を得やすい「育児や子育ては大変」という投稿が増えているように思えます。こどもや保護者と触れ合う機会をつくるのは、情報に左右されにくく良いと思います!
- そうですよね～！本来自分のこどもなんてだれよりも愛おしい存在のはずですし、そこに明るい未来像を描ききれないのは悲しいなと素直に思いますロ
- ●さんのデジタルデトックスの話とも近いのですが、特に中高生はちょっと 1 日の中にやることを詰め込みすぎだと思っています学校、部活、塾、習い事、宿題、模試と毎日朝から晩まで休みがなく、ごはんや睡眠も十分にとれません。部活を強制にするのをやめたり宿題を減らしたりすると、もうちょっと余裕ができるのかなと思います。
- ファシリ）あと、●さんが指摘してくれたデジタルデトックスも大切だと思います！最近は小さい頃からタブレット等で動画を見たり、ゲームをしたりする子をよく見かけるようになってそれ以外のことをする時間も必要だと感じます。
- それもめちゃくちゃ同感です…！こども向けのボランティアをしていて、こどもとスケジュール調整をし

てみると週 5～6 くらいで習い事や部活で埋まっていて、今の子忙しいなぁ…と思ってます。

- 忙しすぎて自分の将来を考える暇もないんじゃないかなーと思います周りの大人が勧めるとおりに突っ走って、働き始めてからよくよく考えたら全然自分のやりたいことじゃない！ってならないといいんですが…
- 習い事に行ける or 行けない、も体験格差や学力格差に繋がるのと同時に、あまり詰め込み過ぎて時間や体力に余裕が無い生活では心のゆとりも生まれないですよね…学校から帰ってきたこどもを見る人がいない、という理由で託児の延長のように習い事を入れている家庭も多いようなので、「ひとり親家庭や身近に頼る人のいない家庭でも、そうしたいと考えれば労働時間を調整してこどもの傍に居られるように、子育てしやすい働き方改革や所得保障を進める」「こどもは何かに追われることなく、親は金銭負担を気にすることなく、気軽に過ごせるこどものための居場所づくり（児童館等の増加・人員強化など）を進める」などが必要なのかなと思いました。長々すみません！
- 戻れる社会、重要だと思います！こどもの頃から遊ばずに勉強しないといい大学にいけない→稼げる仕事に就けない→お金が無いと将来が不安といった恐怖が社会全体にあると思います🤔世の中の全ての仕事が、安心して働ける職場（生活苦に陥らないだけの稼ぎが得られる）になり、いつでも所属できる（就労に苦労しない）ことが、若者にとっても、子育て世代にとっても、それを見て手本とするこどもにとっても重要だと思います。
- めちゃくちゃわかります、専門的な学問（法学や医学）以外はどこの大学からでも入れるようになればいいのになぁと思います。その中でも成績優位者が～とかはあるかもですが、今の社会よりはマシかと…！
- ファシリ）すごくわかります。子育てをする上で問題になるのが金銭面のことで、教育費のことを考えると不安なことも多いと思います。だからこそ、こどもを育てるだけの収入が得られる安定した職場が必要であり、若者や子育て世代にとってもメリットのある働き方改革が必要だと思います！

◆テーマ３①：「取り組むこと（重要事項）」について（学童期・思春期）
（〔学童期・思春期（6～18 才くらい）のこどものための取組〕についてどのように思うか？）

- 18 才で成人する前に、社会で生きていくために必要な知識を身につけられるようにする。「知識」だけでなく「知識を実践」できる力を身につけることも必要だと思いました。
  - ファシリ）確かに知識を身につけるだけではなく、その知識を実践できる場は必要ですね！私は中学生の頃にあった職場体験が実践の場として挙げられると思いました！●さんは、どのような実践の場が必要だと思いますか？
  - 職場体験、私も中学生の時にしました！業種・職種も増えているので、体験先の企業や受け入れ人数が増えると良いなと思います。「知識を実践」できる場として、英語(第二外国語など）をアウトプットする機会が増えると良いなと思いました。例えばネイティブの方との

会話やゲームを使ったアウトプットなどです。この時、間違ってもいいので話すことが楽しいと思えることが大切だと思います。そのほか、性教育に関しても必要だと思いました。例えば避妊について座学や動画を見ることはあっても、模型での実践や避妊具自体を見ることはなかったなと。こちらはデリケートなテーマですが、望まぬ妊娠をしない為にも大切な事だと思っています。

- この年代では、全てのこどもに・安心安全＝居心地の良さを守ること・沢山の経験を積む機会を提供すること・個を尊重することが重要とされて、このように纏まったのかなと感じます。世の中の大半のこどもは、この時期には学校で過ごす時間が長いことを踏まえてか、取り組みの多くは学校で対応することが前提となっているように感じました。しかし、「多様なこどもの個々人に丁寧な対応をする」「様々な経験を積める機会を提供する」といった取り組みは、具体的に実践するとなるとテンプレートもなければここまでやれば満点という天井もないものなので、このような指針をふんわりと学校に設定することは、ただでさえ激務が問題と化している学校教員の負担増と質の低下に直結するように思いました。私は「安心安全＝居心地の良さを守ること」の為には、こどもが頼れる身近な大人を増やすべきだと思うので、学校で勤務する職員を人数面でも専門性の面でも増やすこと、待遇を向上させること、そして学校以外の居場所も同様に充実させることが必要だと考えます。
- 学校を安心して過ごし学べる場所にするために先生の負担を減らしたり多様な人を雇って子供の学びの場を増やした方が良いと思います。また子供がありのままでいられるようにするには学校の規則を厳しくしすぎない方が良いと考えます。

◆テーマ３②：「取り組むこと（重要事項）」について（学童期・思春期）
（どんなところがいいと思うか？どんなところをもっとよくすることができると思うか？）

- 不登校や中退といった、規定の道から逸れたこどもについて、戻すことに力を入れるのでなくその道を進むためにどんなフォローができるのかを想定している点が素敵だと思いました。成人前に必要な知識を身につけられるようにする、心身の安全を保障する、等の内容も、どんな道を進むこどもにとっても基礎となる点だと感じるので、重要だと思います。ただ、「取り組みについて」と銘打つには少々具体性に欠けるのではないかと思いました。
- 学校を子供の居場所にするために多様な機関が協力しあうことは大事で良いと感じます。しかし社会で生きていくために必要な知識を身につけられるように受験方法の変更や多様な進路や就職の選択肢を子供に与えてあげた方が良いと思います。
- 網羅的に書かれていると思うので、蛇足でしたら恐縮なのですが、、、被虐待児やヤングケアラーになってしまって保護者を頼れない状況になった際にはイレギュラー対応として保険証やお金を持っていなくても病院で診てもらえるようになるといいなと思います。の上話で恐縮ですが、私も高校生の頃実は親をケアしていた、いわゆる元ヤングケアラーでした。片方の親は海外へ単身赴任の為親は頼れず、親戚も遠方に住んでおり、私が市の保健所に「なにか行政に頼れないのか」と伺

ったことがあるのですが当時未成年だったため結果なにもできなかった。ということがありました。本来学校やこう言った行政の施設でキャッチアップができると助けられる子どもが増えると思います。改善できるものだったので、今はそういったケアは必要ないのですが、当時は割と行き詰まり感がすごかったのでこれからはないようにしてほしいなと思います。私情で申し訳ないですが…

- ●さんのお話も伺って、医療を受ける権利と通信手段の確保は、こどもの置かれる状況によっては衣食住と同程度の重要性を感じ、行政やその他機関の保障が必要であるように思います。虐待や医療ネグレクトは発覚しないまま最悪の事態に繋がったり、本人が成人することでサバイバーとなる（＝発達上重要なこども期に長期間大変な状況に置かれる）事案も多いように見聞きします。まず親の目を盗んでの通報が難しいこと、通報されても適切な対応がなされないことが問題だと思うので、こどもだけで機関に繋がれること、繋がれば適切な支援が受けられることが必要だと思いました。医療券やタクシー券やテレカなどの配布などが今浮かびましたが、自分で使えるか考えると難しそうなので、身ひとつで駆け込めば助けてもらえる、という場所があれば良いと思うのですが、現状は交番も児相も親権には勝てないので難しいですよね……親権の強さがもう少し緩和されるべきなのでは？と思うことがあります😕長文すみません！
- ありがとうございます！私は緊急時には学校の養護教諭がいろいろ手配できると良いのかなと思いました！(先生方は数も足りず、仕事量も多いと聞いたので…)また、私は当時カウンセラーの先生に気持ちを吐き出すことでメンタルのバランスが取れていたのでカウンセラーの先生も常駐、もしくは今より高頻度でいてくれるといいのかな、とも思います！わたしがヤングケアラーだったのは高校生とある程度自分で情報の取得ができたり、判断をつけることができる年齢だったのでまだ幸い…？だったのですが、小学生や中学生だったら…と思うとおとなが子どもに何が出来るのかしっかり詰めるべきだと思います。
- 担任など特に近しく関わる先生、養護教諭の先生、カウンセラーの先生、なるべく多くの色々な専門性を持つ大人がこども一人一人を丁寧に見れる状況が整うといいなと思います。なので、こども支援の文脈でも教育現場（心理やソーシャルワークや法務の専門家含む）の働き方改革が進むべきだと思います！こどもが助けて貰ったり教えを受けたりする相手であるはずの先生に余裕や知識がなく、こどもが傷付けられることもままあると思うので……😥
- これは本当にそうですよね…！また最近はタブレットを学校配布している？と聞くことがあるのですが、一人ひとりタブレットを持っているならそこから SOS を出せると子どものプライバシーも配慮できるのでは….と考えました！
- あと、話は変わるのですが、「居場所」ってとても難しいと思いました…！作られた「居場所」は自分の「居場所」じゃないな、と思う子もいるだろうなと思うので…！
- ●さんと●さんのお話を聞いて、養護教諭やスクールカウンセラー・ソーシャルワーカーが子どもにとってもっと身近になればいいなと思いました。保健室は怪我しないとなかなか行かない場所だし、カウンセラーさんは顔を見たこともありませんでした。雑談もしたことのない相手に相談するのは難しいのかなと思います
- 以下、かなり私見になります💦教育現場で求められる人物像は対人援助職の枠に近いと思う

んですが、今の余裕のなさで働き続けられる人材は・最低限を回す手抜きの上手い人・支配性の強い人・マニュアル通りに動く人な感じがあります（私見ですみません）周囲の教員と教員志望者は、仕事のできる人ほど他の道へ行き、優しい人は退職 or 休職 or その寸前、といった感じです😥そもそも目指す人の想いとして、・公務員の安定性を求める人・こどもに邪な思いで近付きたい人・人の上に立ちたい人・自分の学生時代の延長戦だと思っている人・教科の研究をしたい人といった、こどものウェルビーイングに興味のない人も多いように感じます（私が関わったり話したりした人の範囲です）なり手のいない職種でありながらも個人的なメリットを見出して激務をこなしてくださる先生方に、向いてないから辞めた方がいい、と言うのは酷い話だと思います。ですから、専門職を学校に増やして、授業/行事/部活動/生活指導など教員が生徒の日中生活全ての指導を担う現状が変化するだけでも多少良い方向へ変わるように思います。一番は待遇改善だと思います！弁明の余地のない体罰や淫行で免許取消にならないことは、教員不足以外に理由を見い出せません…

- 近くの大学生に定期的に学校に来てもらって、困りごとに限らずなんでも相談できたらいいなと思いましたいろいろなことを知っているおとなに話すのもいいけれど、年が近いほうが話しやすいこども も多いのかなと思います
- 教員現場の働き方改革はとても必要だと思います！カウンセラーやソーシャルワーカーもこどもと関わる機関での実習などを取り入れ、少しでも経験できると良いなと思いました。また、●さんのような SOS として、スクールカウンセラーがいない時間帯は、支給されているタブレットなどで連絡できる仕組みがあると良いなと思いました。
- 確かに、例えば教職課程を取っている方が(多分これはまだ"ななめの関係"だと思います)子どもたちに話を聞くが出来ると良いかもですね！
- 同じく身内や友人に教職員が多くおります。教員の業務内容は、授業そのものから授業準備、生徒指導、保護者対応、授業以外の仕事、部活指導などかなり幅広いようです。私は教免を取りましたが、業務内容が幅広くそれに対しての給与が低いと感じたため教員にはなりませんでした…。私立高校では部活に講師を呼んだり、育休を取りやすかったりと柔軟な対応をしているところもあるようです。
- 私立高校が比較的待遇がいいのはなぜなんでしょうか…？単純にお金があるためですか？もしくは民間なので柔軟に対応できるためですか？
- たしかにそうですね！教育実習以外でこどもと触れ合う機会があると良いなと思います。教職課程では教育実習でこどもと触れ合う機会がありますが、私の経験では生徒とちゃんと話したり触れ合えた記憶がありません….。教科にもよると思いますが、深夜まで授業づくりや授業の練習をしたりで精一杯でした。
- あと、そもそも何が悪い状況なのかを知っているというのは大切なことだと思います。SOS を出してもらうためには適切な情報共有がされることが必須だと思います！友人から聞いた話でしかないのてすが、教育実習は大変というイメージが強いです…
- 私は教員養成課程ではないのですが、同じ大学院に社会人院生として通うスクールソーシャル

ワーカーの方の紹介で、●さんの仰るような取り組みを中学校の別室登校の生徒を対象に実施しています！楽しげに話す生徒を見ると、居ないよりは多分それなりに役には立てていると思うのですが、やはり聞くだけで何も出来ないことは歯がゆく、先生からは「甘やかさないでね」など言われることがあり、きついなあと思います。話をしたり、勉強を教えたりといった大学生による類似のボランティアは結構あるんですが、周囲に大学がない小中学校はそれが難しいんですよね。報酬も交通手段もないと、苦学生には難しいです。この点は地方格差とも言えるかなと思います。私の次に同じ形で入る人も見つかって居ません。カウンセラーの先生からは「あなたは教職課程を通ってないんですよね？こどもとの関わり方を専門的に学んでいない人が、特に関わり方が難しい子と安易に関わるとトラブルになりやすいので心配なんですよね…」と言われています🤔

- やはり、民間なので柔軟に対応できるのはあると思います。また、一般企業に就職した方が校長・理事長になっているパターンもあり、新しい風を取り入れているのだと思います。私も、教免を持ちつつも「現場としては教育がデリケートなので、深いところまで話すのは難しいと思う」と言われたことがあります。スクールカウンセラーの方も、実際に教員として授業していた方だったりするそうです…教育課程を通っていなくても、サポーターとして実践したり、その仕事に就きながら勉強できる機会があると良いですよね！
- 自分の入っている中学校で、こどもへの当たりが強い大人のワンツートップが学習支援員の先生と養護教諭の先生なので、個人的には資格や経歴より適正だろうと思ってしまいます……こどもと関わる仕事から適正のない人が弾かれるようにしつつ、今懸命に働いている人を大切にするには、待遇の向上と倍率上げが一番だと思います
- 私は他に大切にしてほしいことは子どもの選択肢を増やしてあげることです。多様な進路・就職の選択肢を与えてあげた方が良いのではないでしょうか。例えば受験方法の変更です。今の受験方法だと社会で生きていくための知識は身につけづらいし、子供の選択肢が最近だんだん減っていると感じます。
- そうだったのですね。それはこどもが相談しづらい環境ですね…。適正は私も大切だと思います。●さんのおっしゃる通り、待遇の向上や倍率を上げ教員志望の母数を増やすことで、適正の有無をある程度ふるいにかけることが出来るようになると思います！教員不足で手当り次第採用し、教員の質が落ちてしまうのは避けたいところだと思います。
- 職業選択の自由(ってありましたよね…？)との兼ね合いはある気がしますが、教職課程を取る際には面接などの適正試験をしたりはできそうですよね…！もしご存知でしたら教えていただきたいのですが、そもそも成績をつけない教育方針もありますよね…なんというのか失念しましたが💦、不登校児の成績の付け方が気になりました、
- 取り組みあるんですね！報酬と交通手段は本当にそう思います…お金でない、遠い、先生に歓迎されないってなると、いくらこどもとの会話が楽しくてもモチベーション下がりそうです…関わり方を専門的に学んでいないと！っていうのは自分のこどもが関わり方の難しいこどもになる可能性もあるので、大学とかだけじゃなくて一般の人も勉強できたらいいなと思います
- 諸説ある中のいち学説ではありますが、私の大学の憲法学教授は「『職業選択の自由』とは、な

りたい職に就ける権利ではなくなりたくない職に就かされない権利として読むべきものです。僕がプロ野球選手になりたいと思ってもなれないのと同じで、その仕事に就く権利というものは誰にもありません」と主張されていました。厳しい言い方ながら一理はあるなと思わされましたし、同じ理屈で資格職を無資格者に開いていく今の教員制度の流れは少し怖いなと思うこともあります！なので、色々な人が、資格を取って適性を身につける努力をしてでもこの仕事に就きたい！と思うような魅力的な仕事になるといいなと思います。やりがいは大いにある仕事だと思いますので！

- なるほど…！ご教示ありがとうございます！そういう意味では、教員免許の取得にももう少し制限があってもよさそうですよね😉
- 教示と言われると恐縮ですすみません…！聞きかじった話ですのでそういう主張もあるのか、程度に思っていただけると幸いです🙇教員免許の取得については、今後簡単にされていきそうなのが本当に怖いですね…あと犯歴で取り消されるべきだと思います😥
- 別件ですが、ここにある・いじめを防ぐ・高校の中退を防ぐってそれぞれどうやって防ぐのかは気になりました…それぞれ複合的な問題な気がします…
- 一時期、大学院まで行かないと教員免許とれないようにしよう！みたいな話が出たこともあったような気がします…！でも教職の人気が下がったので制限ゆるめざるを得なくなったみたいなのを聞いたことがあります
- いやいや！わたしもうろ覚えだったので、知識をアップデートできて嬉しいです🌷わたしも親族に「とりあえず教職課程を取っておけ！」と言われていて、そういう"とりあえず" はやめて欲しいなと思います…！(事情があったのと私はあまり興味が持てなかったので受講しませんでしたが…)
- 多様な進路、就職の選択肢がある社会、素敵だと思います！多くの企業が課す大卒要件は本当に必要なのか？需要がありながらも経営形態として中小零細企業に留まる職に就いた人が生活苦に陥るのはその道を選んだその人のせいなのか？この辺を考えると、働き方改革と賃金上昇は未来を不安視することも（+その保護者）の為の政策にもなると思います。
- 適正のある先生が長く続けられるようにメンタルケアもしてほしいです…知り合いは試験頑張って先生になれたのに、毎日夜中の 2 時まで持ち帰り仕事、こどもからも親からも暴言吐かれる、他の先生も守ってくれない…って半年間で限界を迎えていました
- やはり 6～18 歳のこどもへの取り組みは彼らを取り巻く環境の改善が重要そうですよね…！
  - 本当にこれ思います…！！！そう思います！！！
  - ●さんと同じく同意です！
- 一方で本人(6～18 歳のこども)たちもちゃんと意見や考えを言えるように、緊急時以外でも言える環境＝受け入れられる場所＝居場所が必要なんでしょうね…すごい等式になりましたが……笑あとそういえばなのですが、通信大学など？で教員免許を取得して先生になっている方っているのでしょうか…？皆さんのお話を聞いていると少しでも民間などでの就業経験があるとあると違和感を覚えると思うのですが、そういう先生たちが声を上げるシステムってありますか……？
- 中途で新しいキャリアとして教員になる、という意味です！わかりづらくてすみません

- これは思いました！【いじめ】未然に防ぐ、というのは犯罪を未然に防ぐのと同じ話で、物理的に実行不可能なように環境を大幅に変える/刑罰を設けるといったことができずに省エネで実施することになれば、抑止力強化として上からの押さえ付けを強めたり自衛を呼びかけたりになると思います。それは不健全かなあ…と。未然に防ぐを目標とすると、起きた時点でミスとなりますし、それでは隠蔽の動きにも繋がります。やはり起きた or 起きかけた時に迅速に適切な対応をするシステムの構築が必要かと！個人的には被害者救済と加害者支援(≒更生)が両軸で行われるといいなと思います。【中退】こちらについては、なんなら防ぐことを掲げる重要性を感じませんでした。中退に至るまでにいじめや勉強についていけない等の問題があるならそれへの対処に言及すべきであると思います。ただ、中卒で社会に出ることで人生ハードモードになる、という実態があることは事実なので、中退後のフォローについての次の記載には同意します！
- 結構いらっしゃいますよ、でも周りの教員一本の方と馬が合わないうえに後輩の立場なので、意見は通らず変革の風にはならないですね……馴染めたら違和感は忘れちゃいますし、馴染めなかったらまた民間転職しちゃいます。公務員の安定性に魅力を感じて転職された方は、違和感を持ちつつ自分のできる範囲のみフォローといった印象です。
- すごい…！わたしも両方同意見でした！特に中退はもちろん経済的な問題や親の都合でなど自分の意思に反して辞めるのは阻止するべきだと思いますが、本人の意思であればあまり関与するべきではないのかな…と思います。義務教育ではないのに高校に行っていないと人生ハードモードになるの、なんか不思議ですよね
- 私は学歴だけの社会でなく、一人一人の子供に合った必要な支援をした方がいいと思っていると伝えたかったんです。
- 中退について同意見です！中退しようと思って高校入る人はきっとほとんどいないとは思いますでも、中退を防ぐ！！と言われると中退が良くないことみたいで、高校がしんどいこどもも中退しにくくなってしまうと思います
- 既定路線を外れるとどうにもならなくなる、という社会なのが総てに繋がる問題だと思うので、道は色々あるんだよ、という社会であればいいなと思います！
- なるほど……それじゃいつまでも待遇や環境の改善が行われませんね…外部から抜本的に行う必要がありそうです……社会人経験のある教員は需要ありそうなのに…
- ●さんの思い、他のコメント等からも伝わってます！！私のリプライが批判的に読めましたらすみません…！
- ありがとうございます！本当にそうですね…！それこそ昨日の戻れる社会というか…いくらでもやり直せる社会だといいですね…！
- ちょっと前の●さんの仰るとおり、大人がここがあなたの居場所です！と決めるのではなくて、こども自身が居場所だと思えるような場所であることが大事だと思います。それと、こどもの居場所はこどもの通えるところにあってほしいなと思います。居場所の 1 つに児童館があると思いますが、私の家から最寄りの児童館までは自転車で 40 分です…

- 遠いですね…例えば公園などは近くにありますか？
- 公園はもっと近くにあります！ただ小学生には行ける距離ではなかったかもしれないです…学区外だったので
- 公園もまちまちですよね…明るい公園もあれば割と老朽化がひどくてじめっとしたところもあるし…
- ですね…遊具も減っていくし不審者も出るし、こどもだけで楽しく安全に遊べる場所とは言えないところも結構あると思います
- あと、これは地域差が出ると思うのでお伺いしたいのですが、児童館や公民館でこども向けのイベントとかあるのでしょうか…？わたしの居住する東京は割とそういうのが盛んな気がしていてコミュニティセンター(＝公民館)でななめの関係づくりが意識的にされている印象を受けるので…！
- これに付随して発言すると、高校生の時から、下手したら中学生から自分の進路を決めていかないとなりたい職業に就けないと思うのですが、もっと社会や職業について知る機会があるといいなと思います。私は文理選択もなんとなく国語が得意だから文系にしたので、同じような子は多いのではと思います。
- 研究の関係で、学校現場、精神保健医療現場、刑事施設を研究フィールドにしている人とお話させていただく機会があるのですが、これらの共通点として「批判を浴びやすく、専門性特殊性の高い職場である」ことがあるんですよね。この特性がある場所はどうしても風通しの悪い旧態依然とした空気になるようですし、単に古いだけでなく一般の人の価値観とは大きく離れた考え方が普通のものとされていがちに思います。こういう場所を変えるには、外の人を入れるのが一番というのには同意するのですが、外の人への拒絶反応もまた特段強かったり…まずは周囲が、批判的な姿勢で「メスを入れてやりに来たんだぞ！」とするのでなく、「これからのこの場所、そしてこの場所にいる皆さんの為になにをすべきでしょうか、協力しませんか」とやるのがうまいやり方だと思います！だから、今回こども大綱が発布されて政策が作られていくとしても、現場への思いやりゼロな上意下達の無理やり感あるものでないようにして欲しいなと思います。
- 工作や工場見学など小学生向けはたまにありました！ただ親子参加が基本でななめの関係は作れなかったと思います
- おお…！ありがとうございます！そうですね、上から押し付けるようなものではなく横並びで実施して欲しいですね…！ひとりひとり想いはあるでしょうし丁寧に拾っていけるといいですよね…！そうなんですね…！親子参加が基本だとななめの関係を作るのは難しいですよね…でも子どもだけで呼ぶのも責任取れないし…ということなんでしょうかむずかしいですね…😭
- 学校の先生方、学校の不祥事に関する報道や文科省の新しい政策、保護者のクレームをいっそ敵の攻撃くらいに思っているふしがあるんですよね…でも先生方の考え方の問題と一概には言えないと思います、攻撃性のある投げかけも多いと思いますし、無い余裕を無闇に削ってくる、という点では先生たちにとって敵なのだと思いますが、悲しいなと思います😥
- 余裕のないところに新しい要素はもう敵と思ってもしかなたいですよね😭子どもたちや学校はもっと地域やまちで支えられるべきだなと思います。あとは取り巻く眼鏡の整備というところでは子ども

向けに開かれているイベントやNPO、ボランティアに経済的支援がされると先生たち以外でも子どもたちの問題をキャッチアップできる場所ができるのではと思いました！

- 横からすみません、私の過ごした地域はこどもだけの体験講座もあったと思いますが、参加同意書への保護者サインが必須だったように思います。話をしたり勉強したりお菓子を食べたりといったフリースペースであれば不要かもしれませんが、体験を提供しようと思うと親権の強さとこどもに関する責任問題の社会的風潮は重たいかなと思いますちなみに現在住んでいる自治体では、児童館含む児童向け行政施設は数も少なく、あまり機能していないように思います…😕
- 余裕のないのに攻撃的に指摘されたら、敵！ってなってもおかしくないですね…本来はみんなでこどもに良い教育を考えないといけないのに…保育では不適切保育が叩かれすぎてその園が閉園してしまうこともあって、こどもはバラバラの園に転園させられます本当にこどもにとってそれが良いことなのかな…と
- 特に文科省の新しい政策については、教育学部の友人たちは研究対象としてこまめに動向を追うぶん大臣が変わる度に大胆な発言が出たり新しい制度が数年おきに公示されたりといった状況に、色々と思うところが多かったようです。こども家庭庁も新生組織として色々な批判がありますが、想いに応える機関となったらいいなと思います！！
- ●さんありがとうございます～！！参加同意書…確かに…！地域の差がそういうところに現れるのは悲しいですね😥わたしもこども向けボランティアを運営していて、何があってはいけないとイベント保険をかけたり大切だけど本質に関係ないところで頭を悩ませています笑こういうヒアリングの機会を設けていただけるのは嬉しいですよね…！！活用されていない児童館などをこども向けのNPO やボランティアに開くのはいいのかなと思います！ボランティアをしていて、お金の問題と同じくらいの問題になるのは場所の問題で、拠点に出来る場所ができると活動の幅も広がる気がしました…！
- 素敵な機会ですよね！こども若者政策に限らず、どの分野においても・関係者に直接意見を聞く・聞かれている実感を得られる・意見が政治に反映される・意見が社会全体にも共有されるこれ全部必要だと思います！2 個目がなければ制度が続かず、4 個目がなければ分断が進むので…
- 同じく、このような機会を設けていただけるのは嬉しいと思っています！また、「自分は興味無い、自分には関係ない」と思っている方もいらっしゃると思うので、公的機関でのアンケートなど多くの方から潜在的な意見もヒアリングできる機会があると良いなと思います！
- そうですね！●さんのおっしゃる 3 個目、4 個目に期待したいです！

F 班（大学生･20 代６名）

◆テーマ３：「取り組むこと（重要事項）」について（青年期）

＜質問①～③について＞

- ②について、結婚のための出会いの場の支援とのことですが、その際に「壁ドン」を教えるみたいなことはもうしないでほしいかもです笑①について、かつては「こども」は家庭の所有物みたいに扱われていて、進路決定も進学も結婚相手も親が決定権の多くの割合を握っていましたが、やっと、「こどもがこどもの人生を主体的に選べるようにどう支援するか」にシフトしつつあるのかなぁという印象を受けました。とはいえ、まだまだ「進学支援」か「就職支援」みたいに選択肢は少ないままで現状のこどもの進路の悩みへの解像度は低いようですが……
- ①と②を重ねつつ、自分に合う仕事を見つけることや経験を積んでいくことに対して、もう少しゆっくりと余裕が欲しいなと感じます。就活も大学の早い段階から意識しなければならないし、とにかく経験や知識、専門性を持っている即戦力を求められる状況では息苦しくも感じてしまいます。いずれは自分に合う仕事を見つけたいですが、その反面で高校や大学を卒業してすぐに何か自分が一途に勤められる仕事に就きたいか聞かれると私は No かなと思います。
  - そうですよね。「何もしない」をする時間ってとても重要だと思います。自己理解も深まりますものね。それが巡り巡って個人の人生を豊かにしますし、世界を豊かなると思います。そういう意味では、（工学で使うような言葉かもしれませんが）「遊び」が必要かなぁなんて思ったり……
- ③について、虐待を受けていたとしても偶然たまたま運良く（?）生き延びることが「できてしまった」人や、虐待と判断されなかったが家庭が安全じゃなかった人は、自分の人生を生きることが困難になります。体力・財力を消耗させられ、ずっと足を引っ張られて来て、助けても貰えず、生きる希望がないからです。そういう人の存在をどうか認めてほしいです。そして、最低限でも、DV 被害者支援と同等の支援（住宅や夜逃げや心身のケアなど）のを検討してほしいなぁと思います。

  そもそも私は家庭を持つということが怖くて……結婚しようとも思えません。そんな私の意見で良ければなのですが、余り「女性らしさ」とか「男性らしさ」を押し付けるような婚活アドバイス・婚活指南はしないでほしいです。なお、先の「壁ドン」については内閣府・男女共同参画局が主催する「人生 100 年時代の結婚と家族に関する研究会」で出た案なんですよね……。内閣府が出した案で当時も相当燃えた案だったので、こども家庭庁の企画のファシリテーターさんも当然ご存知かと思ったのですが笑あとは、失敗をすることを織り込み済みの制度や支援があると安心できます。たとえば、離婚をした後も差別や貧困の心配なく生活できるようにするとか。結婚することへのメリットがあると嬉しいという気持ちもあります。配偶者控除・扶養者控除が増えたら嬉しいんですけどね……。時代に逆行しますけど。（そんなことを言ったら結婚したい人を増やすこと自体、時代にそぐわないと言われそうですが……）追加で、「場」についてですが、私自身に結婚願望がないので、解像度の低い考えになりますが、職場や学校・あるいはそこにいる人からの紹介でも十

分かなぁなんて思ったりしています。でも、そういうところじゃ足りないと思うから「場」を増やす政策を打とうとしているんですものね……うーん……（そもそも家庭を持ち子を育てることを是としてそれを支援するのではもはや「子育て支援庁」になっちゃうのでは……？やっぱり個人としての幸せを追求した結果、結婚にたどり着くにはどういう政策がいいのでしょうかね……私もわからなくなってきました。）

- 就活のためのインターンなどを行うにしても、大学２年や３年の早期で行う場合は、採用や内定を出す目的のために行うのではなくて、職業体験的な位置付けで実際に自分が働こうとは思っていない業界などでもインターンできる前提があるといいなと思います。あと、高校生や大学に入ったばかりの頃であれば、みんなが知っている仕事だけをキャリア教育として扱うのではなく、もっと深いレベルでいろいろな仕事があることに触れたかったなと感じます。卒後、新社会人として働くころであれば、転職などのキャリアアップは１つの手段としてもっとハードルが低くなればと思います。それと、全体的なところではあえてなにも支援しないというのも１つの方法かなと思います。デンマークなどの北欧で行われている「ギャップイヤー」を設けて、自由に経験を積む時間と猶予を与えてもらえることも大切かなと思います。
- 私は父子家庭だったので、大学進学を諦めました。というよりやりたいことが明確にないかなで当時私が感じていた家庭環境で大学進学は親の負担でしかないのではと感じ候補にありませんでした。大学費用の免除（奨学金は大人になっても大変なことがあるとこどもながらに感じ借りるつもりがありませんでした）があればもしかしたら候補にあったかもしれません。しかし、いまは自分のキャリアにも満足していますし、大学に行きたければ大人になってもいけること、大学だけが正解でもないと感じています。18 才で大学進学が定番のような風潮がなくれば、いつでも行きたい人がいける学校だともっと浸透してくれれば、大学にいけない・行かないことに劣等感を感じる人は減るのではないのでしょうか。高校無償化はこどもながらにやった！と感じた記憶があるのでありがたかったです。（きっと親も）給与をあげると最近はたくさんききますが、実際法人本部で働く身としては、給与を挙げられるほど国支援をいただいているわけでもなけえば、支援をもらうための事務負担・制度理解力もかなりのため、できる人しかやれない申請となり独人化しやすいと感じます。
- ギャップイヤー、いいですよね。私にも欲しいです。笑なかなかどうして、現代は「忙しいこと」を善とする風潮があるように思います。目に見えない価値を創出する時間を大事にしないとも言うかもしれません。ギャップイヤーを設けても、「ギャップイヤーにこういう社会奉仕活動をしました！」とか「学生時代に勉強にも生徒会活動にも部活にも取り組みました！」みたいな人のみを評価する価値観が変わらないといけないタイミングなのかもしれませんね。寄り道も、道草も、回り道も、全てに価値を見出す社会ができたら、みんなもっと幸せになれそうです。
  - 寄り道も、道草も、回り道も、全てに価値を見出す社会が実現してほしいです。
- 後追いで申し訳ないですが。職業訓練、経験はスキルアップ、キャリアアップにもなるし、例えば引きこもり児童の社会復帰の助力にもなると思います。もっと、多職種と触れ合う機会や体験する機会が拡充されればなとは思います。
- 大学の捉え方が柔軟になることは大切だと思います。自分の周りには、数年間にわたって休学し

ている人や、編入を使って今の大学に入った人、社会人枠で大学に入った方など、大学の使い方が多様な人たちがたまたま多いです。こうやって、いろいろな形を見ていると私も少し自由を感じます。無理して就活などに精神的な面で追われずにいられました。それでも私は高校卒業して大学に行くことを選択した、できた人（1 年間ふらふらしてからですが…）なので、あまり声を大きくしては言えないですが、たくさんの選択肢があって選ぶ権利があるはずだと思います。そして、それを保障するべきだと思います。

- 数年間にわたって休学している人や、編入を使って今の大学に入った人、社会人枠で大学に入った方など、大学の使い方が多様な人たちに共通している点としては、みなさん自分のしたいことや状況を明確に分かっていて、それに合った道として選んでいるように思います。現場で経験を積みたいから休学する、本当に自分の学びたいことを学ぶために編入するなど想いを持っていると感じます。現実的には、大学に入り直したりまたは大学に行かない選択する背景として消極的な理由（金銭面や学力など）から、そうなった人も多いと思います。でも、自分の周りにいるような積極的な理由で少し変わった道で大学などの高等教育を受けている人が輝くことで、まずは大学の捉え方が柔らかくなるのかなと思います。その結果として、たとえ金銭的な理由があったとしても、大学に行くことを選んだときには社会の評価に関わらず、その人自身で積極的な意味を見つけて学びにいけるといいなと思います
- わたしが実際 18 歳の進路が大学じゃなくてもいいか！と思えたのは、大学が面白い場所だと知ったからです。近くに通いで行ってる知人からどんな勉強をしているのか、校内も見てどういう環境なのか知りました。そこで一度大学に通いたいと感じ、働きながら通信大学へ通うことが選択肢にありました。（少し表現悪くなります。）でも当時わたしは通信というもの劣等感のような通うことに価値があるかと迷いがありました。ですが。調べれば調べるほど私の中では通信大学を卒業すること選択することを偉大さを知り、昼間部大学より通信大学がいい！と思えました。私談ではありますが、高校卒業時、当たり前かのように高校から通信大学の選択肢を提示するのはどうでしょうか。大学見学もみんなで集団でだけでなく、実際の講義に参加してみることがより自分ごととにて現実的に考えられるのでないかと感じます。また通信大学を選択肢として提示することと合わせて、海外での大学の考え方を多様な選択のひとつして周知するのはどうでしょうか。
- 私なんかは、家庭の養分でもなく、こどもを産み育てる機械でもなく、一人の人間として、自分の人生を「自分まんなか」で歩きたいって、ただそれだけを切に願っているだけなのです。そのためにはステレオタイプはなるべくない方が良くて、でも、多少あったほうがライフプランを描きやすくもあります。いい塩梅を探すとなると、やはりどのタイミングで大学行っても変じゃないという価値観の柔軟性や通信制の大学への理解とかとか（先輩も通っていたし、私自身もインストラクターとしての採点業務のお誘いをいただきましたのでなんか身近な感じがします）、ギャップイヤーへの理解とかが進むといいのかなぁと思います。明日もよろしくお願いします
- そのような自由な選択ができる社会というのは、つまるところ、誰もが一人の人間・自分の人生を主体的に生きる人として、尊重される社会なのではないでしょうか。そのため、自由に選択できる環境を整えるのはあくまでも手段で、目的は「個人として尊重される社会」を作ることだと思います。手段を目的としてしまうと、結局誰も幸せにならない予算だけ割かれた社会が作られるので、その

点も注意が必要なのではないでしょうか

- 結婚したい人が結婚できるように→出会いの場そのものを設定するというよりも、その場へ足を向けられるだけの金銭的・時間的余裕を持てることが大切なのではないかと思います。場そのものは現在民間の企業が提供しているものなどたくさんあるように感じています…それ自体よりも、結婚したいけれど、給与の低さ（それに伴う残業など)・奨学金の返済・物価の高騰など、結婚・子育てを行うことが「余裕のある人だけに与えられた贅沢な選択肢」のように感じられてしまう若者の置かれた現状を改善していく必要があるのではないでしょうか。
- ①③愛しあうってなんですか＆養子縁組制度最初は結婚や出産について考えました。わたしは誰かと愛しあいたい願望は特にないです。LGBTQ の用語で言えば、アロマンティックです。安定した家庭で育ちはしましたが、なぜ「血縁があるから愛しい」と考えるひとがいるのか未だに理解できません。親子関係が悪化しすぎて「5 年前に家から出てった親の顔はもう思い出せないしあんなヤツどうでもいい」と血の繋がった親を捨てるような言動をするひとも見てきました。血縁だけで親子の絆なんて信用できません。わたし自身がこどもを産むまえに、すでに産まれっぱなしのこどもたちを育てるほうが先ではないかと考えるようになりました。養子縁組は同じような価値観のパートナーが見つかれば利用してみたいと思います。愛しあいたい願望もないのでパートナーは見つかりませんが。養子縁組が当たり前になったらいいなと思います。
- ●さんのご意見の、「親子関係が悪化しすぎて……」以降全部について首取れそうなくらいうなずいています。私なんかは（大体皆さま察していらっしゃるかもしれませんが）家が安全じゃなかった上に助けてもらえなかった人間なので、国としてもフォローできないなら産ませないでよと思う立場ですし、親の勝手な都合で産み落とされて今なお不安定な立場にいる人間のことを助けてやってほしいと思っています。養子縁組や里親という制度がありながらその制度がフルに使われない。それはこどもをちゃんとした親（ちゃんとした親ってなんやねんって実務やってても思います。）に繋ぐためという面もありますが家族の絆とかいうカビの生えた不安定なものを国が未だに神聖視しているからであって……（相当歪んだ個人の見解です）怒りを感じることすらあります。それこそ、目的と手段の話ですよね。結婚できる社会を促進するのは少子高齢化を解決するという目的のための手段にすぎません。少子高齢化の解決という目的のために、結婚するという手段は本当に必要不可欠な最善手でしょうか。社会学上では、現代は脱社会化していると分析されることがあります。個人が独立して生きていられるように感じられるということです。その中で、家族という共同体を作り、所属することを求めること自体、政策として失当であるかもしれません。なんて思ったり笑。
- 個人が独立していく社会も確かに想定しながら、制度設計が必要かもしれないですね。もっと広義な視点で「生き方そのもの」の多様性が必要なのかなと思いました

意見交換ノート①［障害者の労働］

【障害者の労働について】
現在、わたしは障害者就労移行支援に通っています。①障害者雇用枠②オープン（一般枠で障害者であると明かして就職すること）のどちらかを目標にしています。障害者が社会で働くことで、おなじ職場の健常者の方々にご迷惑をおかけしてしまうことがあります。しかし、働かないわけにもいきません。障害者のなかで障害年金を受け取れるのは一部です。身体障害者では 35.8%が受給。知的障害者では 73.6%が受給。精神障害者では 14.8%が受給。（出典：厚生労働省平成 23 年版「障害者白書」厚生労働省、「身体障害者雇用実態調査」)お金のためには障害者も働かなければなりません。社会のお荷物として、企業が法定雇用率（全社員にたいする障害者雇用率)の基準を満たすためだけに障害者が働くのは、「労働」と言えるのでしょうか。

- テーマの提供ありがとうございます。私も発達障がいのあるこどもたちと関わる場におり、子どたちの将来の就労について考えることも少なくありません。自分たちの生活を自分たちの収入で支えられること働くことで社会へ参加し、貢献感を得られること障がいのある方・健常者の方どちらにも言えることですが、企業の駒としてではなく、全ての人が 1 人の人間として充実感を持った働き方ができるための社会・その仕組みについて考えてみたいです。
- 私は障害児心理学を専門分野として学んだり、研究したりしています。そうした中で、高等部や高校または大学から就労にかけての接続で果たして十分な支援や情報提供がされているか…と思っています。教職課程において障害のある生徒や学生がどう就労していくか、ましてや就労移行支援や事業所の存在はほとんど知ることのないまま現場にいくと思います。その現場に立ったら「経験して学ぶ」ということではカバーしきれないようにも思います。働くこと・労働することを考えるキャリア教育的な部分からも変化が必要な気がします。
- コメントありがとうございます。1 人の人間として生きることができる社会のためには、フリーランス・時短勤務などじぶんで働く時間を調整できる&それでも収入が下がりすぎないようになれば理想です。フルタイムで働けないひとや、精一杯がんばっても周囲と比較すると成果が少ないひとには、どうしてもお金が巡ってこないですね。障害が重いひとであればあるほどお金は必要ですがお金は稼ぎにくいです。わたしは同人活動をしています。生活費が誰かに保障されていれば、利益が出ない同人活動でもやり続けると思います。作品を読んでくださるひとがいればそれだけでうれしいです。
- 私も法人で障がい者雇用の手続きをサポートしているため、仕事をしながら率のために雇用しているのか？と納得いかない時があります。障がいをもっているかたでもなに変わりなく働ける方もいれば、他より優れている点が多い方もいます。それは障がいの有るからではなく、世の中全員の個性も同じではないのでしょうか。サポートや配慮が必要なことも承知します。そのため雇用しているから率を満たしている。短時間の人も雇用しているからなどで補助するだけでなく、その制度の本質やその制度を利用してどう働いていくのかより根本の周知が必要なのではないのでしょうか。あと現場には専門的な配慮のできる職員はいません。こそを国や行政のかたが定期的に事務的な

処理や監査などと監視てきな視線ではなく伴走としてサポートしてもらえると嬉しいなと感じます。

- コメントありがとうございます。障害者就労移行支援所では、「前職があったほうが企業に受かりやすい」と言われています。専門的な職能があると示しやすいからです。しかしそれでは、精神障害をその職場でわずらう可能性が上がってしまいます。傷つくことは避けられません。学生時代から就職のために利用できる制度は民間でありますが、有料です。その民間企業が SNS で発信していることに対象者が気づけないときもあると思います。役所に相談すれば紹介してもらえますが、役所に行く気力がないひとのために「エゴサのおに」として SNS で困っているひとに教えるひとも必要だと思います。対応は大変だと思いますが、SNS がすべてだと考えてしまっているひともいますし。民間企業で顧客が商品への不満を投稿したときに「〇〇様。この度は申し訳ございませんでした。こちらのページをご参照ください。」と対応するところもあります。そんなイメージです。甘え下手なひとには"甘やかしすぎなぐらい"甘えさせないと、知っていただけないと思います。
- 難しい状況を共有してくださりありがとうございます。私も仕事（副業のアルバイト）で障害者の人と一緒に働くことがあります。障害の程度にもよるかもしれませんが、迷惑とは思わないですね。でも、●さんの不安も当然生じるものだと思います。社会のお荷物になるかどうかは各職場によるかもしれないし、役員級の本部で働いている人は現場を知らない（忙しすぎて知ることもできない）ので率の為に雇用しているところもあるのかもしれません。そうじゃないところで、いきいき働けたらみんな幸せなのかなと思うのは綺麗事でしょうかね……個人的には、障害があろうとなかろうと、「何が苦手で何が得意で、どういうことに手助けが必要か」を言えると職場でお荷物になることなく活躍できるかなと思います。でもこの自己分析って難しいですよね。「社会のお荷物」じゃないぞ！って自信を取り戻せたらいいと思いますし、そういう支援・制度に関しては無料で利用できたり、ガッツリ公示してほしいですよね。そういうことにコストかけたほうが、国に入るお金も増えるのになぁ……なんて。職場と労働者のミスマッチがなければ●さんの言う「労働」になって、みんなハッピーになれるのかしら……
- 私の意見が私の本意とは違う理解に繋がり得る表現だったかなと思い、少々補足させてください。まず、●さんが障害を理由に甘えているとは全く思いません。私の言葉が●さんの自信を奪い、傷つけてしまっていたらそれは私の落ち度です。本当に申し訳ありません。職場と労働者のミスマッチが起きやすいのは事実だと思いますし、憲法の勤労の義務でもそうですが、働くことができるのにその意欲がない人間に法的支援を与えないという不利益処分を可能とするに過ぎず、働けるのに働かない者へ労働を強いることはできません（説明を端折りましたが、この分野はわりと私の専門になってしまい止まらなくなりそうなので許してください。）。この点からも、働けない状態に鞭を打ってまで働く必要はないと考えます。そこまでのレベルになると、もはや、●さんの言葉を借りれば「労働」ではなく「苦役」になってしまいますものね。そのミスマッチで傷つくことがないように、所謂健常者も障害者も自己分析をして「どの程度のお手伝いなら負担にならずにできるのか」、「どういうお手伝いが必要か」、「企業が補助金でどういうお手伝いをできるか」という凸凹を合わせる作業を惜しまずにすれば、「労働」になるのかなぁと思ったりしています。この作業は健常者の就活でも重要ですよね。また、その凸凹の合わない部分があまりにも大きいようなら他の企業を当たってみるとか、働けない状態であるとして年金の申請をすることにしてもいいのかなぁなんて思っていま

す。そして、どのような結果になっても自己分析とマッチングを惜しまず行った結果であれば、「甘え」によるものだとは、私は思いません。取り急ぎ補足でした。

- 厳しい言い方になるのを許してください。私自身が採用に携わっている関係上、他の応募者よりも能力が下、あるいは応募者自身に問題があれば不採用になるのが常です。一方で、問題がない、能力が充分であれば障がい者であろうとも雇われるのが一般的だと考えています（資格要件等除く）。●さん、●さんが触れているように本質は特定の職場の要件を除けば個人の資質である、もしくは個人の資質で有るべきと考えています。そのため、本質的には障がいの有無は考慮すべきではないかもしれません
- 少しずれますが、LGBTQ も話題に取り上げすぎていて、「当たり前化」できていないように感じています。障がいのある方についてもひとりひとり自ら生きていくすべを身につけている方たちが多いのではないかと感じます。しかし、（雇用する立場からの話をするのできつい言い方になったら住みません）働く上でサポートが必要になることも事実です。そのサポートが障がいの影響で他者より多くなることも想定されます。その面で国から補助が出ることはありがたいことなのかもしれません。もしかするといまの補助もそのためかもしれませんが、目的を理解できてない企業も多いと感じます。良くも悪くも罰則や罰金があれば取り組みますし、守るための手段を取ります。以前研修で過去に障がいや高齢の方々は市街から遠いところに追われるような施策をしていたと聞いたことがあります（真相はわかりません。その方の私観かもしれません。）確かに古い施設は私の地方は山沿いにあります。土地が安くて広いからというメリットもあるかと思いますが。もしの方の話が現実で起きていて、いまは障がい・老人・こどもみんなで手を取り合おう（同一法人で以上の施設を実施しよう)などとしているのであれば、一度過去の周知は現在には合わないものだったと認めて、今後のあるべき姿として発信することも必要だと感じます。法人だって誤りや誤認があれば日を認め、改善提案などを行っています。どうして国はそうしないのかなって思います。その辺りが丁寧に行われれば国発信する内容を国民も受け入れやすくなり、課題解決が迅速に行われるのではないでしょうか。（これはこのテーマ以外でも感じることです。）
- コメントありがとうございます。「障害者」として区切りすぎた結果、グレーゾーンや境界知能のひとは支援されにくくなっていますし、わたしも全ての困っているひとのためによりよい仕事内容・職場をつくる意識は大事だと思います。障害者雇用の面接で、障害に理解がない・障害名も知らない面接官しかいなかった話もよく聞きます。「障害者雇用」や「あらゆる障害名」が流行り過ぎて死語になるまで、当事者として発信していこうと考えています。診断名は対処法にたどり着くためにつけられたタイトルですから。対処法が分かれば、本来は「無題」でいいと思います。
- 「無題」という表現、すごく好きです。私もこれから使いたいです。分類して、区別をつけて、支援のルートを明確にしなければ、非当事者が障害のある人（当事者）に支援することが難しいというのも分からなくもないです。でも、やっぱりどこかでラベルが先行して過剰になっているように感じます。
- 診断名は対処法にたどり着くためにつけられたタイトル。私もそれを他者に伝えたくてもどう伝えていいかわからなく、とってもスッとする言葉を触れれて嬉しいです。無題についても●さんに同感で

す。支援のために、暮らしやすくするためにもしかするといまの時代はいろんな制度や補助が天ぷらの衣を何度も付けて揚げるみたいに覆い尽くしすぎてるのかもしれませんね。（皆さんみたいにわかりやすく伝わりやすい語彙力が欲しいと学びたい欲が出てます！）本来の関わり、良さがわからなくなってる可能はあるのではないでしょうか。支援学校に通っているこども、そうでない学校で自分の障がいという個性とうまく付き合いながら生活している子、どんなこどもも自分なりたい自分になりやすい制度•補助はいまはどれほどあるのでしょうか。

- 特に不快になるような言葉遣いはありませんでしたので、お気になさらず。「個人的には、障害があろうとなかろうと、『何が苦手で何が得意で、どういうことに手助けが必要か』を言えると職場でお荷物になることなく活躍できるかなと思います」について、でもこの自己分析って難しいですよね。得意なこと・苦手なことは就労移行に通ってキャリアカウンセリングを受けながら整理しています。わたしは口頭での指示は理解しづらいですが、そんなに内容を覚えていなくていいフリートークはできると分かってきました。だから愛嬌はまだあるほうだと思います。おなじ就労移行支援を利用しているひとには吃音や話しかけられるといつもパニックになってしまって、落ち込んでいるひともいました。その挙動も「まとも」「何も怖くない」と認められる社会になってほしいと願っています。

意見交換ノート②［ヤングケアラー］

発達障害・認知症（疑い）のある親に悩む人、ヤングケアラー「だった」人へのアウトリーチを含む支援策について 皆さまはヤングケアラーという言葉を聞いたことがあるでしょうか？ヤングケアラーについては様々な定義がなされていますが、大体は「障がいや病気、要介護などを抱えていてケアを要する家族がおり、介護を担わざるを得ない状況で家事や家族の世話などを行う『18 歳未満のこども』を指す言葉」と定義されています。そのため、今回チャットにいらっしゃる方の多くはヤングケアラーに当たらないことになっています。そこで、年齢層を広げて「若者ケアラー」という言葉を使う団体もあるようです。そもそもヤングケアラーについて、政府が本格的に調査を開始したのは令和 2 年度からであり、私などは（年齢がバレそうですが）そもそもヤングケアラーの心配してもらえなかった世代になります。ヤングケアラーとして支援を受けられなかった、いわば、「支援の谷間」の人間が生じているのが現状です。彼らは、家庭のケアを続けながら、自立するための経済的な力や体力が奪われ、介護支援の対象にもならず、困難な状況に直面しています。さらに、親の発達障害や認知症の進行度によっては、親が自身の状態を認識せず、支援を受けることを拒否し、相談すらままならないこともあります。親の認知症に関しては、誰にでも直面する可能性がある問題であり、ヤングケアラーでない人々も将来的にこの問題に直面する可能性があります。そこで皆さまに質問です。若者ケアラーになった際、ケアを必要としている人のケアへの拒否が強い場合に、①ケアラーがどのような支援を受けられるか知っていますか。②どのような支援（内容・公示方法含めて。）があるといいと思いますか。すべての質問に答えなくても結構です。差支えない範囲で意見を聴かせてください。

- ヤングケアラーについては、私も両親が離婚し、兄弟 3 人のうち私が怪我父方についたため、次

女がいまでいうヤングケアラーという立場にいました。現在はこどもも 2 人いますが、本人はいまでも両親からの愛を感じられてないため、自分のこどもにもどう愛を伝えていいの悩んでいます。肉親である私でも妹にできたことは母親の元を離れたいと SOS を出してくれたときにその環境をすぐに整えることと妹と母親を接触させないことだけでした。かなりデリケートでプライベートなことであり、また未成年ということもあるので立ち入れる範囲が現在ではかなり限られているのではないかと感じます。ヤングケアラーが集まれる場所を求めているこどももそんな環境から少しでも離れられる場所を求めているこどももさまざまではないのでしょうか。①支援について、正直知りませんでした。調べても当時の妹にここに行こうと言える場所は見つけれませんでした。そしていま大人となったからこそ調べられたので、当時小中学生の私が今の仕組みを調べることができるのか疑問はあります。②こどもの支援だけでは難しいのではないのでしょうか。そして何か制度を活用して。。。と考えても、そういった家庭の場合、制度の狭間で漏れてしまう可能性があるのではないでしょうか。そこを緩和して・・・と行うと制度を悪用することも考えられます。しかし、これは大人がどうにかしなければならないことです。大人にもっとヤングケアラーの可能性が感じた場合、他人でも相談できる場所を公的に作り、その場所の発信し、定番化することも大切なのではないでしょうか。怪我をしたら 119、事故があれば 110 のように。

- ご回答ありがとうございます。話を聞くだけでも大変な状況だっただろうと思います。そのような過去を共有してくださり感謝いたします。そうなのです。ノートにも書いた通り、制度の狭間にいる人が一定数出てしまっていて、そこが問題だと思うのです。ある程度の年齢になってしまえば児相は原則動けません。また、親の障害の内容・程度によっては行政の調査をうまいことごまかせてしまうことがあり、搾取された人は存在しないことにされるのです。また、こどもじゃなくなってしまった人も、実家に縛り付けられている人が使える相談先になったらいいなぁと思ったりします。家庭のことには踏み入らない、とするのではなく、赤子の○ヶ月検診のように、定期的に家庭の悩みを家庭の全構成員から聞くスクリーニングをして、そこから継続的に観察・支援する仕組みがあってもいいのかなと思ったりする今日このごろです。ご意見ありがとうございます。

- ヤングケアラー/若者ケアラーという言葉そのものは知っています。でも、①のようにどのような支援があるか？ということについてはほとんど知らないなと思いました。知るべきことだとは思うのですが、どこから知ればいいのか、どんなタイミングで知っておくことがいいのか、と感じました。②については、ありきたりですが家庭内だけで完結させようと孤立してしまうことをどう防ぐかが 1 番の目標になると思いました。それはイコール、相談や支援のための情報を受け取りに行くことが可能になる必要があると思います。そのためには、まずケアラー側の自由度をいかにして上げていけるかが必要かなと…。早期段階でアクセスできる窓口の増設やオンライン上による相談ページ等の拡充が真っ先に思いつくことになるのですが、これは既に行われつつある中で効果が期待通りになっていないのだと思います。要因としては、私もそうですが、普段では知らない・触れないが根本かなと。いじめや自殺防止のために行われる例でも同じですが、本人の援助要請が出せるのであればそれを受け取ることに集中することで支援できます。でも、要請を出せない/出さないケアラーに対しては、ソーシャルワーカーや地域におけるサービスの中で定期的に少しずつでも巡回して支援のためのチャ

ンスを見逃さないという地道な支援を強化することが大切かなと感じます。意見が抽象的でなにも改善策を提案できてなくて申し訳ないです。

- ご回答ありがとうございます。当事者じゃないと実感がわかない話題なので、誰も返信しないかななんて思っていましたが、一生懸命想像して考えて意見をくださったこと、感謝いたします。「早期段階でアクセスできる窓口の増設やオンライン上による相談ページ等の拡充が真っ先に思いつくことになるのですが、これは既に行われつつある中で効果が期待通りになっていないのだと思います。」について、問題としたいところが共有できてホッとしております。「要請を出せない/出さないケアラーに対しては、ソーシャルワーカーや地域におけるサービスの中で定期的に少しずつでも巡回して支援のためのチャンスを見逃さないという地道な支援を強化することが大切かなと感じます。」について、行政がアウトリーチを行い、子と親を引き離したり、親に「アナタちょっと変だから病院行ったら?」とか言うのは、法律的に要件が厳しく、難しいです。それが当事者をより孤立させてしまっているのかなぁ……と思ったりします。●さんの言うような仕組みを実現するためのロジックが組み立てられればいいのですが……。やっぱりなんとかして介入できるようにしたいですよね。心を砕いてくださりありがとうございます

- アウトリーチにおいて法律が厳しいことで、当事者が孤立してしまうという意見を聞いて、ヤングケアラーの問題では、介護を受ける側の人（親など）とケアラーの人の両者の権利を守る必要があって、それの両立が求められるのだと思いました。どんな介護・ケアを受けたいか、もっと言えば終末期をどう迎えたいかはご本人さんに決める権利があるべきだと思います。でも、反対に介護する人の負担が大きくなって、その人自身の職業選択や学業に支障が出れば、それもまた避けなければならないと思います。その２つの葛藤がせめぎ合ってしまう問題だなと…。ヤングケアラーの問題自体は、きっとケアラー側に明らかな過剰負担を強いていることが現実であって問題だと思います。ただ、その解決を目指すときには、両者の権利の尊重が求められるのだと思いました。
- ヤングケアラーを知らない人もいるようです（実際私がパートナーに聞いたら知らないようでした。直訳？して「若くして親などの介護をしている人？」と回答だったので名称？は相応なのだと感じました。）ヤングケアラーについてもっと認識してもらうことは必要ですね。「虐待」「DV」などは広く知られている言葉に対して、育ちに影響がでるヤングケアラーが本当に知られていないことを痛感しました。周知を進めると同時にアウトリーチは必要ですよね・・・。こども主張って未成年というだけで、結局は親に委ねられますよね、信憑性や確証的な面で。SOS を出せないこどもに出して良いことを伝えることも必要ですし、SOS を出しているこどもを必ず救う社会であることも必要と感じます。どうにか年齢にかかわらずこども（未成年）本人の主張で行政や国が動ける社会は作れないのでしょうか。
- ②ケアの範囲をすこし広げてほしいです。わたしの友人で在日外国人がいます。友人は小学生のころから日本語を勉強してネイティブレベルです。しかし、家族はいまだに日本語を覚えておらず通訳として役所や病院にいくために学校を休むこともありました。このケースのように言語の違いをサポートするために学業を休むのもヤングケアラーとわたしは考えています。在日一世が移住してから思うようには馴染めなかった・馴染むつもりがなかった場合、在日二世の人生にも影響します。在日一世のひとに言語学習をさせるか通訳者を用意できないでしょうか。

- ご友人のご経験を共有してくださりありがとうございます。言語の違いをサポートするために学業を休むのもヤングケアラーと考えていますという点について、その通りだと思います。こどもとして、自分の人生だけに手一杯になっていてもいい時期に、他人の面倒を見なきゃならない・負担を余儀なく強いられるというのは、ケアのために日常生活に支障が出る場合ですよね。ましてや、有料になるような通訳サービスをこどもに無料でやってもらっているというのはこどもの能力の搾取にもなるかもしれません（ここでは通訳サービスの利用料の是非については置いておくとして……）。「在日一世が移住してから思うようには馴染めなかった・馴染むつもりがなかった場合、在日二世の人生にも影響します」という点も、そうですよね。こどもは生まれてくる親も家庭も国も選べませんから。親の都合で親子で第一言語が違う状態になってしまい、そのしわ寄せをこどもにいかせるのは、道理として正しくないです。こどもに通訳をさせる問題……恥ずかしながら、あまり想像できていませんでした。この問題の新たな一類型に気付かせてくださりありがとうございます。実務に活かせるように、その手の相談がきたときに最良の対応ができるように、今から勉強して準備します！

- ①ヤングケアラーについて、学校現場でも国からアンケートが来て実態調査することがありました。しかし、調査といっても実際は回答者である教員の主観でケアラーである可能性のある児童がいるか、回答するだけのものでした。実際、恥ずかしながら私ケアラーがどのような支援を受けられるのか、どのような手続きをとって支援を受けることができるようになるのか、など具体的なことはほとんど知らないままでした…これを機に、しっかりとアンテナを張って、知るということを大切にしたいと思います。

  - ご丁寧に回答ありがとうございます。こどもを守る立場（児童虐待防止法、児童福祉法等参照。）にある人が、こどもの虐待に関する問題について「知らない」と発信することは批判にさらされる危険もあり、勇気が要ったと思います。ありがとうございます。教育現場の最前線にいる方でも知らないということは、やはり、中央省庁の公示通達方法にも改善の余地があるということかもしれませんね。現状の共有をしてくださりありがとうございます。問題の渦中にいない人に自分事として考えてもらう方法を考えてみたいと思います。もしかしたら、●さんのノート（意見交換ノート④）に皆さんが記載してくださったことが関連して役に立つかもしれませんね。

意見交換ノート③［結婚支援、保育の質、こどもの居場所］

テーマ①結婚支援について
「大体の自治体で夫婦の年所得 500 万（おおよそ年収 680 万でしょうか)が多い。1 人 340 万…20 代後半のそろそろ結婚と考え始める世代はその金額を超えてしまう可能性高い。逆若い世帯は授かり婚も多い傾向で働かないとという意識が強いため、職種に限らず稼げる仕事を選ぶ傾向が多いと感じる（あくまで私の周囲です）。果たして、夫婦所得 500 万程度で一時的な補助があるからと継続的に生活が必要な結婚を選択できるのか。祝い補助などの制度ある！結婚が少し見えてくる！と思えるのか。」

②保育の質について
「私は保育施設など児童福祉施設を運営する法人本部に勤めてます。さまざまな大学教授などの研修に参加していると、国で示す保育が昭和から大きく変わっていないことを痛感します。世の中はこんなにも大きく（でっかい携帯の時代からスマホにまで進展）してるのになぜ保育は昭和のままなのか。国の指針や保育指針についていつまで『保護者支援（目線）』と家庭に寄り添うことを重視していくのか。保育士は国家資格です。専門的知識を持ってこどもの『育ち』に努めてます。いまのこども環境に合わせた保育指針であることを願います。」

③こどもの居場所
「居場所は『ここだよ』というわけではなく、学校•児童館（学童)・放課後デイ・地域など様々な中からこどもが自分で心地よいと思える場所を選択できればいいのではないかと思います。その中で最近は学童は遊びが楽しくない…などと都会の話を聞きますが、私が勤務してる地域のこどもは児童館（学童）が楽しくて学校は嫌だけど児童館に行きたい！と言っています。そんな場所があること知り、是非観て聴いてもらいたいです。職員もただこどもを遊ばせるだけではなく、こども預かる立場としてその日の健康（メンタル含む）状態や学校と保護者の架け橋にもなろうと努めてます。新しい居場所だけでなく、いまある居場所の在り方、改善が行われることを願います。」こんなことも話したり国の方に声として届けれたら嬉しいです

- ③こどもの居場所私自身も居場所づくりや地域におけるこども/若者のコミュニティづくりに関わらせてもらっている中で、ここ最近は「居場所」の飽和も感じます。いろいろな場所に行かせてもらったり、聞く中で１つの市やまちの中だけでもこども食堂をはじめとするいわゆる居場所が何十も運営されています。ボランティア以外の公設の児童館や公民館、その他の企業による運営施設なども合わせればかなりの数だと思います。それでも、まだ居場所の設置やコミュニティづくりが求められるのは、どこかで違和感もあります。既存の居場所づくりのやり方や運営の仕方を見直して、その地域の中にある本当のニーズと合わせることが必要かなと。場所を増やすことによる居場所の多様性の拡充と１つ１つの場所で受け止められる人の多様性の拡充の両輪が必要な気がします。
- 居場所の飽和。とても面白い観点だなぁと思います。こどもの居場所として運営していることはわ

かるし、職員さんも一生懸命やってくださっていることはわかります。そして、その働きかけが効を奏しているケースもたくさんあるのだろうと思います。そういった場所を運営してくださっている職員さんには頭が下がります。ただ、こどものためという名目でも、実際は大人の自己満足だなぁと感じる施設が多々ありました。居場所になるという触れ込みに私が期待しすぎてしまっていただけかもしれないですが……年齢に関わらず、家庭への介入が必要な場合に介入することフェーズまでやってくれる「居場所」があればいいなぁと思ったのをこの話題から思い出すことができました。●さん、話題の提供ありがとうございます。そして、●さんも話を広げてくださりありがとうございます。

- ①結婚支援について：一時的な補助で結婚を選択できるのか、私も疑問に感じています。少子化対策の一環として結婚支援というものが考え出されてきたのかと思いますが、それでは根本的な生活の面での課題は解決しないのではないかと思います。結婚選択できない人多くが抱える課題は、結婚式や出産などの一時的なイベントに対する負担ではなく、結婚後・出産後の仕事や育児など、その後に続く生活に関する点にあるのではないでしょうか。・結婚・出産後も今の仕事続けていく・復職することはできるのか（今の働き方を続けた場合、こどもにきちんと向き合うだけの時間的・精神的な余裕は持てるのか）・夫婦の収入でこどもが自立するまで育てることはできるのか・保育園などの預かり先はあるのかなど継続的に安定的に生活の保証が得られなければ、結婚・出産の選択できない考える人は多いのではないかと思います。また、こうした育児世代の余裕のなさが、②保育の質についてで●さんが挙げて下さっている学校や保育の現場が「保護者支援」重視になっているという課題につながっている部分もあるように思います。学校や保育の場が、家庭の不足を補う場ではなく、専門的な教育・保育の場であるためにも、現在の教員・保育士→保護者→こどもという形から本来あるべき、教員・保育士と保護者が共に同じ方向を向いてこどもの育ちについて考えるという形へ変わっていくことができるだけの、「家庭の余裕」が必要なのではないでしょうか。結婚を考える世代、子育て世代に対する継続的で安定した生活を保証できる制度について考えていきたいと感じます。
- ③こどもの居場所について●さんのおっしゃる「フェーズまでしてくれる居場所」の大切さ、同感しました。今居られる安心感ももちろん大切ですが、その次のステップはどうするのか、一緒に考える支援も必要だなと思いました。居場所づくりに関しては、場を増やすだけでなく自立に向けて段階的な支援ができるような「支援のあり方の多様性」も大切なのではないかと思います。
- ③こどもの居場所について●さんが言うような家庭への介入となると、状況に応じて学校や児相、要対協などの協力が必要になるのではないでしょうか。そう考えると、今後はそのような関係性の構築も大きな課題になるのではと思います。
- ご意見嬉しいです。居場所の緩和、確かに最近はたくさんできています。スタッフも多いところも増えています。しかし確かに大人の自己満足と感じる場所もありますが、そんな場所でも誰が１人のほっとできる所となっているなら意味はあるのかなと自分を納得させています。また、結婚後の支援についても補助の道標？のようなわかりやすいものあるとどんな人でもイメージつきやすいですよね！以前こども家庭庁より提供があった人生ゲームのような絵で示しているもの（わかりずらく住みません）はわかりやすいと感じました。そのようなものに詳細を探せる QR コードのリンクや概算など記載があるといいのかなと思います。（難しい制度を誰でもわかりやすくすることがとても大変

なこととは理解しているつもりですが、必要な者であると感じます。）

- 関係の構築必ず必要になりますよね。そして課題解決や全ての機関に理解を得ることがなかなか難しい課題だと思います。少し話逸れますが、マイナンバーて始まる前に国からすごく厳重に扱うよう周知があって、わたしの周りでは保険証として使えようになったと、その記憶と周知をしっかり聞いた人がとても激しく怖がっていた記憶があります。正しい知識、怖がり、対策、そこも何か新しいことをする、見直す、再構築するときにはセットで実施が必要ではないかと感じます。
- 私も関係性の構築はもう少し密にやっていくことをしてもいいのではと思います。介入が必要だと言われる一方で、介入されるのが抵抗感に感じられることもあると思います。本当に温かい関係性が必要かなと
- 介入されることに抵抗を感じない状態を作るにはどうしたらいいのかなって考えると難しくて楽しいですね。介入を不名誉に思われないように信頼を勝ち取ること、介入してもらったことで事態が好転したという経験を提供することとかでしょうか。法律を扱う仕事にいますが、強制力を伴って介入しても、うまくいった場合は法的サービスも福祉サービスも信頼してもらえたので。考えるってやっぱり楽しいですね。いろんな世界を見ている人の視界を覗かせてもらうと世界広がりますね。笑
- 自分が良かれと思っても相手からしたら迷惑なことなんてザラにありますよね。関係性の構築はなにより大切だと思います。これは私観ですが、市町村の業務はどうしても『こなされてる感・冷たい印象』があります。致し方ないところもあるとは思いますが。すこしづつ増えているとは思いますが、まずは子育てに関する部署だけでも土日も開所するのはどうでしょうか。半日でも市民は助かります。そう言ったところからオープンな印象、受け入れてもらえる印象を持ってもらうことも大切かと思います。
- たくさんの意見に触れれるの楽しいですね。皆さんが否定ではなく、何が課題でどうしたら理想に近づけられるのかという視点で意見交換できて、嬉しいです！

意見交換ノート④［知ること/理解することを促進するための方法、不登校］

①知ること/理解することを促進するための方法について
私自身、研究領域や地域での活動の性質上、貧困、不登校、障害者支援、特別支援…etc などいわゆる社会問題や課題と言われる事柄に対して学んだり、実践の中で関わることは多いです。その環境にいることで、周りの同期や同世代の人に、なかなか課題の現状を伝えられず、広まっていないと最近はとても感じます。限られた人たち（気づいた人たち）によってギリギリのところで支えられていると思います。なので、どうすればまずは知ってもらい、その先の理解にいけるのか、さらにその先の当事者意識へ進むのか…意見をお聞きしてみたいです。

②不登校について
不登校についてはかなり議論されてきたテーマなのかなと思っています。今では学校復帰が目標ではなく、しっかりと教育を受けられることを保障することが目標になっていると思います。ただその一方で、不登校の児童生徒数は増加傾向が続いていて、「不登校」そのものが問題視されてしまいます（もう、不登校自体は問題行動でもなんでもないと思うのですが）そういった中で、これからの不登校支援は新たな段階に入っていって、不登校でも十分に社会の中で生活して将来を描いていけることを確実に守ってあげるための支援をしていくことが大切かなと思っています。「不登校」がここまで社会に浸透して理解もされつつある中で、今の不登校に対してのイメージや必要だと思う支援などについて同世代の人の意見を聞いてみたいです。

- ①について、こと不登校や貧困支援に関しては周りに当事者がいたので課題を知らない人を見ると「マジで？！」とびっくりしてしまいます。でも、それが現状ですよね。画一化を好む教育を受けてきた大人たち（髪型とか、生活習慣とか、制服とか、全部みんなと同じようにできるようにするような校則・ルール・指導とかありましたよね。すごく嫌でした笑）からすると、「みんなと同じじゃないと恥ずかしい」として、隠したい事柄なのかなと思うことがあります。隠されているから、見ようと務める人にしか見えないのかなぁと。本当は、当事者の方の魂からの叫びを問題を知らない人に聞かせたいくらいです。当事者の声ほど重くて大きなものはない、知識として知っているのではなく、経験として知ってほしいと思ってしまいます。同時に、自分の問題を詳らかに公表したくない人の気持ちも大切にしなきゃいけません。一定の知見・経験を持つ人間がいる場で、当事者に話をしてもらい、それを問題を知らない人に「体験として」認識してもらうみたいなことができればいいのですが……答えが出なくて申し訳ありません。もう少し考えてみます！
- ②不登校について、イメージ:そりゃ学校いけないよね。だって今の教育も教育現場も変だもん。です。突然口語になってしまいましたが。必用だと思う支援について:学校に行きたくないという気持ちを肯定し、失われた自信を取り戻す支援があるといいのかなと思います。私の親戚で不登校を経験している人が 3 人いますが、環境が変わって進学・就職をし、社会人としてなんとか生きていけています。彼女たちに言わせれば「学校にいけない頃は、私が悪いんだと思った。私がいなくなれば世界の歪みがなくなるのだと思い、生きていることを毎日悲しんだ」「行かないという選

択を心から『そりゃ、やだよね、アナタの感性は間違ってないよ』って肯定してくれる人が欲しかった」だそうです。私も中高一貫女子校（自称進学校）で、ブラック校則・依怙贔屓・何も考えず大人の言うことだけ聞いていればいいと思っている同級生・そのような教育をしている教員・矛盾だらけな大人を信頼できず、不登校になりそうだった時期があります。その時の私の感情としては「こんな時代にしちゃってごめんね、辛いって思うあなたはおかしくないよ」と言ってくれる大人が欲しかったです。これらはあくまで個人の経験ですが、ある程度の最大公約数的なものがあるのではないでしょうか。私が支援者なら生きていけるだけの自信を取り戻すケアをしたいです。そのために必要であれば相手に非を認めさせるための訴訟の手伝いくらいならします（そういう仕事なので……）

- ①についてバイアスをどう取り除けば良いのか、というところが難しいなと感じています。10 年ほど前に、貧困を訴えていた女子高生が取った画像で相対的貧困と絶対的貧困の問題が浮上したことがあります。私的にはその知識が欠如していたところもあったため、この件は教訓ともなりました。まず、大なり小なり、知る機会がどれ程あるかではないかなと、と思います。
- ②不登校について私も以前、学校現場にいたときの感覚から未だに「学校に来ていないことは問題だ」という価値観が現場に残ってしまっていると思います。「学校の通知表・内申点がないと進学に不利」や「学習は行なっていないけれど、保健室・図書室などを利用してでも学校に来ていれば OK」など、そんな「学校ありき」の感覚が私のいた現場に限った話かもしれませんが、少なからずありました。ソーシャルスクールワーカーなどの支援者が足りていないことも、不登校に対応しきれず「問題」になってしまう一因であるようにも思います。学校に限らず、学べる場があることを不登校の子・そうでない子に関わらず広く知る機会を設けること学校以外の学びの場も含めたキャリア教育など、将来に向けての計画を共に考えるといった支援も必要になってくるのではないかと思います。

  リアクションしていただいてありがとうございます自分で①のテーマを提示していて言うのも変ですが、とてつもなく大きい課題かなと思っています。なので、解決策が出てこないのも自然だと思います。無意識的なバイアスや隣の人と一緒がいいという感覚はある種の普遍的なものだと思います。それを乗り越えていく術をいかにして身につけるかが、これから先のダイバーシティや多様性の社会の実現には必要になるように思いました。
- ●さん質問を質問で返すような感覚で申し訳ないですが、●さんが普遍的なバイアスや隣の人と一緒がいいという感覚の人たちに対して、どのように対応されているでしょうか。
  - ●さん、質問ありがとうございます。普段は基本的になにも気にしない雰囲気を出して流してしまいます。ちょっとした場面で、１つ１つに対して別にそうじゃなくてもいいのでは、とかこういう意見もあるとかを言ってしまうと信頼関係が作れない気がするので隣の人と一緒がいい人に対して、一緒ではないと感じる人が言っても始まらないのでまずは合わせます。そこから徐々に自分の意見として言いたいことを伝えるようにします。
- どちらもぜひみなさんと意見交換したい話題です。①知る知らせる方法として広報が真っ先に出てきますが、現代の方がどれほど興味をもって読むでしょうか。仕事柄地方の流れをというかたは見るかもしれませんが、大半はめくら判ではないかと思います。令和の時代に昭和からのやり方は

難しいのでは・・・。また行政からの周知も国から都道府県、都道府県から市町村、市町村から職場を通じて個人に周知される制度や通知も多いです。他組織に周知を託す状況にも違和感を感じます。新しいことを全国の国民に周知したいのであれば、効率より浸透力や熱意の伝わりやすさを大切にすることも良いのかと。全てとは言いませんが国の方から直接オンラインセミナーなどで詳細や制度発信するのはどうでしょうか。国が直接？？！という興味を持って聞く方もいるかもしれません。国の制度周知用のアプリを作成する、市町村の担当が訪問で制度周知をする（アナログ的な方法ですが、最後はアナログが一番響くこともあります）はどうですか？②不登校については親類にいたので大きな課題と感じています。そもそもその学校にいくことがその子の今大事にすべきところでしょうか。保育や児童に関わる仕事をしている立場から考えると、その子が社会に出て自立して生活するために、その年代で必要な育ち促す、その年代の成長に責任を持つことが大切ではないかと感じます。それで考えるとゴールは学校にいくではなく、その子の今後に必要な知識や教育、環境を提供することが大切ではないかと、国がまずはそもそもの考えに立ち戻る必要があると感じます。

- ●さんご意見を出していただいてありがとうございます。●さんも不登校の方にもありがとうございます。自分自身も小学校３年生で不登校になっていました。当時はまだ学校復帰が地方の公立校では普通でした。なので、まさに保健室通いや図書館に居候などをしていました。確かに学校にそれでも少しは行って学習や人との出会いがあったのは助けになっているのかもしれないです。でも、いまは不登校支援に対して支援する側として関わり、学ぶ中で、やっぱり不登校という経験や不登校であることを許容ではなくて、もっと受容してもらうことは必要だと思います。そうしてキャリアの選択肢の拡大や進路選択の多様化が進めばいいなと。

意見交換ノート⑤［新しい進路］

新しい進路 新しん進路選択のひとつとして：例えば、新しい進路先として高校から大学短大、専門学校等や就職に加えて、色々な仕事を経験出来るような職業訓練学校の設立というのはどうか

- 職業訓練学校！いままでは転職時の選択として職業訓練校があったのが進学時の選択、新しいですね！仕事を知るための進学となると消防学校や警察学校とも違い、学費を出してということになるだろうし、課題はあるかもしれないけど興味あります！加えて、いまは民間でやっているこどもたちに様々な仕事を体験できる場を全国に増やす補助はどうでしょうか。どうしても都会しかなくて、地方のこどもたちには触れる機会がありません。低額で児童館のように様々な仕事に幼いころから触れれたらもしかするとこそでなりたい自分を見つける子もでてくるかも？？！
- 職業訓練にはなっている学校は調理・看護などありますが、ひろく見渡せる学校ってないですね。もう職業体験をするテーマパークには行けない歳ですし。職業体験ができるテーマパークにはむかーしに行ったことはありますが、小さいこどもに職業体験をさせると親のマネジメント力や体力も試されます。高校生向けなら親の負担も減ると思います。わたしは高校から専門的な科を選びまし

たが、普通科のひとたちは将来どんな仕事をしたいのだろうかと疑問に思っていました。若いときから深く極めたいことがあって比較的都会に住んでいるなら、専門科のある高校や専門学校のカリキュラムは職業訓練にはなります。ひろく浅めに学べる学校は思いつかないですね。プロを少しだけ呼ぶのが難しいのでしょうか。

- 選択肢の１つとしてはアリだと思います。今はやりたいことを見つけるために大学に行くというのがなんとなく主流の考え方ですが、大学はそもそもの位置づけ的には仕事を見つける、または探すための場所というよりも学問して研究するための場所だと考えると、他に職業訓練に特化した学校があってもいいと思います。
- 回答ありがとうございます。体験出来る場を増やすことは重要だなと改めて痛感しました。また、費用面についても特に低所得者に対しての補助も検討しなければなと感じました。
- 私は大学にも行きたかったし（実際行って気が付いたら大学院で楽しく研究している人にもなりましたし）、調理師か理容師・美容師の専門学校にも通いたかった人間です。生活が落ち着いたらいずれ通いたいと今でも思っています。色々な仕事を経験出来るような職業訓練学校というのは、大学に通いながらでも行けるところがあったらすごく魅力的に感じますが、これはさすがに贅沢言いすぎですよね笑。本来、大学は何したいか分からない人が行くところではないので、そういう人の選択肢になったら良いのかもしれません。教育機関として、学校法人としての認可が下りるかはまた別の問題ですが。

意見交換ノート⑥［結婚・子育て支援］

結婚・子育て支援について

結婚をしたい、こどもがほしいと思う若者が少なくなっている現在で、どんな支援があればそれらを選択する若者が増えるのか。実際、私の周りでも・子育ては大変なことがばかりで仕事と両立しながら自分ができるとは思えない。・こどもは好きで欲しいとは思うけれど、金銭的にも時間的にも余裕がない・仕事が忙しくてそもそも出会う機会がないなど結婚や出産を選択しようと思わない、できない人が多いように思います。少子化対策が急務と言われて中で、どんな支援が効果できだとみなさんは思われますか？

- テーマに対して少しズレてしまいますが、”結婚したくない”、”こどもは積極的にほしいと思わない”…という気持ちや感覚が一体、どこまでその人の本心で価値観と一致しているのか？と思ったりします。現代ではセクシャリティも多様であることが認知されて、必ずしも家庭をもつことが幸せになる道ではないことが理解されつつあります。ただ、そうした流れの中で反対に「家庭をもつことの幸せの形」や「恋愛や結婚による幸せの得ること」のイメージが極端に薄まって、よくわからなくなっているようにも思います。セクシャリティ的にもいわゆる普通に異性と結婚してこどもをもつことができるし、特別に恋愛などへの抵抗感を感じてるわけでもない…のにも関わらず結婚だけが幸せではない/必ずしも家庭をもつことが良いことではないといった価値観の影響に左右されてしまってい

る人もいるのかな…と。「結婚して、家庭をもち、こどもと一緒に生きる」ということを選びたいという人も、それを堂々と言って 1 つの生き方として良さを伝えてもらえればいいなと思います。

- コメントありがとうございます。確かにそうですね。結婚して家庭をもつこと＝幸せであった時代からすると、結婚しない選択肢を選べるようになった現代は幸せの形が多様になったと思います。その反面、「自分にとっての幸せ」はなにか見つける難しさや、「結婚＝幸せ」という選択をすることへの前時代的なイメージなどもあるのかもしれません。結婚を望んでいる人もそうでない人も、その選択を堂々として選べる、そんな認め合う姿勢が大切なのかもしれませんね。
- ●さんが言うように結婚や家族、家庭の在り方が変わってきているな、という印象はあります。抽象的ですが、まず、結婚や家族、家庭というものの認識の定義も深化していくことも必要な時が来ているのではないかなと思います。質問に答えてないようで申し訳ありません。
- ●さん、意見にただ乗りしてしまい、申し訳ありません。（「現代ではセクシャリティも多様であることが認知されて、必ずしも家庭をもつことが幸せになる道ではないことが理解されつつあります」について）そうなんですよね。そして、意見が様々でありこと許されるようになれば、今までのマジョリティの意見に賛同する人の人数や割合は当然減少するわけで……（「ただ、そうした流れの中で反対に「家庭をもつことの幸せの形」や「恋愛や結婚による幸せの得ること」のイメージが極端に薄まって、よくわからなくなっているようにも思います。」について）そう思うと、こちらも、ある意味当然の帰結でもあるのかもしれませんね。もちろん、その意見が世間に流されて生じたものであるのであれば問題だと思います。その意味で●さんの「結婚だけが幸せではない/必ずしも家庭をもつことが良いことではないといった価値観の影響に左右されてしまっている人もいるのかな…と。」というところにはなるほどなあと思いました。人生設計に多少なりとも影響するイベントですから、色々な情報を仕入れて考える機会を保障する必要があると思いますし、その意味でも、メインテーマのノートで出てきた「ギャップイヤー」みたいなタイミングで、ぼんやりしながら自分と向き合う時間が与えられると良いのかな、なんて思ったりもしています。意見にタダ乗りしてしまって本当に申し訳ありません。「私の意見の引用しないで！」とか「そういう意図で言ったんじゃないよ！」等ありましたら、遠慮なく教えてください。
- いえいえ！思っていたことをさらに具体的な言葉に表現してもらえてありがたいです！
- （「人生設計に多少なりとも影響するイベントですから、色々な情報を仕入れて考える機会を保障する必要があると思いますし、その意味でも、メインテーマのノートで出てきた「ギャップイヤー」みたいなタイミングで、ぼんやりしながら自分と向き合う時間が与えられると良いのかな、なんて思ったりもしています。」について）確かにそうですね！結婚はともかく、出産となると性質上ある程度リミットのあるものではありますが…だからこそ、時間をとってキャリアと生活のバランスについて考えることも必要になるかと思いました。現在の就職してすぐに産休・育休などに入りキャリアに遅れをとってしまう。そんな不安から選択することをやめてしまう。そんな人が少なくない現状が変わっていくと素敵だなと思います。

事後アンケートに記載された意見

◆言い足りなかったことなど

- 金銭面での若者（未来に向けて挑戦したいと思っている人）への支援をもっと充実させてほしいです。
- 言い足りなかったことなのですが、このこども家庭庁の意見聴取の取り組みをもっと社会に広めていくべきだと思います。私は新聞などで"いけんひろば"の取り組みを知っていたのですが、ヤングケアラーなどの本当に困っていて助けが必要な人はこども家庭庁の意見聴取を知らなかったりとても忙しくて余裕がなかったりする人が多いのではないでしょうか？だから今回のような形式の意見聴取だけでなく本当に困っている人の意見をきちんと聞けるようにする取り組みが必要だと思います。文章という伝達手段は自分の考えを視覚化し整理しながら伝えることができる反面、細かなニュアンスやトーンが伝わりにくい分、「これで誤解なく伝えられるか」慎重に発言をした。それにより熟考することもできたため、一長一短だとは思う。
- 取りこぼされると悲しいので、念のため。個人が、個人の人生の主役として家庭の道具でもなく社会の歯車でもなく、こどもを産む機械でもなく、一人の人間として尊重される社会を作りたいだけなのです。
  具体的には、
  ①ヤングケアラーとしてケアされなかった人のケアをしてください。財力も体力も搾取されいるケアラーに DV 被害者と同程度の支援が欲しいです。
  ②手段と目的という関係を今一度考えて政策を作ってください。少子高齢化の解消という目的に対して「若者に結婚させる」の言うのは、そもそも手段として必要不可欠なものではありません。今いる、産み落とされたこどもをケアすればいいだけです。そして、「若者に結婚させる」ことを目的としている社会はそもそも「こどもまんなか」にはならないです。「子育て家庭まんなか」です。
  ③リスキリングなどにとらわれず、ゆっくりぼんやりして過ごす時間が人や世界を豊かにします。「なにもしないをやっている」価値を見出せる、個人を尊重した社会を作りたい
  なのです。

◆「こども大綱」をもとに、どんな社会（世の中）になったらいいと思うか

- 自分のように大人を信用できないと思うこどもを減らして、少しで心から笑える、笑顔のこどもが増えること。生きづらさを感じながら生きていく子供や若者が減ってみんながみんなを尊重して、みんな違ってみんないい世界になったらいいなと思います。
- 障害のある子供達にも地域に密着した活動に参加して欲しい。
- 一人一人が尊重され、認められ、好きな事ができる社会になって欲しいです。
- 国民がこども大綱を SDGs のように意識して、それが当たり前になる社会
- 全ての子供の声が尊重されて、全ての子供が生きることに希望を持てる社会

- 幸せに、心豊かに過ごせる世の中だと良いと思う。社会的ステータスはそれぞれ違えど、心の豊かさを実現出来ると幸福な世の中を実現出来ると思う。
- 1 番は社会が子育て環境に対して、理解を深めてくれるのが理想だと思います。電車でベビーカーを押していたらスペースを開けてあげる、お店でこどもが泣いちゃっても迷惑がらないなど、周りが優しく接してあげるようなルール作り、環境づくりが出来たらいいなぁと節に願っています！
- こどもがどんなことにも挑戦できる世の中
- できるかどうかはともかくとして、少しでも多く偏見や不安がなくなればいいと思います。今の政府がやるかどうかが心配なところではありますが。
- 安定した安全な社会
- みんながいろいろなバックグラウンドを持った人の存在を理解し、尊重していくことのできる社会になったらいいなと思います。
- みんなが我慢せずに楽しく過ごせる社会。
- これは何度も言いました。こどもや若者を家庭や社会の所有物として扱うのではなく、個人として尊重してほしい。私たちは国の金稼ぎの道具じゃないし、こどもを生む機械でもありません。親の道具でもありません。私たちが発する言葉を、一人の人間の言葉として、大事に聞いてほしいし、「どうせこどものいうことだから」と取り合わないのはやめてほしい。
- 自分の思う「幸せのカタチ」を実現していけるようになればいいなと思います。そして、どの人も自分の幸せのカタチを考えることができて、それを堂々と言えるといいです。自分の幸せの実現において、本人の努力や意思に無関係に障壁となってしまうことが国や行政によって支援され、その支援が自分の意見に合うようにカスタマイズできる社会だといいなと思います。
- こどもと若者がやりたいことを自分で選択でき、選択をするにあたり金銭的問題から諦めることのない社会。また、悩みや不安を安心して誰かに話したり共有し、個々人のケアができる社会。
- 生まれは不平等ではあるが、システム設計によって救済することができる社会
- こどもが選択肢を自分で選べる社会、またおとなが今より少しだけ(金銭面や時間の面で)余裕を持つことができる社会
- こどもや若者全員が、収入や、家庭環境、年齢、ジェンダー、国籍などに関係なく安心して暮らせて、チャレンジできる社会。
- 私は正直思うのですが、今回の「いけんひろば」の意見聴取のやり方だとヤングケアラーや奨学金などの借金に苦しんでいる若者の意見は聞きづらいと思います。本当に困っている人の意見を聞くためには意見を聞くだけでなく実際に現場に入っていくことも必要であると感じます。また子供を育てる大人や社会にも余裕がないとこどもが生きやすいと思える社会にはならないので、全ての大人への支援も大事だと考えます。
- 今を生きるこどもたち、これから生まれてくるこどもたち、結婚して家庭を持ちたい人、誇りを持って仕事をしたい人、全ての人が自らの人生を置かれた状況に縛られず、前向きに選択することができる社会。

- こどもたちがよりよい将来を目指せるような社会
- 児童福祉法ではカバーされていないこどもについての権利保護が進んで欲しいです。今回の私たちのように意見を言う機会を、現状では得られていない、困難な状況に置かれながらもそれが見えなくされているこどもや、困難な状況にあると認識できていないこども、またそのような状況に過去置かれていた元こどもも含めて声を上げる機会を得られ、包括的にケアされ、「（私たちも大切にされてきた、だから）こどもは大切にされるべき」と社会構成員の全員が素直に思える社会であればいいなと思います。こどもを大切にするには、こどもを守る大人を増やす必要があると思います。大人の余裕を増やすことと、社会でこどもを守れる仕組みづくりを両軸でお願いしたいです。働き方改革と親権の緩和を期待します。

以上

2023/10/25 開催　いけんひろば
～「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう～
出向く型開催回　いけんのまとめ

1 班（小学生世代 5 名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

○質問 1 ：学校や学童で、「こうなったらいいのにな」と思うことはありますか。

- 授業が簡単すぎるから難しくなってほしい。
- 鉄棒が苦手なのでやりたくない。鉄棒の時間が自由時間のみになったら、やりたくない人はやらなくてよくなるからいいと思う。練習もしなくてよくなる。
- 宿題がなかったらいい。毎日好きなことができる。
- 図工の時間に好きなものを作りたい。めんこを自分で作って遊びたい。
- 前まで友達だったのに、最近仲が悪くなってしまった子がいて嫌な思いをしている。友達になりたいと思える子だけと友達でいたい。

○質問 2 ：学校以外で苦手なこと、好きじゃないことはありますか。どうなったらいいと思いますか。

- 家族と一緒に寝ているので、寝るときに電気を消すことになっていて、暗くて怖い。怖い夢を見たときに、起きても暗いのが怖い。自分の部屋をつくって電気をつけたまま寝たい。
- 遊ぶ時間がもっとほしい。1 日がもっと長くなったらいいのにと思う。
- 塾の宿題が大変なのでなくなってほしい。
- お風呂に入るのが嫌いだから、お風呂が牛乳のプールになったらいいのになと思う。
- 友達に、ゲームの中でつくった自分のワールドを壊されてしまった。破壊されないようになればいいのに。

○質問 3 ：どんなとき幸せだと思いますか。

- バラエティ番組を見て、クイズに参加しているときが楽しい。
- 工作をしているとき。
- 面白いゲームをやっているとき。

- 親(おや)に大切(たいせつ)にされて、ぎゅーっとされているとき。

〇質問(しつもん)４：赤(あか)ちゃんが幸(しあわ)せになるのはどんなときだと思(おも)いますか。

- お母(かあ)さんのミルクを飲(の)んでいるとき。
- お母(かあ)さんに抱(だ)っこされているとき。
- 自分(じぶん)が何(なに)をしても怒(おこ)られないとき。
- 親(おや)に抱(だ)っこされながら寝(ね)ているとき。

以上

2023/10/24 開催　いけんひろば

～「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう～

出向く型開催回　オンライン・ひとり親施設　いけんのまとめ

1班（小２～中１世代４名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

○生活する中で困っていること、こうだったらいいのになと思うことは何ですか。

- 学校での服装について、学校の体育祭までは体操服で過ごすことができるが、体育祭後は制服を着る必要があるので、熱中症になるのがこわい。学ランと体操服の両方が使える方がいいと思う。
- 放課後、みんなで学校に残って遊んでいた。自宅から持って行った小さいプニプニしたボールでキャッチボールをしていたら、先生にダメと言われたことが嫌だった。
- ボール遊びができない公園がある。そういう場所で、少しでもいいのでボール遊びができるようになったらいいと思う。
- こどもだけで遊んではダメと、親から言われる。親が家にいないと、外に遊びに行くことが難しくなる。
- 公園の遊ぶスペースをもう少し広くしてほしい。野球の練習などをしているとき、人が来てしまってボールを取りに行くのが大変な時がある。
- 運動会のダンスやかけっこの練習が大変。練習が少ないといいなと思う。
- 小学校の勉強で、もう少し難しい問題も出してほしい。簡単すぎて少しつまらない。
- 大体の小学校・中学校では、授業の習熟度合いでクラスを分けることがない。そういうクラス分けをすれば、分からなくて困っている人にとっても、分かりすぎて困っている人にとってもいいと思う。

○おとなになるのは楽しみだけど不安だなと思うことはありますか。

- 石油の値段や物価が上がっている。おとなになるにつれて、税金もどんどん上がっていくのが心配。
- おとなになったとき、お金が無くなるのが心配。
- 母子家庭の場合、お金が少ない家庭もある。支援を増やすのであれば、お金関係がいいと思う。

○こどもが意見を言える場は十分にありますか。

- あると思わない。
- 例えば、学校で問題が出されて手を挙げて答えるとき、すぐ発言してしまう人がいる。そういうことをなくすための取組をしてほしい。ひとりひとりが意見を言えるようにしたらいいと思う。

- 家の前の住宅街の道などで、遊んではいけないことになっている。遊んだらダメなのは事故が増えるからだと思うが、家の近くで遊べる施設を増やしてほしい。

○最後に言いたいことは何ですか。

- ピンク色が好きだけれど、学校で馬鹿にされたようなことがある。馬鹿にされてしまうのは、たぶん珍しいからだと思う。
- 友達と話しているときに、相手の性別に関わらず、言葉を考えてしまうことがある。否定されそうな気がする。実際に否定されるかは分からないが、人と意見が違ったらこれから授業などで話していくときもどう反応されるかなと気になってしまう。
- 仲がいい友達や、否定しない友達や、否定されても何も感じない人がいれば意見を言いやすい。

２班（中高生５名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇「こどもまんなか社会」の８つの意見の中で、自分の中で一番大切だと思う意見はなんですか？

- 学校や部活内での差別やいじめがあるから「心や身体を傷つけられたり差別されたりしない」が特に気になる。
- 「意見を持てる・意見を言える」が大切だと思う。間接交流（別居している父親との面会交流）について、父親との面会がいやだと言ったら「写真を撮って送ってほしい」と言われた。写真を送るのもいやだと言ったけれど、家庭裁判所に「高校生以上じゃないと意見が通らない」と言われた。

〇「こどもまんなか社会」の８つの意見に追加したい意見はありますか？

- 「安心して学校に行くことができる」を追加したい。

【テーマ：〔学童期・思春期（６～18 才くらい）のこどものための取組〕について】

〇どのように思いますか。

- 「学校を、もっと安心して過ごし、学ぶことができる場所にする。」とある。学校が Wi-Fi とパソコンを貸してくれているのだが、パソコンは Wi-Fi がないと使えないのに、コロナで休校になったときしか Wi-Fi を貸してくれない。そうすると、学校の宿題で調べ物をするためなどにはパソコンを使えない。だから、常に Wi-Fi を貸し出してほしい。
- 「道徳やホームルームなども使っていじめを防ぐほか、いじめを早く見つけたり、相談しやすくしたり、調査したりする。」とあるが、なかなか相談しやすい場所がない。先生に相談をしたことがあるけど「今は無理だから」と言われたり、話しても変わらなかったりした。
- 治安が悪くて、安心して学校に行けていない。迷惑行為があったりして、寝られなくなったりする。
- 「学童期・思春期」の中の取組に該当すると思うが、いじめがあったとき、いじめられた子が不利にならないようにしたい。いじめられた子が逃げたいとき、今は休むくらいしか方法がない。いじめられたほうがやむなく休む必要はなくて、いじめたほうが悪い。海外では、いじめた側が休んだり、更生する期間を設けたりしているのに、なぜ日本はそうしないのだろうと思う。
- 私はシングル家庭だが、金銭的にネックになるのが塾に通う費用など。学校の教育体制がしっかりしていないからか、学校の授業をちゃんと受けていても十分でなく、塾に行っている人との差がある。もし学校の水準が高く、皆が取りこぼされない教育であれば、塾に行く必要も薄れるし、塾に行っている人との差も小さくなる。
- 本が置いていたりする居場所になるような場所はあるけど、家の近くにないので行けない。その場所に行くのには、自転車で 30～40 分かかる。

- 学費や部活動の活動費への支援があるといいなと思う。
- （上記参加者母）本人が言いづらそうなので発言します。先ほどこどもが学費について発言していたが、部活の必需品などへの支援も欲しいと思っている。ひとつひとつが高いので。今はほとんどおさがりを利用しているが、サイズが合わなかったり今使っている形と違ったりすることで、周りのお友達に嫌味をいわれて、本人が傷ついていることがある。
- 僕は母と２人で暮らしているけれど、父と暮らしていると書面には書かれてしまっている。
- （上記参加者母）いまは別居をしておりプレシングルだが、４年以上別居している夫が子育てをしているなど書面に書かれたりしている。社会的な立場で父親が優遇されていて、父親の方に「DV があるか」の確認をとる。こどもがそのたびに振り回されている。今こどもが通っている学校はとってもいい学校だが、事情により引っ越し・転校することになった。本人は人前に出るのが得意ではない。学校に行きたいという当たり前のことがプレシングルの家庭では実現されていない。３年以上別居していても手当が支給されなかったりするなど、いわゆる「行政のいじめ」がある。完全なる離婚はしていないプレシングルの家庭がなかなか拾い上げてもらえない。
- 最初は看護師さんになりたかったが、高校で文理選択を考えているうちに、今は方向性を変えて起業をしたいと思っている。起業という選択肢について知るのが遅かったなという思いがあるので、小さいころから仕事について知ることのできる機会を設けてほしい。美容師さん、お花屋さん、YouTuber などの職業は想像できるけど、あまり知られていない職業は想像しづらい。そういう職業をもっと身近に感じられるようにしたい。海外では、高校生から大学生の期間などで実際に働く体験をする機会があると聞くので、そういう機会があるといいなと思う。
- 部活やクラス内ではほとんどのひとがスマートフォンをもっているが、ぼくだけ持っていない。クラスの LINE グループにはほとんどの人が入っているし、スマートフォンのゲームでみんなが遊んで盛り上がっている中、僕は持っていないから孤立しており、支援がほしい。僕は野球が好きだが、試合を見に行くにしてもお金が必要なので、家族分の支援金が欲しい。あとはテーマパークなど、楽しめる場所のチケットがほしい。
- とてもお金がかかるので、塾に行ける支援をしてほしい。
- 自分は塾に加えて、お金がかからない学習支援にも行っていて、そこでも自分のためになることを教わっている。学習支援の場所は知名度がないのでもっと普及してほしい。
- 交通機関を使うのにかかる料金が負担になっている。自転車で行ける距離の場所へは、遠くでも自転車で行っており、しんどい。交通機関に乗るための料金をもっと安くしたり、無料化したりしてほしい。
- 今は母と２人で暮らしているので、１人の部屋がほしい。
- 「不登校の場合にも教育を受けられる体制を整える」について。今は不登校ではないが、たびたびクラスメイトにあたられたり、おごってと言われるようになったりしてきている。誰かが不登校になった場合は、なぜ不登校になったのかを聞いてほしい。

〇感想

- 自分と似た境遇の人がいることや、自分の考えていることを周りの人も必要としていることが分かって

よかった。今の自分の世代だけじゃなく、将来の人たちに繋がることをしっかり言えてよかった。

- 自分と同じようにいろんなことに困っている人がこんなにいるんだなと思った。今日は自分の意見がちゃんと言えたから良かった。
- 自分以上に困っている人が沢山いるというのと、自分はだいぶ幸せな暮らしができているんだなということが体感できた。
- 色々な悩みを抱えているひとたちの、生の声を聞けたことがとても貴重な経験になった。みんなで意見交換をできて貴重な体験になった。
- 困っていることが少し伝えられて良かったと思った。

３班（高校生世代５名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。

- お金の心配をはじめとして、何も心配することがない社会がいい。自分の周りの人は、一番大きな悩み事としてお金の心配を抱えている。お金の心配を解消するために、特に若者に対して教育面で支援があると良い。北欧では幼稚園から大学院まで授業料が無償の国がある。日本でも教育面で北欧のような教育における支援があれば、若者もお金の心配もなく日本に残りたいと思えるだろう。
- 「意見を持てる・意見を言える」について、いけんひろばに参加している人は問題意識を持っている人だと思う。問題意識が低い人もいるので、問題意識が低い人が意見を言えると、こどもまんなか社会が実現したと言えるのではないかと思う。
- 問題意識が低い人は、話し合いの場では話すことを事前に準備して整理しないといけないと思ってしまうので、話し合いの場から退いてしまうと思う。中高生が気軽に意見を言える場があるといい。
- 問題意識が低い人向けに意見の場を設けたとしても、問題意識が低い人は「どうでもいい」と思ってしまう場になりそう。
- 問題意識が低い人向けに、SNS などで普段の生活対する愚痴を募集すると良いと思う。問題意識が低い人は、自分から意見を発信する人ではない。まずは気軽に、国から問題意識が低い人に対して意見を聞くと良いと思う。
- 問題意識が低い人や意見を言わない人がいることは、日本の教育の問題だと思う。先生の言うことを一方的に聞く授業が多かったので、問題意識が低い人や意見を言わない人がいるのだと思う。社会の変容に伴って教育内容や教育方針を再考した方が良いと思う。
- クラスでは、授業の内容に興味がなく、授業中に寝ている子が多い。授業で必要のないことを毎日言われることは問題だと思う。
- 私は 18 歳になって選挙に行ったが、私の市では過去最低の投票率だった。同じクラスの子は選挙に興味がないから選挙に行っていなかった。選挙に行くことは、一つの意見を主張することだと思う。大人は、こどもが選挙に興味を持てるような施策を打つことが必要だと思う。
- 「自分らしくいれる」について、自分の興味のあることやこどもの個性を伸ばしていけるような社会になると良いと思う。そのためにはこどもが抱えているお金の心配をすぐに解決すべきだと思う。お金の心配をなくすことは、こどもに色々なことに興味を持ってもらうためにも必要だと思う。

【テーマ：「こどもにかかわる取組を進めていくときにたいせつにすること（基本的な方針）」について】

〇国がこどもにかかわる取組を進めていくときに大切にする６つのことについて、どのように思いますか。

- 「③こども・若者の成長に合わせて、おとなになるまでずっと支えます。」は良いと思う。支えてもらった経験のある人は、将来支える側の人になれるので、③のような取り組みが増えると良い。

【テーマ：「取り組むこと（重要事項）」について】

○〔すべての年齢のこども・若者のための取組〕についてどのように思いますか。

- 「貧困な状況に生まれ育っても、夢に挑戦できるよう、教育や生活などを支援する。」という取組はいいと思う。「教育を支援する」と記載されているが、スポーツや音楽を頑張っている人もいるので、勉強以外の分野で頑張っている人の支援も充実させてほしい。取組の中に、教育だけでなくスポーツなどを頑張る人の支援も加えた方が良いと思う。
- 弟は体操競技をやっており、全国大会にも出られるレベルの選手である。しかし、遠征の際に 1 泊で 15 万もかかるなど、家の経済状況を考えると金銭的な負担が大きい。スポーツなどで夢に挑戦している人にも手厚い支援をして欲しい。
- 芸術面で頑張っている人の支援をしてほしい。周りでも芸術の道に進むのは少数派であり、芸術の道に進むことは、勇気が必要なことである。芸術の道に進む人は金銭的にも大変なので、金銭的な支援があると世界で活躍する若い日本の人たちが増えると思う。
- 「いろいろな遊びや体験活動ができるようにする」について、遊びや体験活動ができることは必要不可欠なことではない。お金のある家庭の子ばかりが様々な体験ができているように感じるので、こどもが等しく様々な体験できるような支援も大切だと思う。
- 私は課外活動で、学校外の人と関わることが多いが、課外活動をしている人には関東の人が多い。私の住んでいる地域は関東ではなく、地域社会なので関東と比べると様々な情報が入ってこないという状態である。こどもの教育や体験へのアクセスという点で機会格差をなくしてほしい。また、経済状況による教育や体験へのアクセスにおける格差がないようにしてほしい。

○〔青年期（18 才くらいから）の若者のための取組〕についてどのように思いますか。

- 「自分にあう仕事を見つけて経験をつんでいけるように支援する。また、給料が上がるようにしたり、働きやすいようにしたりする。」について、高校 3 年生は部活を引退して、バイトを始める人も多いので友達と時給の話をよくする。高校生も仕事するという点では他の人と変わらないのに、他の世代と比べて高校生の時給は 50～100 円くらい低いので、取組について共感できた。
- 「お金を理由に自分のやりたいことを諦めることがないように、大学などに進学するための支援を行う。」について、今後実現してほしい。周りには経済状況が悪い人が多く、日本の未来に希望を持てない人が多い。周りには海外に脱出することを考えている人もいる。こどもが日本を好きになれる社会になってほしいので、こどもが未来に希望を持てるようなこども大綱を作成してほしい。
- このまま日本にいても、自分のやりたいことが出来るような明るい将来が待っているのか不安になる。こども大綱をつくることで、こども・若者が自分のやりたいことを出来るような国にすると示せると思う。
- 私は日本から出たいと思ったことはない。〔青年期（18 才くらいから）の若者のための取組〕を見て、高校や大学以降に従事する仕事や結婚・子育ての支援をしてくれると、安心して将来のことを考えられるなと思った。
- 日本にいることの不安はないが、やりたいことを突き詰めると海外に行くことになると思う。日本では自分のやりたいことを突き詰め続けられる気がしない。金銭的な面でも日本に残り続けることは難しいと

思う。

- 友達には、日本の教育方針が好ましくないので海外の高校に行った人がいる。日本の高校に行くことが当然だと思っていたが、海外の高校に行く人もいるのだなと思った。

〇その他

- 今までは勉強は面白くないと思って勉強してきた。しかし将来は国際機関に就職したいため、最近世界史の大事さがわかり、世界史の勉強は楽しいと思えるようになった。社会とのつながりを感じる教育だと、こども・若者も勉強が楽しくなると思う。
- 私も将来は国際的な仕事に就きたい。好奇心は行動の原動力なので、小学生から高校生までが好奇心を持てるような取り組みがあるとよい。こどもが興味のあることを学んでいけると良いと思う。
- 私は将来教員になりたいので、教育体系を変えるという話に共感した。教員になった場合はこどもとのディスカッションも大事だと思った。こどもまんなか社会をつくり、こどもの様々な才能を育てるために、支援をしてほしいと思う。
- 教育体系を変えることには賛成である。こどもは、先生に言われた良いことも悪いことも全て覚えている。発言一つにしろ、先生の発言はこどもに影響を与えてしまう。教育体系を変え、若い世代の教育に対する意識を変えていくことによって、若い世代が教育する立場になった時に教育における課題を解決できると思う。
- こどもにとって社会生活の中で一番大きな存在は学校であるため、教育がその人の人生を作っていると思う。教育を受けた人が社会をつくるので、生まれた環境に限らず質のいい教育が行き届くと良いと思う。

4 班（高校生～大学生世代６名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。

- 吹き出しの「自分もこどもも幸せ」、「安心して結婚や子育てができる」について、自分も将来的にはこどもが欲しいと思っているので共感している。ただ、こどもの頃に生活が苦しい環境で育つと、そのこどもが大人になった時に子育てがちゃんとできるか不安に感じると思うので、お金のことを心配することなく子育てができたらいいなと思う。また、自分は過去に虐待を受けていたので、親になった時にこどもに虐待をしてしまわないか心配である。子育てをする時には誰かに見守っていてほしい。
- 吹き出しの「何をするか自由にえらべる」について、自由に選べる機会を増やす事が必要だと思う。
- 吹き出しの「何をするか自由に選べる」に関心がある。自分は、自立援助ホームから専門学校に通っているが、施設から学校に通う事が金銭的に難しく、給付型の奨学金も少ない。学校卒業後５年間働くことという条件付きの給付型のものもあるが、妊娠などで５年間働けない可能性があることを考えると利用しづらい。海外では、学校が大学院まで学費を全額援助してくれる制度があるので、日本にもそのような制度があるといいと思う。
- 吹き出しの「困ったら助けてもらえる」について、暴力を受けなかったとしても言葉の暴力を長年受け続けるなど苦しい家庭環境で育つと自己肯定感が下がり「悲劇のヒロイン癖」（どうせ助けてもらえない・救われないからみんなで「かわいそうな自分」に感傷に浸ろうと思うこと）が付いて、オーバードーズやリストカットに走ってしまう。「困ったら」の基準を暴力など可視化されたもののみに置いてしまうと、暴力以外の虐待に苦しんでいる子が救われなくなってしまう。また、テレビ番組などで紹介される虐待の例は自殺の一歩手前まで追いやられるなど極端なケースが多く、入ってくる情報ほどの被害を受けていないこどもは、そもそも虐待を受けていることを自覚しないまま大人になってしまったりする。自分も当時は虐待を受けていることを自覚しておらず、親の愚痴をいろんな人に話すことでて気づいたので、今は母から離れようとしている。「困ったら」の基準が明確化したら良いなと思う。
- 助けを求めても対応してもらえなかったので、自力で虐待から抜け出した。自分の場合は、心理的虐待が中心で身体的虐待はあざをつけられるか、パーカーのフードを後ろから引っ張られるくらいで周りの人の目につきにくい程度だった。近所の人の通報で児童相談所の人が何度か訪問してきたが、虐待を受けていることを把握してもらえず、何もしてもらえなかった。見えない部分についても基準ができればと思う。

【テーマ：各取組について】

〇すべての年齢のこども・若者のための取組

- 取組がたくさん書かれているが、支援の内容が充実していたとしても、そもそも支援の存在自体を知らず、制度の活用にたどり着かない人が多いと思う。取組の周知についても触れてくれたら安心できる。
- 「SOS の出し方や受け止め方を伝えたり、悩んでいるこども・若者が相談しやすい環境をつくったりして、自殺を防ぐ」について、自殺を防ぐという表現をすると「死ぬ」という逃げ道さえも奪われたと感じて追い詰められてしまう。死に方も個人で決められるべき内容であり、「自殺は悪いことではないが追い詰められたから選択する死に方なので、自分が思い描いていた死に方と違う場合はやめた方がいい」というような記載にした方がいい。
- 「貧困な状況に生まれ育っても、夢に挑戦できるよう、教育や生活などを支援する」について、自分はシングルマザーの世帯で母から経済的虐待を受けている。具体的には、バイト代を全額母に渡さないと怒られる状況にあり、大学進学に向けて高校３年生になったらバイトをやめたいと言ったら怒られた。勉強とバイトを両立しないといけない状況にある。大学に進学したら親元を離れたいと思っているが、正直に母親から離れたいから一人暮らしたいと伝えた場合、誰からも支援してもらえないと思う。なので、大学進学後は夜職に就くことも考えているが、周りのクラスメイトを見ているとそんな自分の状況がみじめに感じてくる。教育や生活の支援をしっかりしてもらえないと本当に困るので、早く手厚いサポートをしていただけるとありがたい。

〇子育てをしている人のための取組

- ひとり親家庭の手当は、こどもが増えるにつれて１人あたりの手当の金額が下がる。こどもが多いと子育てする期間も長くなり思うように働けなくなるので、こどもが増えるにつれて支給額も増やすか、少なくとも１人あたりの金額は変わらないようにしてほしい。また、児童扶養手当が離婚成立前に支給されるケースについて、現在のルールでは１年以上児童が遺棄されているが認められれば支給されることになっているが、相手方（もともとのパートナー）から１円でも金銭的援助を受けた場合は、それまで受給した全額を自治体に返金しなければならない。裁判が長引くとかかる費用は莫大になったりする。せめて、相手方からもらった婚姻費用が児童扶養手当で貰った金額を上回った場合にのみ返金するようにしてほしい。
- こどもの権利決定・意思決定がこども大綱の一番のメッセージだと理解している。確かに、自分たちに意思決定できることを伝えることも重要だが、それを阻むのが親などである以上、子育ての学び支援や生き方の見直し支援を各ステージで伝えて親たちに理解してもらう必要がある。親を再教育するという取組がこどもの権利・意思決定支援につながると思う。

【テーマ：こども施策を進めるうえで大事なこと】

- どうやったらこども若者の意見を多く集められるかについて、記載を追加した方が良いと思う。

【テーマ：仕組みや体制を整える取組】

- 「情報や支援が必要な人にとどくように、SNS なども使ってお知らせしたり、手続をしやすくしたりする。」について、確かに SNS は有効な発信方法だが、本当に苦しんでいる人は SNS を使えない場合が多いため情報が届かないと思う。回覧板や自治体のおたよりなどアナログな情報発信も内容に含めた方がいい。

〇感想・振り返り

- 全体が網羅されていると感じた。

５班（18～22 歳世代５名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。

- 「地域」「地方自治体」という言葉が出ているが、ざっくりしていと思う。例えば、「地域（学区）」のように具体的な言葉で記載した方がいい。具体的に書けば書くほど良いと思う。具体的に書かないと、「自治体で動いているからいいでしょ？」というように中途半端になると思う。政治家は書いていること以外はやらないイメージがある。
- 大綱なので抽象的な文章というのは分かるが、どうとでも捉えられるような文言が多く使われている。果たしてこれでどうするのだろうと思ったのが、正直な印象。単語ごとでもいいので、具体的にした方が団体などにとって動きやすく、その動きを見た人も納得感を持てると思う。こどもたちにこう思ってほしいという吹き出しについて、個人的には、今叶っているということが多かった。ただ、「おとなになるのが楽しみ」と言っている人は、あまり聞いたことがない。少子高齢化の中で、私たちの負担が大きく、将来的にもらえるお金も少ない。就活生なのでキャリアの色々な話も聞くが、自分の未来が楽しみという人はあまりいない印象。そこが私たちにとって一番のネックだと思う。
- 自分は虐待を受け、やさぐれた時期があった。定時制の学校に通っている子はそういう子が多い。「心の健康を守る」ということを付け足した方がいい。自分らしくいられるのも大事。小中高生は非行に走ったとしても、まだ戻れるポジションにいる。このように意見を言う人は、何かしらの問題を乗り越えてきた人だと思う。自分の周りには、薬物で捕まってしまった人もいる。自分は家庭環境が悪く、周りの人は誰も助けてくれなくて諦めたことがあった。みんなが光を照らす側だとすると、闇落ちした子を救うために、「心の健康」を記載した方がいい。
- 具体性の点で引っかかった。読んでいて「～した方がいい」「～を目的とします」ということは分かった。現状どのような課題があり、それに対してどのようなことをやるのか示した方が分かりやすい。こどもと接する上で、こどもたちの支援は大事だが保護者や周りの環境などの支援も大切だと感じている。もう少し遺児家庭の視点もあるといいと思う。こどもへのケアは色々な団体がやっているし、分かりやすい部分が多い。保護者の方へのケアも必要だと思う。遺児家庭の子であれば、家庭で一緒にいる親が精神的に不安定だとよくない影響を与えてしまい、家が安心できる場ではなくなってしまう。
- 国や自治体の人たちは意外と助けてくれない。知り合いの家庭の子が自治体に相談したときに、民生委員さんが「あの家庭の親は心を開いてくれない」と諦めていた。対応の仕方を聞いていると、「こどものことを考えていますか」と親にプレッシャーがかかるような対応をしていると思った。こどもばかり守っている感じで、親の大変さがカバーできていなかった。親の支援は、親の身近な人だと大変さが分かるかもしれないが、その家庭にはそのような存在がいなかった。身近な人の温かさとまではいかないが、その代わりになるような支え方ができたら理想だと思う。親が笑顔でないと、子も笑顔になれない。
- 心の健康、具体性、おとなになるのが楽しみに思えない、などの意見について、自分も悩んでいたので共感した。こども家庭庁に支援してほしいことがある。まず、養育費未払いの親の勤務先情報を

国が把握して、税金のように徴収して、それを団体が養育費を受け取れていない親子に分配できる仕組みがあればいいと思う。年齢が曖昧なところがあるので、大学生や社会人などに限定せず、こどもが 22 歳なるまで平等に支払い義務があることにしてほしい。養育費未払いの親には給料差し押さえなどがあるが、個人経営の場合は給料の支払者が当事者になるので、経営者側に判断がゆだねられている状況。条件が一律ではないので、どこまで回収できるか分からない。養育費の取り決めがなされないまま離婚すると、請求するのがむずかしい。相手の居場所を探して交渉するのは、精神的にも時間的にも弁護士に依頼するエネルギーがなくて、泣き寝入りになることが多い。現在、支払い義務がある親の不払いの割合が８割と聞く。法テラスを利用して、負担軽減制度を使ったとしても金銭的に厳しい。いまこどもの７人に１人が貧困状態と言われている。経済格差をなくそうとしても、働いたのに税金が引かれてしまう。そもそも払うべきだった親に請求する仕組みができればいい。相手の協力にゆだねられる状況で、裁判もしにくく、困っている人がたくさんいる。国が管理する必要があると思う。戸籍から、離婚してこどもがいるという状況は分かるので、そこから調べられると思う。離婚は双方同意の下で行われるが、トラブルも情報として開示されているので、国が管理したら助かる人も多いと思う。両方の親に平等に責任があるので、そうして欲しいと思う。

- 小さい子だけでなく、問題を抱える成人したこどもを持つ家庭の経済的支援をして欲しい。兄弟のヤングケアラーにも目をむけてほしい。障害者として認定されていない成人した兄弟が、経済的自立ができていない状態だとひとり親にはとても負担が大きい。いま自分と母にとても負担がかかっている状況。ヤングケアラーにもつながる話だと思う。ヤングケアラーというと祖父母などの介護などのイメージになりやすいが、兄弟のヤングケアラーにも目を向けてほしい。こどもは成人したら「おとなだよね」となってしまうが、障害者認定されていなくても困っている事実は変わらないので、そこに目を向けてほしい。障害者認定も「受ければいいではないか」となるかもしれないが、素直な子であればいいが、非行に走って家族にも暴力をするような子だと、障害者認定を受けるために「病院に行こう」「支援してくれるところに行こう」と言っても行ってくれない。これらの点にとても困っている。
- ヤングケアラーは線引きがむずかしいと思う。「ヤング」はどこまでか。例えば、30 歳を超えると、それは若者ではないのかという話になる。「若者」の定義はむずかしい。ヤングケアラー、非行に走る 20 歳以降の若い世代のケアも何かしら必要だと思う。ヤングケアラーであれば、お金や物資を渡したり、何かしら時間をつくってあげたりする支援でもいいと思う。実際ヘルパーさんにお願いするとなると、お金がかかってしまう。20 代そこらで稼げる額は決まっている。遊ぶお金もないくらい。自分の時間をつくるためだとか、精神的に回復するためにヘルパーさんを雇えるかというとそれもできない。非行に走った子などへの更生プログラムもあるが、実際それで更生するのか疑問。非行に走って捕まった後は人生に絶望すると思う。そのような若者を受け止める受け皿が少なすぎるので、自治体や学区などに受け止めるところがあるといいと思う。非行に走って捕まるだけならまだ良いが、自殺・無理心中となると幸せからは程遠い。道を外れた人の受け皿も必要。自分が児童養護施設で生活して思ったが、こどもを守るためとはいえ刑務所みたいだった。集団生活をする上では多少のルールは仕方ないと思うが、時間や行動を制限されすぎて少年院と同レベルだと感じた。こどもの体と心を守るためにつくった施設だということは分かるが、こどもの心を育てられる環境ではないと思う。そのようなところにも目を向けてほし

い。また、こどもの貧困について、おとなはこどもを軽視しすぎていると思う。全部の学校にカウンセラーを配置した方がいい。親がこどもに何かした時の対応を地域の人は知らないと思う。地域や学区ごとで、親のための講習会をした方がいい。親は自分がこどもだった時にされたことをこどもにもしている。「今の時代は違う」というために地域ごとに「こどもとあなたは違う人間だから育て方も違う」という親の勉強会のようなものを定期的に開催した方がいい。

- 養護施設は場所によって特色やルールが全く違うということを聞いた。バラバラになっているところがある程度統一できればいいと思った。
- 病院の小児科に幼稚園・保育園、小学校、中学校など、成長したり勉強したりできる場所をつくるべきだと思う。自分は小児がんで入院していたが、幼稚園・保育園に通っていない。病院では看護師さんが甘やかしてくれたり、痛い思いをしたりしたが、治療の時間以外は自由だった。集団行動をする場がなかった。いきなり小学校に入って集団行動できるかというと難しい。成長のためにも、病院にそのような場をつくった方がいい。また、通院で休むのにも関わらず、公欠扱いにならないのはおかしい。自分のせいで病気になったのではない。通院や入院は自分の意思ではない。自分でコントロールできないのに公欠にならず単位が足りないというのはおかしいと思うので、何とかしてほしい。
- みんな全く異なる環境で育っており、自分は正直養護施設にいる人や非行に走る友人がいないので、状況が分からない。同世代でも分からないのにおとなに分かるのかということが疑問。おとなもこどもも一人一人違うし、色々な問題もある中で、一人一人の意見を聞いてきちんと汲み取って行動に落とせたらそれ以上のことはないと思った。
- 同世代の子が未成年でタバコを吸っていたりするが、同年代からでさえ変に思われるのにおとながそれを見たら「あいつ法律守っていないな」、「不良だ」、「問題児だ」などという扱いをされる。表面的なことばかりで中身は見ようとしないのはなぜだろうと思う。
- こどもにも色々違いがある中で、こども政策というと明るいものに焦点を当てがちである。ネガティブな感情を持っている子もたくさんいる。ネガティブな状況の子は、明るい環境にある子には理解されにくいと思う。今回のようないけんひろばがたくさん開催されて欲しいし、次回があれば参加したい。自分は児童相談所に保護されていたことがある。その環境も差があると思うが、自分の時は保護される条件が厳しくなり始めた年代だった。「通報があったからとりあえず保護しよう」みたいな感じだった。自分は小学校低学年の時、校内放送で呼ばれて、いきなり圧迫面接のように先生やおとなに囲まれた状態で会議室に連れていかれた。保護というよりは、「今日 1 日だけ一緒に児童相談所で相談しよう」ということで行ったが、ふたを開けると「家に帰らないでください」と言われた。そこから急に家族と会えなくなった。自分にどのような影響があったかというと、児童相談所では勉強する時間が全くなかった。ほとんどの子がそうだったと思う。入浴の際、シャンプーやリンスは 1 プッシュしかだめで時間制限もあった。服にも名前を書かなければならない。何も悪いことはしていないのに刑務所の中のような生活をしていた。テレビも少ない時間しか観ることができなかった。学校では 6 年間皆勤賞を狙っており、辛くても毎日学校に行くようにしていたので、その体験は自分にとってとても影響があった。いきなり連れていかれて全く違うスケジュールの生活を送らなければならなくなった。その後、学校に行きたいと言い続けて、学校には通えるようになった。ただし、色々な条件があり、親戚の家から電車で通わなけれ

ばならなくなった。学校の開始時間に間に合わなくなり、朝の会の途中から参加しなければならないことになった。学校に来なくなる子は珍しく、学年間のつながりは強かったこともあり、みんな自分のところに集まって「なんで学校に来なかったの？」とずっと聞かれていた。そのようなことがあったので、学校に行きづらくなってしまった。児童相談所において、勉強する場所は一律につくって欲しいし、こども本人の意見を聞いて話し合ってから保護してほしい。「こどもだから分からないよね」、「親のことをかばうよね」といって、こどもの気持ちが無視されているので、そこにも目を向けてほしい。

〇感想

- 色々な人がいるんだなと思った。上辺だけの話だけでなく、自分の話もできて色々な発見があったのがよかった。非行に走ったり、態度が攻撃的だったりする子も何かしら事情がある。何かされた際は別だが、変な目で見ないで欲しい。やさしい心で接してほしい。
- 今回の場で色々な人がいるなと思った。自分が意見を言うばというよりは、同年代でも色々な経験をしている方がいて、色々なことを知っている方がいるということが分かった。触れた情報によって自分たちが変わることもあると思うので、このような場を私たち若い世代も開けたらいいと思った。
- このような場があってうれしかった。将来、こどもたちの支援をしたいと思っている。今日はみなさんの話を聞きに来たという面が大きかった。できれば、今日伝えきれなかった意見を自分にも共有してほしいと思ったので、対応してもらえるとうれしい。
- 色々な人の意見を聞けて良かった。色々なバックグラウンドを抱えて、色々な気持ちで過ごした人がいるということを知れて良かった。
- 色々勉強になったので良かった。頻繁にこのような機会があれば、みんなのためにいいと思った。

いけんひろば後に追加いただいた意見

◆言い足りなかったこと

- ひとつ言い足りかったのは、もっとカウンセリングの場を設けるべきだということです。カウンセリングに対する抵抗感がまだまだ日本は大きいと思います。
- 給食の時間を伸ばしてほしい。
- 母子家庭によるお金関係の支援を増やしてほしい。
- 義務教育中の給食費を免除してほしい。
- 大阪だけじゃなく、日本全体に授業料無償化したら高校の選択肢が増える。
- 母子家庭によるお米や食料　生活品の配布をしてほしい。
- 子どもが非行するきっかけは、大人が「今日仕事疲れたなー」「嫌なこと忘れたいな」「気分落ち着けたいな」と思ってお酒を飲むとかタバコを吸うのとたぶん似ていると思う。何か家庭事情などがあって非行する人ももちろんいるけど、何か大きなきっかけがない人でもほんとにささいなきっかけではじめる人もいると思う。実際自分もそうなりそうなときがあるからこそそう思う。
- 私の家庭はひとり親で、親が精神的なもので仕事ができない状況かつ自分自身も精神的なものでアルバイトができない状況にある。私は将来就きたい職業があって、どうしても大学に行きたいのだが、入学金や授業料について困っている。入学前のお金を用意するのがまず大変なので、そのための給付金など将来に負担のない形での金銭的補助がほしい。
- 少子化対策として、生涯で 3 人以上出産した女性は自動的に年金アップさせるのはどうでしょうか。
- 子育て期間が長くなるので社会に出るタイミングも遅くなり年金も少ないので、安心して子育てができるのではないかと考えます。産む人増えるかもしれません。
- 「自殺を防止する」について、自殺＝悪いこと、してはいけないことのような解釈を助長するような表記はあまりよくないと考えます。私も死のうとした経験があります。死にたいと考えるほど追い込まれている人にとっては最後の逃げ道さえ塞がれるように感じます。また、死にたいと思ったことを周りに相談しにくくなるので、ひとりで抱え込んだまま死ぬことに繋がってしまいます。人は誰しもいつかは死にます。死もライフイベントの 1 つです。どんな生き方をするかは本人が決められるのなら、最後も本人が決められるべきではないでしょうか。死ぬこと自体は皆絶対に経験することで、悪いことではありません。極度に追い込まれる状況を問題視し、改善しようといるのではありませんか？そうであれば、更に追い込んでしまう「自殺を防止する」といった表現は不適当です。「極度の追い込まれ防止」「ひとりで抱え込み防止」私はネーミングセンスがないので提案ができませんが、何か違う言葉に変えていただきたいです。
- ①養育費未払いの親へ、勤務先情報を国が把握して、税金のように徴収。それを団体が養育費を受け取れていない親子に分配できる仕組みがあったら良いと思います。また、大学生か社会人かに限定せず、平等に一律子供が 22 歳まで支払義務があることにしてほしいです。

  ［理由］養育費未払いの親へ、給与の差押えがあるが、個人経営の場合は給与の支払い者が当事者となる。経営者側に判断が委ねられているため、条件が一律ではなくどこまで回収できるか分

からない。また、養育費のとり決めがされないまま離婚した場合、その後養育費の請求をするのはなかなか難しい。相手の居場所を探して交渉するのは精神的にも時間的にも弁護士に依頼するエネルギーがなく泣き寝入りになる。(法テラスの民事法律扶助を利用して費用の負担軽減があっても金銭的に厳しい)(現在、支払い義務のある親の不払いの割合が、約 8 割となっており、泣き寝入りしている片親が大勢いることが分かる。私の家もそうです。)戸籍から、離婚して子供がいる情報が分かる。結婚は双方同意のもと行われるもの。

- ②所得に応じて、半額の IC カードの支給があると嬉しいです。(親にも)また、友達と外出する時、その IC カードが他の人と違うことが分からないような配慮があるとより使い易いです。(IC チップに情報の書き込み)
  ［理由］交通系 IC カードが小学生で使えなくなった(子供料金)。中学生になって大人料金となり友達と外出する頻度が減った。
- ③問題をかかえる成人した子供をもつ家庭の経済的支援をしてほしいです。
  障害者認定されていない成人(18 歳)した兄姉が経済的自立ができておらず、ひとり親にはとても負担が大きいです。母と私に負担がかかっています。(ヤングケアラー)「障害者認定を受ければいいんじゃ？」と思うかもしれないのですが、障害者でもタイプが全然違い、大人しい子と非行に走ったり、暴力的・衝動的な面が強い子がいます。後者の場合、「病院に行ってみない？」「支援を受けられる所があるから行ってみない？」と話しかけた瞬間に、激昂して暴れるので、難しいです。子から親へ(兄姉から弟妹へ)の暴力は逃げ場がないと感じます。
- ④経済格差による体験不足
  AO 入試など教育格差。留学などは当然行けないし、旅行・外食にも気軽に行けないなど、皆は当たり前に得られている思い出が得られないことは自信のなさに繋がると思います。ひとり親だと、毎日遅くまで働いて家に帰ってからも家事育児が待っているので時間的余裕もないです。

いけんひろば当日参加できなかった方から頂いた意見

- 母は私を妊娠・出産した後、産後鬱になり子育てをしなくなり家事も出来なくなり、寝たきり状態になって最後には自殺したと父から聞いています。父は長距離ドライバーの運転手をしているのですが、当時、母のサポートをする時間を作ることが出来なかったと、悔やんだようです。私が物心つく前の出来事なので、母親のことは写真でしか見たことがありません。でも、父の悔いて仏壇に手を合わせる姿を見ると、母の孤独を救う子育て支援があったら違ったのかなとか、父が定時で帰ってこられるような仕事を選択していたら母は救われたのかもしれないと思ってしまいます。私の夢は家庭を持つことです。でも、そのためには男性にとっても女性にとっても誰とってもだと思いますが、社会で子育てをすることが最優先事項となってもらわないと安心して結婚する選択ができないです。私は父のような同じ轍を踏みたくありません。その為、中卒の父親のような生き方では愛する人を守れないと考え、私は今、大学に通い愛する人を守れるような力を身に着けようと考え行動しています。それは亡き母が残してくれた私へのメッセージだと受け止めているからです。私が考える子どもの貧困問題の対応策は、労働者を雇用する企業責任として「労働者の健康や家庭を守ることを責務とする」という文言を労働基準法または子ども大綱に明記することだと思います。そうすれば、中卒だろうと高卒だろうと、どの仕事を選択したとしても子どもを守り、愛する人を守ることができる環境に繋がっていくのではと考えるからです。

  （以下、補足）

  企業の労働環境に安心・安全の空間がないと、子育てをしながら働くことに対して罪悪感を持ってしまう親が多いと思う。就職活動を考えていくうえで、子育てを支援する環境があるかは重要視している。私生活はもちろん、職場でも誰からも責められることのない安心・安全な環境を確保しないと親や若者たちは結婚を考えづらいのでは。

- 私は今、地元で父親と離れて暮らしています。父親との関係は悪く、小学校の頃や中学校の頃、そして高校時代と父親と同じ空間にいることが苦痛でした。父は、私の考えや思ったことを口にすると、大声で怒鳴りつけてまったく話を聞いてくれるような人間ではありませんでした。そのため、幼い頃から早く家を出たいと考えるようになり現在にいたります。本当は大学に進学したかったのですが、私が中学生の時に父がうつ病と統合失調症を患い精神障碍者になってしまい生活保護を貰っていた為、進学を諦めざるを得ませんでした。今は大工の見習いとして住み込みで働いています。今回、子どもの貧困の大綱を読んで実は驚いたことがあります。それは、父子家庭向けに支援制度があったことです。また、学習支援や奨学金制度等の取り組みがあること自体も、今回のお知らせをきっかけに初めて知りました。父子家庭で児童扶養手当を受給していることは知っていましたが、子どもの権利とか子どもの意思決定とかがあることも初めて知りました。私と父の 2 人暮らしをしていた時には母子父子自立支援員さんなんて会ったこともないですし、スクールソーシャルワーカーなんてものも会ったことがありません。私と父を支援してくれたのは、障害福祉の相談支援専門員さんとか、訪問看護の看護師さんとか、そうした人達しか関わりを持っていただいたことはありませんし、そうした支援員さんたちから子育て支援の情報とか、子ども・若者支援の情報なんてものは聞かされたことはないです。そうし

た経験から、相談窓口を横断的にするのであれば医療や障害福祉の相談員さんを子ども大綱の中に、しっかりと文言として入れないと私のように子育て支援の恩恵を受けることが出来ない人たちがたくさん生まれてしまうのではないかと思いました。

以上

2023/10/27開催　いけんひろば
～「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう～
出向く型開催回　児童館　いけんのまとめ

1班（小学生５名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。どうなってほしいですか。

- 学校の遠足を増やしてほしい。来月は遠足で動物園に行く。
- 学校に遊ぶところがもっと出来たらうれしい。職業体験ができるテーマパークみたいにしてほしい。
- 遊具を増やしてほしい。
- 20分休みを増やしてほしい。
- ４限授業の日を増やして、午後は遊べるようにしてほしい。
- 勉強の時間を減らしてほしい。体育の授業は増やしてほしい。
- 授業を減らしてほしい。
- テストの答えを漢字で書かないと不正解になるルールを変えてほしい。
- テストの問題を減らしてほしい。宿題も減らしてほしい。
- 運動会でもう少し全部の組が平等に勝てるようにしてほしい。どうやったら点が入るのか、基準を分かりやすくしてほしい。白組が赤組に勝って、赤組を叩いてきた。差別だと思う。
- 運動会の種目を自分たちで決めたい。
- 運動会などで土曜日に学校にきたら、その分休みの日がほしい。
- 給食にもっとデザートを出してほしい。転校してくる前の学校ではフルーツポンチなどが出ていた。からあげやラーメンなど、色んな種類の給食を出してほしい。お弁当の日も増やしてほしい。
- １カ月に１回は好きな給食のメニューをリクエストできるようにしてほしい。それと、給食のエプロンは自分の家にあるものを使えるようにしてほしい。持って帰って洗うのが楽になる。
- 14階建てくらいの大きい公園や遊び場がほしい。児童館でおやつを配ってほしい。
- 児童館で読み聞かせの日を増やしてほしい。
- 児童館のプールが、人が多くて泳ぎにくい。
- 児童館に鉄棒がほしい。自分の市にもう少し遊ぶ場所がほしい。遊具とか、体を動かせる場所が増えるとうれしい。
- 図書館に本を増やしてほしい。青い鳥文庫の本などを置いてほしい。２週間しか借りられないのは

短いと思う。市によって一回で借りられる冊数も違うので平等にしてほしい。

- 人気の本はもっと増やしてほしい。
- 赤ちゃんも子どもも大人も、誰でも読める本がほしい。
- 日本がもっと広くなってほしい。
- 公園や道路ではどうしてうるさくしたらいけないのか。
- 車の免許がもっと早くから取れるようになってほしい。
- でこぼこしている道があるので、転ばないように道路を舗装してほしい。
- 車は自動運転がいい。
- 渋滞を減らしてほしい。1 時間かけて習い事に行っていて、電車が遅延したり車が渋滞したりしていると遅刻してしまう。渋滞しないように 3 車線にしてほしい。
- 雨の日でも使える自転車が出来てほしい。雨の日は車で買い物に行く人が多いから、自転車に屋根がつけば車道が混まないと思う。
- クリスマスを増やしてほしい。お金がない人もいっぱいプレゼントをもらえるようになる。
- 新しいおもちゃはほしいが、3 人兄弟で家の中におもちゃが多いので、引き出しに入りきらない。
- おもちゃが安くなってほしい。

〇どうしたらお金の心配なく暮らせると思いますか？

- 買い物の値段をすべて今より 100円安くしてほしい。
- 世界からお金というものをなくす。全部タダになれば、お金をほしがる人もいなくなって泥棒もいなくなる。
- 泥棒が減ってほしい。アメリカとかでテロがあるというニュースを見た。そういった事件が減ってほしい。警察を増やしたり、防犯カメラを増やしたりするといいと思う。

〇大人になるのは楽しみですか？

- なりたくない、死ぬのがはやくなってしまう。
- 結婚はしたい。
- 自分は結婚したくない。
- 大人になったら自分だけで火を使えるようになる。今は危ないからと親に止められる。
- 自分はもう料理をしたりしている。
- お酒を白じゃない色にしてほしい。ジュースと間違えてしまう。

○自分(じぶん)らしくいられていますか？

- 外(そと)では自分(じぶん)らしくするのは恥(は)ずかしい。家(いえ)では恥(は)ずかしくない。

２班（小学生９名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。

- 学校をなくしてほしい。学校は面倒だし、担任の先生がうるさい。「日本語が伝わっていますか」「毎日宿題をやっていますか」と先生に聞かれたことがあり、答えても先生から小言を言われた。
- 先生に呼ばれたから先生のところに行ったのに、先生が私を呼んだこと自体を忘れていたということがあった。
- 小学校２年生の頃はスープが食べられなかったので、給食でスープが出るときは特別に最初からスープを減らしてくれた。
- 学校に行かないといけない上に、習い事にも行かないといけない。お金がなくても生活できる社会がいいと思うので、お金を必要としない社会になってほしい。
- 誰にでも公平な社会がいい。
- 病気になってもすぐ治るおいしい薬が欲しい。
- やさしい親がいい。
- 生活に必要な物の値段が高すぎる。
- 学校で出される宿題の量が多い。

〇おとなになるのは楽しみか。

- 自分がおとなになってこどもを育てる場合に、自分のこどもがどう育つのかが楽しみである。
- 自分の夢が叶うかが楽しみである。
- １人暮らしをすることが楽しみである。
- 仕事をすることが楽しみである。
- クラブ活動が楽しみである。
- 料理をすることが楽しみである。
- おとなになることは微妙だと思う。
- おとなになることは少し不安である。
- おとなになることを考えると、お金の面で少し不安がある。おとなになったら自分で働かないといけない。
- 将来どのような職業に就くかが不安である。
- お父さんやお母さんを見ていると、自分でご飯を作ったり、働いたりしないといけないので、おとなにな

ることは面倒だと思う。

- 将来、ブラック企業で働くことになるかもしれない。働きたくない。
- おとなになることは大変そう。
- おとなになった時の食やお金、家について心配である。
- 将来1 人暮らしをすることは心配である。
- おとなになると、できることが少なくなるから不安である。
- 命。
- おとなになって料理や洗濯、こどもの世話をすることが不安である。
- 将来はマンガ家になることを目指しているが、上手く絵が描けないのでおとなになって仕事を探せるのか心配である。
- 自分の持久力がないから少し迷っているが、お父さんが自衛官だから私も将来は自衛官になりたい。
- おとなになってしたいことは特にない。

〇こどもが幸せになるためにしてほしいことはなにか。

- 宿題をなくしてほしい。私は宿題をするときに宿題の答えを見てしまうので、宿題をなくす分学校で十分に勉強出来る方がいと思う。
- 宿題の量が多いので内容を忘れてしまう。塾に行きたい人だけが塾に行けばいいと思う。
- 遊ぶためやゲームをするためのお金がほしい。
- 学校の休み時間を 10分くらい増やしてほしい。
- 他の地域では、授業でゲームをすると聞いたので、私の小学校でも授業でゲームができるようになってほしい。

〇こどもが幸せになるためにほしいものはなにか。

- 遊園地
- ゲーム
- 好きな食べ物
- お祭り
- 将来のためのお金
- 幸せ
- 税金をまかなうためのお金
- 募金

- 勉強
- 生きるためのお金
- マンガ

○困っている人にあったらいいなと思うことやものは？

- 孤児院の子たちに家族がいたらいいなと思う。
- 困っている人の差別をなくしてほしい。
- 困っている人に協力する人がいるといいと思う。
- 困っている人に募金するといいと思う。
- テレビ
- お金
- 家族
- 衣食住
- 幸せ
- 時間
- 友達
- 食べ物
- 薬
- お菓子
- 遊び
- ゲーム

○何をしているときが一番楽しいか。

- 好きなことをしているときが楽しい。
- 寝ているときが楽しい。
- お風呂に入っているときが楽しい。
- 友達といるときが楽しい。
- 学校は遊べるから楽しい。
- 明日は運動会があるので楽しみである。

〇国の偉い人たちにしてほしいことはあるか。

- 誰もが幸せになってほしい。
- みんなが笑顔になってほしい。
- 学校が長すぎる。
- 学校をなくしてほしい。
- 席替えを自分で決めたい。
- 先生の当たりはずれが大きい。はずれの先生は、すぐ怒る人などがいる。怒ったら怖い。授業がつまらない。
- 先生の体罰をなくしてほしい。
- 男子は怒られたときに 2 時間立たされるのに対し、女子は 30分だけ立たされていた。
- 低学年が高学年に喧嘩を売ることをやめてほしい。
- 校長先生の話をなくしてほしい。
- 学校をなくして遊びたい。
- 嫌いな先生がいなくなってほしい。
- 犯罪をなくしてほしい。
- 学校の数が少なくなっているので、こどもが増えてほしい。
- 戦争をなくすために世界中のみんなが平等と言える生活をさせてほしい。
- こどもになにかをやらせるときは、まずはおとながお手本を見せてほしい。
- あまり勝手に法律を作らないでほしい。
- 宿題でわからないことを聞ける人やロボットが欲しい。
- 人によって態度を変えないでほしい。
- 物価が高いことを改善してほしい。
- ゲームの値段が高いので改善してほしい。
- 戦争がなくなってほしい。

〇その他

- 政治が何かわからない。
- 政治と聞くと、議会で寝ている議員のイメージがある。
- 自分が好きで留守番をしているのに、こどもが留守番をしていると虐待と言う人がいる。
- 学校で困っていることとしては、先生が怖いことである。昔学校の先生が生徒の首をしめたという噂がある。

- 遊び場所として、他にも児童館はあるし、遊ぶ場所は足りている。
- ６才くらいからおとなはこどもの言うことちゃんと聞いてくれないと思うようになった。学校の先生もあまりこどもの言うことを聞いてくれない。保健室の先生とはほとんど話をしない。
- 困ったことがあったら家族に話している。
- 困ったら友達や先生に助けてもらう。
- 学校ではカメムシがいっぱい出るので、困っている。
- もし総理大臣になったら、私は花火が好きなので毎日お祭りを開催したい。
- 学校が休みの日に風邪にかかり、学校に行く日に風邪が治っている。学校で風邪を貰っていると思う。
- 台風が来ていたのに、学校に行かなくてならないことがあった。
- 学校では、先生が誰か指名する時にその日と同じ出席番号の人を当ててくる。
- 学校で困っていそうな人は特にいないと思う。

３班（小学生２名）

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

〇こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」に関する自分のいけんについて

- 学校をもっと楽しくしたい。にぎやかにしたい。20分休みを楽しくする。
- にぎやかにしたい。おともだちいっぱい。ピアノがひける。
- 税金が高いとお母さんが言っている。
- 学校のともだちみんなにやさしくする。お母さんや先生が優しいとうれしい。
- 鉄棒、上り棒、うんていが得意。
- 何して遊ぶか自分で決める。児童館もともだちと来る。
- 本も好き。お絵描きもする。ドラえもんをたくさん読みたい。
- 学校の勉強をもっとわかりやすくしてほしい。宿題が難しい。算数プリントのやり方がわかりにくい。頑張って自分のやり方でやってみる。
- 音楽、道徳、国語、算数がつまんない。体育と図工は好き。
- 音楽会、先生たちが決めた歌は楽しくなかった。わくわくしなかった。トトロが歌いたかった。
- 学校は、ピアニカじゃなくてすずがよかった。
- 運動会は楽しかった。「すしくいねぇ」を踊ったよ。
- ２時間授業にしてほしい。時間割を自分で決められるなら、プールと図工と体育と図書ばっかりがいい。
- 学童は楽しい。
- 夏休みは学童を休みたい。ここの児童館がいい。
- 休みの時は、猫をなでていたい。
- 猫をいっぱい飼いたい。
- 保育園にまた行きたい。おやつや給食は好きなところで食べたりできた。お昼寝したり、遊んだりした。学校はおやつがない。

個別インタビュー

【テーマ：「こどもまんなか社会」について】

○（こども）何か日々の生活の中での困りごとや意見などはありますか。

- 児童館の開館時間について、夏で遊んでいい時は、6時までがいいです。冬で遊んでいい時は、5時までがいいです。
- 先生が女子には優しいけど、男子にはうるさい（男女差別）。
- 先生の男女差別がひどい。
- 先生が面倒くさく、やだ。食器がわれた時、だるかった。
- 先生の言った言葉がころころ変わる。
- 先生の声がでかすぎる。
- 先生の声が大きい。
- 大人がいやだ。
- ちょっかいなし。
- いじめなし。
- 宿題をはやくやりたい。
- 宿題が多い、少なくして本当に。
- 宿題が面倒くさい。
- 宿題がめちゃくちゃ多い。
- 宿題3つはいつも多い。
- 宿題が多い。
- みんなでハロウィンパーティーしたいよ。クリスマスもたのしいよ。
- 自由時間が少ない。
- この市は文句なし。
- バスケができる環境をふやしたい。
- 兄がゲームばっかりやっていて家族が困っています。私は怖くて何も言えないです。
- 体育館にエアコンほしい。
- 世界がもっと明るい世界になってほしいです。

以上

2023/10/17 開催　いけんひろば
～「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう～
出向く型開催回　児童養護施設　いけんのまとめ

（確認中のため、後日更新）

令和５年度 こども若者★いけんぷらす
「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう
アンケート調査結果（いけんのまとめ）

○調査概要

（１）調査テーマ

- 「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう

（２）調査対象

- 「こども若者☆いけんぷらす」の「ぷらすメンバー」に登録している方

（３）回収状況

- 調査対象者数：897 人
- 有効回答数（率）：133 件（14.8%）

（４）調査方法

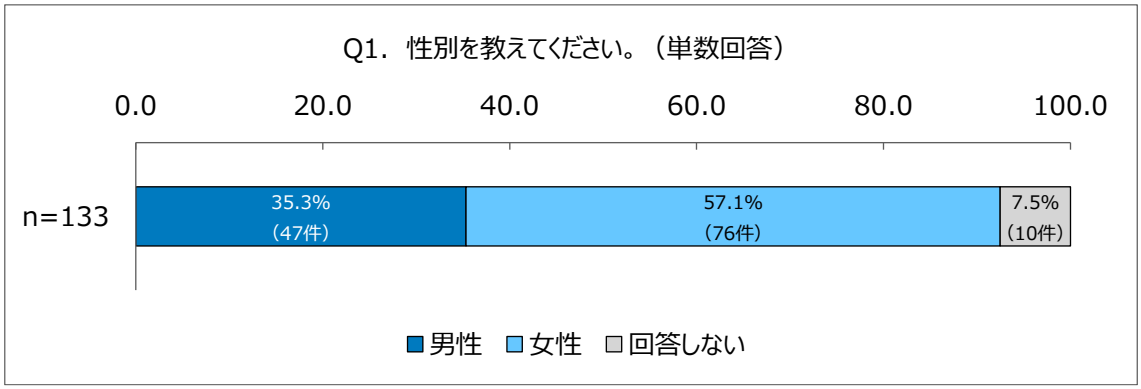
- Google フォームを用いた WEB アンケート調査

（５）調査期間

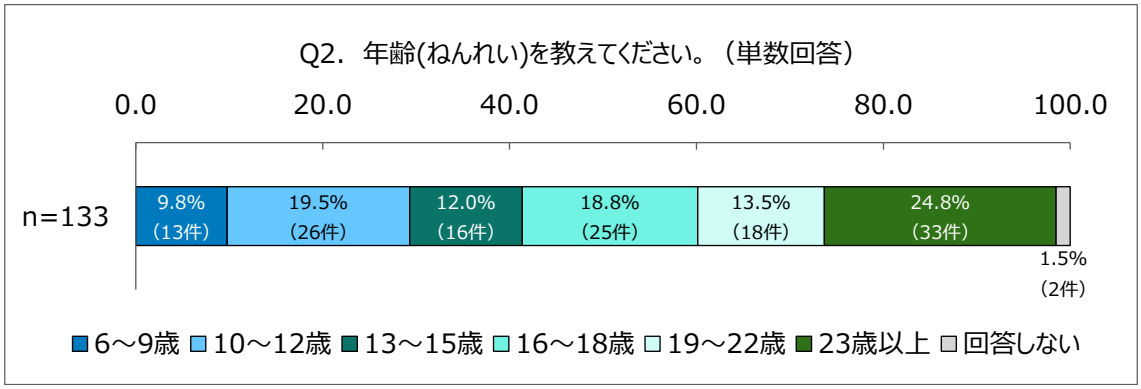
- 令和５年 10 月３日（火）～10 月 19 日（木）

○調査結果

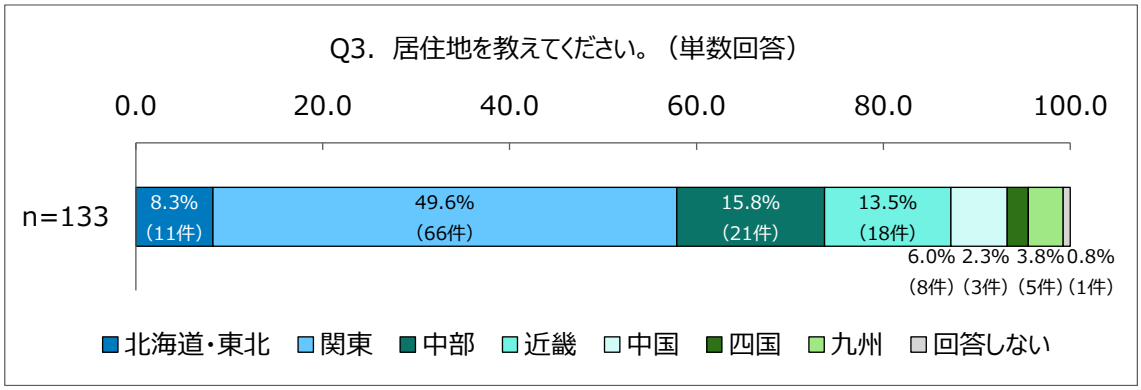
Q１．性別を教えてください。（単数回答）



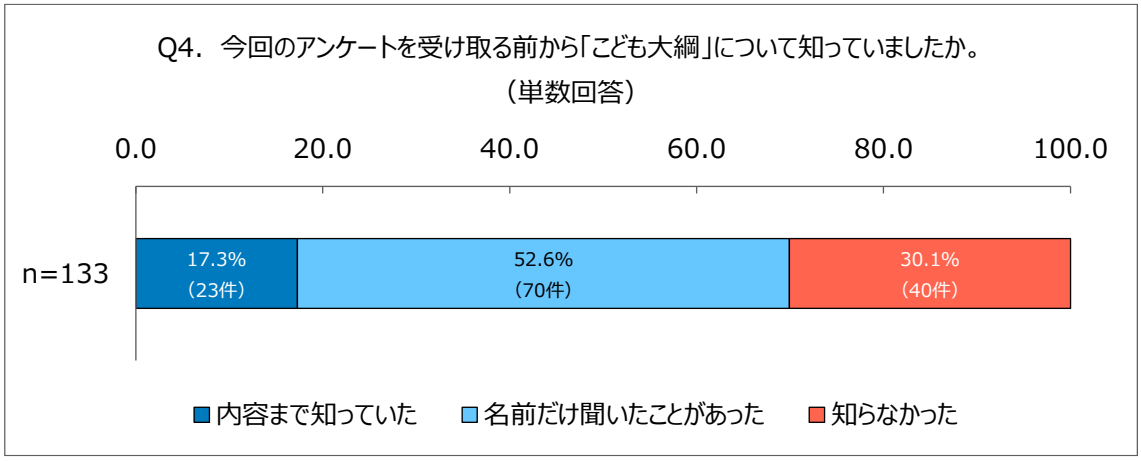
Q２．年齢を教えてください。（単数回答）



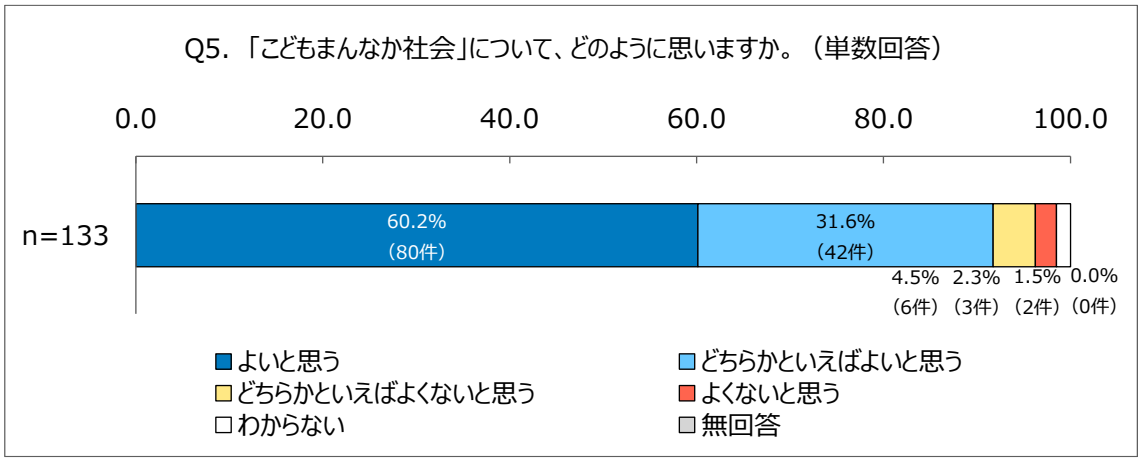
Q３．居住地を教えてください。（単数回答）



Ｑ４．今回のアンケートを受け取る前から「こども大綱」について知っていましたか。（単数回答）



Ｑ５．こども大綱では、次の画像のとおり、「こどもまんなか社会」を目指します。この「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。（単数回答）



Q６．前の質問（Q5）でよい・よくないと思った理由はなんですか。また、画像に書かれていることのほかにどのようなことがあれば、あなたやまわりのみんなが幸せに生きていける「こどもまんなか社会」になると思いますか。あなたの考えを自由に答えてください。画像の吹き出しの中のことばを直したり、言葉を増やしたりするのでもいいです。

Ｑ６．前の質問（Ｑ５）で「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」と答えた人の意見

- インパクトが足りないような気がして、もう少しイラストを大きくして誰がどんな意見をもっているのか分かりやすくしたりすればいいと思う。
- ぼくは障害者です。ぼくが学校行くには、お母さんか看護師さんが一緒じゃないとスクールバスに乗れないので登校出来ません。大人の都合が合わないと学校行けません。元気な子供みたいに毎日当たり前に学校行きたいです。すべての障害者が安心して住める、通える、生きれる様にして下さい
- 学校の道徳の時間で本当の思いやりについて学習しました。自分の意見を押し付けるのではなく相手の考えを尊重し、寄り添うことが大事だと学び、子供まんなか社会については子供だからできないじゃなくてできること、役割を見つけて頼んであげることが大切だと思います。なんでもかんでもやろうとせず相手に委ねることでたっせいかんを味わえるのではと思います。
- 「おとなになるのが楽しみ」の吹き出しがいらないと思います
- 〈理由〉子供が真ん中の社会ができることが嬉しい。
- ひとりひとり大切ににされ自分らしく生きられ健やかに育っていける社会にという言葉がいいなと思ったから
- こどもまんなか社会というか、おども（おとなこども）まんなか社会の方がよいとおもう。こどもだけというより、大人とタッグを組んで一緒に共同して、話し合いお互いが等しく対話したほうが、どちらか我慢しなくちゃいけなくて、ストレスを溜めなくてはならないということがなくていいとおもう。討論を気軽にしたい。
- いじめや差別がなく、個々が尊重される社会
- みんなとなかよくすごせてながいきできるから。じぶんたちでなにかをそだてたり、ちいさいころからひとがよろこぶことをしたい
- 今までは大人たちが政治をし、投票権も 18 歳以上で子供が政治に関わる機会がなかったから、このような政策はいいと思う。
- 家庭の事情で出来ないことができるようになると良い
- おじぃちゃん、おばあちゃんも孫も幸せ
- 学校をもっと自由な場所にしてほしい。勉強する内容や登下校の時間を自分で選べるようにしてほしい。休みた

いときは休みたい。多くの大人の時間に合わせて、私は登校しているから疲れます。私は睡眠障害です。夜眠れないから朝が早いと毎日寝不足で、イライラするし頭はふらふらして気分が悪いし、風邪もよくひきます。もっと朝ゆっくり寝ていたい。わがままですか？学校を休むと勉強が遅れます、だから眠くてもがんばって学校に行きます。でもいつかたおれてしまいそうな気がします。お母さんは心配します。無理に行かなくていいよといいます。でも勉強はきらいじゃないし、友達にも会いたい。学校はがんばっていくし、勉強もするから、もっと朝ゆっくり寝かせてください。

- 世の中に子どもの意見も反映されそうだから。
- おじいさん、おばあさんたち、年上の人たちと協力する
- 少子高齢化が進み、子供の数が少なくなっているからこそ、子供のことをしっかり考えてほしいと思う。子供が自由にやりたいことをできる社会であってほしいと思う。
- 「若い世代」や「子供」というキーワードがいいと思った。
- 何をするか自由に選べる
- 子どもの名案を、大人が聞いてくれるようになると嬉しいから。
- 理由は、大人のことを気にせずにこれなら生活できそうだから。
- 理由は、大人のことを気にせずにこれなら生活できそうだから。
- 子供が自分らしく生きていけるというのがいいと思ったから
- 考えたうえで何をするか決める
- 親が笑っていると、家が明るく、楽しい。親の幸せは入れないの？
- 子供も選挙などに投票できるようになれば良いなと思います。選挙ポスターは学校に掲出されていて、いつも気になっていてお友達と話しています
- 自分たちが安心して楽しく暮らせると思うからです。
- 将来について考えられるきっかけを作る
- これまで、今を創っているのは大人で未来を創るのが子どもという考え方が私の中にあって、若い世代の社会への活躍場があまりないと感じていたけど、「子ども真ん中社会」があることによって、私の意見が社会に反映されている実感があって、とてもやり甲斐があるからです。
- 「病院の受診が無償でできる」ことを加えて欲しいです。
- よいと答えた理由は、こども・若者の吹き出しの内容があれば安心できるから。
- 子供が大切にされて良いと思う
- 子どものことを優先してくれる社会
- 他の人に否定されない。
- 子供が安心してくらせるから大人に相談しやすくなるから
- 書いてある内容はとてもいいと思った。同じ立場に立って親身になって意見を聞くと追加してもいいと思った。
- 学校が楽しい！
- 大人に縛られない
- 子供まんなか社会だから自分らしくいられる
- 男っぽい、女っぽい、男子は男子と遊んだり、男らしい遊びをするものと決めつけられないところがよかった。
- 子育て世代だけが得しているというわけではなく 巡り巡って 全員が得をする社会の理想像を描いているのがいい
- 「社会全体が幸せになる」という目標はとても良いと思ったからです。
- 高齢者との繋がりが表記されていないのが気になった。僕は核家族で高齢者の方とは登校時の横断歩道の旗降り位しか接点がない。誰もが高齢者になるので 70 才位の自分をイメージしたいのと、自分が高齢者になった時に子どもや若者世代とどう関われば良いのかを知っておきたい。

- 自分らしく、楽しく生きていけそうなので良いなと思いました。
- こどもまんなか社会に必要な視点は、セツルメントの考え方を活用した調査による当事者の声だと考えます。
- 子どもの信教の自由を保障することもしてほしい。信者の親によって信仰を強制されて苦しむ子どももいる。また親が宗教にのめり込みすぎて家計が破綻する例もあるので、それを引き起こす宗教団体は規制してほしい。
- 子どもを産ませたいという考えが透けて見える言葉遣いがある
- 自分の充実のうえで人へ手を差し伸べる選択ができる環境で過ごすことができる。
- 特に無いが、こどもの人権と居場所と景気と経済（中学生と高校生も含む）になる為の準備の土台にもなっている。夏休みで、部活や受験で忙しい依存社会から脱却出来る可能性は、十分ある一方、まだ少し、中学生と高校生のこどもの人権と保護の取り組みが今だに少ないのと、前向きに行って居ない。その為には、文部科学省に対して、全国の小学校と中学校と高等学校（特別支援学校や私立学校）で服装などの改革が必要である。あるいは、軽装服装なども含めた私服登校を 100%化バランスよく慎重に、年内か来年の早期に考えて頂きたいです。僕の中学の特別支援学校が、私服 OK だったので、自分だけで私服登校で認められると自分がもし親になった時に、他の親から恥ずかしかったり、自分がもし、子供が誕生したら、自分と同じ体験案を同じ子供に高校卒業までに私服登校を永久に体験が出来る機会があれば良いと思います。私自身は、「制服を廃止せよ！」とは、考えておりません。制服も日本にとって良い文化でありますが、何でも感でも、必要でない場所で、制服を着るのは、景観が悪くなります。
- 子供が大人になりたいと思えるように、子供が大人になってからも幸せで健やかな生活を送ることができるような社会の実現が必要だと思います。
- 書いてある理想はとてもいいと思うが実際に実行することが可能であるかが甚だ疑問です。理想を掲げても 1 人では実行できないしそういうところで政治などの力が試されると思う。
- 多様性が認められるなら自分の意志で子どもを持たない、結婚しない人は今後増えると思うので、人減少は食い止められないと思う。人口減少してもよい社会を築くべき。
- こども若者世代を支える世代が、どのように行動すると良いかということも示されていたら良いかと思います。
- とても良い
- 子どもや若者の意見を十分尊重してくれているのはとても良いことだと思います。政策を進める上で、当事者の意見はもちろん、より多様な視点からの意見を取り入れることも忘れないでほしいと思います。あと、若者がもっと政治に参加しやすくなるような仕組みを整えてほしいです。僕も中学校の公民の授業などで政治について学びましたが、その時は国会の仕組みなどをただ暗記させられるだけだったので、なんとなく、「政治はつまらないな」という印象を抱いていました。子どもが「政治は面白いな」「自分も政治に携わってみたいな」と思えるように、まずは授業のあり方そのものを変えていってほしいと思います。国政選挙においても、現行の制度では衆議院と参議院はそれぞれ 25 歳と 30 歳からしか立候補することができません。僕が以前住んでいた町の議会では、議員の中でも、年配の方が本当に多いな、という印象を受けました。子どもや若者の意見をより反映しやすくするためにも、現行の被選挙年齢の引き下げなども検討していただきたいと思います。
- 子どもの権利条約を子どもや、親、そして子育てなどを選択しなかった大人にも周知すること
- 家庭環境が重視されているように読み取れたので、親への教育(子供の心理学？など)があっても良いのかもしれないと思いました。憶測ですが病院で出産しなかった(またはできなかった)人はあまり経済的な余裕も周囲のサポートも少ないと思うので、教材は誰でも見れるように YouTube に投稿したり、機会が限定されないやり方が良いと思います。子育てへの備え以外にも、大人になってからの生きづらさに対してもヒントが得られるかもしれません。
- 人によって幸福の概念は異なるが それらが平等に尊重されているから。
- 20 代、30 代が将来に希望を持てる社会、国づくりにしていくことは重要だと思います。能力とバイタリティのある若者が他国に移住を決めることが周りで増えており、それをみた子供世代も日本で活躍するのではなく海外でより良い生活を理想とする子供が増えていると実感しております。少子高齢化に加え日本で育った若者が国外に

移住していることは国の衰退を助長していると思うので、日本で暮らし続けたい社会を目指すべきだと思います。

- 年少扶養控除の復活をお願いします。自民党の政権公約に明記されておりましたが、未だ実現していません。なにがボトルネックとなっているのでしょうか？財務省でしょうか…？子どもが産まれましたが、子どもを扶養するのに扶養控除がないことに驚きました。扶養されるしかない子どもが扶養控除を使えないなら扶養控除制度の存在意義が分からなくなってしまいます。
- 特に後半の方ですけど「子供を持たなくても権利」「家族と離れても良い」とかあっても良いのかなと思いました少子化対策の側面もあるでしょうし誰もが不安無く子育て出来るのが 1 番でふけど虐待サバイバーの方等だと自分は家族を持てるのかって不安抱えてらっしゃる方も聞きますし発達障害当事者の自分としても自分 1 人でも難があるのに子供とコミュニュケーション取れんのかモラハラとかしちゃわないかそもそも成婚まで行けるのか同じベクトルの方だったから成婚出来たパターンだと、どちらも問題を自覚出来ないとか無いかって考えちゃってどう解決すべきか答えが見えなくてキツいです俗に言う健常者の方でも問題は多々起きるので心配しても仕方ない部分はあるんですけど既に毒親とか引いてる方の心身の安全を確保する為にも「(戸籍や血縁上)家族だからと言って一緒に居なきゃいけない訳じゃない」「独身で良い」ってのも補足居るのかな…と思いますそもそもこの条項を読む子供が全員・生殖機能を行使出来る or 成人後育児が可能・恋愛感情や子供を持ちたい意志があるか分からない訳ですし…
- 様々な遊びや学び、体験等を通じて、生き抜く力を得ることができる。→様々な遊びや学び、体験等を通じて、生き抜く力や楽しさを得ることができる。難しい話であるが、こどもの段階でやりたいことを自由に楽しめる…的な、こどもでしかできないことを保障するアクションがほしい。
- 明るい社会を作り、子どもが活躍したいと思える社会を作っていかなくてはなりません。例えば、小学校や中学校で担任教員が「残業」について愚痴っているような状況では、「大人になること」＝「辛い事」と深層意識に根付いてしまい、「大人になりたい」とは思えません。ほかにも、大学院卒業生たちが路頭に迷っている状況や、学歴等の差別を受けて苦しんでいる状況が SNS を通して子どもの目にも写ります。「こどもの夢」を応援するためには、現役世代へのサポートも必要ではないでしょうか。
- 方向性としては正しいと思います。貧困などの家庭の状況や、人種的マイノリティ、セクシャルマイノリティなどで苦しんでいる子供たちも知っているのでそういった子供たちにも具体的な支援や理解の促進策があるといいと思います。
- 経済的基盤の確保ということが、本当に実現するのであれば良いと思った。私は今は緊急でお金に困ることはないが、子どもを育てる上で常にお金との不安がついてくる。医療費だけでも中学生、高校生までも無料にしてほしい。
- こどもが自分のやることを自由に選べるとあったが、その実現には選ぶための材料としての情報の提供が重要になりそうだと思った
- 予算配分の拡充
- 言いたいことは分かりますが、理想論というか、これが実現できる世の中にするのは難しいと思ってしまいます。ひとりひとりの価値観が多様になっていることを、若者は理解できていても政治の中心にいる年代の方たちや親世代が理解していなかったらなかなかの困難を極めるのではないでしょうか。よって、上の年齢層の人たちにも上記の内容を浸透させる取組の実施も検討していただきたいです。
- 特別支援学校から大学進学しやすいように教育レベルを高くして欲しい。もっと個人のニーズに合う教育を提供して欲しいです。
- いじめの問題を解決するところを作る
- このような書き方では働くことや家族・親になることを強制しているように思える
- 「こどもまんなか社会」の実現には国民全員と取り組む必要があると思う。そのためには、一部もしくはすべての人々に負担がない形で行うことが必要だと思う。

- 「個性や多様性が尊重され、尊厳が重んじられ、自分らしく、ひとりひとりが思う幸福な生活ができる」という箇所が、子どもたちが 1 日の大半を過ごす学校の、時代錯誤な校則に縛られることなく自己を表現できる将来に繋がると思い、良いと感じた。
- たとえどんな困難に直面してもそれぞれの「居場所」を確保し、そこで「生きがい」を見出していくことが最重要だと考えます。
- 子どもまんなか社会にすることで、他の世代が受ける恩恵が何かや子どもまんなか社会にするためにどのような役割があるのか書いてもいいのではないかと思いました。
- 上から三項目目の「・様々な遊びや学び、体験等を通じて、生き抜く力を得ることができる」について、遊びを強調してほしいと考えます。なぜなら、こども時代（特に幼児期）の遊びの時間が確保されることが、生き抜く力の土台を培うと考えるからです。主語が、「全てのこども・若者が、」となっているので難しいかもしれませんが、幼児期のこどもについて「遊びの中での学びや体験等を通じて、」と「遊び」が中心となることを付け加えて欲しいと考えます。
- いじめ問題は、暴行罪として扱って被害届を絶対に出さない限りいじめは解決できない。
- 「こどもまんなか」という概念がまだ認知されていない各方面において、どのように認知を広げていくか、という視点が十分でないと感じるため。先般の、子供・若者育成支援推進大綱の際は、居場所という概念がまだ十分に子供・若者分野でも価値づけられていない中で、テーマとして「居場所」を掲げ、その後の 5 年間において、支援者などにおいても価値が共有された印象を持つ。そういった意味で、「こどもまんなか」のイメージをステークホルダーがイメージできる必要がある。特に、企業などを含むこどもに関する施策のみでなく「一体的に構ずべき施策」との関係性が非常に重要と感じた。
- 幼いこどもだけではなく、若者についても記載されているのが良い。
- 子どもが経済面でやりたいことや学びたいことを諦めることがない
- 次世代を担う、少子化・子育ての支援の政策が見えにくいです。少子化・子育て支援の政策を明確に提示してほしいです。
- いいと思うが、抽象的すぎて結局何がしたいのか分からないこれはこども若者に焦点をあてて考えてるため、仕方ないかもしれないがこどもまんなかって、他の世代はまんなかに値しないの？ってなってしまった若者、高齢者関係なくどの年代も当てはまるくない？って思ってしまったいまの日本でこども若者に対してもどの年代に対しても、必要なケアが行き渡っていないのに、この文言をみても、お金持ちが考える理想論にしかみえない
- 個々人を大切にしつつ、周りとの協調性やコミュニケーション力も養うことができる社会づくり。
- 若者について、子どもをもつことや特定のパートナーとの関係を築くことを望まない人もいます。多様な価値観・生き方が尊重され、どの場合においても社会で安心して過ごしていけるようになるといいと思います。また、虐待や育った環境の中で、十分に自立に必要な知識や経験を得ることができなかった場合にも、必要なサポートを受けながら、安定し社会生活を送ったり、だれかと家族になる、親となることに希望を持てる社会になるといいと思いました。
- 「こどもや若者が、保護者や社会に支えられながら」とあるが、現状はヤングケアラーや高額の社会保障関係費などの問題もあり、こどもや若者は多くの高齢者を支えなければならない。こういった現実に存在する問題を全く無視し、目指す姿に反映しないで良いのか？　（人口再生産ですべて解決すると思っている？　どうせ取り組まなければならない課題であれば、目標に含むべきでは？　非現実的な目標を掲げても「こどもまんなか社会」の実現につながらない。）
- 「少子化・人口減少の流れを大きく変える」とあるが、これは人口再生産が意図されているように思う。これは必要か？　目標に人口再生産を絡めてしまうと、生殖に寄与しないと考えられる、同性愛者や無性愛者などに対する支援や権利の擁護の優先度が下げられたりしないか？　人口減少・少子化の流れを変えられない中でも、権利擁護や支援は行うべきなので、目標に人口再生産に関する文言を紛れ込ませることは不適切と考える。

- 最初から上記のようなことに取り組むのは非常にハードルが高いし、明日の生活はどうしようという人がいる中で、きれいごとすぎると思ったが、高い所を目指し本当にみんなが、お金や家庭環境人種などを考えずに、自分が自分らしく生活できる社会ができたらいいなと思った。ひとりでに多くのびのびと豊かな人生がこのこどもまんなか社会によってできればいいなと思い、上記のようによいと思うを選択した。
- 障害のある人や障害のある子供達がもっと安心して生活出来るようにしたい。
- 簡単な資料の方、周囲の大人や社会にサポート→周囲の大人や必要に応じて行政、自治体、支援機関なども利用してと具体的にしてほしい。
- p6 本文 25 行目「誰かと家族になること、親になること」33 行目「それぞれの希望に応じ、家族を持ち、こどもを産み育てることや、不安なく、こどもとの生活を始める…」について、特定のセクシャリティや既存の婚姻制度や血縁による「家庭」に限定せず、生きている一人ひとりの視点になっているのがとても素晴らしい、と思いました。私の考える「こどもまんなか社会」の実現に必要な視点とは、血縁を特別視しないことです。（具体的には、家族の縁を法律面からも完全に切ることができ、また若年のうちからそうしても一人で生活していくことができる様々な支援制度があり、生まれた家庭に囚われず全ての子どもが自分の人生を生きることができることです）私自身が被虐待児であり、実質的に逃げることのできない様々な事務的制約により長い間「家族を大切にする」ことしかできず、現在も虐待の後遺症に悩まされています。そして様々な知識の学習や葛藤の末に、血縁者から逃れて連絡手段を断ち、住民票の支援措置・改姓改名・うつ状態による障害年金の申請や扶養照会なしでの生活保護の受給などを行うことで、ようやく自身の被害体験の受容という、治療の入り口に立てたかなと思っていますが、それでも、親が分籍後の戸籍を照会可能なこと、住民票の住所や連絡先は隠せても改姓改名後の名前を隠すことはできないこと、そしてここまでしても法律的には家族であることなど、この社会で生きていく希望や気力を著しく減退させる最大の要因が、こうした血縁の特別視から生じている事実は依然として変えられません。こうした経験から、血縁者との結束を無条件に神聖視してしまう社会の無意識や、家族の縁を切ることを許さない法律・制度が、自分の人生を生きることができず無限の苦しみの中に身を置くしかない人を生んでいる側面があると強く感じています。児童虐待被害者は場合によっては自身の被害体験を自覚することすら難しく、親の愛や血縁の温かさを謳う社会の常識や良識と、自身の半生との矛盾を、強い緊張で心の底に沈めながら生きています。保護者から離れ自立して生きることが可能になってからも強烈な後遺症に見舞われ、その激しい混乱は時には統合失調症等と誤診されるケースも見られます。虐待問題について時に世代間連鎖の可能性が問われますが、延々と続く家族の縁を断ち切ることは 100%不可能であるという前提の世の中が、被害者が生きていく中で、自身の被害体験を自覚したり、治療や支援制度にアクセスする可能性自体を潰し、連鎖がある場合はその非常に重大な要因になっていることは無視できないのではないでしょうか。現在は、既存の家族制度や家庭のイメージという「普通」の称賛と、虐待問題に取り組む専門家と当事者達の世界が、極端に分離してしまっている状況です。しかし実際はその間にあるような状況の人も含めてみんな同じ世の中で一緒に生きていて、口に出してはいけないタブーとして血縁の苦しみに縛られながらも「普通」の人として暮らしている人が、統計にも乗らないもっともっとたくさんの数います。人間は完璧ではないから、愛によって作られる家族ばかりではないですし、保護者としてはそんなつもりはなくても、子どもを非常に苦しめてしまうケースもあります。だからこそ、悲劇とも理想とも言い切れなくても本人が離れたいと思ったら家族から逃げることが出来て、悲しみの連鎖を断ち切り自分の人生を生きることが出来る社会こそが、今いる・そしてこれから生まれてくる子どもたちを祝福する「こどもまんなか社会」だと私は考えます。

Q6．前の質問（Q５）で「よくないと思う」「どちらかといえばよくないと思う」と答えた人の意見

- 意見を聞いてもらえない。おじいちゃんとおばあちゃんが決めている。
- バイオサイコソーシャルやウェルビーイングなどカタカナが多くて分かりにくいから。
- 内容はいいと思うが、これだけでは少子化に歯止めをかけることは難しいと思う。子供が遊ぶ施設を無料で遊べる

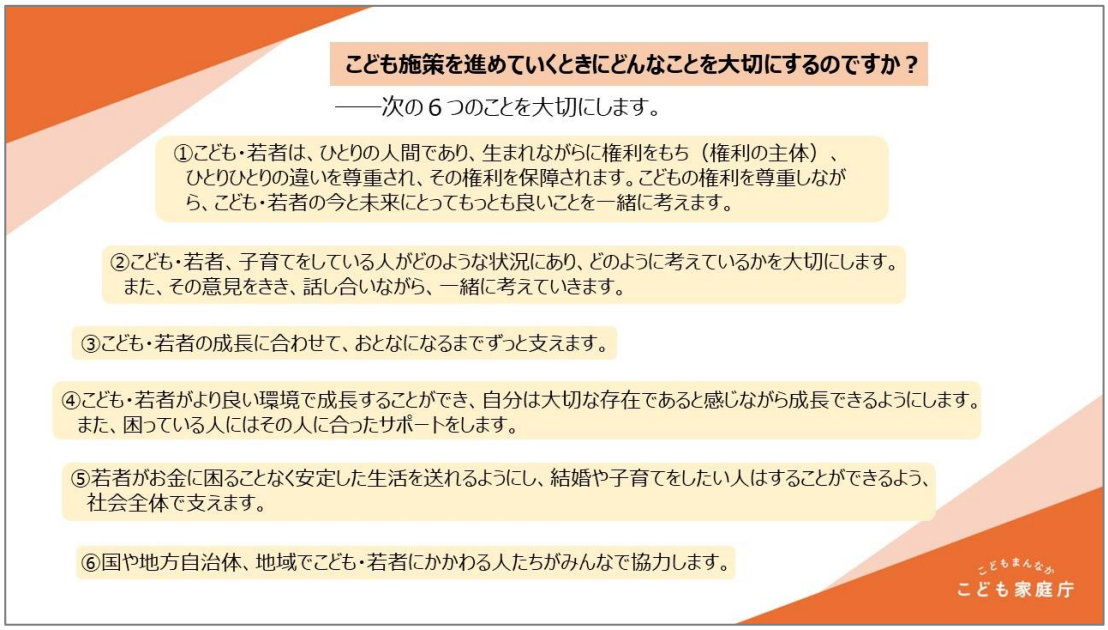
ようにする。

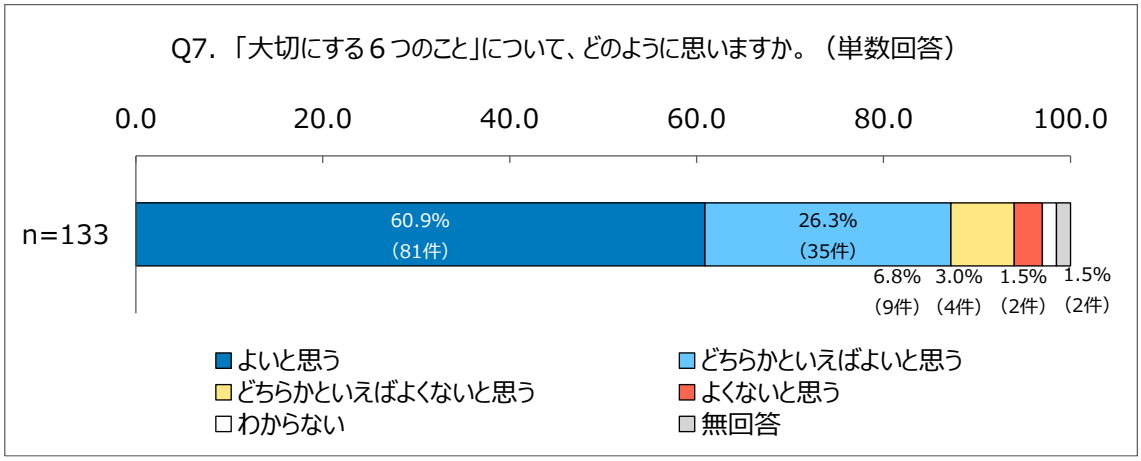
- 記載内容は理想であると思うし、悪くはないと思う。だが、本当にこれが実現する社会になるかは大きな不安がある。宗教２世をはじめ、明確に子どもの権利を害そうとしている集団の中にいる子どもを救済する仕組み、守る仕組み、そういった集団の活動を許さない仕組みについての記載が全くない。これでは結局、「こどもまんなか社会をみなんで実現しましょう」と国が呼びかけるだけで、それに素直に従う心ある大人のもとにいる子どもはいいけれど、そうは思わない大人のもとにいる子どもは見捨てられるだけではないのか。それではこれまでと全く変わらない。国が地方自治体や関係団体、関係者と一丸となって子どもを救済する、守る、悪い奴らは規制する、そういした姿勢が何故出せないのか。これまでと同じことをするだけなら、こども家庭庁はいらないと思う。
- 子どもが貧富の差に関わらずたくさんの選択肢を選べる社会にしてほしいです。私は 19 歳で若者ですが正直今の社会は窮屈で生きづらいと感じます。例えば大学に行って良い企業に入らなければいけないという風潮が強く自分らしい選択がしづらくなっています。だから子ども達がより多くの選択肢を選べる教育の仕組みを作ることが「子どもまんなか社会」の実現に繋がると思います。
- 障害者に関することを増やしていただけるとありがたいです。
- 「こども」を特別対象にした意見ではないのですが、ゲームセンター（一部エリア:プリクラなど）や店舗等で、「男性のみの入店お断り」の表記を見ると、違和感を感じ、不快に思います。同様に、「女性専用車両」にも違和感を感じます。これらは、全て短絡的に「特定の性」を排除しようとしている気がして、多様性を求められる社会に逆行しているのと、思うので、出来れば法律、せめて条例でも、いいので、禁止にしてほしいです。
- ぱっと見には良いことが書かれているように見えますが、現在の政権の右傾化、与党の政策の方向性を考えると、性的マイノリティの権利保護やひとり親になっても安定した生活を送る権利、家族を持たない選択や子どもを産まない選択、性別を変更する選択なども確実かつ絶対的に尊重され不利益を受けないこと、離婚親との面会等が子どもの意思を尊重して決定されること、様々な事情で働けなくても人として守られること、中絶を含めたリプロダクションの決定が妊娠したものだけの判断によって可能とされることなどが明言されていなければ、とても安心できません。多様性や希望というあいまいな言葉をいいように使うことでひっそりと差別を強め排除を増やしていく原料にされてはたまりません。
- 「できる」で判断する文脈にすることは点数をつけるかのように感じる。「できるようになる」のほうがより自立的な行動が必要だと感じ取れるのではないだろうか。

Q6. 前の質問（Q５）で「わからない」と答えた人の意見

- みんながゆずりあって助け合いを、する。
- 私は幼少期から虐待をうけ周囲の大人は見て見ぬふりでした。その後遺症で 26 歳になったいまいまだに PTSD で苦しんでいます。こどもだけでなく昔こどもだった私たちの世代のことを考えてくれてとてもうれしいです。さらに、私たち世代に対する具体的な支援策を示してくださることを切に願っています。

Ｑ７．国は、次の画像のとおり、こども・若者に関する取組を進めるときに、６つのことを大切にしながら進めます。この「大切にする６つのこと」について、どのように思いますか。





Ｑ８．前の質問（Ｑ７）でよい・よくないと思った理由はなんですか。また、画像に書かれていることのほかに、もっと大切にしなければいけないことがあると思う人は、どんなことを大切にしたらよいと思うか教えてください。

Ｑ８．前の質問（Ｑ７）で「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」と答えた人の意見

- みんなにアンケートをすればいいのにしないのはこどもの意見をほんとうに聞くのかなと思う
- こども、若者となっいるだけなので、ぼくの様な障害者が、障害者だから仕方ない。と諦めなくても良い様にして下さい。
- 相手を思いやる、本当の思いやり。子供にもできることがたくさんあるからなんでもかんでもやろうとせずやりたいとか手伝うといった意欲を断らずに頼んでみる、頼る気持ちが大切だと思います。
- 細かく内容が書いてあって良いと思った
- １人１人に権利があるというところがいいと思います！やっぱり権利の中には義務だと思うものもあるので、権利なんだと思えると安心できるから。
- 子供・若者の成長に合わせて、大人になるまでずっと支えますという言葉を聞いて嬉しくなったからとてもいい言葉だなと思った
- 子育てしたい人を支えるといってるが、出産の費用が跳ね上がってる時点で支えることができてないし、より少子高齢化を進めていると思う。書いてあることに信用性がこれからあるかないかでよいか、よくないか判断できると思う。
- 協力してくれる人がいる
- ぜんぶすごくいいことだから。こうえんにおとなたちがいって、こどもをみたらかぞくがあんしんする
- 大切にすることが具体的にどのような人を支えるのかが具体的に書かれていていいと思った。
- それぞれにあったサポートが良い
- その人にあったサポートをすると書かれていることが、良いと思った。
- 私の亡くなったおばあちゃんは、生まれつき病気だったのに、こどもを４人産んで私のお母さんが生まれました。おばあちゃんが生きてきた時代は。今よりもっと大変だったとお母さんから聞きました。おじいちゃんが暴力をする人だったから、おばあちゃんは一人でこどもを育てました。とても貧乏で、住むところも狭くて何回も家をかわらないといけなくて、食べるものもなかったらお母さんはいつもおなかをすかせていたそうてす。最後おばあちゃんは、病気で亡くなってしまいましたが、お母さんは小さい頃からずっとおばあちゃんを看病したと言っていました。おばあちゃんもお母さんも、かわいそうです。どうしてみんな助けてあげなかったのかな？おばあちゃんもお母さんも、一生懸命生きていたのに、お金がなくて、食べものや着るものがなくて悲しい思いをする社会って冷たくないかな？
- 悪い事は書いてなかったから。
- 子供が安心して生活ができることを国が保証してくれるのは、とてもいいことだと思う。子供のためにどのような活動をしてくれるのか、具体的に子供以外の人もわかるようになるといいと思う。
- 特に６がいいと思った。
- ①がよいと思った
- 子供の意見を聞くことでより子供まんなか社会日がかと思うから
- 子供が話し合いに参加し、意見が言えて、その意見でルールが変わったりするのがいいと思ったから
- ママが国の支援は来年と言っていた。言ったことはやってね。
- お母さんが働いていて家にいない時も、安心して習い事に行けたり、寂しくないようにできるシステムがあると良いなと思います。
- 何歳になっても、安心して暮らせる社会だと思うからです。

- 困っていること大変なことを人に相談しやすいこと。
- 子ども、若者が主体的に取り上げられているという事が良くわかるのでいいと思います。でも、小さな子どもにもわかってもらえるようにするには、具体例などを追加した方がいいと思います。
- いまの状況を聞くというのが良いと思います。しかし大人になるまでずっと支える、とは教育のことなのか、健康に関するものなのかがわからなかったです。
- 安心だから。
- 子供の意見が尊重されて良いと思う
- 読んでいて安心できるから良いと思った。
- こどものことについて考えてくれるから自分の思いを大切にしてくれるから
- 虐待からは絶対に守るというような内容があってもいいと思った。
- みんなで協力していければいいと思う、こどもも一緒にがんばる。
- 子供にはあまり人権がないので子供も同じ人として意見を聞いて欲しいし子供でも礼儀をもって接することが大切だと思う。
- ①が良いと思った
- みんなに見守られているという安心感があるところ
- 子供政策がずれないように大切なことを決めておくのはとてもいい
- こどもを大事に考えてくれるなら良いと思う。僕も言いたいことか言えるところがある良い。
- 「子ども・若者は、一人の人間であり生まれながらに権利を持ち、一人一人の違いを尊重され、その権利を保障されます。」という文章で、ひとりひとりに権利があるということが書かれていたれていたから良いと思いました。
- 外国にルーツのある子どもとや若者も支えて貰えるのですか？日本で介護職に就きたい東南アジアの若者が低賃金になって困る事がないよう施設を視察したり話を聞いて支援してあげて欲しい。
- 成長を見守ってくれるのはすごく有難いので良いなと思いました。
- 方針は支持するが、具体的な対策の良し悪しによっては受け入れられない。子供はすぐに成長する。早急に末端の活動に移してほしい。
- （4）の「幸せな状態」は響きはとても良いが、人によって幸せと感じる感度が違うため少し曖昧な表現であると思います。私もそうだったのですが、人によっては幸せと言われる行動が正しいものなのだと縛られてしまう場合も考えられるのではないでしょうか。
- 国民が喜ぶ政策になっている
- 以下、Q6 と同じ
- 子供の時に虐待やいじめ等を受けて生きづらさを感じたり、自殺を考えたりした大人に対するケアも必要だと思います。
- これらの事柄は良いとは思うが必ずこぼれ落ちる人がいると思うので機動的なセーフティネットのようなものも必要だと思う
- 政策として行う面は十分だと思うので、さらに実際の生活の中で国民が意識すべきことなどが書かれていたら、全国民で「こどもまんなか社会」実現するために行動しやすいかと思います。
- とても良い
- まず、具体的に格差についてどんなものか言及したり、貧困とは具体的にどんなものかについて言及しなければ、自分たちは違うという認識のままの人も多くなると思います。（他人事意識）また、こども政策をするにあたって、このように私たちのような子ども福祉などに関心がある人以外の子達にもアンケートを十分に取れるようなシステムがあるとより一層の「すべての子どもに」が実現されるのでは。そして、やはり文科省との連携ですかね。カリキュラムの見直しを、国連 CRC 教育の目的（29 条）などと整合を合わせる際の架け橋になってくれると嬉しいです。

- 家庭環境をいかに整えるかという話かと思います。そのためには親の精神的、金銭的、時間的余裕が重要になると思います。
- 多様な価値観、考え方を大前提としてとあるが 結婚、子育てをするのが良いとされる文脈に感じたため。性的マイノリティも尊重すべき。
- 具体的にどんなことをするのかを示したほうが良いと思う。
- 若い人は男性育休を取りたい人が多いかと思います。しかし、40 代以上の人から見たら本当に必要なの？と捉えており、若い人が男性育休を取れない雰囲気になっていると感じます。共働き家庭がマジョリティになりつつある今、20 年ほど前とは社会背景が大きく異なるので、男性育休は必要不可欠です。若い人が育休を取りやすい、取るのが当然という社会風土醸成の後押しをお願いいたします。
- 子供だけでなくその親まで物理的にだけではなく精神的にも支援するのが良いと思った
- 6 で上げた問題点が概ねフォローされてると感じる
- お門違いの意見かもしれないが、学校以外でも学べる場所をつくるべき(例：通信制の義務教育などを国がおこなっていく…など)そうすれば、いろんな事情で勉強面で遅れを取るこどものみならず、こどものときに義務教育を満足に受けられなかった人を救うことができ、社会の利益にもつながるのではないかと思った。
- いわゆる「グレーゾーン」と呼ばれる子ども達が増えているので、発達障がいの診断の有無に囚われない「発達段階に沿った対応」が必要だと考えます。
- 若い世代ではもっと自由に考えている人も多いと思うので、事実婚や、養子を持つ同性パートナーでも子育て支援を受けられたり出来たらよりよいと思います。
- 少子化対策のために婚姻率や出産率を上げることも必要ですが、これを読むと結婚して子どもを授かることが正しい生き方と言っているようにも見えてしまいます。生き方の多様化を目指すのであれば、結婚しない道を選択する人にも寛容な姿勢を示したほうがいいかもしれません。
- いじめの問題を解決する法律改正、いじめ相談窓口の設置、いじめの問題を責任もってよくする組織を作ること。
- こども大綱本文に「乳幼児期から心身の発達の過程においてジェンダーの視点を取り入れる。」とあるが、乳幼児期や思春期の子供たちへの行き過ぎた性教育が与える影響について問題視されていると思います。もちろん、性感染症への予防方法や、男女の違いについて学習するのは大切なことと思いますが、行き過ぎた性教育を防ぐことが不安定な子供たちを守るっことにつながると思いますし僕自身もそんな授業は受けたくないです。
- 子ども・若者が権利の主体として自覚すること、それを後押しすることは良いことだと思う。しかし、経験値や危険を察知する力は大人に比べると足りない。子ども・若者の権利と大人の思惑がぶつかった時にどうなるのか考える必要がある。
- 不登校の子を例に挙げると、オンラインでの授業参加もよしとし、ギフテッドの子は飛び級ができ専門分野に特化した教育をはやめにできるシステムを作るなど、従来の既成概念から外れた教育システムを根本から見直す必要があると考えます。
- 障害者特に発達障害、発達知的障害のグレーゾーンという社会的に認知されにくい障害に関して全国的にすくい上げる姿勢やインクルーシブ教育を推進してほしい。理由は、私も発達障害なのですが他の障害に比べて認知されにくく健常者の方に誤解されたり、特別支援学級に行っても発達障害に特化してないため満足のいく教育が受けられなかったなど様々な困難に直面しました。具体的にいうと、特別支援学級では健常者と沢山交流一緒に学べない、いろんな障害合わせるため中学でも算数学んだということがあります。
- こどもと直接的に関わる保育者・教師への支援の視点があるといいと思います。
- このような議論をすると、決まって SNS 上では、過激思想のツイート、それに反対・賛成の人たちで、溢れかえり、互いに揚げ足を取るような無意味な、やり取りが行われ、ソレを見た人たちが、「（SNS 意見）正しいと、思い込む」様になってしまい、国民の視野が狭まってしまうと感じます。なので、「表現の自由」はありますが、「過激思想

や暴力的な内容」のモノは、国が運営に対して、規制を強化してもいいと思います。これにより、健全なインターネット空間の普及ができ、「民主主義」をより政策の意見に活用出来ると考えます。

- 児童福祉法、憲法、子どもの基本管理条約などそれぞれこどもの定義が異なり、切れ目のない支援が行われているという実感が薄いです。こどもも元こどももワンストップで支援できたらもっと良いと思います
- こどもを真ん中にするために「子育て世代」や「こどもを介護する家族」、「入院しているこどもの家族」などこどもの周辺にいる環境の大人が有するニーズを発見し、対応していくことが必要であり、そこを強調し、「こどもと大人のパートナーシップ」という視点が強化されることが必要と思う。また、その際のこどもと大人の関係や周辺環境の整備には、OECD に関わる生徒さんたちの部会で作成された生徒エイジェンシーの太陽モデルが参考になると考える。
- こどもだけではなく、その周りの親や地域、そして自治体や国といった機関も一丸となって取り組まないといけないという問題意識が良い。
- 「子どもの意見を聞いてあげる」という上から目線ではなく、ともに手を取り合っていくという謙虚な姿勢が必要だと思う。
- 対象は日本国籍だけだろうか。外国籍のサポートはどのようにお考えかお尋ねしたい。
- 経済的支援は必須です。特に奨学金について、返済型ではない制度で統一必要があると思います。次代を担う学生に借金を背負ってもらうのは、言語道断です。
- 「こどもとともに」って書いてあるわりには、「支援」などの上から目線感が否めない父権的だとおもうだが、生まれ育った環境で差が出ないようにする必要があるって書いているのは良いとおもう LGBTQ などの文言をもうちょっと具体的に入れてほしいな、、とかもおもう
- 当事者であるこどもや若者の意見、視点に立つことは大切だと感じたため良いと思いました。さらに、想定外の事態(現在でいうとコロナ禍や物価高騰など)を踏まえた柔軟性のある支援をする姿勢があると嬉しいです。
- 読んでいて、こども・若者に寄り添って考えられていることを感じ、素敵だなとお思いました！この方針や姿勢が確実に実現してほしいです。（6）については、連携をお願いしたときに、きちんと関係機関・団体が協力してくれると良いと思います。
- ・(4) について、愛着理論における愛着の対象であったり、困難な状況にあるこどもの支援だったりを行うためには、行政が動くだけではどうにもならない問題であり、そもそも社会を作り替えていく必要があるように思う（もちろん他の条項もそうではあるが、特にここについてはすぐに行政だけが動き出すことはできないはず）。まず社会を作り替えていくべきだと方針を設定した上で、可能であればそのスコープにも言及したい。（たとえば、核家族や学校などの社会のあり方を変える必要があるとか。学校という画一的にこどもを扱うシステムは、個別の支援とはあまり噛み合っていない。）
- 福祉の大学に行っている私だから特に思うのかもしれないが、他受けたいという気持ちだけでは仕事ができない。やっぱり、お金があって、生活と心が安定したうえで、人を助け、仕事を続けることができる。①きれいごとかもしれないが、インボランタリーな方や、潜在的ニーズ、福祉ニーズでの生活面でのサポートは福祉をは自滅するその地域地域にいる人たちの連携、サポートが大事なため、もっと支援する側の福祉職の給料補填の必要性をもう一度改めて考えてほしい。②研究職の方々、そこを目指している子供たちの未来そして、研究職で未来を発展させていくためにも日本の大学や大学院で研究に使う研究費を諸外国（先進国）と同じようにもっと沢山充ててほしい。そうしないと、これから先才能のある子供が立ち行かなくなって才能をつぶされてしまったり、才能のある子供たちが海外に流れてしまう。
- こどもに対して危害を加えた人に対しての罰則が必要だと思います。
- 性犯罪の重罪化、加害者構成プログラムなど、社会として性犯罪を許さない空気の醸成
- （５）の「多様な価値観・考え方を尊重することを大前提とし、どのような選択をしても不利を被らないようにすること…自らの主体的な選択により…望んだ場合に、それぞれの希望に応じて…」という文言が素晴らしいと思い

ました。ただ、「主体的な選択」の内容が「結婚するか／しないか」「こどもを産み、育てるか／そうしないか」という、既存の社会制度を前提とした上で単純な二項対立によって表現されている点については、少し気になりました。『婚姻制度は必要なのか？』『婚姻制度をあるものとした場合、なぜ男性・女性間だけなのか？』『子どもは産み育てるものというだけでなく、身寄りのない子どもたちが一緒に生きていく家族に出会う機会がもっと当たり前にあるためには』など、「主体的な選択」の内容については、もっともっと「こどもまんなか」にしていただきたいと強く願っています。私自身が機能不全家庭で虐待を受けながら育ったため、自分のようなケースの家庭が生じてしまった要因を様々な角度から考えてきました。その結果、最大の要因の一つは、上記の文言で表されるような姿勢が欠如していた社会で子ども・若者時代を過ごしてきた私の母親や父親が、「異性間の婚姻と出産・子育て」という「ひとつしかない正解」をなぞることでしか、自分の人生というものを歩んだり世間体を保ったりすることができない、と思ってしまったことではないかと結論しました。男性と女性が出会って一緒に生きることにして子どもが産まれ家庭が営まれる、という物語を美しく思うことは個人の自由なのですが、問題は、国が施策によってそれだけを推奨してしまうことです。「〇〇するしかない」という状況は、反転して「〇〇しておけば何も考えなくていい」という無思考や「〇〇していない人はおかしい」という排除を生み、虐待という異常事態が起こっていても何の問題認識もできない家庭や、どんな人でも自分の人生を愛し日々を暮らすことのできない排他的な社会を形成してしまいます。現実には結婚も子育ても向き不向きがあり、また一緒に人生を送りたいと思える、心から愛することの出来る人が、男性・女性のペアであるとは限りません。そしてこどもが健やかに育ち、希望を持って生きていくための条件とは、決して「血のつながったお母さんお父さん」などという形式的なものではなく、大人と子供や大人同士が互いに敬意と愛情を持って関わりながら、それぞれの人生を懸命に生きる一日一日の時間そのものです。また児童虐待被害当事者として強く申し上げたいのは、児童虐待の起こる大きな要因の一つは、母親とされる女性の自立や自己決定、妊娠・出産・中絶に関する権利が著しく侵害されている社会制度にある、ということです。つまり、結婚する他に希望を見出す方法がなく、妊娠・出産・中絶についても自分で重要な決定をできない、その女性が受けてきた差別や抑圧の終着点として、児童虐待が起こっている側面があるということです。子ども若者は、異性間の結婚・出産という一本道に焚き付けるのではなく、ありのままで「自分に向いていること・向いていないこと」「自分は本当は何を望んでいるのか？」に向き合いながら、その時その時で主体的な選択をして、時に間違えたりしながら大人になっていける環境が整えられるべきだと思います。そして時に若者が「自分の現在の保護者が自分の養育者として不適切である」と判断した場合には、その家庭から逃れ血縁を断って自分の人生を歩んでいくことができる制度があれば、希望を持って家族をもち子どもを育てる若者の数を増やすことにも繋がるため、施策の方針としては重要な点だと考えます。

Ｑ８．前の質問（Ｑ７）で「よくない」「どちらかといえばよくないと思う」と答えた人の意見

- 少し硬いかなと思う。これだと、小さい子はあまり読まないし内容が分かりずらい。もっと内容を簡易化して端的に伝えればいい。漢字の上に読み仮名をつければいい。
- 子どもも自分よりも上の世代の人たちに感謝する心を育てることを大切にしたらいいと思う
- 大切にするは、支援がない。親がいつも文句を言っている。
- 言葉がむつかしい。自分のことをイヤだと思わないようにすること、自分は大切にされていると思えることだと思います。
- 生活に困難を抱える子どもたちの声が出しにくい状態が続いていると思うので、アウトリーチの具体策を盛り込んでほしいです。
- 「共育て」という言葉に違和感を感じます。死別など例外はあるかと思いますが、未婚、既婚に関わらず本来父親と母親の両者が経済的にも直接的にも育児に関わるべきです。また共働きについて、共働きが家族のあるべき姿、理想のような目標の立て方に違和感を覚えます。専業主婦夫を望む方がいれば、それも実現できるというのが個々の思想を尊重しているのではないでしょうか。現実的に 1 人で稼ぐお金では暮らしていけないから、本当は

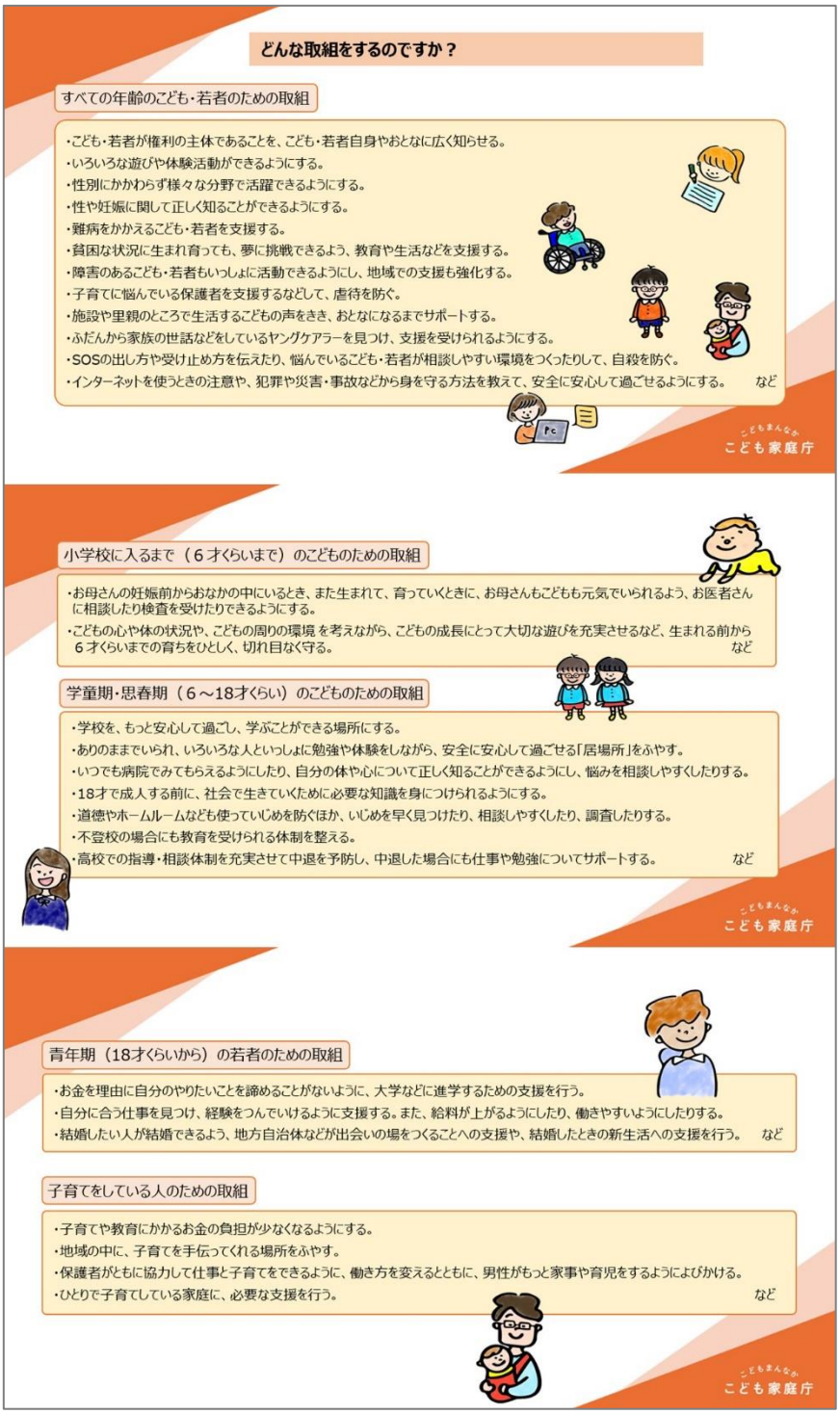
子供のそばにいたいけれど泣く泣く働かざる負えないと言う家庭が大半だと思います。

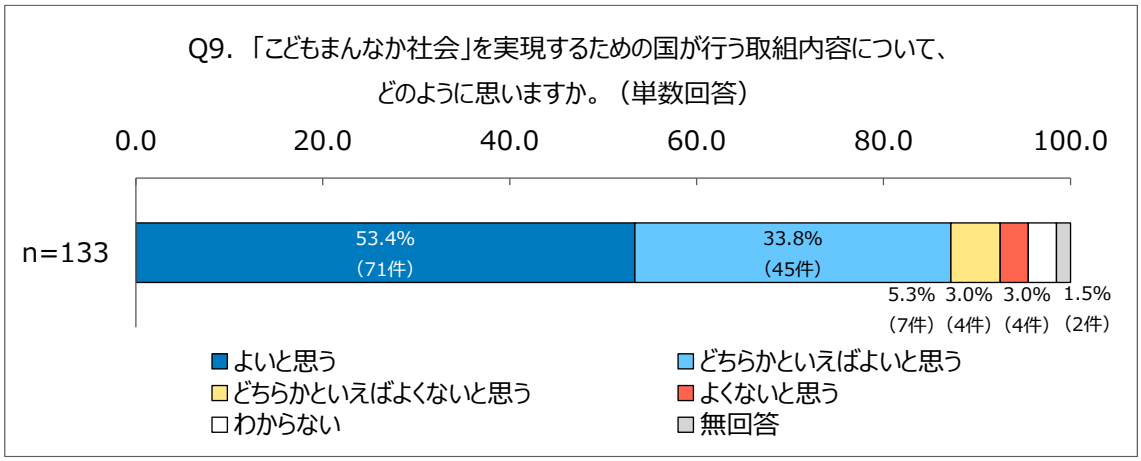
- こどもを持ちたいと思っているが、所得等の関係で諦めている人に関する記述が少ないのと、共働きを前提にしているような記述があるため、共働きではなく、予期せぬ事態で大人 1 人分の所得しかない状態になっても子育てができるようになどの記述が欲しいと思ったため。
- 子供を育てるには、どうしてもお金がかかってしまう。まずは、無償化を実現するべき。
- （多様性を無視することになるが） 子どもを作らないと損するぐらいの政策をしないと子どもを育てたいというインセンティブが発生しないと思う。男性にも子育てを行わせるには、ホモソーシャルと決別させる必要があったり、子育て期間中において仕事をすることは違法ぐらいにしないと難しいと思う。
- ようやくここで、子どもの権利を守り、救済するという文言が出てくるが、これまでと同じやり方を進めるだけなら全く期待できない。宗教２世の多くは家庭をカルトに破壊され、自らの人生もめちゃくちゃにされてしまったが、国も地方も何もしてくれなかったことをよく知っている。国に本当に悪意のある集団から子どもを救う気概があるなら、権利救済に関し、こんな一文で済ませることはないはず。強力な権限を以ってして、国が責任を持ち、権利侵害が常態化している集団に切り込む姿勢を確り示してほしい。そうでなければ、これまで通り「信教の自由」のもと、宗教２世たちはカルト団体の食い物にされて人生を搾取されるだけで終わる。
- 子どもまんなか社会」の実現に必要だと思うことが 3 つあります。1 つ目は、「子ども施策に関する重要事項」の 1 に書かれている「犯罪から子どもを守る取り組み」に"闇バイトから子どもを守ること"も書いてほしいです。2 つ目は、子どもが文化や芸術に興味を持ち健全な生活を送れるように 22 歳まで国立や公立の博物館、美術館などの文化施設は無料で入れるようにしてほしいです。3 つ目は、子どもはその子どもの親だけが見るのではなく社会全体で子どもを育てていくことが重要であるということを書いてほしいです。これらのことが書かれていれば、「子どもまんなか社会」の実現に繋がると思います。
- この方針では「男女」が「法律婚に基づいて」「自分たちの遺伝子を持つ子を育てる」ことが大前提に置かれており、これでは子どもは増えませんし健全な育ちも阻害されます。そもそも子どもを持つのに法律婚が必須ではありませんし、子育てに性別は不要です。結婚して子どもを産むという旧弊すぎる感覚を捨て、望まれず中絶や産み捨てに至る子どもたちを、子どもを育てたい性別概念にとらわれない家族や不妊の方とマッチングすることや、虐待親からの引き離しの強化、結婚しなくても・ひとり親になっても安心できる制度と支援の確立など、新しい価値観に合った方針を用意すべきです。そもそも政府が「望むこと、希望させること」を方針づけるのは思想統制です。
- 国の考えや子供政策に関する事の 伝え方が難しいと思う。

Ｑ８．前の質問（Ｑ７）で「わからない」と答えた人あるいは無回答だった人の意見

- ちょっとむずかしいけど、とにかく話を聞いてほしい。真剣に聞いてほしい。子どもたちも真剣だから。
- ライフステージの移行によって支援が途切れることのないように取り組むことが記されている点は好感が持てる。

Ｑ９．「こどもまんなか社会」を実現するために、国は、様々な取組を行います。大きくわけると「①すべての年齢のこども・若者のための取組」「②小学校に入るまで（６才くらいまで）のこどものための取組」「③学童期・思春期（６～１８才くらい）のこどものための取組」「④青年期（１８才くらいから）の若者のための取組」「⑤子育てをしている人のための取組の５つ」で、具体的には、次の画像に書かれていることなどに取り組む予定です。この画像を見て、取組内容についてどのように思いますか。





Q10. 前の質問（Q９）でよい・よくないと思った理由はなんですか。また、書かれていることのほかに、どんなことをしたらいいと思うか、あなたの考えを教えてください。

Q10. 前の質問（Q９）で「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」と答えた人の意見

- うちの学校の先生がいなくて自習ばかりだし、ニュースでたくさんいじめがあるのもしったし、お母さんは PTA でいそがしいから連休の旅行にいけなかったし、ほんとうにできるのかなと思う
- ぼくは医療的ケア児の障害児です。どうしても医療資格のある人が必要になります。ぼくのケアが出来る看護師さんが保育園学校ディサービスいろんな所に必要です
- 学校を安全にするためにどこの場所からも電子黒板をみれるようにしたり、電子黒板でテレビをみれるようにして、みやすくする。ヒビが入っているところや雨漏りしてるなどの問題を根本的に見直していく必要があると思います。
- 取り組みがわかっていいと思います
- 居場所を作るというのがいいと思います。やっぱり引きこもりになったりすると居場所がないと思うから。
- 小学校に入るまでから子育てをしている人達のために色々な取組を考えて下さって嬉しいなと思ったから
- なやむ時期（学童、思春期）を大人は待って、サポートしてほしい
- 年齢ごとに取り組みを分けているところがいいとおもった
- 年齢層ごとに分かれていて良い
- 子どもだけではなく、子育てをしている人の事にも触れているところが良いと思いました。
- 「子育てをしている人のための取り組み」に、支援金もあったらいいと思います。特に、中流家庭では程々の年収だからこそ、挑戦を諦めざるをえない状況が多くあるからです。
- ③がよく思った
- 色んな学校を作ってほしい。今まで通りの学校もいい。遊びながらお勉強する学校もいい。どっちか選んでだれでも通えるのがいい！
- 居場所を増やす上で気楽に話せる相談相手がいるとやりやすいと思います
- おじいちゃんやおばあちゃんともっと身近な存在になれると良いなと思う。お年寄りから学ぶことも多くて、子供と親だけじゃなく地域全体で子供を見守るシステムがあると良いなと思う。
- それぞれの年齢の人たちのことを、細かく考えていると思うからです。
- 支援の仕方を選べるようにする

- この目標はどれも、私達からすると達成してほしい目標で必要だけど、今の所あまり改善されている実感がないものが多い。この目標をすべて達成することができたら、世の中に誰も取り残されづに溶け込んで子ども真ん中社会が築けると思うからです。そして、これらの目標は本来「あたりまえでなければいけないこと」だから、この目標がやがて当たり前になる社会が築き上げられるといいなと思いました。
- 「子育てや教育にかかるお金の負担を少なくなるようにする」というのが良いと思います。なぜなら学校に通うお金の約 70%が両親・保護者による自費負担になっているため、教育を誰もが受けられるように負担は少なくなってほしいです。
- 年齢にあった取り組みをしてくれるから。
- 子供を助けてくれて良いと思う
- 部活や就活にいく交通費や駐輪料金を無料にする。お金の心配をしないで部活動に参加出来る補助。
- 不登校でも同じような教育を受けられるなら中学校や、高校でも大丈夫な気がするから。
- 授業内のグループワークを増やすと良いと思う
- いじめに関する定期的なアンケートについても書いた方がいいと思った。
- こども自身もできることがあったらいいと思う。
- よいと思った理由→例えば校門の前でプログラミングの教室のチラシを配っていたおじさんが「女の子でもできますよー！」と行って来ました。男の子しか出来ないプログラミングがあるのでしょうか。この事に腹をたてていたので「性別にかかわらず」は嬉しいです。
- いみが分からなくて、お母さんにせつめいしてもらったら、いいことのような感じがしました。
- ちゃんと体制が整えられているから
- いじめを早く見つけたり相談しやすくしたりするところがいいと思います
- 飛び級を小中学校に取り入れてほしい。わかる内容を聞いているのは退屈で、学校に行きたくない。家でタブレットを使って勉強したい。朝、起きるのが少し大変。もう少し寝ていたい。
- 小・中・高校でのいじめは犯罪行為になりかねない(犯罪と同等の)行為であることを生徒に意識させ、どのような性格の人でも、どのような見た目の生徒でも学校生活を他人と共に仲良く、楽しく過ごすせる環境を全国全ての学校で整える。
- 平等に遊びや体験活動ができるようにするなど平等に色々なことが出来るようにするということが表されていたから良いと思いました。
- こども若者いけんの会でも話したのですが、不登校により高校を退学してしまった人が人生のレールから外れてしまい、社会から忘れられてしまわないか心配。そのまま引きこもりになって数年後でも本人にやる気があれば就職ができるまで支援して欲しい。履歴書を埋める事ができず、足かせになって就職を諦めている人がいると思う。トー横のオーバードーズをする子や大久保公園に立って売春をする子が 5 年後 10 年後でも就職する事ができる社会であって欲しい。いつかは父母になり子どもを持った時に就職をしていないと子どもが寂しい思いをしたり、育てて貰えるか心配だから。
- 不登校の子でも同じような教育が受けられるのが良いと思いました。コーチングを取り入れたら良いと思います。
- 本当に実現できるのか疑問に思うため、具体例を記載していただきたいです。
- 子育て当事者の負担を軽減するためには保育士や幼稚園教諭の数がもっと必要で、確保するために彼らの賃金をもっと高水準にするべき。
- ヤングケアラーへの支援も大事だが、ヤングケアラーのケアの対象への支援を強化しヤングケアラーにならなくても良くなる支援も大事だと思う。
- ライフステージ別にすることで親近感が湧く
- 一部、Q6 と同じ共通案でありますが、子供の最大の居場所が、ゲームです。主に特に、基本無料のスマートフォ

ンゲームなどで、子供で遊びにくい実態がある。その結果、課金に依存したりする状況があります。なお、基本無料のスマートフォンゲームなどの禁止や時間制限など設定をする事になれば、日本全国が混乱になり、自由民主主義が破壊される危険がある為に、心から失礼ですが、都道府県や市町村の取り組みだけでは、90%不十分であります。しかし、ある報道で、日本にコンテンツ庁が創設をという要望がありましたね。もし、日本にコンテンツ庁が出来た場合、こども家庭庁と文部科学省との連携の単独依存では、国民から疑問視されるので、もう一つの省庁と連携をした方が良いと思います。スマートフォンゲームを健全に楽しくする為には、こどもや若者との対話が必要となります。その結果、健全な自由民主主義や意欲な場所が少ないが現状です。また、私は、こどもの居場所にパワー半導体（sic）を使った、スマートフォンやタブレットが不自由から脱却出来、解決出来るじゃないのか？と期待はしております。先ほども申し上げましたが、スマートフォンゲームを禁止するのではなく、持続的に楽しめる居場所を作るのが重要です。

- 日本は再犯率が高いです。犯罪から子供たちを守るためにも、日本の再犯率の高さを重く見て、改善できるような社会の構築を行うことも重要だと思います。
- ・特に女性は妊娠や出産によりキャリアが断たれやすく、一度仕事から離れて子育てが落ち着いたら正社員にもう一度なりたいと思っても難しい場合が多い。男女ともに正規と非正規の垣根を低くして、ライフステージに合わせて柔軟に変えられるようにしてほしい。・学校内の問題を「いじめ」で解決せず、警察の介入のハードルを低くする等、トラブルを見て見ぬふりをしない対策をしてほしい。
- 良い
- 日本は経済が主体の国ですので、金銭配布に行くのは分かりますが、金銭配布以外の方法も考えて欲しいです。子どもに対して、間接的ではなく直接的な方法を。
- 家庭内でもできそうなものも多そうです。例えば、いじめ防止→子供の様子を普段からきちんと見る、話を聞く(場合によってはいじめっ子も問題を抱えていることを理解すると気持ちが楽になることもあると思います)居場所の提供→習い事など学校以外のコミュニティに参加させる、保健室登校を理解する、親以外の頼れる大人の存在不登校の子供への支援→フリースクールの検討、不登校の理由を理解する　など、、医療の充実や経済的な支援は重要だと思うのでぜひやっていただきたいです！
- 男性の家事、子育てへの主体的な参画促進、拡大とあるが　家庭によっては男性がそれらを主に行い　女性はあまりやっていない事もあり　家事をやるのは女性だという偏見が含まれている。希望を持たないといけない気がしてしまう。
- 概ね良いとは思うが幼少時から診断を受けてる発達障害当事者としては・通常学級＋通級で義務教育を受けたが通常学級時はいじめられたし大人になって冷静に考えたら普通に問題行動やらかしてるし…その癖他の当事者の同級生にはそれなりに偏見はあったし…一緒に学ぶにしても俗に言う定型発達の子とトラブルにならない工夫が要ると思う(ネットでしっかりしてる生徒が学級内ヤングケアラーみたいになってる事例を聞いた事があり実際私自身もしっかりした友人が付いておりもしかしたら彼女は私のケアラーだったのでは…と疑心暗鬼に陥ったので意図的に特定少数の生徒をお世話係にするのは止めてあげて欲しい、私みたいにその可能性に気付いてしまった場合誰も幸せにならん)・高校卒業時に就職浪人してしまった為発達障害者等向けの就労支援施設にお世話になってたのですが障害特性の説明訓練？の時に男性利用者さんが同僚へのストーカー加害と取られかねない失敗談？をカムアウトしてて「反省して治してる」と仰ってたけど女性として恐怖を感じてしまった状況的に多分もうやらないとは思うけど万が一を想像してしまって怖いとも言い出せず結局自力でクローズ就職した苦い記憶があり、利用者同士でこういう事故が起きない様に何か対策考えて欲しい・手帳取得を検討したり恐らく併発してる精神疾患の治療した方が良いのは分かってるが　SNS　では公共のカウンセラーとかでとんでもない対応された話を聞いて、やべぇ話がよくバズる事や精神的にヤバいからネットに入り浸る事例があるのは分かってても外すのが怖くて勇気が出ない…(心療内科でリーゼは貰ってる)
- 中身はすごくいいと思う。必要に応じて追加していけばいい。せっかくマイナンバー制度があるので、それをフル活用するなどを盛り込んでもいいと思う。省庁を越えた支援が可能になるかもしれない。

- インターネットやスマートフォンの普及による、様々な分野での「低年齢化」に対応した項目が必要だと思います。子どもが社会参画しやすい世の中になった一方で、大人が子どもを攻撃しやすい世の中になったともいえます。警察や司法の力が及びにくいSNSの世界で、大人による子どもへの誹謗中傷や晒し上げなどの「私刑」が横行している現状です。
- 青年期に関する記述が比較的多いため。
- 青年期も心のケアが必要だと思います。大学進学や就職、結婚、出産等で環境が大きく変わることから心のバランスを崩しますし、学童期思春期とは違った心の動きがあるからです。
- 選挙権を 15 歳に下げて欲しい
- いじめの問題を法改正によって変えてください。
- 親の収入を上げることが重要かと思います。
- 子育ては高校生と大学生がお金がかかるので、小さい子どもだけでなく今の子どもを救うことが急務だと考えます。
- ～幼児期にある、「遊び」の充実を記している点が良いと思いました。
- 生理用品に対する消費税率を、軽減税率である、8 パーセントするべき。
- 保育士や子供と関わる職業関係の給料を増やさない限りこのような理想の形にならない。
- こどもに関する分野として教育分野の内容が多いが、東京学芸大が行う OECD との取り組みなど幅広く、地域社会の公教育と関連をもつ取り組みも増えて生きている。その隙間に、こども家庭庁としても「こどものウェルービング」という視点での協働できる部分があると思われ、民間や各種機関との連携を通し、こどもの教育について検討するような内容や文部科学省と連携し、パートナーとして取り組める内容が含まれることが重要であると思う。
- 親と子はセットであり、両方を支援しようという姿勢が良い。
- 上記の内容をどのように周知していくかがキーとなると考えている
- ライフステージごとの教育機関の労働環境の拡充を行われない限り、この提示している政策を遂行することは、不可能だと思います。
- いいと思います！p29 のさいご「気兼ねなく育児休暇制度を使えるよう、組織のトップや管理職の意識を変え?」と書いてあるが、トップや管理職でなくとも意識を変えないといけないとおもう
- 大部分は問題無いと思いました。子育ての部分で「男性の家事・子育てへの主体的な参画促進・拡大」は個人に対して書かれているものだと感じました。主体的に参画していくためには企業側の支援や協力も重要事項だと明記するべきだと感じています。
- 犯罪などからこども・若者を守る取り組みについて＞ 被害にあった後のケアや、二次的な傷つきを防ぐ取り組みについても書かれていたらいいなと思いました。過去に性被害を受けた際、実際の被害と同じかそれ以上に、警察の人の聴取の際の言動に傷つき、苦しくなったことがあります。そういうことが二度と起きないようにしてほしいです。
- ライフステージという切り口だけで十分か？ 遊びの体験や活躍できる機会は地方ごとにバラバラになってしまわないか？ 男女の社会への共同参画が打ち出されてから、今でも田舎は比較的男尊女卑思想が強い傾向にあり、「こどもまんなか社会」の実現においても、地方ごとの格差はあらかじめ考慮しておきたい。
- 時期やこどもの背景によって必要な支援は違うので個別性を考えてるのはよい。
- もっと分かりやすい説明をして欲しい。
- カームダウンスペースの設置に触れて欲しい。無痛分娩に関しても実質無料となるような施策、子育て支援の所得制限による不平等の撤廃
- ３つ目「子育て当事者が、経済的な不安や孤立感を抱いたり、仕事の両立に悩んだりすることなく…過度な…負担を抱くことなく…自己肯定感とゆとりを持って、こどもに向き合えるようにする」という文言がとても素晴らしいと思います。ただ、全てのこども・若者のウェルビーイングを実現するためには、多様な職業形態が守られ、どんな働き方をしている人であっても安心して子どもを育てることができる社会制度が不可欠だと思うと同時に、インボイス

制度などをはじめとして、施策がそうした方向とは真逆に向かっているように感じることが度々あり、大きな不安を抱いています。こども・若者と大人は時に違う立場として論じることも重要ですが、グラデーションの上にある一続きの存在であることもまた事実だと思います。国も人が作るものですし、それぞれ役割を担いながら物事を変えていくので完璧がないのは重々承知なのですが、大人もやり直せる社会、大人も不完全で、ありのままで生きることのできる社会が、「こどもまんなか社会」に繋がると考えます。

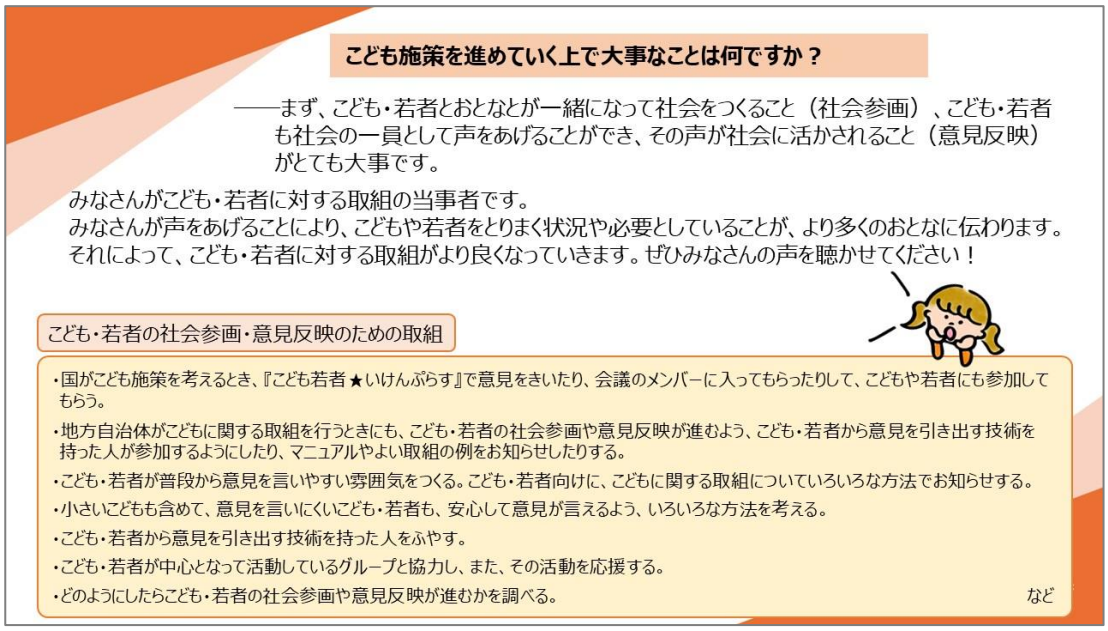
Q10．前の質問（Q９）で「よくないと思う」「どちらかといえばよくないと思う」と答えた人の意見

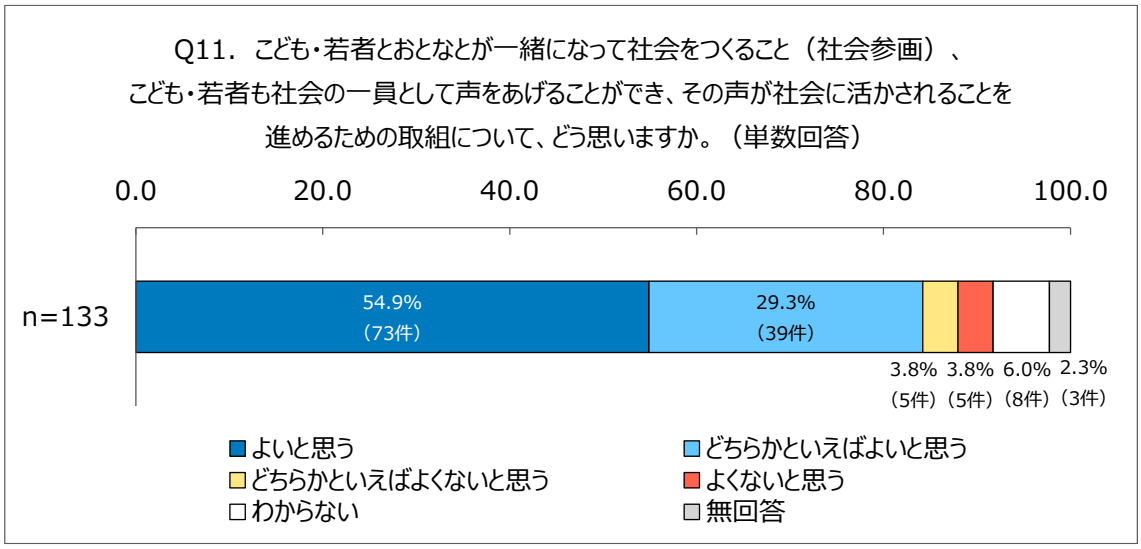
- 一人一人の子どもの心の問題が書いてありません。自分と他人との違いを認め合えるようにすることが大切です。なるべく早くから「みんなちがってみんないい」を教えて欲しいと思います。いじめも不登校も減ると思います。
- 兄弟３人もいるのに、パパの収入が良いので、支援がもらえないとママが言っている。
- 性的少数者への取り組みが良い。施設に入っている人の高校時や、高校卒業後の支援を行ってください。教育費や給食費の無償化は保護者の責任感が薄れてしまうためやめた方が良いが、○割負担などはやっても良いと思う。地域の中で子育てをする考え方はぜひやって欲しい。
- ３ 子育て支援については上記で回答したので、２ ライフステージ別について回答いたします。学童期、思春期は取り巻く環境や周囲の影響を受けやすく家庭内での問題も起きやすい時期かと思います。また子育て当事者には経済的な負担が出てくる時期であり、仕事を優先し親子関係に亀裂が入る、コミュニケーション不足によりイジメや自殺願望に気づくことができないなどがおこりうるのではないでしょうか。親子が積極的にコミュニケーションをとっていけるような社会の仕組みづくりにも目を向けていくことが重要だと思います
- 子育てには多額の費用が掛かり、そのせいで特に貧しい家庭などで子供が苦しまざるを得なくなっていることを考えると、大学なども含めた教育無償化なども検討していただきたいです。
- 医療費の提供は無償化にするべき
- 虐待の項目に、あれだけ問題になった宗教２世の問題が一文も書き込まれなかったのは驚きであり、残念でならない。国は宗教２世の窮状を何も理解していないことがよく分かった。宗教２世は人生を破壊される被害を受けてきたのに、これまで国にも社会にも助けてもらえなかった。ようやく社会に認知されても、国からすればヤングケアラー以下の存在らしい。事態の複雑さや困難な度合いを考慮すれば、ヤングケアラーと同等かそれ以上であり、確りと並列して項目を作るべきではないか。地方や現場に任せたままで、一体誰がカルトに立ち向かって子どもの権利を救済し、保護してくれるのか。自治体も児相も学校も腰が引けて何もしてくれない状態は、今も変わっていない。国が確り責任を持って救済、支援、防止に乗り出す。こうしないと絶対に自治体も現場も動かない。あと何人の子どもの人生がカルトにしゃぶりつくされたら、被害の大きさに気づいてくれるのですか。ちゃんとしてください。
- まず、幼児期にも特別支援教育は必要だと思いますし、障害を持つ親例えば発達障害の親は子どもが特性上長時間親元離れられないため働くことができません。
- 私は高校でいじめによる保健室登校・別室登校・転校を経験しました。今になって思うのは、「いじめ被害者が別室への移動や転校を強いられるのはおかしい」ということです。海外のある国では、いじめの加害者にメンタル的な問題があると考え、隔離されるそうです。いじめが起きたときに被害者のケアはもちろんですが、加害者側にも謹慎や退学などの大きな処分を下さないと、加害者が野放しの現状ではいじめはなくならないと思います。私のような思いをする子がいなくなることを願っています。
- 書いてあることは間違っていないと思います。しかしマトモな性教育をしないことについて先般の勧告にも否認の回答をした国が、いまだに教員をブラック環境に置いている政府が、書かれているような質の高い公教育や情報提供をするとは思えません。少なくとも私の考える質の高さとは異なっていることでしょう。信用なりません。
- ３に追加で、女性と男性の賃金格差の是正や、女性の働きやすい環境整備がなぜ入っていないのか理解できない。

Q10．前の質問（Q９）で「わからない」と答えた人の意見

- 私は小学生だから、他の年齢のことはまだわからないけど、学校に行くか行かないか自分で決めることができて、学校に行く時間や帰る時間も自分で決めることができたら、もう少し学校に行くのがイヤじゃなくなりそう。私は夜眠れないから、朝早く学校に行くのがツライんです
- 近所に小児科がないから、コロナのときは困った。友達と習い事に行くが、お金がないからサボるとやめさせるよと言われる。友達が穴の空いた靴下を履いている。僕は穴があくまで靴を履いている。我慢しなくて良くなるの？

Q11．こども・若者とおとなとが一緒になって社会をつくること（社会参画）、こども・若者も社会の一員として声をあげることができ、その声が社会に活かされることを進めるための取組について、次の画像に書いてある取組を行うこととしています。この画像を見て、取組内容についてどう思いますか。





Q12. 前の質問（Q11）でよい・よくないと思った理由はなんですか。また、書かれていることのほかに、これらについて、こんな取組があったらよいなと思うことや、社会参画・意見反映のために大事だと思うこと・必要だと思うことなど、あなたが思ったことを自由に答えてください。

Q12. 前の質問（Q11）で「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」と答えた人の意見

- どうやって意見をきくのかなと思う
- 病気や障害で自分の気持ちを言葉にうまく表せない人もいる。一番弱い人の気持ちが届く様にして下さい
- みんなの意見を尊重し、自分一人の考えを押し付けないで相手の気持ちを考えて話し合う必要があると思います。あまり、自分の意見を押し付けるのは良くないと思います。
- こども・若者と会議をするというところがいいと思う
- 若者も参加できることがいいと思いました！
- 子供達の考えを自由に伝えられていいなと思った
- まず、それらについて興味をもってもらうこと、知ってもらうこと。そういう機会がなさすぎる。自分は言っていいんだよっていう環境を作るべき。学校の成績とかでも、主体を上げたいのですが、あとどこを改善すれば良いのか？と伺ったところ積極的に授業に参加しているが、たまに正しい、欲しい情報じゃないことを言っているからと言われました。聞けば、こっちだって頑張ってると愚痴を言われます。そもそも意見を正しいか正しくないか、そんなの教えてくれて新しい学びに繋げればいいだけで、それを基準に評価してほしくないです。意見を表現する。伝える。それが大切なことだということではないのでしょうか？だから、私の周りには間違えることを恐れて積極的に発言することを控える方が多いです。間違えることは人生の飛躍の土台になり、未来に繋げられることだと私は思いますが、正解の直線だけを歩むことが皆さんの思う素晴らしい人なのでしょうか？私は、まずそういった価値観を見直すべきだと思います。まだ沢山ありますが、これらの経験から私は大人は正しいということにしか興味がないつまらない生き物の人が多い。そうじゃないスライムみたいな大人と出会えたらいいなと思うくらいになりました。思い方は人それぞれ、でも、それを平等なものとして、受ける受験なんか納得いきません。でも、そんなギスギスしたやりとりができる人間はコンピューターと話すより楽しいです。だから、そんなコンピューターに依存してる今対話を大事にした環境ももっとあったらなと思います。ごちゃごちゃしてて、感情的になってしまって、私情混じりまくりでなに言ってるか分からないと思うのですがすみません。私の今日の気持ちを誰かに伝えてスッキリさせたかっただけです(_ _;)
- 聴いてほしい
- これからの取り組みが具体的に書かれていていいと思った。もう少し具体的にどのようなことを活用して、その取り組みを実施していくのかを書けばいいと思う。例えば、インターネットを通してこども若者いけんぷらすに参加してもらうなど。
- 協力してくれるのが良い
- これはどうなのか？とかこういうのがいいのではないか？という意見・コメントをいつでも伝えられるようにしてはどうか。いけんひろばで募集があった時のみでなくどのようなテーマでも、いつでも出来るようなものを。
- 子どもと大人が協力しているところ。
- こどもや若者の参加がいいと思った。
- こども若者いけんぷらすで意見を言いたい
- 大人の気持ち。大人が話を聞こう！って思ってくれることが大事。こどもはもう意見をたくさん持ってるから。
- 意見を言いやすいような雰囲気を作っているのがいいと思った
- 憲法 26 条の能力に応じて等しく教育を受ける権利を有するとあるが、能力に関わらず小学校では同じ教育を受けている。これは、憲法に反しているのではないか。

- 選挙の時に子供の意見書や、子ども票を、作って。子どもからの支持の多かった人の、当選枠を作ったりすると良いなと思います。
- 「こどもだから」がない世界になったらいいと思っていて、それが達成できそうだからです。
- 普段から意見を言えるように各自治体の職員などと話し合える機会を作る
- 私も何回か子ども家庭庁の意見会議に参加して、ファシリテーターの方の存在はとてもありがたく感じています。だから、意見を引き出す技術を持った人がいる会議はとても安心できるため、子どもにとっては大切だと思いいます。もっとよくなるところは、直接意見を言えない人や、人前で話すことが苦手な人などの意見も取り入れるために、対面での話し合いやアンケート以外の意見を集める方法も考えるといいと思います。（例）意見が言いずらい人には第三者を用いて意見を聞く。　手話での会議を実施する。 など　それと、私がやってみたい話し合いの進め方は、「話し合うテーマについて詳しい大人が一人話し合いに参加する。」ことです。大人の意見だから意見を出して話し合いに参加しないけど、話し合いの中で疑問に思ったことやテーマについての詳しい説明を気軽にすぐ聞けるともっと深堀出来て、いい話し合いになると思ったからです。実際、子ども家庭庁の会議に参加してみて、「実際はどうなんだろう」や、「これはあっているのか」などの多くの疑問があって、それについて聞ける詳しい人がいたらもっといいなと思ったからです。
- 子ども・若者から意見を引き出す技術を持った人を増やすとありますが、それは必要ないと思いました。意見を引き出す技術を持った人は少なくて良いと考えます。
- 意見を言いやすい雰囲気があるのがいいと思ったから。
- 子供も意見を言えていいと思う
- 全国のこどもの気持ちを伝えるアンケートの実施
- 意見を言えてもし実現されると嬉しいから。
- アンケートをとる機会を増やす。アンケートは紙ではなくスマホなどでできるものにすると気軽にできて良いと思う。
- 声が活かされることが明記されていていいと思った。
- こどもの意見を聞いてくれようとしているから。
- 子供はまだおさないからという事もあって、まともに意見を受け入れてくれません。なので、「子供だから」ということをなくしていきたいです。
- こどもの意見を聞くのはいいと思いました。こどもに分かりやすいように書いてあるといいです。
- 会議のメンバーになれるから
- こどもも自分の意見を伝えることができるのでよいと思いました。
- 子供や若者から意見を聞くのはいいと思うがそのために政策が遅れる可能性がある。
- パパに何か言うと、すぐ怒るから子どもが大人と対等な立場で意見を言いたい。だから取り組みが出来れば良いと思う。
- 「国が子供施策を考えるとき、子ども・若者にも参加してもらう」など子ども・若者が意見を言いやすいように工夫をしようとしていると思ったからです。
- ３の「お知らせする」が情報がシャワーのように降ってくるイメージをしていて、知る機会が増えて助かる。みんなとは違う少数派の意見も尊重したいので、多数の意見に同調しなくても大丈夫だと明記して欲しい。学校で配布されたタブレットを使って、こども大綱のやさしい版資料やアンケートを行えたらより多くの意見が反映されたのではないかと思う。
- 自分の意見が絶対では無くても社会に影響されるのは良いなと思いました。
- 子どもが直接感じている政策的な不安を当事者の意見として反映していただきたいので、ラインなどを活用した政府調査の導入を望みます。
- 制作に関する事を事細やかに描いているためわかりやすい

- こども家庭庁をもう少しオンラインで意見がしやすい環境を求めます。具体的には、オンライン対話（テレビ電話）のアプリやソフトの対応を増やす。そうすれば、意見がしやすいじゃないのか？と僕は思っております。
- まず、子供の自己有能感や自己効力感を育てるためには、結果ではなく努力した過程を褒めることが重要です。叱るという教育も科学的根拠のある方法ではありません。しかし、今の日本は、子育てや教育法は、親や教員等、個人の裁量に任されています。それはとても危険なことだと思います。科学的根拠のある子育て方法を親や教員に普及したら自己効力感、自己有能感を育てるために良いのではないかと思います。それが、結果、子供が大人に発言しやすくなることに繋がると思います。親の中には、子供を自分の分身のように考え、自分の考えを押し付けたり、否定したり、罵声を浴びせたり、子供の将来を勝手に決める人もいます。親になる人には、子供にも尊厳があって、一人の人格者として意見を言える立場として尊重してほしいということを普及する必要があると思います。余談でしたが、社会参画・意見反映のためには、まずは、聞く人がちゃんと聞き、受容しつつ、その課題を解決するために、それを迅速に上層部に伝えること、もしくは聞いた人(一つの組織)が自分で考えて行動できる力を持つことが大事ではないでしょうか。意見を言っても迅速な対応がなされなかった場合、子供の自己有能感・自己効力感は育ちにくいと思います。「言って何も変わらなかった・時間がかかった」というのは、子供にとって失敗体験となり、自己肯定感を育てることはできません。また、少数派の意見よりも多数派の意見を尊重するようなやり方ではなく、少数派の意見も多数派の意見と同じくらい尊重して頂きたいです。ハインリッヒの法則をご存知でしょうか。1 件の重大事故の背後には、重大事故に至らなかった 29 件の軽微な事故が隠れており、さらにその背後には事故寸前だった 300 件の異常、いわゆるヒヤリハット（ヒヤリとしたりハッとしたりする危険な状態）が隠れているというものです。虐待による死亡や、いじめによる自殺等も同じことだと思います。一件のヒヤリハットを解決していけば、自殺といった重大な事故には繋がらないと思います。ヒヤリハット報告書を作成することも大事ですが、アクシデント(事故)報告書を作成することも大事です。今まで、今からの重大な事件(虐待による死亡事件やいじめによる自殺等)のアクシデント報告書を作成し、なぜそういったことが起きたのか、次どうすればその事件を防ぐことができたのかを作成する、そして、二度と同じ事件を繰り返さないために、どうしたらいいのかを考え、それを実行していく、その循環が、子供を守るためには必要なのではないかと私は思います。そのため、私は、多数派の意見を大事にすることと同じくらい少数派の意見も大事にして頂きたいと思います。そして、聞く側の人間が人の意見を「聞きたい」と思える人であることが大事だと思います。市役所や警察に話をしに行っても、話を聞いてくれなくて、対応されなかったという話を私は周りの人によく聞きます。聞く側の人間が、ちゃんと聞くことができるスキルを持った人を配置して頂けると、子供も意見を言いやすいのではないかと思います。
- わかりやすい
- 子どもの意見表明は、今のところいけんぷらすや、近場でいえば生徒会などがあげられると思います。しかし、そういうものにアクセスする人はおおよそこの分野に関心があったり、生徒会などは優秀と呼ばれるような子も多かったりします。その影で、意見をあげられない（あげる力がない）子どもの意見をどうやって聞くのかについても考えて欲しいです。
- こども若者★いけんぷらすでは基本的にテーマに沿った回答しかできないようなので、もう少し自由に意見できる機会があるといいと思いました。特に私は選挙制度に少し疑問があるのでそのテーマも検討頂けたら幸いです。
- 子供自身が言及出来るのは良いと思ったから。ただ 何もかも子供優先にならないようにはするべきだと思う。
- 概ね良いと思う
- こどもの意見はもとより、現在差し迫って起きているこどもからの SOS を受け止められるしくみ(電話相談など)を整えていくといいかもしれない。
- 地方自治体の枠だけではなく、全国の NPO 法人や法人格を持たないフリースクール・子ども食堂等が、直接国へ働きかけが出来るような枠組み作りが、施策推進の上で必要になってくると思います。
- 政策決定過程にこども、若者の参加を促進させると書いてあるのは良いと思ったため。
- なかなか政治に参加できない年齢の人たちが、自分の意見を直接伝えられる場はとてもありがたく嬉しい試みで

あると感じています。子どもを取り巻く環境は早いスピードで変わっていくため、今後決めた施策も柔軟に変容させていくことがこの先必要だと思います。

- 有名なインフルエンサーや大学教授と話せる機会を作って欲しい
- プラスメンバーの意見だけでは人数制限もあって、意見反映まで進まないと思う。不登校がこんなにまで多くなっているので、「不登校の会」を通した意見反映も真剣に考えた方がいい。
- 安定的な財源とありますが、ここは増税であてるつもりでしょうか？多くの国民の反感を買う増税ではなく、ぜひこども国債を発行すべきかと思います。
- 学校での今の社会問題や今ある日本の魅力を守っていくための自分たちがやるべきとなどを議論する場を作れば、子どもたちがさらに社会参画するようになるのではないかと思いました。
- 障害者の方を意見づくりに参画できるようにしてほしいなと思います。例えば、身体障害や発達障害の方が意見をいう場所があってもいいのではないでしょうか?
- 政治や金融に関する教育がなければ、関心を持つこと（意欲的な参画）はないと考えます。意見を聞きますではなく、意見を持つこども、若者の育成に取り組んでほしいです
- こどもの意見参加は、日常やこどもたちの目の前の実感として、他の人から大切にされる経験が重要であると感じる。こども達とともに大人に働きかけたり、おとなと協働し、社会をつくっていく事例が共有されたり、また、大人自身もそういった大人の役割を体験を通し実感する機会を得て、地域の中で活動していくことが望ましい。子供・若者評価点検会議（平成２７年頃）に「大人社会の在り方の見直し」が論点となったが、ひとり一人の大人の目線をどう変えるか、が権利として重要であり、こどもにとっては「遊ぶ」や「休む」他に「余暇活動」も参加や意見表明であることをしっかりと価値づける必要があると思う。
- いけんひろばのようなことを他の省庁でも横断的に行ってほしい。
- 子ども家庭庁ができたことを知らない友人がいます。「多様な声」をどのように集めるのかが一番大切だと思います。
- 子どのも時から話しやすい環境を整えていく必要があると思う。子育て支援センターや保育所などの福祉施設だけではなく、街中や広い公園で日常生活から話せる場があればよいなと思う
- このようなアンケート形式で継続調査する形が良いと思います。
- こどもや若者の意見反映のほか、育成や調査研究など国として能動的な活動があるため良いと思いました。
- 社会に意見を言おうと思う＝自分の意見が社会に影響を与える、と思うには、普段からの生活で意見を聞かれ、尊重される経験の積み重ねがなければ難しいと思いました。家の中や、学校で、ルールを守ることや口答えしないように言われることも変えていってほしいです。また、このアンケートのように、代表に選ばれた特別な人だけでなく、誰でも直接意見を伝えられる機会があると嬉しいし、意見を伝えられる・社会参画できると感じられる人が増えると思います。
- このアンケートもそうだが、特にこどもについては、行政としては都合が悪いことについても積極的に説明すべきだと思う（例えば本文 p38 に財源に関して「これから頑張ります」みたいな記述があるが、社会保障関係費に占める年金の割合などを説明すると、こどもに使えるお金って実は頑張ってもそんなに多くならなさそうということに気付くかもしれない）。こどもは大人に比べて情報へのアクセス手段が限られていることなどから知識を得にくく、結果として色々イベントを開いたり意見を聞いても、大人の言いなりになってしまう懸念が考えられる。
- 3 番の安定的な財源とは？莫大な国債があって、まだ国債から出すのか、もっと会議中に爆睡している国会議員や湯水のように使っている税金のコストカットをしたうえで、財源の確保はどうするのかを考えてほしい。今のお金の量でうまくやりくりできれば、安定的な財源の確保はできるのではと思った
- 実際に虐待被害者である私の話を聞いてもらいそれを政策につなげてくださるとうれしい。
- ・教育現場の声に耳を傾けて改善をしていく・教員の働き方や指導に関するアンケートを実施、回収率目標を50%以上とする。

- 「…こども・若者の社会参画・意見反映の意義…①…施策がより実効性のあるものになる。②…自らの意見が十分に聴かれ、自らによって社会に何らかの影響を与える、変化をもたらす経験は、自己肯定感や自己有用感、社会の一員としての主体性を高めることにつながる。ひいては、民主主義の担い手の育成に資する。…」という文言が、素晴らしいと思いました。「安心して意見を述べることができる場や機会」も非常に重要だと思います。こども・若者には（本質的には大人も）失敗する権利がありますし、口に出すことで自分が思っている・感じていることに初めて気づくことが出来る。それが自分や社会の状況をより良くしていくための第一歩になると思います。その上で、機能不全家庭における児童虐待被害・愛着障害の当事者として申し上げますと、こどもの存在は、様々な事務的側面においても心身においても家庭に依存しており、そこから逃れる手段は基本的には子ども若者の手に委ねられてはいません。当たり前のことではありますが、その家庭に著しい問題がある場合、子どもは自身の被害体験と、社会常識や倫理観とを、自分の人格として統合することが出来ないため、自分の抱えている問題や、社会に対して思うことを、自分の意見として発することが非常に難しい状態になります。結果として、実際には家庭において親から加害行為を受けていても、「家族は大切にすべき」などの一般論に対して自分の立場を確立することが出来ない・むしろ積極的にそういった意見を口にするような状態で長い人生を社会常識の中で生きることになり、その大きな矛盾が深刻な心身症や精神疾患などの形で噴出するのが虐待被害の現実です。治療にアクセスできた場合でも、家族に関する社会制度に対する疑念と苦しみはクローズドな場所で安全を確保した上でようやく語られる程度で、表面上は普通の人として生きていても、社会において大きく主張するといった行動が出来ないほど衰弱している人が多くいます。このような経緯により、社会において虐待被害者の声は非常に反映されにくい、またそれ以前に存在が認識されにくいものとなっている状況があります。結果として社会制度は正常な家族関係を前提として生きてきた人々の常識に沿って設計される傾向となり、虐待被害者はますます「存在しない人」として生きることを余儀なくされ、既存の家族制度や家族のイメージ、血縁の特別視が根強いものになるという現状があります。ですので、若者が自分の判断や意思で、家庭から逃れて自分の人生を歩むことが出来るような制度があること、そして血縁を特別視しない社会を作ることが、マイノリティの立場にあるこども若者に「自分も社会に存在している」というメッセージを届け、社会参画に繋がると考えます。

Q12．前の質問（Q11）で「よくないと思う」「どちらかといえばよくないと思う」と答えた人の意見

- 政治をする人たちや、子どもを育てる人たちが幸せそうにしていたら、私たちも自然にそういう大人になりたいと思います。社会人が疲れていなくて、生き生きとしていたら、社会に関わりたい気持ちが増えると思います。
- 僕の意見はどこにも無い。聞いてもらったことがない。
- 会議に兄弟３人で参加したが、退屈で何も聞いてもらえなかった。大人だけで話しているからおかしい。僕のような意見は出ていなかった。
- 安定的な財源の確保は他の子育て世帯から奪う形ではあってはならない。子育て世帯には、他の世帯に奪われる財源もさらなる税金を払う財源もない。
- 若者の意見を聞くと言われても、反映する気配がない。そこを改善してほしい。
- 宗教２世が入っていない。いままで声どころか、存在すら無視され、救済を求めれば冷たく追い返された。いったい国は何人の宗教２世を見捨て、殺したのか、まだ分かっていなかったのですか。これは比喩ではありません。宗教２世にとって、精神疾患と自殺はとても身近な話題です。常に死が近くにいます。死ぬ前に、声を聞いてください。
- 意見プラスの取り組みは相当限定的で、特に情報環境に恵まれない貧困家庭や虐待家庭、文字で読んで回答するのが難しい低学力・LD などの子どもの意見を得ることができず、得ている意見もテーマが畫られ限界があると感じています。もっとも懸念されるのは、こうした取り組みをもって「みんなの意見を聞いた」お墨付きのように扱われ、さらに取り残される子ども・若者が出てくることです。意見を聞くこと自体は必要ですが、漏れやすい者をもっと積極的に拾いにいかなければ、結局強者に都合のよい政策しか出てきません。
- 「多様な声を施策に反映させる工夫」が検討されるとの記述は、具体性が弱く何をするのか見えづらい。おおまか

な内容を記載する大綱とはいえ、もう少し中身を詰めた方が良いのではないか。

- 期待してた内容と程遠い

Q12．前の質問（Q11）で「わからない」と答えた人の意見

- 今私がここに、こうなったらいいなとか、こうしてほしいと書いたことを実現してほしい。せっかくメンバーになって意見を出したのに、来年も再来年も変わらなかったらたぶん、学校にはもう行きません。だって私はもう頭が痛くて、死んでしまいそうだから。
- 形式ばった書き方はしょうがないと思うけれど具体的になにをするのかはっきりわからないのでもっと理解しやすい形の書き方をしたほうがいいと思う。
- わからない
- わからない

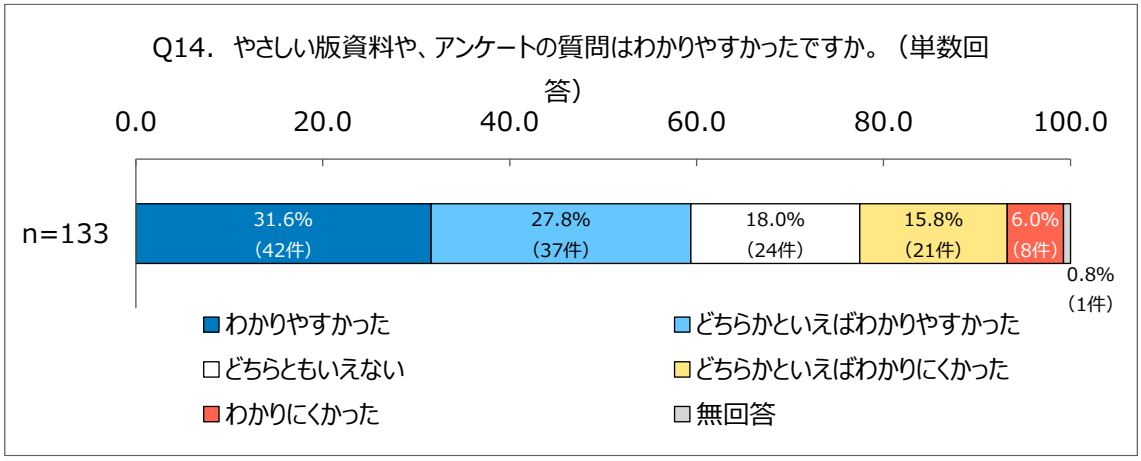
Q13．そのほか、中間整理に書かれていることを読んで思ったことがあれば、自由に書いてください。

- 漢字の上にひらがなで読み仮名をつけるべき。
- 中間整理ってどこですか？
- もっと簡単に。子どもにわかりやすく
- 私の意見を読んでくれましたか。誰か大人の人が、私の希望をかなえてくれますか。
  読んでいてわかりにくいです。問題がまず先にあって、それから解決策があると分かりやすいです。
- 僕のことが考えられていない。親の収入と兄弟の人数でできることが決まっている。やりたいことができない。
- よくわからないことばかり
- とても分かりやすい資料で、「こんな社会が実現してほしい！！」と強く思いました。
- ちょっと文字がおおすぎるので簡単なバージョンもあったらわかりやすい。
- 子供のことを考えていろいろ取り組んでいることがとてもありがたいなぁとおもいました。
- わたしには意味が分からないことがおおくて、むつかしい。
- 子どもの意見が本当に反映されるのかが心配
- 子どもと若者を応援して下さりありがとうございます。
- 方針はとても良いと思うが、ここからアウトプットされた具体的な策が見当違いなものになるのではないかと、いままでの実績からしてとても不安がある。意識の問題や気持ちの問題にせず、具体的かつ効果的な策を行ってほしい。
- 特にありませんが、とにかく、Q6 から Q12 までの同じ回答案にはなります。
- すべてに言えるけれど書いてあることが実行できなければなんの役にも立たないのでこれから実行力のある形になって行けばいいと思う。
- 働き方の話に繋がるが、時給はあがっているのだから扶養内の年収金額をあげ、世帯年収が増やせるようにすべき。もしくは社会保険料をゆるやかにあげるようにすべき。
- 親世代を支援することが家庭環境の改善と子供を守ることに繋がると感じます。私はまだ出産や育児の経験がないので今回のアンケートは憶測の部分が多いです。もう少し上の世代にもアンケートを取ると効果的かもしれないと思いました。
- 大体良いとは思う
- 全体的にそうだが、書いてある内容が難しすぎる。仕方のないことかもしれないが、正直かなりビビった。全部を理

解しようと思うと、多分日が暮れても終わらないレベルです…やさしい Ver はかなり読みやすかったので、難しい版の資料に、ところどころでやさしい Ver の資料も混ぜてほしい。

- 現時点の対策では少子化に歯止めをかけるに極めて難しいと思う。はまず最初にするべきは、「高等教育費の無償化」「学校給食費の無償化」「保育料の無償化」「医療費の無償化」この４つを実現しなければ少子化を止める事は難しくなってしまう。今後この４つの無償化を実現し少子化に歯止めをかけてください。
- 目標は結構なことだと思うが、具体的にどのように実現させるのかが不明瞭
- 理想論にならず、きちんと一人ひとりの多様性を認められる社会、希望する道を諦めなくてよい社会、明るく将来を考えられる社会になってほしいと強く思っています。子どもの可能性を奪ってはいけないことを、もっと大人の世代の人たちにも伝える政策やコンテンツがあればいいなと思います。よろしくお願いします。
- 不登校人数が、過去最高に増え続けているのに中間整理での内容が薄いと思う。いじめの問題をしっかり取り組んでください。
- 「おわりに」の覚悟がペラペラ。カルトに立ち向かう姿勢、記載が一切ない。支えるだけで宗教２世が勝手に救われるなら、苦労はありません。
- 少し読みづらいです。内容はいいと思うのですが、この書き方が若者には受け入れ難い形式で読もうという意欲を失わせてしまっています。
- 具体的わかりやすく、障害者特に発達障害知的発達障害のグレーゾーンに関して増やしてほしい。僕たちは狭間と呼ばれていて中々理解支援受けれません。健常者と学べるのに、算数受けたり多動が強い寝れないといった特性上親が保育園に子どもを預けられないのはおかしいと思いませんか?他にも発達障害手帳がなくなぜか精神手帳、身体聴覚あっても車に発達障害マークない、専門学校には合理的配慮通じにくいなどなど色々あります。なぜ霞が関の皆さんは令和になっても昔から社会に埋もれて苦しんでる僕たちにめを向けないのでしょうか。発達障害の方の意見も聞いてください。
- いまだに性別と法律婚と遺伝的なつながりを信じ、みずから意見を言える良い子だけに耳を傾けているのでは、日本は滅亡するだろうなと思いました。具体策が今のところ何ひとつ必要な点をかすらないのも納得です。いい加減目を覚まして時代に追いついてください。
- 世代の垣根を超えた支援を求めます。
- p38 のうえ自治体こども計画の策定?最新状況の「見える化」っていうのがいいと思った
- 「インクルージョンの観点から、一般施策において、困難な状況にあるこども・若者を受け止められる施策を講じる。」、という文章がとても良いなと思いました。自分が困りごとを抱えていた時に、世の中にはこんな困りごとを抱えている人がいます、というような理解のされ方だと距離を感じますが、私たちの中にこうした困りごとを抱えている人は当然いるだろうということが前提にある空気の中では、自分のことを話しやすいし、疎外感を感じなくて済むのではないかと思います。
- まず、このアンケートはそこそこ霞ヶ関のスライドを読んだ経験がないと難しいと思う。あまりこどもを対象にしているようには思えない。やさしい版などのスライドもあるが、やはり文字が多すぎる。
- 多数の関係者で支援したらいい
- 障害のある子供達や児童発達支援で支援する人達に対する認知度が足りない。
- 結婚は出会いがないというよりも、自身の年収や将来の見通しが立たず別れていて結果的に出会いがないという状況になっている。
- とても真剣に練り上げられたものであることが本文を読んで伝わってきました。説明資料やメールでの案内、会議の開催も含め、初めての取り組みに出来る限りの配慮をしながら懸命に取り組んでくださって、ありがとうございます。

Q14. やさしい版資料や、アンケートの質問はわかりやすかったですか。



Q15. 前の質問（Q14）の答えについて、なぜそう思いましたか。よいと思ったところや、もっとよくするために工夫した方がよいところなど、教えてください。

Q15. 前の質問（Q14）で「わかりやすかった」「どちらかといえばわかりやすかった」と答えた人の意見

- 資料が載せてあって助かった。
- 障害児にも合う内容にして欲しいと書けたから良かったです
- 誰が言っているかわからないところがあるので、なおしてほしい
- アンケートの質問が自由に回答できるものだから気軽にできてよかったです！
- 写真等も一緒にのっていて分かりやすかった
- 分かったから
- 文も簡潔にまとめていてよかった。
- お母さんと一緒に読んだからわかりました。
- ヤングケアラー、貧困など、問題を整理して先にのせたほうが分かりやすいです。
- 小さい子も読みやすいようにふりがながあるところ
- 絵がわかりやすい
- 字を打つのが苦手なのであてはめるやつ(上みたいなやつ)にしてほしい
- できればもう少し要約してほしい
- 分かりやすく読みやすかった
- それぞれに資料がついていて、文章も分かりやすかったです。
- イラストを使っていたり重要なことを見やすくしていたりしていてどこを見ればいいのかわかりやすかった。
- 中学生にとっては、詳しいことまで載っていて、分かりやすかったです。でも、小学生などの文章を書くのが苦手な人もいるかもしれないから、選択肢がある問題をもう少し増やしてもいいと思いました。
- 何を聞きたいのかが分かりやすい質問になっていて良かったと思います。
- 文章は少し多かったけどまとまっていて読み取りやすかったから。
- 文字が少し多かった気がしました。
- フォントを UD フォントにするとよりわかりやすくなると思います。

- 吹き出して書いてあったからわかりやすかった
- 文字サイズを少しだけ大きくしてほしい
- 画像が小さくて文字が多かった。
- やさしい版資料は読んでいないアンケートの質問は分かりやすかった
- 親に手伝ってもらったが、読んで理解することができたので
- 図表を使っていた。
- 熟語や難しい言葉が少なくて、わかりやすかった。
- やさしいばんの資料は、基本的には分かりやすかったけど、若干漢字が多かったと感じたから、どちらかといえば分かりやすかったにしました。
- 僕のように直ぐに意見を纏める事が苦手な人や一度にまとまった時間を取れない人も、アンケート形式なら下書き機能もあって、時間がある時にその人のペースで意見を書けて良いと思ったから。
- 自分的にもう少し字を少なめにしてくれるとありがたいです。
- 資料が添付してあるため、具体的に記載しやすかった。
- テーマについての説明資料でやさしい版もあって非常にわかりやすかったです。その際に、「こどもに関する取組で国が大事にすること」のパワーポイントで書かれていた青年期のための取組では大学に進学するための支援を行うと書かれていた点で大学進学の支援も重要ですが、大学卒業後に貸与奨学金の場合は返済に追われて結婚も難しくなるケースがあることを知りました。子どもじゃなくなった時に自分でどうにかしてと国が見放すのではなく、子どもの状態で薦めていた取組に対するアフターケアも重要な国の役目なのではないかと思います。この点も見直していただけたら自分が生まれた国に希望を抱けるこどもが増えるのではないのでしょうか。是非、ご検討のほどよろしくお願いいたします。
- もう少し文字数を少なくしても良いと思う
- 今回もわかりやすかったですが、出来る限り、任意で可能にして欲しかったです。
- 答えるものが多かったので、少し大変でしたが、内容から考えるとかなり答えやすくなっていると思います。
- 大綱がみにくい
- どういう社会が実現すべきか、少しでも定量化されていると目指す姿が分かりやすいと思いました。・書かれていることはどれも重要なことなので同意です。しかし、それをどのような方法で実現していくか、どういうスケジュールで取り組むかが肝になると思います。別の機会になるかと思いますが、お示しいただくか、オープンな議論の場をいただけるとありがたいです。
- 文章の一つ一つが長いと感じた
- GoogleForms 上だと資料を拡大できない(そのうえ画質が悪い)ので、こども若者★いけんぷらすのメールに資料を添付して頂けると良いかと思います。
- いくつかに分かれていて読みやすかっです。ありがとうございます。
- 若者や子供に分かりやすいように文章を表示してほしい。
- 質問内容が明確で答えやすかったです。
- 該当するページの画像が貼ってあったので見ながら同時に答えやすくて良かった。
- こまめに考えを聞いたいった方がいいです。
- これまでにやってきたアンケート・意見募集より目を通す資料の文字数が多かったから。ただ、より私たちの意見を聞こうとしてくれてるとも感じた。
- 本当に、国に意見が届いて、目を通してもらっているのか、不安だった為。
- アンケートは年代で難易度を分けていると思うが、内容についてよくわからない人もいるかもしれない。用語の解説

を書いておいた方が良いかも。

- 図が表示されていて見やすかった
- 本文、資料概要、やさしい資料の３つを用意しているのがいいと思った
- スマートフォンにて回答したため、アンケート内の画像が小さく見づらかったです。
- 具体的でパワーポイントの画像もあったので質問の意図がわかりやすかった
- 大変な中で精一杯の仕事をしてくださっているなと伝わるものばかりで、それ自体にも非常に励まされます。思った事としては、既存の社会制度やあり方を前提としている箇所もあったので、特に婚姻制度や家族に関する制度・法律・あり方などを、特定の道筋に狭めないでほしいなと思いました。

Q15．前の質問（Q14）で「わかりにくかった」「どちらかといえばわかりにくかった」と答えた人の意見

- アンケートに添えられえている画像の内容を、もう少し簡単にわかりやすくまとめておいてもらえると、よりアンケートに答えたくなると思います。
- アンケに添付してる資料の字が薄くて本文に飛んだがそちらは難しすぎる優しい資料 Lv の奴添付した上で・優しい資料・中高生向け(文体は柔らかかったり挿絵や図表はあるけど情報量はほぼ据え置き、長くなっても構わない)・原文ままが欲しいです
- ことばがむつかしかった。
- これまで意見を聞いてもらえてないのに、何をするのかわからない。ママは１年待つの？と怒っていて、パパは子供が多いけど、収入があるから支援は期待できないと言っている。どちらが正しいの？
- スマートフォンは縦長の画面なのに対して、資料は横長で、見るのに効率が悪い資料である。
- スマホからだと画像が小さすぎます。せめて拡大できるサムネにしてください。
- たくさんある
- まだ難しい。お母さんが説明してくれたらわかるけど。難しいことはいらない。
- もう少し添付資料を読みやすくしてほしい。
- もっと分かりやすい説明をして欲しい。
- 画像表見にくい
- 漢字が多い。親とニュースを聞いてる時に話すことと書いてあることが違う。
- 具体的に答えるのが難しいことでした
- 見づらかったし、お母さんには説明を聞かないと意味がわかりにくいところがあったから。
- 語句が難しい。基本的なところから教えてもらわないと分からない。勉強不足です。
- 仕方のないことだが、本当に読むのがキツかった。やさしい版は読みやすかったので、難しい版の資料にやさしい版の資料を入れてもらえると助かる(ふたつを見比べていくのも大変なので、いっそのこと混ぜたほうがいい)
- 資料に文字が多すぎる
- 資料はやさしい日本語版があるとはいえ、アンケート本文が難しいと思った
- 質問内容が難しかったです。
- 政治の資料は形式ばったものが多いので小学生にわかるぐらいの簡単な言葉で説明できるようにすべきだと思う。原文とわかりやすく書いた資料の２種類が見れたらいいと思う。
- 添付されている画像が小さいし粗い。リンクでもそこからとべるようにするとよい。
- 文字が多い
- 文字が多く、かつ小さいので見にくい。

- 文字が多すぎることと、文字同士が狭まっていて読みづらい。

Q15．前の質問（Q14）で「どちらともいえない」と答えた人あるいは無回答の人の意見

- 字がたくさんあっておなじことが書いてある
- 自由にかいてといった表記が嬉しかった。資料が重くて開けませんでしたので、優しい版資料はごめんなさいなんとも言えません。
- もう少し簡単な言葉で言って欲しい
- 読めない漢字があったから
- 文字が多いので読みにくい。
- 読むのに目が滑る時がある
- 高校生以上くらいではないと内容の理解が難しいのではないかと感じたため。
- やさしい版は比較的わかりやすくまとめられていてよかったと思う。ただ通常の資料は文字が多く、小さすぎるので読む気がしない。やさしい版で情報を網羅できるのであれば、通常の資料を作成する意義はあまり無いと思う。
- 読みにくいから。
- PDF だと見にくい、HTML などでも見れるようにしてほしい
- 画像貼り付けでは見えずらい人が多いのでは。私は本文を見ましたが。
- 今後 5 年程度を見据えたこども施策の基本的な方針と重要事項等 ～こども大綱の策定に向けて～ （中間整理）は難しいと感じました。国の文書なので仕方ないとは思いますが、こども大綱はみんなに読んでもらわないと意味がないと思います。もう少し平易な文章で書かれたバージョンを学校を通して配布するなど広報に力を入れてほしいなと思います。
- 前述した通りです。
- こども施策を推進するために執拗な事項が少しわかりづらかったので、優しい版くらいにすると良いと思いました。
- 資料が少し多くて、気軽にはできなかったから。
- 大綱の流れを知っていたため、回答しやすかったが、大綱の役割やどのように使用されるものかのイメージが持ちにくく、関心度の低い（本当に回答してほしい）人へのアプローチの難しさを感じた。
- 行間が狭いと感じました。1 文・1 項目ごとに、行間あると見やすいです。
- 質問の機会があること自体に感謝しております。
- アンケートの場所に資料を置かないで全部メールに添付して欲しい。